

クマリン  
葉

脩  
身  
原  
論

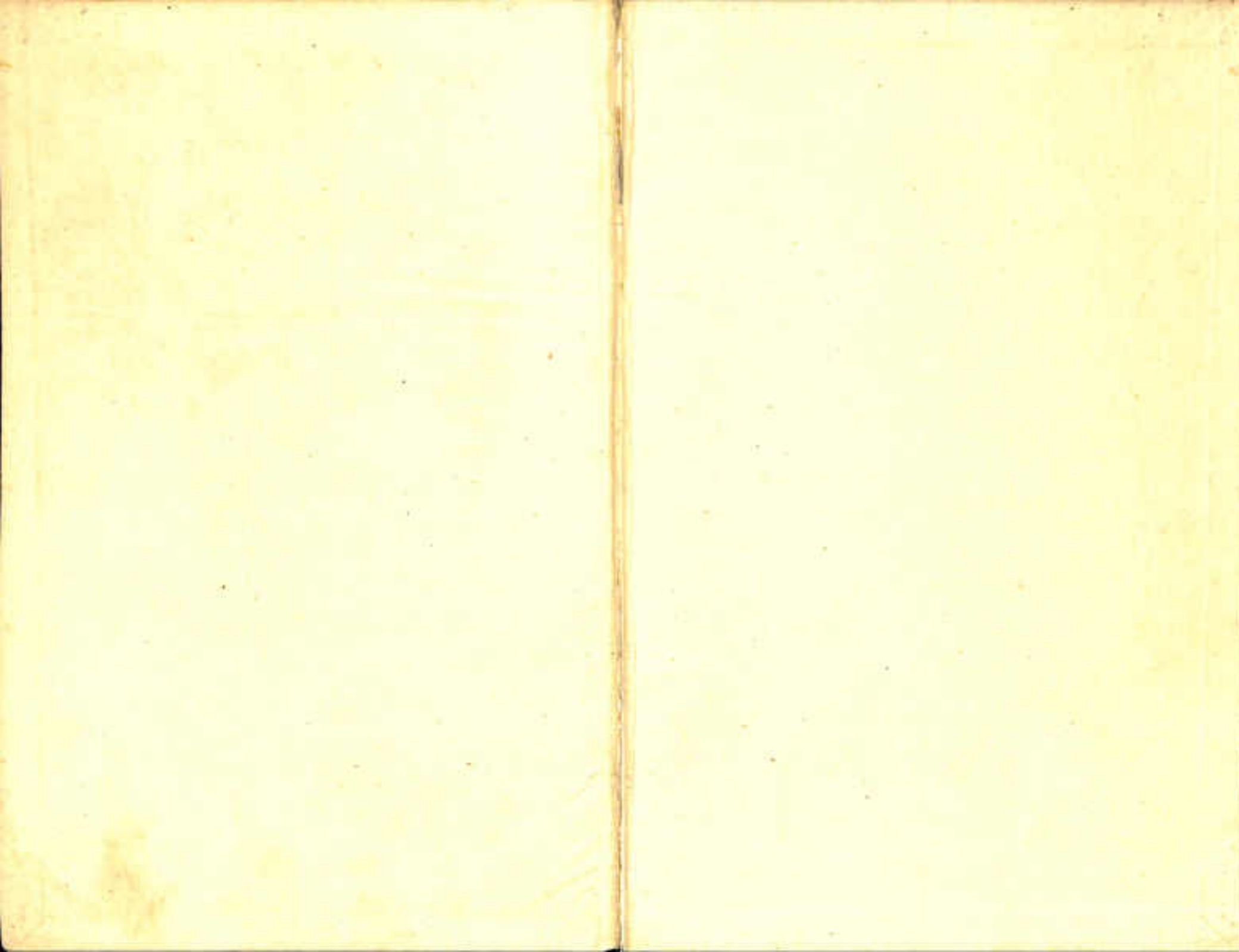
文  
庫  
管

15.4  
1122  
441

才

月	種	種	商
日	號	別	號
月	才	才	才
日	號	號	號

十六



彦榘治十七年六月印行  
立中學  
校印

著

修身原論

十七年六月印行



文部省編輯局



新成書館

明治十七年六月

例言

一此書ノ原本ハ其題號ヲ「エレマン・ド・モラール」(Elements de Morale)ト云フ、佛蘭西巴勒ノ大學校ノ教師大博士フラン  
 ク氏ノ著述ニシテ千八百七十八年ノ出版ニ係ル、  
 一本書修身ノ道ヲ論ズルコト本邦ノ教ト其歸スル所同一ニ  
 シテ、復大ナル差異ヲ見ズ、因テ之ヲ譯出シ、以テ世ノ修身  
 ノ學ヲ爲ス者ノ參考ニ備フ、

明治十七年六月

クラッソ 著 修身原論目次

總論 修身學ノ注解及ヒ區分

一

前編 修身ニ屬スル靈魂學

九

正編 修身學本部

一一〇

第一目 各自修身學

一二六

第二目 社會修身學

一六一

第一類 家族

一六一

第二類

一般社會 即チ家族ノ關係ヲ外ニシテ  
人ノ他人ニ對スル所ノ義務

二六〇

第三類

國 即チ國ト國民トガ互ニ相  
對シテ有スル所ノ義務

三一八

フツソノ  
ク著 修身原論

河津祐之 譯

總論 修身學ノ注解及區分

字源ヨリ  
下シタル  
注解

修身學ハ、西國ノ語ニ古ハ「エナク」ト云ヒ、今ハ「モラール」ト云フ、今其字源ニ溯リテ考覈スルニ、皆行狀ノ義ニ取ルナリ、故ニ修身學ハ、注解シテ行狀ノ學問ナリト云フヲ得ベシ、又其行狀ト云フコトハ、生ヲ營ミ事ヲ行フノ状態ニ外ナラザル故ニ、更ニ修身學ヲ詳説スレバ、行爲ヲ規定シ、生道ヲ管理スルノ法ヲ、吾人ニ教フルノ學問ナリトノ注脚ヲ下スヲ得ベキ

自由ノ思想  
想ヨリ下  
レタル注  
解

然リト雖モ普通ニ涉リ、永久ニ勝ヘテ、人ノ學問ト爲スヲ得  
ニキ規則ヲ以テ、行爲ヲ規定シ、生道ヲ管理セントノ思想ハ、  
原ト何ニ由リテカ生ズル、曰ク吾人ハ意ニ隨テ事ヲ爲スヲ  
得、即チ吾人ハ自由ノ動物ナリトノ確論ヨリ生ズルナリ、吾  
人ノ自由ハ必ズ一定ノ目的ヲ有スルコト吾人ノ生命ト同シ  
ク、又天地間ニ在ル所ノ萬物ト同シ、而シテ其目的タル、吾人  
ノ必ズ知ルベキ所ニシテ、凡テ性質ヲ同ウスル所ノ物類ニ於  
テハ、皆相同シカサテ得ザルナリ、是ニ由リテ觀レバ、修  
身學ハ、又吾人ヲ生ム所ノ目的ヲ教ヘ、及ビ其目的ヲ達スル

義務ノ思想  
想ヨリ下  
レタル注  
解

手段ヲ教フル所ノ學問ナリト注釋スルヲ得ベシ  
終始此ノ目的ニ向テ事ヲ爲スハ、即チ是レ一個ノ法律ヲ遵  
奉スルナリ、即チ是レ義務アルコトヲ認定スルナリ、詳ニ之ヲ  
言ヘバ、都テ外物ノ檢束アルニ拘ラズ、又何ノ賞罰アルヲモ  
顧ミズ、吾人ノ唯正理ニ據リテ爲サレルヲ得ザル行爲ト、爲  
スヲ得ザル行爲トアルコトヲ認可スルナリ、果シテ然ラバ修  
身學ハ、又義務ノ學問ナリト注釋スルヲ得ベシ、  
爲サレルヲ得ザルノ行ヲ爲シ、爲スヲ得ザルノ行ヲ爲サズ  
シテ、無上ノ法律ヲ遵奉シ、吾人ガ世ニ生ル、所以ノ目的ヲ  
達スルハ、即チ是レ所謂善行ニシテ、之ニ反スルハ即チ是レ

善行ノ思想  
想ヨリ下  
レタル注  
解



以上ノ注  
解矛盾セ  
ズ

修身學ハ  
修身ニ屬

惡行ナリ、是ニ由リテ觀レバ、修身學ハ又善行ヲ爲シ、惡行ヲ  
爲サマラシムコトヲ教フル所ノ學問ナリト云フヲ得ベシ  
以上ノ注解タル、皆同趣ノ思想ヲ吐露スルモノナレバ、總テ  
不可ナキガ如シ、其吐露スル所ハ即チ人ハ原來自由ニシテ  
能ク正理ヲ知ル者ナレバ、正理ニ照シテ自由ヲ使用スルノ  
方法ヲ講究セザルベカラズトノ思想ノ外ニ出デザルナリ、  
實ニ開闢以來、凡テ人タル者、始終此ノ事ニ汲々タルモノニ  
シテ、修身學ハ社會ト其始ヲ同ウセリ、蓋シ此ノ學ナケレバ、  
社會ハ立ツヲ得ズ、又存スルヲ得ザルナリ、  
修身學ノ吾人ナシテ人生諸般ノ場合ニ方リ、履行スベキ規

スル靈魂  
學及ヒ修  
身學本部  
ノ二部ニ  
分ツ

則チ知ラシメントスルヤ、必ズ先ヅ此ノ規則ノ因リテ以テ  
生ジ、因リテ以テ勢力ヲ得ル所ノ至大無上ノ法律ヲ教ヘザ  
ルベカラズ、且ツヤ人ニ自由ナケレバ、隨テ修身學ナカルベ  
キヲ以テ、修身學ヲ講ズルハ、自由ノ必ズ存スルコトヲ認定ス  
ルモノナレバ、自由ヲ使用スベキ方法ヲ講究スルヨリ前ニ  
ハ、其果シテ在リヤ否ヤヲ證明シ、并ニ其性質如何ヲ論定セ  
ザルベカラズ、然リト雖モ自由及ヒ自由ヲ制スル至大無上  
ノ法律ヲ了解センニハ、偏ニ此ノ二者ヲ講究スルノミニ  
足レリトスベカラズ、須ラク此ノ二者ト、他ノ原理及ヒ靈魂  
ヲ動カシムル所ノ他ノ理由トヲ區別スルコトヲ知ラザルベ

カラス、又此ノ二者ガ靈魂ノ發達ニ關シテ如何ナル功用ヲ爲スカ、如何ナル地位ヲ占ムルカヲ察知セザルベカラザルナリ、故テ以テ修身學ハ分テ二部ト爲サズルヲ得ズ、其一ハ此ノ學ノ由リテ以テ世ニ存スル所ノ器具自由ヲ指ス及ビ原理無上法律ヲ指スヲ講ズルモノ是ナリ、其二ハ吾人ノ行爲ヲ管理スル所ノ規則命令義務禁制ヲ論ズルモノ是レナリ、甲ハ純ラ理論ニ屬スルノ部分ニシテ靈魂ヲ詳巖シ、能力ヲ論究ス、其之ヲ論究スルヤ、人ノ運命及ビ目的ヲ離ル、コナシ、故ニ吾人ハ之ヲ名ゾケテ修身ニ屬スル靈魂學ト云フ、乙ハ吾人ノ義務ヲ陳述スルノ部分ニシテ、全ク實際ノ學問ニ係レリ、是ヲ修

修身學ノ  
二部ハ其  
ニ普通ノ  
性ヲ有ス

身學本部トス、即チ最狭ノ意味ヲ以テ用ヰル修身學ノ語ト其區域ヲ同ウス、

世上多クハ修身ニ屬スル靈魂學ト、修身學本部ノ二語トヲ用ヰズレテ、普通修身學ト、特別修身學トノ二語ヲ用ヰタリ、然リト雖モ普通修身學ノ語タル、其講論スル部分ノ主意ヲ明示セザレバ、明瞭ノ言語ト云フヲ得ズ、而シテ特別修身學ノ語タル、亦正理ニ適スト云ヒ難シ、何トナレバ、人ノ彼此ヲ擇バズシテ、公同ニ命令シ、毫モ例外特許ノ私ナキハ、修身學ノ精神ナルヲ以テ、特別ニ或人ニ應ズベキノ修身學ナキヲ以テナリ、



ハ形狀及功用ヲ異ニスル所ノ衆機關ヨリ成ル、而シテ其機關モ、亦各無數ノ元素及ビ幾多ノ部分ヲ含蓄ス、故ニ曰ク合成スルヲ以テ分析スベシト、肉體ハ年齡ノ增長ニ隨ヒ、疾病ノ侵擾ニ因リテ、判然變化スルノミナラズ、補身ノ作用及ビ排泄ノ功用ニ因リテ、七年乃至十年毎ニ改新ス、是レ固ヨリ鑿々タル證左アリテ、人ノ知ル所ナリ、故ニ曰ク年ヲ逐テ變リ時ヲ期シテ更マルト、  
 靈魂ノ性質ハ、全ク肉體ト相反スルモノニシテ、第一ニハ我外部ノ五官ヲ以テ之ヲ窺知スルヲ得ズ、吾人ガ之ヲ窺知スルヲ得ルハ、無形ニシテ見ルヲ得ザル所ノ心ト名ヅクル

身裏ノ一官アルニ頼ルナリ、且ツ心ヲ以テ靈魂ヲ知ルノ明白ナルヤ、耳目手指ニ因リテ肉體ヲ知ルノ明白ナルニ比セシニ、或ハ之ニ過ギタルモ、決シテ及バザルモノニ非ザルナリ、原來人タルモノ、其自身即チ我アリテ存スルヲ疑フモノナシ、我トハ何ゾヤ、其靈魂ガ心ニ因リテ自ラ知り、之ヲ他ノ靈魂ニ告ルニ外ナラザルナリ、第二ニハ靈魂ハ一體ニシテ分析スルヲ得ズ、人毎ニ一個ノ我アルノミ、而ルヲ若シ我ハ分析スルヲ得ベシ、人ハ各一時ニ二人若シクハ數人ト爲ルヲ得ベシト假想スルモノアラバ、吾人ハ之ヲ最モ了解シガタキ僻見ナリト稱セザルヲ得ズ、夫レ肉體ノ諸機關ハ、各自

ニ一個ノ功用ヲ主ルノミ、即チ肺ハ呼吸ヲ爲シ、肝ハ膽汁ヲ製シ、脈管ハ血ヲ運行セシムルガ如シ、我ニ至リテハ則チ然ラズ、何ノ作用ヲ爲ス時モ、皆必ズ其全力ヲ盡スモノニシテ、思考、判決、思欲、嘆賞、愛慕、等ノ部分ヲ分ツコトナシ、而シテ吾人ガ此等ノ作用ヲ支辨スルニハ、常ニ全部ノ靈魂即チ全部ノ我ヲ以テス、因テ一體ニシテ分析スベカラザルハ、靈魂ノ一性質ナリトス、靈魂ト肉體トハ、其性質ヲ異ニスルコト此ノ如シ、第三ニハ靈魂ハ、我機關ヲ組織スル物體ノ如ク、更改變化スルモノニアラズ、何トナレバ吾人ハ能ク既往ノ事件ヲ牢記スルナラズヤ、靈魂ニシテ若シ始終同一ナラザラバ、決シ

二種ノ現象即チ靈魂ノ現象及ビ自然ノ現象

靈魂ノ現象ノ性質

テ此ノ如キヲ得サルベシ、吾人世ニ生レテ幾許ノ星霜ヲ經ルモ、今日ノ我ハ即チ幼時ノ我ナルヲ確知シ、且ツ道德ノ規則ニ從ヒ、我ガ既往ノ行爲ヲ追悔シ、若シクハ歆慕スルナリ、靈魂肉體ノ二性ハ全ク相同シカラザル二種ノ現象ヲ露出ス、夫ノ喜、憂、愛、惡、疑惑、知覺、熟思、判決、及ビ意ノ諸作用ノ如キ、靈魂之ガ原因若シクハ之ガ隸屬トナル現象ハ、五官ノ力ヲ假ラズ、唯心ニ因リテ直接ニ知道スルモノトス、此ノ現象ノ至大至剛ノ性質ハ、吾人ガ直接ニ知道スルニ非ザレバ現出スルヲ得ザルコト、外物ノ成立及ビ性格ヲ知ルヲ職トスル所ノ我機關ノ作用ヲ假ラザルコトニ在リトス

吾人が喜憂シ、愛惡シ、疑惑シ、知曉シ、決定スルハ、是レ吾人が喜憂スルヲ知り、愛惡スルヲ知り、疑惑スルヲ知り、知曉スルヲ知り、決定スルヲ知ルナリ、吾人ハ何ニ因リテ之ヲ知ルゾト云シニ、耳目ニ因ラズ、觸官ニ因ラズ、其他此ノ種ノ機關ニ因ルニ非ズ、内部ノ官即チ心ヲ以テ之ヲ知道スルナリ、我意及我智ノ干涉ニ由ラズシテ成ル所ノ功用及ビ運動、即チ偏ニ我肉體ニ屬スル所ノ現象ハ、全ク前述ノ事項ト相反ス、此ノ現象ハ吾人ノ心ヲ以テ發見スルヲ得ザルノミナラズ、五官ノ力ヲ假ルトモ、容易ニ之ヲ認識スルヲ得ズ、故ニ吾人ガ之ヲ覺り得タルハ、多年ノ尋思刻苦ニ由ルナリ、夫レ人

自然ノ現  
象ノ性質

ガ血ノ流通スル所以如何、肺ト空氣トノ干係如何、肉體ヲ更改スベキ食物ノ變化如何、身體ノ運動ニ于スル神系ノ功用如何ト考察ヲ下スニ先チテ、此ノ地上ニ生死セシメ幾許世ノ久シキヲ知ラザルナリ、然リト雖モ當時血ノ流通スルヤ、肺ノ呼吸スルヤ、食物ノ消化スルヤ、神系ノ作用スルヤ、毫モ今日ト異ナラザリシナリ、此ノ種類ノ現象ハ、偶間接ニ靈魂ヲ感動セシムルモノアリト雖モ、實ハ總テ靈魂部外ニ現出スルモノニシテ、唯自然ノ學問中ニ包含スベシ、故ニ吾人ハ之ヲ名ヅケテ自然ノ現象ト云フ、而シテ夫ノ自然ニ由ラズシテ、全ク靈魂即チ我ニ干涉セル前述ノ現象ハ、之ヲ名ヅケ

テ靈魂ノ現象ト云フナリ、然リト雖モ吾人ノ成立ニ干涉シタル事項ハ、盡ク此ノ二個ノ現象中ニ包含スルヲ得ベキモノニ非ズ、安ニ自然ノ現象ノ如ク、或ハ偶然ニ生ジ、或ハ定期ニ成ル所ノ肉體ノ變化ニシテ、心之ヲ知ラザルナキモノアリ、例ヘバ我皮膚ノ毀傷ヲ被リタル時、或ハ皮膚ノ外物ニ觸レタル時、又絶食ノ後ニ方テ液汁ノ虚耗ヲ補ハザルヲ得ザル時ノ如キハ、吾人必ズ一種ノ感覺ニ由リテ之ヲ知ルベシ、即チ吾人ハ自ラ知ラズシテハ感覺スルヲ得ザルモノナレバ、多少心裡ニ知道スル所ノ事項ニ因リテ之ヲ知ルベシ、又肉體ノ功用及ビ運動ノ中、

固ヨリ生理上ニ必要ナルモ、五官ニ優レル能力ノ干涉ナケレバ行ハル、ヲ得ザルモノアリ、例ヘバ飲食ノ如キハ、生命ヲ保存センガ爲メニ、自然ノ理ニ於テ前定セル行爲ナリト雖モ、意若シクハ天性ノ干涉ヲ要スルヤ必セリ、又小兒ノ能ク其唇ヲ蹙メテ乳房ヲ壓搾スルハ、唯活穢ノ法、即チ生理ノ規則ニ從フノミニ非ズ、必ズ其心裡ニ自ラ指揮スル勢力アルヲ以テ之ニ從フナリ、又吾人が身體ノ權衡ニ違テ將ニ倒レントシテ、忽チ其平均ヲ回復シ、又ハ眼目若シクハ頭首ニ不意ノ難ヲ受ントシテ、遠ニ之ヲ躲避センガ爲メニ、作ス所ノ運動ノ如キモ亦然リトス、

是故ニ吾人が上ニ論シタル二現象ノ中間ニ在リテ、其性質ノ幾分ヲ有スルモ、算シテ靈魂ノ現象ト爲サズ、又自然ノ現象ニ混ゼザル所ノ第三種ノ現象ト云フ者アリテ、人性中ニ存セリ、夫ノ感覺ノ如キ、食欲ノ如キ、天性ニ出ル諸行爲ノ如キ雜糅事項ハ、即チ此ノ種類ノモノナリ、

全ク自然ノ現象ニ屬スル功用ハ、心ノ干涉セザル所ナルヲ以テ、吾人ハ之ヲ如何トモスルヲ得ズ、故ニ脩身學ノ上ニ於テハ、喋々論究スベキモノニ非ズ、雜糅現象ニ至リテハ、規律ヲ設ケテ檢束スルヲ得ベキ部分ハ、皆靈魂ノ現象部中ニ屬スベシ、是故ニ吾人が專ラ目ヲ注ムベキハ、靈魂ノ現象ニア

修身ノ法

ヲ求ムル

ハ靈魂ノ

現象即チ

心中ニ於

テスベシ

靈魂現象  
ノ三種

リトス、實ニ時ノ古今ヲ問ハズ、出ノ貴賤ヲ論ゼズ、國ノ彼此ニ拘ハラズ、均シク人ヲ支配スル所ノ法ヲシテ果シテ之ヲラシメバ、必ズ心裡ニ刻銘セルナルベシ、我靈魂ニシテ能ク其性質及ビ運命ヲ思ハ、必ズ自己ノ裡面ニ向テ此ノ法ヲ曉知スベキリ、

吾人ノ身裡ニ運行スル所ニシテ、唯心ニ因リテ其果シテ在リヤ否ヤヲ知ルベキ現象ハ、之ヲ約シテ感、思、欲ノ三箇ト爲スヲ得ベシ、此ノ說ハ即チ吾人ハ情、智、意ノ三大能力ヲ有スト云ハント同義ナリ、能力トハ何ゾヤ、或ル事ヲ爲シ或ル事ヲ受クルノ勢力ニ外ナラズ、故ニ能力ヲ知ラント欲セバ、須



ラク其行事ニ就テ見ルベキナリ、  
 情ニ属スルモノハ、哀、樂、喜、憂、憐、懼、愛、惡、欲ニシテ、之ヲ約言ス  
 レバ、吾人ノ感覺及ビ感情ナリトス、其甲ハ吾人ガ既ニ述ベ  
 タル如ク五官ニ干係シテ起ルモノナリト雖モ、其乙ハ更ニ  
 高尚ナレバ、吾人ヲシテ肉體及ビ其他ノ當ニ滅死ニ歸スベ  
 キ物ヲ距ル愈遠カラシムベシ、蓋シ己ヲ愛スル情アルノミ  
 ナラズ、更ニ他人ヲ愛スルノ情アリ、他人ヲ愛スル情アルノ  
 ミナラズ、更ニ眞ヲ愛シ美ヲ愛シ善ヲ愛シ正ヲ愛スル等ノ  
 情アリ、又神ヲ愛スルノ情アリ、此ノ情ノ如キハ、夫ノアラト  
 ン希臘ノ聖學士ヲ始トシテラントテレーズ士班牙ノ聖女ニ至ルマデノ幾多

ノ聖人ヲシテ熱心セシメタリ、  
 智即チ思トハ、吾人ガ因リテ以テ思想ヲ起シ、因リテ以テ知  
 識ヲ啓ク所ノ諸能力及ビ此ノ能力ニ因リテ行フ所ノ作用  
 ヲ併セ云フ、  
 智ニ屬セル能力中ニ於テ、吾人ガ容易ニ區別スルヲ得ルモ  
 ノハ左ノ如シ、曰ク五官察知ノ力、是レ吾人ガ因リテ以テ外  
 物及ビ其諸質ヲ知ルモノトス、曰ク心即チ内部ノ一官、是レ  
 吾人ガ因リテ以テ自己ノ存セルアルコト、及ビ身裡ヲ經過  
 スル所ノ諸般事項ヲ知ルモノトス、曰ク是非ノ力、是レ吾人  
 ガ因リテ以テ不朽ノ眞理、事物ノ干係、人倫ノ原則ヲ知ルモ

ノトス、曰ク記性ノ力、是レ吾人ナシテ既具ノ知識ヲ保存セ  
 シムルモノトス、曰ク想像ノ力、是レ吾人ナシテ心理ニ爲有  
 ノ事項ヲ構造セシメ、或ハ實有ノ事項ナルモ、既ニ其跡ナキ  
 モノヲ叫起セシムルモノトス、而シテ良心ニ至リテハ内部  
 ノ官ト相同ジカラズ、純ラ道德上ノ事項ニ適用シ、人生諸般  
 ノ場合ニ方リ、吾人ニ義務ヲ知ラシムル所ノ是非ノ力タル  
 ニ外ナラザルナリ、

智ノ作用

智ノ諸作用ハ吾人自ラ爲ス所ノモノニシテ、吾人ハ之ニ因  
 リテ自然ノ知識ヲ擴充整頓スルヲ得ルナリ、蓋シ其作用ノ  
 數タル許多ナルベシト雖モ、吾人未ダ逐一ニ之ヲ舉ルヲ得

靈魂ノ活氣

ズ、故ニ今ハ僅ニ注意、熟思、比較、判決、另考一體ヲ爲シタルモノヨリ或ル部ヲ抽出シテ特ニ之ヲ考  
 フルヲ概括同様に諸般ノ場合ヲ概分類、推原後果ヨリ逆推シテ推求、推求前因ヨリ順推シテ推求、酌奪一個若シテハ數個ノ判決ヨリ論等ノ諸作用ア  
 リト云フニ過ギザルノミ、

此等ノ諸作用ハ、究ニ一箇ノ事項ニ歸着スベシ、即チ靈魂自  
 家ノ勢力ヲ自在ニシ、以テ活動スルノ一事是ナリ、故ニ靈魂  
 ハ、物ニ感シ物ヲ知ルノミナラズ、又活氣アリ、然リト雖モ其  
 活氣タルヤ、智ノ域内ニ圍セラレズ、徧ク我機關及ヒ運動ヲ  
 支配ス、此ノ場合ニ於テ、吾人ハ活氣ヲ名ヅケテ意ト云フ、  
 意ハ須ク天性ト區別スベシ、天性ノ作用ハ、恰モ靈魂ト相干

セザル一種ノ勢力アルガ如シ、何トナレバ吾人ノ此ノ行爲ニ於ケルヤ、全ク自然無意ニ出ルモノニシテ、何ノ規則ニ従フヲ知ラズ、何ノ目的ニ向フヲ知ラズ、何ノ手段ヲ用弁ルヲ知ラザレハナリ、意ハ則チ然ラズシテ、純然我が身ニ屬セリ、故ニ意ハ即チ人ナリト言フニ至ルモノアリシモ、漫ニ牽強ノ論ト爲スヲ得ザルベシ、夫レ意フトハ、唯我が意ニ決シタル行爲ヲ知道スルノミニアラズ、之ヲ行フハ即チ我ナルヲ確知シ、并ニ之ヲ行フト行ハザルト、唯我ニ在ルヲ認識スルナリ、更ニ言ヲ節シテ之ヲ説ケバ、意ト云フ者ハ自由ナラザル處ニ存セズ、故ニ意ト自由トハ相與ニ混同スベシ、自

由トハ何ソヤ、是レ吾人自己ノ行爲ヲ指揮スルヲ得ル所ノ權利ナリ、是レ吾人ガ最大ノ天性ヲモ顧ミズ、又痛苦死亡ヲモ避ケズ、隨意ニ靈魂ノ諸能力及ヒ肉體ノ諸勢力ヲ使用シテ、之ヲ我が好ム所ノ目的ニ指向セシムルヲ得ル天賦ノ力ナリ、

此ニ人アリ、其行事ノ已ニ出ザルヲ以テ、其責ニ任ゼザル者アラシニ、吾人ハ如何シテ之ニ義務ヲ命ズルヲ得ンヤ、故ニ自由ナケレバ、隨テ修身學アルナシ、果シテ自由ナケレバ、善惡、邪正、德行、罪業等ノ言語モ其味嚼蠟ノ如クナルノミ、夫レ人ニシテ枉テ爲サベルヲ得ザルノ事ヲ爲シ、抵抗スルヲ得

自由ハ權  
手動カス  
メカラズ

ザルノ法律若シクハ威力ニ從フ時ハ善ナラズ、惡ナラズ、正  
ナラズ、邪ナラズ、有罪ナラズ、有徳ナラザルナリ、  
此ノ一事ハ以テ人ノ固ヨリ自由ナルヲ證スルニ足ルベシ、  
何トナレバ、人ハ能ク善惡ノ區別ヲ辨シ、之ニ因リテ其行爲、  
意見、及ビ言語ヲ規定スレバナリ、然リト雖モ自由ハ固ヨリ  
疑フベキノモノナラザレバ、別ニ證明スルヲ要セズ、吾人ノ  
之ヲ信シテ疑ハザルヤ、恰モ我身ノ在ルヲ疑ハザルト同一  
級ナリ、任ヒ二三ノ微弱ナル反對論者アリトモ、凡テ人間ノ  
行爲及ビ信用ニ於テ自由ヲ認可セザルモノナシ、況ンヤ其  
反對論者モ、亦常ニ自ラ自由ナリト信ズルガ如キ行ヲ爲ス

ニ於テシヤ、實ニ法律ト云ヒ、審廳ト云ヒ、議會ト云ヒ、請願ト  
云ヒ、助言ト云ヒ、脅迫ト云ヒ、修身ノ教ト云ヒ、宗旨ノ戒ト云  
ヒ、靈魂不朽ノ箴規ト云ヒ、一トシテ此ノ定見ヲ吐露スル方  
法ナラザルハナシ、何トナレバ自由ニシテ法律ニ從フヲ得  
ル者ニ非ザレバ、之ニ法律ヲ謀スルヲ得ズ、有罪ト無罪トヲ  
定ムベキ者ニ非ザレハ之ヲ罰シ若シクハ之ヲ宥スヲ得ズ、  
助言及ビ請願ヲ聽クヲ得ル者ニ非ザレバ、之ニ助言シ、若ク  
ハ請願スルヲ得ズ、又現世ノ賞罰ニモセヨ、來生ノ苦樂ニモ  
セヨ、善惡ノ行爲ニヨリ褒貶スベキ者、即チ善惡ノ間ニ於テ  
自由ニ自ラ行爲スルヲ得ル者ノ爲メニスルニ非ザレバ、之

ヲ施スヲ得ザレバナリ人或ハ云ハン古ノ希臘人及ビ今ノ  
 土耳其人ノ如キハ、俱ニ定數ノ說ヲ信ズ如何ト、此ノ言ヤ實  
 ニ然リ、然リ雖トモ此ノ二國モ、定數ノ說ヲ用非ルハ、唯詩歌  
 ト宗旨トニ於テスルノミニテ、法律ト修身學トニ至テハ、決  
 シテ之ヲ定數ニ任セザルナリ、看ズヤ希臘人ハ、運命ヲ司ル  
 神ノ憎惡ニ觸レテ、知ラズ識ラズ大罪ヲ犯シタルエーザブ  
 父タルコトヲ知ラズシテ父ヲ弑シノ事ヲ演戲シテ、其不幸ヲ傷メ  
 母タルコトヲ知ラズシテ母ヲ殺ル  
 リト雖モ、其法律ニハ、親屬相姦ノ罪ト弑父ノ罪トヲ嚴罰シ  
 タルコトヲ、又看ズヤ、土耳其政府ノ如キモ、時疫ノ流行ニ際シ  
 人ノ命數ハ生下以來既ニ定マレルヲ以テ、豫防ハ裨益スル

自由ハ放  
 恣ト同ジ  
 カラズ

自由ハ理  
 由ヲ以テ  
 定メラル

第二章

所ナレト云フ說ヲ信シテ、時疫ヲ防ガズト雖モ、人ノ行爲モ  
 亦命數ノ如ク預定セルモノナリトシテ、劫掠、殺傷、反逆等ヲ  
 不問ニ措キ、之ガ爲メニ社會ヲ塗炭ニ苦シメザルコトヲ

人ハ自由ナリ、此ノ言ヤ、何ナル理論ヲ以テストモ、駁倒スル  
 チ得ベカラズ、吾人ノ之ヲ知ルハ、五官ニ頼ラズ、惟心ヲ以テ  
 スト雖モ、其明白ナルコト、五官ニ觸ル、所ノ事項ト一級ナリ、  
 而シテ吾人ガ有スル所ノ自由ハ、或ル理學者ガ主張セシ放  
 意ノ自由ト同シカラズ、必ズヤ吾人ハ吾人ヲ激起スル所ノ

感覺及ビ吾人ヲ覺了セシムル所ノ道理ヲカリセバ、決シテ  
 行爲スルヲ得ズ、一語ニ之ヲ撮要スレバ、一ノ目的及ビ一  
 ノ理由ヲクシテ行爲スルヲ得ルモノニ非ザルナリ、若シ之  
 ナ以テ然ラズトセバ、吾人ハ自然ノ無意勢力ヨリモ劣ルベ  
 シ、何トナレバ、自然モ亦是レ法ニ從フモノナルニ、吾人若シ  
 放意ノ自由ヲ有ストセバ、放意ノ自由タル、畢竟一狂人ノ意  
 ト異ナラザルガ故ニ、全ク法ナキニ至ルベケレバナリ、且夫  
 レ吾人ガ有スル情智ノ二者ハ、意ニ對シテ各其能力ヲ現シ、  
 情ハ意ニ其傾向ヲ借シ、智ハ意ニ其光輝ヲ借シ、以テ我が行  
 爲ヲシテ理由アラシムルニ、今此ノ事ヲ假ラズシテ、我身裡

行爲ノ四  
理由

快樂

ニ在テ尙ホ意ト並ビ立ツトハ、是レ吾人ノ了解スルヲ得ザ  
 ル所ナリ  
 我が行爲ノ理由ハ、情智ノ二能力ヨリ生ズルモノナレバ、其  
 種類必ズ多カラザルヲ得ズ、今吾人ハ之ヲ約シテ四箇トス、  
 曰ク快樂、曰ク情欲、曰ク利益、曰ク義務、即チ善是ナリ、  
 吾人ハ快樂ノ文字ヲ以テ、通例五官ヲ喜バシムル事ヲ指ス  
 トス、然ルニ之ヲ喜ハシムルニ二箇ノ方法アリ、其一ハ即チ  
 飢渴ノ飲食ニ於ケル如ク、疲勞ノ休憩ニ於ケル如キ、人生欠  
 クベカラザル須要ヲ満足セシムルヲ、其二ハ即チ前事ニ比  
 スレバ、幾分か吾人ノ自ラ忤ル所ニ係リ、吾人ガ之ヲ保存セ

ント欲スル所ノ企望ヲ満足セシムルト是ナリ、夫レ快樂ノ果シテ我が行爲ノ理由トナルヤ、第一ノ場合ニアラズシテ、第二ノ場合ニアリトス、何トナレバ第一ノ場合ニ方テヤ、吾人ハ自然ノ法則ニ從フト雖モ、第二ノ場合ニ方テハ、之ニ反シテ自然ノ法則ヲ顛覆シ、之ニ換フルニ吾人ノ所望ヲ以テセント欲スレハナリ、且其他更ニ精神ノ快樂、心ノ快樂、想像ノ快樂等アリ、然レモ此等ノ快樂ハ、前述ノ快樂ト頗ル其性質ヲ異ニスルモノニシテ、多クハ吾人ガ行ヒタル義務ノ褒賞ニ屬シ、或ハ勞動ヲ以テ得タル智識ノ褒賞ニ係ルノミ、情欲ハ快樂ヨリモ更ニ勢力アル一理由ニシテ且ツ之ト其

性質ヲ異ニセリ、吾人ノ靈魂ハ、固ト情欲ニ抵抗スルノ力ヲ有スト雖モ、若シ之ニ抵抗セズシテ、夫ノ愛憎、憎惡、驕傲、嫉妬、驕傲、貪榮、復仇ト名ブケタル如キ急切ノ激動ニ從フハ、靈魂ノ求ル所、快樂ニ在リト云フヲ得ザルベシ、何トナレバ、何等ノ情欲タリト雖モ、一ノ目的ヲ有シ、其目的ヲ達セントスル時ハ、如何ナル損失ヲ受クルニモ拘ラズ、如何ナル苦難ニ遭フニモ拘ラズ、其甚シキハ生命ヲ失フモ、恬トシテ顧ミザルニ至ルモノナリ、今其一二ヲ舉レバ、眞ニ愛スル人ノ爲メニハ、生ヲ抛ツモ之ガ愛憐ヲ逞ウシ、眞ニ憎メル仇ノ爲メニハ、命ヲ捨ルモ之ガ憎惡ヲ肆ニシ、又夫ノ貪榮者ガ名利ヲ得

ン爲メ、或ハ之ヲ失ハザラン爲メニハ、如何ナル困頓ニモ耐  
 へ、如何ナル檢束ヲモ忍ビ、如何ナル危難苦險ニ遭逢スルモ  
 退避セザルノ類、皆是レ吾人ノ稱シテ快樂ト云フヲ得ザル  
 所ナリ、

## 利益

利益ハ前述ノ二原由ト其性質ヲ異ニセリ、利益ノ快樂ト異  
 ナルヲ云ハ、快樂ハ唯一時ノ感覺ニ止ルモ、利益ハ永久  
 吾人ノ幸福ヲ助ルモノナルニアリ、且ツヤ利益ハ快樂ト相  
 合セザルコト多ク、且ツ其一ヲ棄テザレバ、其二ヲ遂グルヲ  
 得ザル者アリ、近ク之ヲ喩ヘバ、吾人若シ一大利益ヲ向來ニ  
 得ント欲スレバ、必ズ一時ノ快樂ニ誘惑セラレザルヲ要ス

善  
義務即チ

ルガ如キ是ナリ、又利益ト情欲ト異ナルヲ云ハ、利益ハ必  
 ズ熟思ノ後ニ成リ、必ズ計算ノ上ニ出ルモノナルモ、情欲ハ  
 之ニ反シ、其熾ンナルニ方テハ固ヨリ是非得失ノ如何ヲ顧  
 ミズ、或ハ偶之ヲ顧ミテ熟思計算スルヲアルモ、是レ畢竟其  
 情欲ヲシテ、後日ニ暴發センメンガ爲メナルノミ、

眞ニ自由ニシテ良知アル靈物ハ、唯第四ノ理由ニ因テ行爲  
 スルアランノミ、此ノ理由ヤ、能ク他ノ理由ヲ撲滅シ得ベク、  
 假令ヒ全ク撲滅シ得ザルモ、能ク之ヲシテ服從セシムルモ  
 ノナリ、要スルニ此ノ理由ヲ指シテ何トカ云フ、曰ク義務即  
 チ善是ナリ、詳ニ之ヲ説ケバ、正理ニ據リテ吾人ノ履行スベ



キ唯一ノ法律ナリ、此ノ法律タル、何人ト雖モ之ニ背グヲ得ズ、若シ之ニ背ケバ、必ズ世ノ輕侮ヲ招キ、人ノ品位ヲ失フベシ、且ツ此ノ法律ニハ、例外ノ條款、酌量ノ情狀ヲク、又時ノ今古、國ノ彼此、場合ノ如何ヲ論ゼザルナリ、

義務即善  
ヲ察知ス  
ルハ人性  
固有ノ事  
ナリ

善ヲ知りテ斯ニ善惡ヲ區別スルハ、人性ノ固有スル所ニシテ、教育ヨリ生ズルニモ非ズ、又法律ヨリ出ルニモ非ズ、要スルニ教育ハ之ヲ發達スルニ止リ、法律ハ社會ノ利益ヲ圖リテ、之ヲ確定スルニ過ギズ、抑モ吾人ハ己ニ我アルヲ知リ、又我ハ自由ニシテ良知アル靈物ナルヲ知ツバ、是レ則チ自ラ其自由ト良知トニ愧ヂザル所ノ行爲ヲササシムルニ

遵奉スベキ規則ノ存スルヲ知ルナリ、然リト雖モ此ノ規則タル、初ヨリ唯思想ヲ以テ察知スルニ止ル無形ノ性質ヲ有シテ現ハル、モノニ非ズ、而ルニ此ノ規則ノ我情我智ニ現レテ、我精神ヲ明ニシ、我心ヲ感動スルハ、唯其規則ニ關スル特別ノ事項ニ在テ然リトシ、又此ノ規則ヲ履行シ、若シクハ之ニ違背シタル人意ノ行爲ヲ目撃スルノ時ニ在テ然リトス、

吾人一行  
爲ヲ見ル  
時善ヲ知  
ルノ心ハ  
如何ニシ

吾人ハ他人ガ自由 行ヒタル行爲ニシテ、多少良心ヲ動かスベキモノニ遭遇シタル時、我靈魂中ニ生ズル所ノ景況如何、曰ク吾人ハ先ヅ其人ノ行爲ニ向テ、或ハ稱譽シ、或ハ誹謗

ヤ  
ヲ生ズル

吾人自己  
ノ行爲ニ  
對シテ善  
ヲ知ルノ  
心ハ如何

シ、即チ之ヲ善ナリ惡ナリト判定シテ、一ハ満足ノ感情ヲ生  
シ、一ハ不満ノ感情ヲ生ズル、恰モ固ヨリ其行爲ノ喜ブベク、  
或ハ厭フベキ理由アルガ如シ、次ニ目ヲ轉シテ其行爲セル  
人ニ向ヒ、前述ト密着シタル判定及感情ヲ發起シ、其必ズ褒  
賞シ、若シクハ責罰スベキト其必ズ洪福若シクハ不幸ナルベキ  
トヲ判定シ、其行爲善惡ノ度ニ從テ之ヲ尊敬シ、若シクハ輕  
賤シ、又之ヲ嘉尚シ、若シクハ憎惡スルノ感情ヲ生ズルナリ、  
吾人書ヲ讀ミ話ヲ聽テ善惡ノ行爲ニ遇フ所ハ、面前ニ目撃  
シタルトキト、同様ノ感情ヲ發起ス、其之ヲ發起スルヤ、自己  
ノ行爲ニ於テ、更ニ多ク更ニ深シトス、其多キ者ハ、即チ其行

シテ生ズ  
ルヤ

爲ニ先ダツノ判定及ビ此ノ判定ニ附着スルノ希望、若シク  
ハ善惡ノ戦闘ナリ、且ツ我ガ行爲ニ適當シタル性質ヲ判定  
セントスルニ、必シモ我ガ意ヲ遂ゲタルノ後ニ於テセズ、未  
ダ遂ゲザルノ意ノミヲ以テ充分ニ吾ヲ稱譽シ、若シクハ誹  
謗シテ、其善惡ヲ判定スルコトヲ得ベシ、若シ此ノ誹謗ヲ顧慮  
セズ、其意ヲ遂グルモノハ、即チ善テ好ム所ノ自然ノ希望ト  
惡ヲ勸ムル所ノ情欲ト、一戦闘ヲ爲シタル後、吾人遂ニ情欲  
ニ制セラレタルナリ、而シテ此ノ稱譽誹謗ハ、自己ノ行爲ニ  
就テ、特ニ良心ノ吾人ニ教フル所ナリ、而シテ良心ノ吾人ニ  
教フルヤ、唯此ノ如キニ止マラズ、夫ノ尊敬若シクハ輕賤ニ

換フルニ満足若シクハ悔悟ヲ以テシ、道德ノ感情ヲシテ更ニ深カラシムル者アリ、加之吾人自己ヲモ尊敬シ、若クハ輕賤スルコトアリ此ノ場合ニ於テハ、更ニ能ク善アリテ存スルコトヲ證明スルニ足ルモノトス、

前ニ記シタル論述ハ、唯吾人行爲ノ上ニ止リテ、原理ノ如キハ未ダ之ヲ説明セズ、抑モ前ニ所謂吾人が自己及び他人ノ爲ニ生ズル所ノ感情ヤ、或ハ尊敬ヤ、輕賤ヤ或ハ良心ノ満足ヤ、後悔ヤ、或ハ行爲及び其人ニ對シテ爲ス所ノ判定ハ、固ヨリ注意スベキノ要件タリト雖モ、若シ唯之ヲノミ論述スルトキハ、是レ賢人智者ノ特リ知ル所トシテ、僅ニ一瞥ニ供ス

道德ノ感情ト修身法トノ差別

ルノミ、果シテ然ラバ何物モ抵抗シ難キ勢力ヲ以テ、一般吾人ノ上ニ課シ、吾人モ亦多少之ヲ知り得ル所ノ貴重ナル法律ハ、其レ何クニ在リトスルヤ、

修身法

修身ノ法ハ前ニ述べタル靈魂ノ諸作用上ニ於テ已ニ發現シタルナリ、何トナレバ、其作用タル、一モ修身法ノ存スルコトヲ認定セザルモノナク、又一モ修身法ニ向テ思考ヲ注セザルモノアラザレバナリ、實ニ我靈魂中ニ善惡ノ思想即チ吾人相互ニ尊敬シ、若シクハ輕賤スルノ度ヲ定ムベキ規則アルニ非ザレバ、毫モ吾人ニ關係ナキ一行爲ノ善若シクハ惡ト思想セラレ、又吾人ニ關係ナキ他人ノ吾人ニ尊敬セラレ、

褒貶ノ原  
理

若シクハ輕賤セラルベキ理由アラザルナリ、凡ソ善惡ノ思想ニハ、吾人ガ褒貶ノ原理ト名ヅクル者、即チ修身法ニハ賞罰アリトノ信用之ニ從テ離レザルナリ、而シテ此ノ信用タル己ニ義務アルコトヲ吾人ニ證明シタル信用ト同シク、自然一定ノモノニシテ、必ズヤ自他ノ行爲ヲ判定スル時ニ發現スルモノナリ、故ニ之ヲ詳言スレバ、吾人ガ稱譽若シクハ誹謗スル所ノ行爲アル人ハ、褒賞若シクハ責罰スベシト思考シ、又德行ト幸福トハ必ズ相協合シ、罪惡ト禍殃トハ必ズ相一致スベキコトヲ察知スルモノハ、即チ是レ褒貶ノ原理ハ、善惡ノ思想ニ屬スト云フベキ所以ナリ、然ルニ

教育ハ感情及ビ思想ヲ創造セザルモ亦能ク之ヲ發達ス

人若シ吾人ニ向テ、汝誤レリ、天地間ニ在ル所ノ此ノ關係ハ、道德ノ順序ニ背ケルモノナリト云フモノアラバ、吾人ハ其言ニ喫驚セザルヲ得ズ、前ニ述ベタル思想及ビ感情ハ、固ヨリ吾人ノ靈魂ニ存在シ、相合シテ人生至大ノ一性質ヲ成シタメルノニシテ、吾人ハ之ヲ創造スルヲ得ズ、又之ヲ撲滅スルヲ得ザルナリ、然リト雖モ吾人或ハ五官ノ昏迷、飢渴ノ痛苦、是非心ノ晦蒙、禽獸的ノ情欲ニ因リテ、此ノ性質ヲシテ朦朧ナラシムル、恰モ靈魂底裡ニ埋沒セルガ如キニ至ルモノ亦少カラズ、是ニ於テカ一二ノ皮相論者ハ、之ヲ教育ニ由テ生ズルモノト信シタリ、

然レモ是レ決シテ然ラザルナリ、教育ハ人性ヲ變ズルヲ得ズ、唯之ヲ發達シ、之ヲ培養シテ、之ガ良心ヲ喚起シ、漸次行爲ニ現ハレシムルノ効アルノミ、尙ホ之ヲ詳言スレバ、教育ハ吾人ノ心裡ヨリ、之ガ感情或ハ思想ヲ抽起シ、之ニ其効力ヲ付與シテ、之ヲシテ善美ナラシムルヲ、恰モ耕作ノ種子ヲシテ地中ヨリ萌芽セシムルト異ナラザルナリ、

開化ハ人  
民ノ上ニ  
教育ト同  
様ノ効力  
ヲ奏ス

開化ノ社會及ビ各人民ニ於ケルハ、猶ホ教育ノ一個人ニ於ケルガ如シ、開化ハ歷世人民ノ經驗ト勞動トニ因リテ、人智及ビ其他ノ能力ヲ發達セシムルモノニシテ、良心ノ如キモ、亦此ノ協力ノ功ニ因リテ、頗ル發達シタルナリ、故ニ諸國人

民ガ其野蠻ノ習ヲ脱シ、營業ニ由リテ貧苦ヲ減シ、技藝ニ因リテ雅美ヲ知り、詩歌ニ因リテ高尚ヲ曉リ、宗旨ニ因リテ未來ヲ考ルニ至ルヤ、其性質モ隨テ益仁慈方正トナリ、且ツ人ノ益尊キヲ悟リ、益之ヲ崇ブニ至レリ、

### 第三章

我が道德ノ感情ノ至大規則ニシテ、吾人ガ人品若シクハ行爲ニ就テ自ラ下ス所ノ判定ニハ、必ず認定セザルヲ得ザルノ二大思想、即チ善ノ思想及ビ褒賞ノ思想タル、之ヲ彼此對比スレバ、善ハ褒賞ヨリモ更ニ緊要ナルモノニシテ、是ヲ基

褒賞ノ思  
想ハ善ノ  
思想アリ  
テ存スル  
ヲテ假定  
ス善ノ思

想ハ持リ  
修身學ノ  
基礎ヲ爲  
ス

礎ノ思想ト稱スルモ、決シテ不可ナラズ、何トナレバ若シ善  
ヲシテ無カラシメバ、褒賞ノ言由リテ出ル所ナシ、褒賞ハ必  
ズ善ノ思想中ニ含蓄スルナリ、抑モ吾人が己ニ其義務ヲ盡  
シ、更ニ其餘ニ及ブ者ハ褒賞ヲ受クベク、義務ヲ破ルモノハ  
責罰ヲ蒙ルベシト信ズルハ、豈別ニ一箇ノ原理アリテ然ラ  
シヤ、唯公義ヲ實行スルニ在ルノミ、而シテ善ト公義トハ固  
ヨリ分割スルヲ得ズ、德行ト幸福トテ和合セシムルハ、此ノ  
二者ノ第一性質ナリト爲サマルヲ得ズ、故ニ善ノ思想ハ、道  
徳真正ノ基、道德唯一ノ礎ナリ、道德ノ大廈ヲ支持スルノ柱  
石ハ、此ノ思想ニ在リ、我が諸般ノ義務ヲ湧出セシムルノ原

善ノ思想  
ハ義務ノ  
思想ヲ含  
蓄ス

泉ハ、此ノ思想ニ在リ、是故ニ縱令ヒ稱譽スベキ最善行爲タ  
リトモ、唯現世若シクハ來世ノ褒賞ヲ得ントノ希圖ヲ以テ  
之ヲ爲シタルキハ、夫ノ義務ヨリ生ゼズシテ、計較ヨリ出ル  
所ノ商估行爲ノ部中ニ屬スベキナリ、  
義務ハ必ズ善ノ中ニ含蓄セザルヲ得ズ、然リト雖モ善ハ盡  
ク義務ノ中ニ含蓄スルモノニ非ズ、此ノ二者ノ廣狹ヲ比ス  
レバ、善ハ義務ヨリモ廣ク、義務ハ善ヨリ狭シ、其關係ヲ譬レ  
バ、恰モ中心ヲ一ニシテ周圍ヲ異ニシタル二圈ニ異ナラザ  
ルナリ、何ナカ義務ト云フ、曰ク我が靈魂ニ記銘シタル法律  
ニシテ、凡テ良知アリテ自由ナル靈物ハ、之ニ背クヲ得ズ、

義務ハ善  
ヨリ狭シ

若シ之ニ背ケバ自ラ其自由ト良知トニ愧ザザルヲ得ズ、又隨テ天賦ノ品位ヲ失ヒ、自己ノ輕侮ヲ取り、他人ノ蔑視ヲ招クベキモノ即チ是ナリ、故ニ義務ハ確然吾人ニ課スルモノニシテ、故意ニ之ニ背クノ人ハ、自ラ好ミテ人間及ヒ社會ノ底下ニ陷落シ、人間及ヒ社會ニ向テ之ヲ棄絶スルノ權利ヲ授クルナリ、正理ニ據リテ此ノ如ク嚴格ニ吾人ニ命ズル所ノモノハ、其善行タルヤ疑ナシ、然リト雖モ善行即チ正理ニ適シ、良心ノ稱譽スル事ハ、皆吾人ノ必ズ爲サベルヲ得ザルモノニ非ズ、隨テ義務ノ中ニ算入セザルヲ得ザルモノニ非ザルナリ、古來何人モ此ノ言ヲ以テ然ラズト妄言スル者ア

ラズ、例ヘバ聖僧ワンサントボーガ孤子ノ爲メニ棄兒院ヲ開キタル如キハ、其義務ニ非ザルナリ、ロルトバイロンガ希臘國人民ノ其國ノ壓制ニ苦シメルヲ聞キ、自己ノ國ヲ去テ之ニ赴キ、遂ニ希臘國ノ爲ニ其生命ヲ犠牲ト爲シタル如キハ、其義務ニ非ザルナリ、義勇ノ輩ガ其國ノ爲メニ熱疫ヲ防グノ法ヲ求メント欲シテ、遠隔ノ地ニ赴キ、其瘴毒ヲ冒シタルガ如キハ、其義務ニ非ザルナリ、然ラバ則チ必ス行ハザルヲ得ザルノ義務ト、必ズシモ行フテ要セザルノ義務トノ二種アリト云ハンカ、此ノ如ク説カバ、義務ニアラザル義務アリト云フニ異ナラズ、加之若シ嚴ニ吾人ヲシテ前述ノ如

キ行爲ヲ爲サシメントセバ、醜惡事業ト至大德行トノ中間ニ在ルモノナキニ至ルベシ、苟モ此ノ如クバ、至大德行ヲ爲スハ、恰モ負債ヲ償フト同シキヲ以テ、人間ノ尊敬若シクハ歎美ヲ蒙ルノ權利ヲ失フベシ、何トナレバ負債ヲ償フ者ヲ尊敬スルヲアルモ、之ガ爲メニ偶像ヲ造リ、祭壇ヲ設クルノ事ナカルベキヲ以テナリ、

善ハ義務ト同シカラズ、義務ノ如ク吾人ニ嚴課スルモノナラザルニ、猶ホ之ヲ吾人ノ最上規則ト看做スベシトセバ、善トハ抑モ何等ノモノナリヤ、之ヲ義務ニ比シテ云ヘバ、義務ハ吾人ガ必ズ一步モ之ヨリ下ルヲ得サルノ階位ニシテ、若シ

善ノ思想  
ハ完全ノ  
思想ト同  
シ

之ヲ下レバ道德ノ域ニ於テ人間ノ品位ヲ失フモノナレドモ、善ハ則チ然ラズ、吾人ガ諸般ノ能力ヲ集合シテ達セントスル所ノ至高至尙ノ目的是ナリ、吾人ガ固有ノ性質ニ憑リ、賢愚ト強弱トノ度ニ應ジテ、援助スベキ恒久至大ノ事業是レナリ、吾人生存ノ法、即チ吾人ガ他物ニ卓越スル所以ノ道ヨリモ更ニ多キモノ是レナリ、吾人カ正理ト感情ト熟考ト貴重ノ天性トニ由リテ、指向スル所ノ完全ノ域ニシテ、之ニ近ヅクハ、吾人ノ權内ニ在ルモ、決シテ到達スルヲ得ザルモノ即チ是レナリ、

善ハ義務ノ形體即チ狭小ナル區域中ニ在テハ、吾人ノミナ



ラズ、都テ良知アリテ自由ナル靈物ノ必ラズ遵奉スベキ確  
乎不拔ノ法ニシテ、何人ノ爲メニモ、例外ノ地ヲ置カズ、中止  
ノ事ヲ許サス、免除ノ權ヲ與ヘザルガ故ニ、一般ノ法ナリト  
了解スルヲ得ベシ、義務ニシテ若シ一般ノ法ナラザラバ、其  
世ニ存在セザルト何ゾ異ナラン、今公義ノ基礎トシテ確定  
シタル左ノ規則ヲ以テ例トセン、曰ク己ノ欲セザル所ハ人  
ニ施ス勿レト、假リニ此ノ規則ヲ以テ貴人ニモ、賤人ニモ、各  
人民ニモ、各個人ニモ適用スベキモノニハ非ズト臆定セヨ、  
若シ果シテ此ノ如クナラシメバ、此ノ規則ハ、道德上ノ聲價  
ヲ失ヒ、其不朽ノ性質ヲ毀ナテ、彼ノ純然タル約束若シクハ

強力ヲ以テ課シタル法律ト同等ノ地位ニ下ルベシ、且ツヤ  
義務ハ一般ナルノ故テ以テ、亦獨立無限ノモノナリ、更ニ之  
ヲ詳言スレバ、此ノ法タル例外ヲ許ササルノミナラズ、情狀  
ヲ酌量スルヲナク、又他ノ法律ト互ニ相取捨スルヲナク、唯  
其課命スル所ヲ認可スルノミニシテ、其他ノ法律ノ如キハ、  
都テ之ニ從ハザルヲ得ザルモノトス、若シ然ラザレバ、義務  
ハ正理靈物ニ課スル所ノ最上法律ナラザルベシ、昔者有名  
ノ理學士エマニユエルカムト氏ガ、義務ヲ名ヅケテ正理ノ  
命令ト稱セシハ、即チ此ノ思想ヲ吐露シタルナリ、  
善ハ全體ニ就テ之ヲ考フルモ、亦同上ノ性質ヲ有ス、夫レ善

ヤ一般ナリ、何トナレバ、諸般ノ特別ナル善行ハ、都テ其中ニ  
含蓄スベク、唯其名ヲ冒シ、其威ヲ借レルモノ、如キハ、之ニ  
逢ヘバ形ヲ失フベキヲ以テナリ、又善ヤ獨立無限ナリ、何ト  
ナレバ、我靈魂ノ能ク了解シ得ルモノ、中ニ於テ、最モ高尚  
ナルモノナレバ、諸物ハ之ニ隸屬スベキモ、自己ハ何物ニモ  
隸屬セズ、卓然諸般ノ變化スベキ原則ノ上ニ出デ、不朽不  
易ノ性質ヲ具スレバナリ、

故ニ吾人ノ行爲ニシテ、苟モ自由ノ管轄内ニ在ルモノハ、一  
トシテ善ノ支配ニ從ヒ、直接又ハ間接ニ修身學ノ区域内ニ  
在ラザルモノナシ、例ヘバ自然ハ吾人ニ食欲及ビ其他ノ須

善ノ思想  
ハ都テ吾  
人ノ自由  
行爲ニ適  
用ス

要ヲ授ケ、吾人ヲシテ我肉體保存ノ事ニ汲々タラシム、然レモ  
此ノ食欲及ビ此ノ須要ハ、禽獸ニ在テハ自ラ節制スルヲ知  
ラザルモノナルモ、人ニ在テハ良心及ビ正理ノ法ニ服從セ  
ルヲ以テ、吾人ハ他人ノ財産ヲ損失シテ、我飢渴ヲ満足セシ  
ムル等ノ事ヲ爲スヲ得ズ、今此等ノ事業ヲ總括シテ云ハシ  
ニ、之ヲ達スルニ方テ、唯自然ノ性ニ任スルノミニアラズ、旁  
ヲ義務ニ從フハ我權内ニ在リトス、何ノ義務ニ從フカ、即チ  
此ノ世ニ於テ我事業ヲナサシガ爲メニ我身ヲ保存セシヲチ  
吾人ニ命ズル所ノ義務ニ從フナリ、又幸福ヲ好ム自然ノ情  
ハ、吾人ヲシテ財産ヲ貯ヘ、資本ヲ備ヘ、向來ノ須要ニ供セシ

ムベシ、吾人若シ同様ノ手段ヲ以テ、我獨立ヲ安全ニシ、貧苦ノ爲メニ、我品位ヲ墜サマランコトヲ望マハ、是レ愛己ノ希望ニ換フルニ、道德ノ感情ヲ以テスルナリ、又吾人ハ親子ヲ結合セシメ、家族ヲ親睦セシムル所ノ愛情ヲ固有ス、然リト雖モ此ノ感情中ニ在テ、殊ニ母ノ子ヲ愛スル情ノ如キハ、痛ク之ヲ制セザレハ、或ハ理ニ背キ己ヲ害スルノ情欲ニ變ズベシ、故ニ良心ノ光輝ヲ以テ之ヲ照燭シ、義務ノ思想ヲ以テ之ヲ檢束スルヲ要ス、更ニ一步ヲ進メテ之ヲ社會ニ推セバ、其法律タル假令ヒ方正善良ナルモ、唯刑罰若シクハ威迫ノ力ニ憑テ、人ヲシテ之ヲ遵奉セシムルナリ、而レドモ善人ノ此ノ

法律ニ從フ所以ハ、他人ト其理由ヲ異ニス、何トナレハ之ヲ遵奉スルノ事ハ、人間ニ必用ナルベキ社會ノ約束ナルヲ以テ、至重義務ノ中ニ算入セザルヲ得ズト信ズレバナリ、故ニ義務ノ思想及ビ善ノ思想、即チ綜說スレバ修身ノ法ハ、我生路ノ如何ナル場合ニ於テモ、我ニ影逐シ、我成立ノ如何ナル場合ニモ在ラザルコトナキモノトス、

#### 第四章

吾人ガ善ノ思想ハ、一般ニシテ獨立ノモノナルガ故ニ、之ヲ我靈魂ノ外ニ拋棄スルニ非ザルヨリハ、之ニ此ノ二性質ヲ

善ト我行  
爲ノ他ノ  
理由トノ  
差

善ハ快樂  
ニアラズ

容レザルヲ得ズト論述シタルハ、即チ善ハ我行爲ノ他ノ理由タル快樂、利益、情欲ト大ニ相異ナルノミナラズ、他人ヲ愛スル無私ノ情トモ相同シカラザルヲ證明シタルナリ、快樂ハ一時ノ感情ニシテ、頗ル變ジ易キモノニシテ、其時間僅ニ瞬間ニ過ギザルナリ、且ツ其事タル每人相同シカラザルハ、固ヨリ論ヲ俟タザルヲミナラズ、同人ニ在テモ、場合ト年月トニ從テ變ズルモノナレバ、如何ゾ之ヲ以テ善ノ思想ヲ現出スル所ノ不朽不易ノ順序ニ列スルヲ得ンヤ吾人ガ此ノ感情ト此ノ思想トノ間ニ看出ス所ノモノハ、唯差異アルニ止ラズ、此ノ如キハ其全ク相反スルヲ見ルナリ、

善ハ利益  
ニアラズ

利益ハ快樂ニ比スレバ較久シキニ勝フベク、且ツ理ニ近キモノタリト雖モ、亦恒久ニシテ一般ナル規則ト看做スヲ得ズ、況ンヤ吾人ガ必ズ遵奉スベキノ規則トスルヲ得ンヤ、夫レ吾人ノ利益ハ、地位、貧富、位階、職業、交際、其他幾多ノ情狀ニ從テ變ズルモノナリ、今職業ノ殊異ニ就テ一二ノ例ヲ示シシニ、例ヘバ名ヲ兵籍ニ列セル者ハ、戦功ニ非ザルヨリハ、不次ノ立身ヲ僥倖スルヲ得ザルバ、常ニ足テ翹ゲテ事ノ起ルヲ望ムモ、戦争ハ通常ノ職業ヲ爲ス者ノ妨害タレバ、此ノ者ノ之ヲ厭フガ如キ、醫師ハ病人ノ多カラシムヲ希ヒ、訟師ハ訴訟人ノ囑託ヲ得ンコトヲ冀フト雖モ、醫師訟師ニアラザル

者ハ、他ノ大事ヲ外ニシテモ、身ノ健全ナルヲ祈リ、他ノ小利ヲ棄テ、モ、詞訟ノ起ラザルヲ貴ベリ、又公債證書ヲ藏弁セル者ハ、利息ノ騰貴スルヲ待ツモ、工商ハ資本増加ノ故ヲ以テ、利息ノ賤キヲ喜ベリ、諸、此ノ如キノ類、各職業ニ因リテ其利益ヲ異ニセリ、此等ノ背馳ハ、如何ニシテカ之ヲ齊整ニシ、以テ不易ノ一原則ニ彙括スルヲ得ベキ、假令不可思議ノ魔術ヲ施シテ之ヲ爲シ得ントスルモ、此ノ原則ニ人ノ必ズ遵奉スベキ法律タルノ威權ヲ付與スルヲ得ザル時ハ、果シテ何ノ功カアル、此ニ人アリ、吾人ニ向テ汝ノ利益ニ注意スベシト助言スルハ則テ可ナリト雖モ、若シ是レ義務ナリ、必ズ

善ハ情欲  
ニアラズ

カメテ之ヲ爲セト云フニ至テハ、其レ之ヲ何トカ謂フベキ、例ヘバ吾レ若シ健全ヲ害シ、財産ヲ破リ、信用ヲ失ハントシタルトキニ方リ、他人吾ヲ稱シテ不注意ナリ、拙劣ナリト云フヲ得ベケレド、不正ノ人ナリト云フヲ得ベカラザルガ如シ、情欲ハ利益ニ比スレバ、善及ビ義務ノ思想ト一致スルヲ愈益、懣キノミナラズ、吾人自己ノ行爲、及ビ他人ニ對スル關係ヲ定ムルノ規則ト爲スベキ、何等ノ一般思想トモ一致セザルナリ、其短所ヲ擧グレバ、己ヲ袒庇スルハ利益ノ如ク、變シ易キハ快樂ノ如ク、之ニ加フルニ激烈、蒙昧、頑固ナルモノニ

シテ、其固有ノ性質タル、何ノ法律ヲモ受クザルニ在リ、其故  
何ゾヤ、法律ハ即チ正理ナルニ、正理ハ正ニ情欲ノ反對ナレ  
バナリ、且ツ何物ト雖モ、未ダ情欲ト情欲トノ間ノ如ク、互ニ  
相矛盾シテ一致セザルモノアラズ、故ニ同一ノ事物、同一ノ  
名望、同一ノ威權ヲバ、相互ニ熱心シテ之ヲ希望シ、俱ニ其慢  
心、怒氣ヲ抑制スルヲ得ザル者ニ在リテハ、若シ正理ヲ以テ  
檢束スルニ非ザレバ、必ズ終ニ死敵トナルベキナリ、然レモ  
近時安樂世界ノ説ヲ爲ス者ハ、諸般ノ情欲ヲ肆ニ違セシム  
ルハ、各人ノ幸福及ビ社會ノ順序ヲ確定スルノ唯一手段ナ  
リト想像シタリ、若シ情欲ヲシテ一瞬間タリモ肆ニ違セシ

善ハ無私  
ノ愛情ニ  
アラズ

ムルアラバ、必ズヤ吾人ヲシテ落テ禽獸ノ地位ニ在ラシメ、  
社會ヲシテ土崩瓦解セシムルニ至ルベシ、快樂ノ修身學及  
ビ利益ノ修身學ノ如キモ、到底亦同様ノ結果ニ歸スベシト  
雖モ、未ダ此ノ如ク其レ速ナルニ至ラザルナリ、  
今ヤ吾人ガ互ニ相感動スル所ノ無私ノ情欲ヲ論セントス、  
無私ノ情欲ハ、差等一ナラズ、名稱同シカラズ、憐愍、仁慈、同情、  
懇情、純愛ノ情、愛親ノ情、愛國ノ情ノ如キ即チ是ナリ、實ニ此  
等ハ吾人ノ貴ブベキ感情ニシテ、往々吾人ヲシテ義務ヲ果  
スニ易カラシムルモノアリ、何トナレバ、此等ノ情ハ、義務ヲ  
果スチ以テ、吾人ノ快樂若シクハ須要ト爲スガ故ナリ、然リ

ト雖モ此等ノ愛情ハ、義務ノ原則ト爲スヲ得ズ、一般ノ法律ト爲スヲ得ズ、隨テ善ノ思想ガ我良心及ビ生路ニ於テ占ムル所ノ地位ヲ奪フヲ得ズ、抑モ吾人ハ我意ノ如ク我心ヲ自由ニスルヲ得ズ、故ニ人ヲ愛スルト愛セザルト、他人ノ不幸ヲ見テ感情ヲ動カスト動カサゞルトハ、吾人ノ能ク隨意ニスルヲ得ル所ノモノニ非ズ、果シテ然ラハ、如何ニシテカ吾人ニ人ヲ愛スルヲ命ジ、愛セザルヲ禁ジ、感情ヲ動カスヲ命ジ、動カサゞルヲ禁スルヲ得ンヤ、且ツ夫レ同一ノ地位ニ在ル人ト雖モ、同一ノ情ヲ以テ人ヲ愛セザルノミナラズ、其愛スル度モ同一ナラザルナリ、然レバ誰レカ人ノ必ラズ違ス

セクシテ超ユルヲ得テル所ノ尺度ヲ定ムルヲ得ルヤ、而ルニ此ノ尺度ハ決シテ之ヲ看出ステ得ズ、果シテ然ラバ、義務モ亦我感情ノ如ク恒久ナラズ、且ツ平等ナラザルモノト認定セザルヲ得ンヤ、義務ニシテ此ノ如キモノナラシメバ、人其隣人ニ向ヒ、余汝ヲ愛セズ、故ニ汝ニ對シテ義務ヲ有セズト云ヒ、又其父ニ、其兄弟ニ、其母ニ、其姊妹ニ、其妻ニ、其子ニ向ヒ、余ハ己ニ汝等ヲ愛スルノ意ヲ絶テタリ、我愛情ヲ他人ニ移シタリ、故ニ今ヨリ汝等ハ余ノ助ヲ求ルノ權利ヲ有セズト云フヲ得ルニ至ルヘシ、善ト吾人ガ他人ニ向テ生ズル感情トノ差、及ビ義務ト吾人ガ他人ニ對シテ有スル愛情トノ

差ハ、甚ダ遠キモノニシテ、往々反對ノ形狀ヲ現ズルモノアリ、故ニ國法ニ於テ、判事ヲシテ其親族ト他人トノ間ニ生ゼル詞訟ヲ判決セシムルアルモ、方正ナル判事ハ、自ラ其裁判ヲ爲スヲ辭スベシ、又之ヲ歴史ニ徵スルニ、判事ニシテ其子ヲ愛スル情ト法ヲ正クスル道トノ間ニ決セザルヲ得ザル時ニ方リ、情ヲ棄テ、法ヲ枉ゲザル者ハ、算シテ豪傑部中ニ屬セリ、

善ハ他ノ  
何等ノ思  
想ニモ變  
セラル、  
ヲ得ズ

故ニ善ノ思想及ビ義務ノ思想ハ、他ノ何等ノ思想ニモ變ゼラル、ヲ得ズ、是レ則チ正理ノ骨子ヲ立ツル原則ノ一ナリ、是レ則チ正理ヲ消滅セシムルニ非ザレバ、隨テ消滅セシム

ルヲ得ザル所ノ必用不朽ナル原則ノ一ナリ、其吾人ニ示ス所ノ法ハ、確乎トシテ都テ我自由ノ行爲ヲ支配シ、又快樂、利益、情欲、感情ノ如キ諸理由ヲ制御ス、而シテ固ヨリ之ト混一セザルノミナラス、唯之ヲ己レニ隸屬セシムルノ法ニ方リテ、其影響ヲ受クルノミ、

## 第五章

善ト利益  
トヲ混ズ  
ル説  
何故ニ此

修身法ノ性質及ビ原則ヲ小觀スル所ノ謬說中、最モ精巧ニシテ固執シタル贊成者ヲ得テ、且ツ少シク道理アルニ似タル所ノモノハ、夫ノ義務ヲ益ト混ジ、善ヲ利ト一ニシタルモ



ノ説ハ他  
ノ誤説ニ  
リモ更ニ  
害アルヤ  
善ト利益  
トヲ混ズ  
ル説ノ基  
礎

ノニ在リ、故ニ今又此論ヲ再述シ、或ハ古今ノ例ニ據リ、或ハ  
論理ノ術ニ依リ、之ヲ駁撃スルナリ、  
前ニ述ベタル論說即チ利益修身學ト名ツケタルモノ、黨  
派ハ、一個ノ争ヒ難キ事項ヲ以テ基礎トセリ、即チ利益ト善  
トハ、大抵相共ニ密着セリト云フヲ以テ其基礎トシ、之ガ説  
ヲ爲シテ曰ク、道德上ニ於テ善ト認ル行爲及ビ事業ハ、有益  
ナル者多シ、其有益ノ行爲及ビ事業ハ、我良心ノ善ナリト歎  
美スル所ノ道德外ニ出ルモノ尠シト、此ノ論者ノ言實ニ然  
リ、然リト雖モ決シテ當クニ足ラズ、又怪ムニ足ラザルナリ、  
何トナレバ、善ハ是ニ由リテ最上ノ法律、一般ノ制規タルナ

失ハズ、而シテ吾人ガ眞實ノ須要及ビ正當ノ利益ヲ満足ス  
ルノ事ハ、一般ノ制規中ニ含蓄スルヲ得ザルノ理ナクレバ  
ナリ、

前説ヲ駁  
ス

前ニ述ベタル如ク、制規中ニ正當ノモノアリト認定スルハ、  
即チ利益ハ盡ク正當ノモノニ非ズト認定スルナリ、而シテ  
其正當ナルト否ヲザルトチ區別センモノハ、唯修身法ヲ除  
クノ外、更ニ其規則アルトナシ、是ニ由リテ觀ルモ、利益ト善  
トハ決シテ混一スルヲ得ズ、而シテ利益ハ必ズ善ニ隸屬ス  
ベキヤ疑ナキナリ、然ルニ論者ハ之ニ反シテ、諸般ノ利益ハ、  
良心ヨリ視ルトキハ平等ナリ、均シク正當ニシテ、均シク貴

重ナリト主張セシカ、此夕主張スルモ、吾人ガ己ニ論ジタル如ク、利益ハ互ニ相矛盾スルモノナレバ、如何ニシテ之ヲ行爲ノ規則タル一般不易ノ法律ト爲スコク得ンヤ、決シテ爲スコク得ザルベシ、猶ホ之ヲ詳言スレバ、我利益ハ我對手ノ利益ト同ジカラズ、今日ノ利益ハ昨日ノ利益ニ非ズ、又明日ノ利益ナラザルベシ、且ツ利益ナノミ是レ視テ、其外サハ總ラ顧ミザルモノトセバ、富人ニシテ若シ憐愍ノ心ニ制セラレザルハ、貧者ノ哀訴ヲ聽カザルモ可ナリ、又貧者ハ何物ヲモ得ルニ妨ナク、何物ヲモ失フ患ナキ地位ニ居ルヲ以テ其同類ト、結黨シテ富人ニ強求スルモ、其理ナシト云フヲ得サルナリ。

前述ノ駁論ハ、利益修身學論者ノ素ヨリ知ル所タレバ、此ノ輩ハ豫メ此ノ駁論ノ答辨ニ供センガ爲メニ、眞正利益ノ説ヲ掀起シタリシガ、千七百年代ニ在テ、學士ノ喜テ採用スル所トナレリ、其説ヤ即チ眞ノ利益ト、不眞ノ利益トノ差ヲ立テ、公明ナル愛己心ヲ以テ考フル所ノ利益ト、晦蒙ナル愛己心ヲ以テ圖ル所ノ利益トヲ區別シ、吾人行爲ノ規則トスベキハ、其第一ニ在テ其第二ニ在ラズト論ジタリ、而シテ其第一利益ハ、精神ノ快樂、心ノ快樂、及ビ五官ノ快樂即チ物體上ノ幸福ヲ含蓄スルノミニアラズ、論者ノ言ニ據レバ、仁恕高尚ノ感情モ其中ニ含蓄セリトス、其意ニ謂フ、此等ノ感情及

ビ此等ノ感情ヨリ生ズル所ノ行爲ハ、固ヨリ人性ノ須要ニ  
適スルヲ以テ、我幸福ノ一元素ヲ爲スモノナレバナリト、  
前論善ヲ以テ利益部中ニ算入セントスル説ノ、果シテ牽強  
附會ニ屬セルコトヲ證明セントスルニハ、痛ク思考ヲ費ステ  
要セズ、夫レ吾人ガ一善行ノ褒賞トシテ、愉快ヲ良心ヨリ受  
ルヲ得ルハ、素ト此ノ行爲ノ無私タルニ出ルヲ以テナリ、若  
シ此ノ行爲ヲノ無私タラザラシメバ、吾人ハ必ラズ其愉快  
ヲ享クルヲ得ザルナリ、然ルニ吾人若シ善ヲ受スル心ヲ以  
テ此ノ行ヲ爲サズ、唯自己ヲ愛スルノ念ヲ以テ之ヲ爲シタ  
ルキハ、其善行ハ、竟ニ無私ノ行爲タルヲ得ズ、加之吾人將ニ

善行ヲ爲サントスル初ヨリ、既ニ愛己ノ念ヲ離ル、ニアラ  
ズバ、決シテ善ニ因リテ得ベキ心意ノ満足ヲ得ザルベシ、且  
ツ夫レ徳行ハ、無比ノ快樂ヲ吾人ニ付與スルヤ、疑フベキ者  
ナシト雖モ、又吾人ヲノ間、慘酷ナル犠牲タラシムルコトアル  
ニ非ズヤ、此ノ如キ行爲ヲ遂ルノ力ヲ吾人ニ與フルモノハ  
何者ゾ、眞正利益ノ説ノ決シテ與フル所ニ非ザルベシ、今之  
ヲ切言スレバ、吾人ニ切諭シテ正義及ビ眞理ニ背カンヨリ  
ハ、安息ヲモ、幸福ヲモ、名譽ヲモ、財資ヲモ、其他何物ヲモ棄ル  
ニ如カズ、貴重ナル生命ヲモ抛ツニ如カズ、如何ナル艱苦ヲ  
モ嘗ルニ如カズト云フ、所ノモノハ、此ノ説ヨリ起ルニアラ

ザルナリ、兵馬倥傯ノ際、兵卒ニ殉國ノ勇氣ヲ與フル所ノモ  
 ノハ、此ノ説ノ結果ニアラザルナリ、且ツ唯自己ノ利益ノ外  
 ハ、棄テ顧ミザルモノトセバ、各其幸福ト思惟スル所ニ就テ  
 之ヲ取ルヲ得ベキモ、己ノ思惟スルガ如ク幸福ヲ得ンコトナ  
 他人ニ命ズルノ權ヲカルベシ、若シ果シテ此ノ説ノ如クナ  
 ラバ、人亦其隣人ニ向ヒ、汝ハ庶物ノ愛、家族ノ親、朋友ノ睦、心  
 志ノ安ヲ樂トスト雖モ、余ハ五官ノ快樂及ビ實體ノ幸福ヲ  
 好メリ、然ルモ汝ハ余ヲ非議スルヲ得ズト云フモ、決シテ不  
 可ナラザルベシ、

善ト公利  
トサ混ズ

又或人ハ眞正利益即チ私利ノ説ニ易フルニ、公利即チ一般

ル説

利益ノ説ヲ以テセリ、其意ニ謂フ、我主張スル所ノ説ハ、彼ノ  
 眞正利益ノ説ノ輒ク駁撃ヲ受タル如キ、矛盾及ビ短所アル  
 モノニ非ズ、乃チ之ガ説ヲ爲シテ曰ク、公利ハ私利ヲ含蓄ス、  
 而シテ公利ト相和セザル所ノ私利アレバ、正理ニ據テ公利  
 ノ爲メニ之ヲ棄ツルヲ要スルナリト、

前説ヲ駁  
ス

然リト雖モ此ノ説タル専ラ幻想ニ基ケルモノナリ、善及ビ  
 義務ノ思想ナカリセバ腕力ヲ以テ強制スルニ非ザルヨリ  
 ハ、誰カ能ク吾人ヲシテ全社會ノ爲メニ我占有セル利益ヲ  
 拋棄セシムルヲ得ンヤ、論者或ハ云ハン、此ノ二種ノ利益ハ、  
 互ニ相密着セルモノニシテ、分割スルヲ得ズト、吾人ハ決シ

テ之ヲ信セズ、何トナレバ、論者自カラ公利ヲ求メ、私利ヲ棄  
テシヨヲ吾人ニ示シ、以テ公私ノ分界ヲ立テタルニ非ズヤ、  
其他之ヲ歴史ニ徴スルニモ、古來他人ニ損害ヲ蒙ラシムル  
ヲ以テ自ラ生活シタル人多ク、又或ル時代ニ於テハ、全種族  
ヲ合セテ此ノ如キモノアリキ、然レバ則チ公利ノ説タル、豈  
危カラズヤ、

若シ此ノ説ヲシテ果シテ行ハルベシトスルモ、奈何セン更  
ニ不測ノ困難アルヲヲ、論者ハ切ニ公利ヲ以テ修身學及ビ  
法律ノ基礎ト爲サント欲スト雖モ、公利ノ文字タル、抑モ何  
物ヲカ指ス、吾人ハ如何ナル端倪ヲ尋テカ、公利ト、一種族若シ

如何シテ  
公利ヲ以  
テ最モ疑  
毒ナル行  
爲ノ託言  
トスルヤ

クハ一黨派ノ特別ノ利トテ區別スルヲ得ン、吾人ハ容易ニ  
篡奪ト權理トテ區別シ、權理ト特權トテ區別シ、公義ト專制  
トテ區別スルヲ得ルモ、一定ノ狀況ニ由リテ公利ヲ察知ス  
ルヲ得ズ、何トナレバ、公義ト權理トハ一般不易ノ性質ヲ有  
スルモノナルモ、利益ハ我情欲及ビ我希望ヲ満足セシムル  
ノ外ナク、而シテ我情欲及ビ我希望ハ前ニ述ベタルガ如ク、  
他人ノ情欲及ビ希望ト和合スルヲ尠キガ故ナリ、加之職亂  
ノ時ノ如キ、衆人ノ情欲、及ビ希望即チ所謂公利ハ社會恒久  
ノ景況ト全ク相反セリ、故ニ之ヲ歴史ニ徴スルニ、公利ニ託  
シテ惡業ヲ爲シタル先蹤最モ多シ、試ニ見ヨ、佛王シ、ール第

九、ガ、サン、ブル、アル、ミー、名曰ノ、日ニ、全國ノ新教徒ヲ壓殺セシ  
 ヲタル、ル、第十四ガ、ナントノ詔令ヲ廢止シタル、佛國人民  
 ガ千七百九十二年ノ九月ニ、囚徒ヲ壓殺シタル、佛國議會ガ  
 革命裁判所ヲ設立シタル、其他此ノ如キ殘毒ナル衆多ノ所  
 行ハ皆公利ノ名ヲ假リテ之ヲ是認シタルニ非ズヤ、又合衆  
 國ノ憲法ニ於テ、古代ノ憲法ニ倣ヒ、奴隸ノ制ヲ認可シタル  
 ハ、亦公益ノ名ヲ以テシタルニ非ズヤ、然レモ此ノ制ノ如キ  
 ハ、數十年前ニ於テ正當ナル天罰ニ由リ、國亂ノ緣由ト爲リ  
 テ、今ハ全ク其跡ヲ絶ツニ至レリ、是ニ由リテ觀レバ、公利ノ  
 有害ナル實ニ慘目スベシ、要スルニ凡ソ苛酷ノ處置、不正ノ

益ト善ト  
 ノ差

法律、殘毒ノ暴政ニシテ、公利ノ名ヲ假ラザルナシ、  
 故ニ益ハ往々善ノ後果タリト雖モ、何ノ名稱ヲ帶グルニモ  
 拘ラズ、何ノ場合ニ於ルニモ關セズ、益ハ決シテ善ニ換フル  
 ナ得ズ、利ハ特別ナルモノニモセヨ、一般ナルモノニモセヨ、  
 眞正ナルモノニモセヨ、眞正ナラザルモノニモセヨ、全ク義  
 務ト異ナレリ、夫レ吾人が益ト云ヒ利ト云フ所ノ者ハ、我希  
 望若クハ須要ニ應ズルモノナレバ、其價格タル、多少ノ限ア  
 リ、長短ノ期アリテ、且ツ必ズ他物ト關係ナキヲ得ズ、而シテ  
 善ト義務トハ是ニ異ナリ、固ヨリ良知ヲ具セル自由ナル靈  
 物ニレテ、正理ニ據テ爲サマルヲ得ザル所ノモノナリ、即チ

是レ吾人ガ諸般行爲ノ一般無限獨立不易ノ法律、衆智衆意  
ノ無上規則トシテ認可シタル正理ナリ、  
此ノ區別タル、吾人良心ノ本源ナリ、何トナレバ、人ノ世ニ出デ  
始テ歴史ヲ作り、其思想スル所、其感覺スル所ヲ吐露スルノ  
時ヨリ、義務、權理、公義、慈悲、忠孝、其他アラユル善ノ諸作用ヲ  
表スルノ言語ハ、既ニ人間ニ取テ各自ニ一個ノ意味ヲ有ス  
レバナリ、且ツヤ何レノ國語ニ在テモ、又僅ニ開化シタル何  
レノ人種ニ在テモ、皆其意ヲ表スルノ文字アリ、而シテ何レ  
ノ國人ノ吐出スル所モ、要スルニ其言タル、吾人ガ了知スル  
最モ神聖ナルモノ、若シクハ吾人ガ神意神智ノ流出トシテ、

神ト同一般ニ尊敬セザルヲ得ザルモノ、若シクハ我意思ノ  
目的、及ビ行爲ノ規則トナスベキモノニ非ザルナシ、彼等ヲ  
シテ若シ其思想ナカラシメバ、如何シテ其言語ヲ有センヤ、  
且ツ其思想ヲシテ良心ノ本原ナラザラシメバ、思想ハ抑、何  
レノ處ヨリ生ズルヤ、是レ以テ人ノ自ラ善ヲ知レルヲ證ス  
ベキナリ、且ツ夫レ人ハ又利益、情欲、幸福、其他愛己ノ諸情ヲ  
モ知ラザルニ非ザレバ、未ダ之ヲ奉シテ法律トナスモノア  
ラザルノミナラズ、其明カニ道德ノ原則ト反對セルモノヲ  
見レバ、之ヲ厭惡セザルナン、若シ此ノ區別ヲシテ人智中ニ  
存セザラシメバ、アリスナード

雅典ノ  
名將  
ガ其國人ニ對シテ雅典

人ヨ、テミストーケル

亦雅典ノ名將

ガ汝等ニ勸ムル所ハ、利益ニ合ス

レドモ、正義ニ反セリト云ヒタル言語ハ、之ヲ了解スルヲ得  
 ザルベシ、試ニ古今ノ歴史ヲ閱セヨ、能ク其行爲ニ因リ、人間  
 ノ尊敬稱譽ヲ博シテ、之ヲ今日マデ永保シタルハ、如何ナル  
 人トカスル、最モ多智ニシテ多福ナリシモノニ非ズシテ、最  
 モ義アリテ最モ方正ナルモノ是レナリ、其義務ノ爲メニ其  
 情欲ヲ拋棄シタルモノ是レナリ、良心ニ因リテ眞理或ハ善  
 ト認定シタル原則ノ爲メニ、至重ノ利益ニ論ナク、其生命ヲ  
 モ之ガ犠牲トナシタルモノ是レナリ、然ルニ若シ利益サシ  
 テ修身學ノ基礎タラシメバ、夫ソコヲ希臘ノ哲人トテ、眞理ニ

希臘ノ哲人

ガ、眞理ニ

違ハンヨリハ寧ロ鴆毒ヲ飲ムテ以テ愈レリトシ、耶蘇信徒  
 ガ、宗旨ヲ乘ンヨリハ、寧ロ猛獸ノ餌タルヲ甘ンゼシガ如キ  
 ハ、狂人ノ所行ト云ハザルヲ得ズ、其傳テ把テ稱贊スルノ人  
 モ、亦狂瞽ノ譏ヲ免レザルベシ、而シテ善ノ思想ヲ以テ、修身  
 學ノ基礎トスルハ、吾人ハ當ニ心ニ了解スルノミナラズ、其  
 盛美ナル現象ノ、吾人ノ眼前ニ燦然タルヲ見ルナリ、且ツ夫  
 レ善ノ犠牲トナリシ者ハ、理學又ハ宗旨ノ爲メニスルモノ  
 ニ止ラズ、古來各國ニ於テ、報國、自由、盟約、公義、武名、懇情、孝行、  
 仁慈等ノ爲メニ生命ヲ抛ナタルモノ、亦擧テ數フベカラザ  
 ルナリ、此等ノ衆多ノ人ハ、何故ニ自ラ好シテ貴重ナル生命



ヲ犧牲トナシタルゾ、國ハ相隔タルナリ、時ハ己ニ久シキナリ、而シテ吾人ハ何故ニ此ノ如ク之ヲ欣慕スルゾ、利益修身學ノ如キハ、蓋シ此等ノ原由ヲ説明スルヲ得ザルベシ、故ニ此ノ論タルヤ、唯吾人各自ノ良心ヲ以テ之ヲ攘斥スルノミナラズ、又歴史ニ現ハレタル人間全體ノ良心ニ於テモ、亦之ヲ驅遣スル者トス、

## 第六章

修身法ハ、吾人ガ良知アリテ自由ナル靈物トシテ、生存スル所以ノ最上無限ノ法則ナリ、故ニ吾人若シ此ノ法ニ從ハズ、

修身法ハ  
必ず賞罰  
ヲ有ス

或ハ現ニ之ヲ破ルルハ、實ニ我性ニ悖戾スルモノトス、即チ其我ニ指示スル所ノ目的ニ背行シ、其我ヲシテ遠去セシムル所ノ目的ニ嚮往スルナリ、此ノ所行タル、嬰スルニ一個ノ惡事ナルヲ以テ、其種ヤ必ズ悲惨ノ苦境ニ陷ルノ應報ヲ受ケザルヲ得ズ、之ニ反シテ、此ノ法ノ基礎タル義務ノ指スル所ト、良心ノ命ズル所トヲ遵奉スルハ、我性ノ欲スル所ニ從ヒ、我性ト全ク相一致スルガ故ニ、何ノ外物モ亦我内部ノ和合ヲ攪亂スルヲ得ズ、而シテ吾人ハ之ガ爲メニ中心満足シテ、頗ル爽快ヲ覺ユベシ、此レ全ク相反シタル二個ノ場合ニ於テ内部傾亂ノ必ズ脱レガタキ後果タル痛苦ト、我氣勇ニ

因リテ達シタル身裏ノ和合ニ附隨セル幸福トハ、即チ吾人  
ガ稱シテ修身法ノ賞罰ト爲ス所ノモノナリ、

修身法ノ  
賞罰ハ  
懲ニ定メ  
タル賞罰  
ニ非ズ

故ニ修身法ノ賞罰ハ、地上ノ立法官ガ、世人ヲシテ遵奉セシ  
メンガ爲メ、隨意ニ定メタル法律ノ如キ者ニ非ズ、其賞トナ  
リ、其罰トナルハ、唯我道德上ノ義務ノ行爲如何ニ存スルノ  
ミ、故ニ其賞タル、罰タル、何人モ決シテ免ル、ヲ得ザルナリ、  
然リト雖モ、其賞罰ハ、我惡業ノ輕重、若シクハ我善行ノ大小  
ニ從テ、其効驗ニ淺深多少ノ差アルベキモノトス、是ニ於テ  
カ賞罰ニ區別ヲキテ得ザレバ、吾人モ隨テ之ニ各種ノ名ヲ  
附セザルヲ得ズ、

何様ニ吾  
人ハ賞罰  
ノ種類ヲ  
區別スル  
カ  
道區上ノ  
賞罰

其第一ハ吾人ガ道德上ノ賞罰ト名ヅクルモノ、或ハ少クモ  
此ク名ヅケザルヲ得ザルモノニシテ、其之ニ名ヅクル所以ハ  
此ノ賞罰タル、全ク良心ノ區域内ニ在ルヲ以テナリ、而シテ  
其賞ト云ヒ罰ト云フモノハ、直チニ我惡業若シクハ惡業ヲ  
行ハントスルノ意ニ尾シテ來ル所ノ後悔ト、自ラ義務ヲ果  
シ善事ヲ行ヒタリト思考シテ、吾人ガ感ズル所ノ満足ト即  
チ是レナリ、且ツ良心ノ後悔及ビ満足ノ語タル、猶ホ修身法  
ト云ヒ善惡ト云フ如ク、宇宙間各國ノ語ニ於テ其名ヲ有セ  
ザル無シ、其事タルヤ、人生ニ於テ貴重ノ地位ヲ占ムルモノ  
ニシテ、吾人モ自ラ其身ノ存セルヲ知ルガ如ク、亦初メヨリ

此ノ事項ヲ認定シタルナリ、且ツ夫レ吾人ガ己ニ修身法賞罰ノ一段ニ就テ論ジタルガ如ク、若シ此ノ賞罰ナカリセバ、人性ノ何物タルヲ了解スルヲ得ズ、蓋シ正理ニ據リテ已レニ課セラレタル法則ニ背ケバ則チ樂マズ、之ヲ守レバ則チ喜バザルヲ得ザルハ、良知アル靈物ノ精神ナリトス、猶ホ後悔ト満足トノ事ヲ説カンニ、後悔ハ即チ我靈魂底裡ニ生ズル所ノ煩亂ナリ、吾人ガ吾人ノ道ヲ拋棄シ、吾人ノ品位ヲ失ヒタルキ、吾人ニ尾シテ起ル所ノ慙愧和名及ビ不安ナリ、満足ハ即チ吾人ガ吾人ニ愧ナズト確信スルキ、心裡ニ有スル所ノ平和及ビ尊敬ナリ

吾人自己ニ對シテ行ハザルヲ得ザルノ義務ニ於テハ、又道德上ノ賞罰ニ繼テ肉體上ノ賞罰アリ、即チ吾人ガ正理ノ法及ビ善ノ思想ヲ以テ示セル一般ノ規則ニ合スルノ事ヲ行フキハ、有形ノ幸福ヲ得、之ニ反シテ此ノ規則ヲ違犯シタルキハ、有形ノ痛苦ヲ受クルモ、是レナリ、例ヘバ五官ノ眩惑ニ遇テ、我自由ヲ防衛スルヲ知ラズ、或ハ其情欲ヲ抑制セズシテ、禽獸ノ所行ニ陥ルノ人ハ、道德上及ビ智識上ノ墮落ニ苦ムノミナラズ、又健康ヲ害シ、勢力ヲ減シ、速ニ衰弱死亡ヲ致ス等ノ不徳ニ遇ハザルモノ尠シ、是レ其務メテ培養シタルノ不徳ハ、適其衰亡ヲ促ス所ノ響徹トナルナリ、然ルニ此ノ

華ニ反對シタル行爲ヲ爲ス者ハ、必ズ反對ノ後果ヲ得ベシ、  
 試ニ思ヘ、靈魂斯ニ安靜ナレバ、肉體隨テ平和ナルヲ、然ルニ  
 靈魂ノ安靜ヲ得ズレテ、奈何ゾ肉體ノ平和ヲ望ムベケンヤ  
 何トナレバ、諸般ノ法律、殊ニ吾人ノ成立ニ適用スルノ法律  
 ハ、必ズ最上ノ法律一般ノ制規ニ隸屬セザルヲ得ズ、而ルヲ  
 其一ニ背キテ、其二ノ煩亂ヲ受ケザルハ、吾人ノ決シテ能ク  
 スル所ニ非ズ、靈魂ト肉體トノ一致ハ、唯此ノ約束ヲ以テ保  
 存スルモノナレバナリ

## 第七章

社會ノ賞  
詞

人ハ天地間ニ孤立スルノ靈物ニ非ズ、其羣類中ニ群生聚居  
 シテ、一瞬間間モ相離ル、ヲ得ズ、是レ其必ズ社會ヲ結ブ所  
 以ナリ、蓋シ社會ハ吾人ノ生命ヲ保存シ、及ビ其幸福ヲ補助  
 センガ爲メニ必要ナルノミナラズ、又吾人ノ心意及ビ其知  
 識ヲ發達スルニ於テ、尤モ欠クベカラズトス、而シテ社會ハ  
 必ズ修身法ヲ尊崇スルニ非ザレバ、成立スルヲ得ズ、何トナ  
 レバ、修身法ハ吾人ガ互ニ相行ハザルヲ得ザル所ノ諸義務  
 ノ泉ナレバナリ、吾人相互ノ侵害ヲ防護シ、相互ノ和合及ビ  
 平穩ヲ維持スル所ノ諸法律ノ源ナレバナリ、故ニ社會ニ列  
 ル者ニシテ、若シ此ノ法ニ背クトキハ、全社會ハ其人ヲ譴責

レ、其過失ノ輕重ニ隨ヒテ、之ヲ非毀輕侮シ、若シクハ厭惡セズンバアラズ、之ニ反シテ、各狀ノ困難ニ屈撻セズ諸般ノ情欲ニ眩惑セズ、一步モ公義及ビ名譽ノ大路ヲ離レザル義勇ノモノアレバ、社會ハ又必ズ之ヲ愛憐尊敬シ、若シクハ嘆賞セズンバアラズ、是レ修身法第三ノ賞罰ナリ、吾人ハ其性質ニ就キテ、是ヲ社會ノ賞罰ト名ヅクベシト信ズ、

社會ノ賞罰ヲ行フノ法二様アリ、一ハ吾人善惡ノ行爲ニ由リテ、公衆ヨリ受ル所ノ尊敬、若シクハ輕侮ニシテ、吾人ハ之ニ對シテ、自己ノ尊敬若シクハ輕侮ト同様ノ感觸ヲ生ズルモノ是レナリ、一ハ善行ヲ勸メンガ爲メ、預メ名譽若シクハ褒

賞ヲ與ヘンコトヲ約シ、惡業ヲ禁ゼンガ爲メ、預メ責罰ヲ加ヘンコトヲ期スル所ノ人爲法律ヲ機關トスルモノ是レナリ、而シテ其第一ノ場合ニ於ケル社會ノ賞罰ハ、道德上ノ賞罰ト同一ノ源泉ニ出ルヲ以テ、道德上ノ賞罰ノ欠タル所ヲ補フモノ、如シ、吾人が之ヲ謂フ同一ノ源泉ニ出タリト爲ス所以ハ、良心ハ吾人が自己ヲ判定スルノ規則ニ乖戾セル異様ノ判定規則ヲ以テ、他人ニ施スベキノ理ナケレバナリ、故ニ社會ノ賞罰ハ、道德上ノ賞罰ト同一ノ痛苦及ビ満足ヲ吾人ニ與フルモノニシテ、唯之ニ加フルニ名譽ノ感情ヲ以テシテ、之ガ勢力ヲ増セルノミ、原來吾人ハ社會ヲ結ビテ過活ヒ

ンガ爲メニ世ニ生ジタルモノナレバ、唯自己ノ尊敬ヲ享有スルノミヲ以テ足レリトスベカラズ、又他人ノ尊敬ヲ受ルヲモ要スベシ、何トナレバ、吾人若シ其尊敬ヲ得ズシテ、不敬ノ待遇ヲ受クレバ、我生命ハ實ニ一箇ノ重擔タルニ過ギズシテ、却テ艱辛ヲ覺ユベケレバナリ、又第二ノ場合ニ於ケル社會ノ賞罰ハ、輿論ニ由ラズ、法律ヲ機關トスルモノナレバ、其性質タル、多ク刑罰ノ一點ニ止レリト云フヲ得ベシ、何トナレハ、其目的及ビ勢力ノ善ヲ勸ムルニ於ケルハ、惡ヲ禁ズルニ於ケルノ深クシテ且ツ切ナルニ如カザレバナリ、夫レ善ハ固ヨリ褒賞ノ誘引ヲ受テ之ニ趨クモノニ非ズ、唯無私

ナル所ニ存スベシ、故ニ褒賞ヲ以テ之ヲ勸ムトモ、果シテ何ノ益カララン、刑罰ヲ以テ惡ヲ禁ズルガ如キニ至テハ、大ニ相同シカラズ、何トナレハ、假令ヒ之ヲ以テ惡意ヲ撲滅スル能ハザルモ、惡意ノ結果ヲ抑制シ、社會ヲシテ暴行及ビ惡業ノ苦ヲ蒙ラザラシメントスルニハ、必ず刑罰ニ由ラザルヲ得サレバナリ、

是故ニ刑罰ハ、良心ノ非ナリトスル所ノ行爲ニ向テ、彼此ノ區別ナク、總テ之ニ加フベキモノニ非ズシテ、唯之ヲ必要トスベキキニ用ルベキノミ、否ラザレバ、決シテ正當ノ刑罰ニアラサルナリ、尙ホ詳カニ之ヲ言ヘバ、刑法ノ須ラク行ハ

ルベキハ、吾人ノ社會ヲ防禦シ、吾人ノ權利ヲ保護スルノ現  
効アル時ニ在リトス、何トナレバ、吾人ノ權利ハ、固ヨリ神靈  
ニシテ毀傷スベカラザル者ナルヲ以テ、之ニ侵害ヲ加フル  
所ノモノハ、舉テ嚴罰ニ處スベクシレバナリ、社會ノ此ノ職務  
ヲ負擔スルヤ、唯正當ナル防禦ノ權自身ヲ防禦  
スルノ權ヲ使用スルニ  
止リ、唯自己ヲ保存センコトヲ圖ルニ止ルノミ、故ニ刑法ニシ  
テ、此ノ區域外ニ越出スルモノハ、之ヲ名ヅケテ苛法ト云フ  
ヲ得ベク、濫刑ト云フヲ得ベシ、

刑法ノ間  
フベカラ  
ザル行爲

爰ニ不善ノ行爲ニシテ、刑法ノ間フベカラザルモノニ二種アリ、其第一ヲ社會ニ暴害ヲ加ヘザル宗旨上ノ諸罪業トス、夫

第一神ヲ  
監視スル  
ノ行爲

レ人ハ神ノ爲メニ仇ヲ報ユベキノ職分ヲ有スルモノニ非  
ズ、故ニ地上ノ何ノ官憲モ、此ノ如キ職務ヲ有セズ、管之ヲ有  
セザルノミナラズ、又之ヲ決行スルヲ得ザルベシ、抑モ吾人  
ガ神ニ對シテ行フベキ義務ハ、宗旨ノ所立ニ隨テ、各相異ナ  
ルヲ以テ、社會若シ刑法ヲ以テ此等ノ義務ヲ保護セントセ  
バ、其弊ヤ濫リニ各異ノ宗徒ヲ戕滅シ、爲メニ諸般ノ自由ヲ  
妨害シ、吾人ノ權利ヲ芟夷スルニ至ルベシ、

其第二ヲ吾人ガ自己ニ對シテ行ハザルヲ得ザル所ノ義務  
ニ違犯スルノ行爲ナリトス、今其一ニヲ舉レバ吾人自己ノ  
品位ニ對シテ、尊敬若シクハ注意ヲ爲サマワシカ、天賦ノ能

第二各自  
ノ道德ニ  
反對シテ  
ル行爲

力ヲ使用スルヲ勤メザランカ、不學懶惰、放蕩、其他諸般ノ醜態ニ陥ランカ、此ノ如キノ類ハ、吾人ノ罪アル、固ヨリ疑テ容レズ、蓋シ此ノ場合ニ於テヤ、最モ貴重ナル天賦ノ能力ヲ輕侮シタルガ故ニ、吾人ハ神ニ對シテ罪アリト云ハザルヲ得ズ、又自暴自棄シテ暗ニ我生命ヲ消耗シ、若シクハ死亡セシムルガ故ニ、吾人ハ我ニ對シテ罪アリト云ハザルヲ得ズ、又社會ハ道德ニ基ケルモノナレバ、吾人ノ共ニ德行ヲ爲スハ、社會ニ益アリ、不徳ヲ爲スハ、社會ニ損アリ、故ニ吾人ハ社會ニ對シテ亦罪アリト云ハザルヲ得ズ、然リト雖モ其社會ニ對シテ罪アルヤ、唯間接ナルニ過ギズ、唯之ガ爲メニ當ニ爲ス

ベキノ事業ヲ爲サ、ルニ止ルノミ、故ニ社會ハ吾人ガ社會ノ爲メニ爲サ、ル所ノ事、及ビ吾人ガ自己ニ性テ爲セル所ノ事ニ就テ、吾人ヲ責ルノ權利ヲ有セズ、若シ社會ニシテ、一面ハ各自ノ道德ニ反對シタル諸行爲ヲ探索シ責罰スルヲ得、又一面ハ吾人ガ爲スヲ得ント假定セル所ノ諸般ノ事業ヲ威迫シテ、行ハシムルヲ得タリトセバ、道德上必要ナル各自責任ノ事ハ、幾ト餘地ヲ留メザルニ至ルベシ、

## 第八章

吾人ガ前ニ論述シタル事項ハ、左ノ一言ニ約スベシ、曰ク道



ノ賞罰ハ  
未ダ以テ  
十分ノ効  
ヲ奏セズ

肉體上ノ  
賞罰ハ未  
ダ以テ十

德ハ肉體ノ安全、社會ノ平和、及ビ我心理ノ調和ト甚ク相密  
着セリ、故ニ吾人若シ道德ニ背ケバ、他ノ三箇ノ平和ヲ失ヒ、  
而シテ何様ノ幸福ヲモ享受セザルベシト、此ノ事タル、固ヨリ  
疑テ容ルベキモノニ非ズト雖モ、夫ノ義務ノ原理ノ如ク、獨  
立無限ナル眞理トスルヲ得ザルナリ、故ニ吾人ハ此ニ由リ  
テ以テ德及ビ善行ハ、必ズ此ノ世ニ於テ其褒賞ヲ得、不德及  
ビ惡業ハ、自然若シクハ社會或ハ良心ヲ支配スル所ノ法律  
ノ爲メニ、必ズ責罰セラルベシト決論スルヲ得ザルナリ、  
今吾人ハ此ノ法律ノ起頭ニ在ルモノ、即チ自然ヲ支配スル  
ノ法律ヨリ之ヲ論ゼンニ、其賞罰ハ未ダ以テ十分ノ効ヲ奏

分ノ効ヲ  
奏スベカ  
ラズ

スベキモノト云フヲ得ズ、何トナレバ、國家ノ爲メニ生命ヲ  
抛テ、學藝ノ爲メニ安息ヲ妨テ、信神ノ爲メニ一世ヲ投棄ス  
ル者、未ダ必ズシモ自然ノ褒賞ヲ得ルヲ保セズ、又詐善卑劣  
愛己吝惜、及ビ其他一切肉體ヲ害セズシテ、唯靈魂ヲ鄙陋ナ  
ラシムル所ノ不德モ、或ハ自然ノ責罰ヲ道ルレバナリ、且ツ  
夫レ自然ノ法ニシテ、偶然道德ノ法ト一致スルガ如キアル  
モ、其責罰ヲ受ル所ノモノハ、獨リ其内部ノ擾亂ヲ受クルニ  
由リテ然ルノミナラズ、亦其性質ノ孱弱ナルニ由ルモノ多  
シ、而シテ強壯ノ者ハ、常ニ此ノ法ノ寬待ヲ得ルノミナラズ、  
全然漏脱スルモノ少カラザルナリ、

社會ノ賞  
罰ハ未ダ  
以テ十分  
ノ効ヲ奏  
スベカラ  
ズ

社會ノ賞罰ハ、自然ノ法ニ比スレバ、稍正當ニシテ的切ナリト雖モ、又時トシテハ然ラザルモノアリ、夫ノ野蠻蒙昧ノ世ノ、唯強力者ノ權ヲ以テ至大ノ規則トナシタルガ如キハ、姑ク置テ論ゼザルモ、社會ハ常ニ其狭小ナル智識ト權力トニ困リ、唯己レニ益アビモノ、ミテ懲懲シ、唯己レニ害アルモノ、ミテ斥絶ス、蓋シ然セザルヲ得ザルナリ、故ニ假ヒ忠信ノ吾人ヲ感動スベキモノアルモ、直接ニ社會ノ利益ニ干セザル時ハ、社會棄テ、顧ミズ、又不正醜行ノ惡ムベキモノアルモ、大ニ其平和ヲ紊亂シ、其進歩ヲ妨邊スルニ非ザンバ、社會以テ意トスルコトナシ、又輿論ノ如キモ、人爲法律ノ勢力

道德上ノ  
賞罰ハ未  
ダ以テ十  
分ノ効ヲ  
奏スベカ  
ラズ

ノ欠ケタル所ヲ補足スルヲ得ズ、何トナレバ、是レモ亦越ユベカラザルノ一區域ニ遇フモノニシテ、公然世上ニ現レタル行爲ノ外ハ、之ヲ歎賞シ、若シクハ誹謗スルヲ得ザレバナリ、  
要スルニ自然及ビ社會ノ賞罰ハ、未ダ必ズシモ的切ナリト云フヲ得ズ、然ラバ則チ真正ナル賞罰、完全ニシテ錯誤ナキノ公義ハ、果シテ何グニカ存スル、我良心ノ賞罰ニ存セリト信ズルヲ得ルカ、曰ク良心ノ吾人サシテ必ズ痛苦ト満足トナ覺エシムルヤ、固ヨリ疑チ容レズト雖モ、此ノ痛苦及ビ満足タルヤ、人生ノ上ニ於テ唯狭小ノ地位ヲ占有スルノミ、今

之ヲ説カシニ、此ノ痛苦ハ、積習ノ久シキ、漸ク衰微ニ趨キ、遂ニ湮滅ニ歸シ、反テ惡事ヲ以テ常トスレバ、其罰ヲ覺ユル、隨テ薄キニ至ルベシ、且ツ其人ノ性質ニヨリ、細瑾小過ノ爲メニ己レテ苦シムルコト、却テ終身惡業ヲ固執シタルノ人ヨリ多キモノアリ、良心ガ吾人ニ與フル所ノ満足ニ至ラハ、寧ロ善ノ兆候ト云フベキモノニシテ、其褒賞ト名ヅクベキモノニ非ズ、何トナレバ、其満足タルヤ、毫モ心裡ノ苦難ヲ慰メズ、又損失ノ痛苦ヲ過メズ、而シテ自己ノ生命ヲ犠牲ト爲シタルニ報酬シ、又ハ他人ヨリ損害ヲ受ケタルニ賠償スルニ足ラザレバナリ

最上ノ賞罰ヲ必要トスルコト

靈魂ノ不朽

善ノ思想ハ不朽ノ思想ヲ含蓄ス

吾人が既に説キタル諸種ノ賞罰ハ、未ダ完全ナラザルコト此ノ如シ、故ニ吾人ハ此等ノ賞罰ニ加ルニ、第四ノ完全無上ナル賞罰ヲ以テセザルヲ得ズ、是レ則チ現世ノ免カレガタキ不公平ヲ改良スベキ來世アリト假定シ、靈魂ノ不朽ヲ必要ナリトスル所ノ賞罰ニシテ、唯正理ニ基ヅクノミナラズ、又人ノ信用ニ基ヅクヲ以テ、宗旨上ノ賞罰ト名ヅクルナリ、宗旨上ノ賞罰ナケレバ、善ノ思想ハ、爲メニ獨立無限タルヲ得ザルベシ、何トナレバ、善ノ思想即チ一般順序ノ思想ハ、必ズ公義ヲ含蓄スルモノナルニ、若シ善惡ノ應報ニ錯誤アラバ、以テ公義アリトスベカラズ、德行ト幸福ト相符合セザレ

バ、亦以テ公義アリトスベカラザルカ故ナリ、若シ我靈魂ヲ  
 シテ我肉體ト共ニ泯滅スルモノナラシメバ、決シテ此ノ應  
 報ト此ノ符合トヲ實行スルヲ得ザルベシ、故ニ吾人ハ肉體  
 泯滅ノ後、靈魂尙ホ記性及ビ良心ヲ保有シテ、其既往事業ノ  
 後果ヲ結集スト論定セザルヲ得ズ、蓋シ吾人が由リテ以テ  
 我生前ノ路ノ嚮導トセザルヲ得ザル所ノ原理ハ善チ指ス亦能ク  
 吾人ニ現世ノ矛盾ヲ矯正スベキ未來ノ正路アルヲ指示  
 スルヤ必セリ

## 第九章

靈魂ト肉  
 體トノ區  
 別ニ由テ  
 靈魂ノ不  
 朽ヲ證ス

靈魂不朽ノ理ハ、又他ノ諸證ニ據テ論定スルヲ得ベシ、夫レ  
 靈魂ト肉體トハ、吾人が此ノ書ノ首ニ於テ説明シタルガ如  
 ク、全ク相異ナル二性ナリ、靈魂ハ純一ノモノニシテ、永々變  
 ズルコトナク、肉體ハ合成ノモノニシテ、時々更革スベシ、故ニ  
 肉體ハ終ニハ合成物ノ皆脫ルヲ得ザル後果タル分離ニ  
 遭遇スルモ、此ノ分離ノ事タル、靈魂ノ須ク憂フベキ禍害ニ  
 非ズ、又其遭遇スベキ事項ニ非ザルナリ、尙ホ之ヲ詳言スレ  
 バ、有形ノ現象タル死亡ハ、正理ニ照シテ考フルニモ、經驗ニ  
 徴シテ視ルニモ、唯有形ノ機關ヲ攻撃スルノミ、而ルニ靈魂  
 ノ性質ハ、有形ノ機關ニ反對スレバ、死亡ノ能ク攻撃スル所

ニ非ザルナリ。プラトンは希臘ノ理學士トク  
クラーテノ弟子ガ嘗テ「フエドント」名  
ヅケタル佳麗ノ論文中ニ、ソククラートノ極論シタル言ヲ舉  
ゲタリ、其言ニ曰ク、夫レ我靈魂ハ神聖ニ属スルモノニシテ、  
永ク死亡スルコトナク、能ク知識ヲ具シ、其體純一ニシテ分離  
スベカラズ、恒久不變ニシテ、常ニ已レト異ナラザルモノ、  
如シ、而シテ我肉體ハ人ニ属スルモノニシテ、死亡アリ、感覺  
スベシ、合成ニシテ分離スベク、毎々變化シ、常ニ已レト同一  
ナラザルモノ、如シ、果シテ然ラバ、到底分離スベキヲ以テ  
肉體ニ配シ、恒久分離セザルヲ以テ、靈魂ニ配セザルヲ得  
ルベシト、

此ノ證據ヲ以テ、前章ニ説明シタル道德上ノ證據ニ加フレ  
バ、靈魂不朽ノ理タル、已ニ明ナルモノ、如シト雖モ、吾人ハ  
我至大能力ヲ點檢スルニ由リテ、益、此ノ證據ヲシテ的確ナ  
ラシムルヲ得ベシ、

人ハ有限ノ靈物タル、吾人ノ疑ヲ容レザル所ナリ、然リト雖  
モ、其靈魂ノ諸勢力、其性質ノ諸法律、其良知ノ諸原理トイフ  
モノハ、吾人ヲシテ恒ニ無限ノ理由ヲ探求セシム、今試ミニ  
其禽獸ト同シク有スル所ノ部分、即チ肉體及ビ有形ノ情欲  
ヲ人ヨリ扣除スレバ、人ハ如何ナルモノトカナルベキ、即チ  
思慮愛憐ノ性ヲ備ヘタル靈物ニシテ、其固有ノ勢力、及ビ其

靈魂ノ能  
力及ビ其  
須要ノ性  
質ニ因テ  
靈魂ノ不  
朽ヲ證ス

自由ノ意ニ因リテ、此ノ二性ヲ行爲ニ現出スルモノトナル

ベキナリ、

思慮ノ目的即チ智ノ目的ハ抑、何ゾヤ、曰ク眞理、是レナリ、然  
リト雖モ人ノ靈魂ハ此ノ點ニ於テ満足スルヲ得ザルナリ、  
是レ最モ見易クシテ證明シ難キノ事ニアラズ、今吾人若シ  
我が知ラザル所ヲ以テ、我が知ル所ニ比シ、我が攫撃シタル  
所ノ些小ノ微光ヲ以テ、我身ヲ圍繞スル所ノ極闇ノ重霧ニ  
比スルモハ、我心裡ニ如何ナル感情ヲ提起スルヤ、茫然自失  
ノ外ニ出ザルベシ、然ルニ抵抗スベカラザル一種勢力アリ  
テ吾人ヲシテ運命ノ不朽ヲ信ジ、極遠ノ道路ニ勇進セシム

ルナリ、

吾人ガ思慮ノ點ニ於テ満足セザルヲ此ノ如シ、然ラハ愛憐  
ノ點ニ至リテハ、容易ニ満足スルヲ得ルカ、抑モ吾人ハ美ト  
善トヲ愛セリ、美ト善トハ則チ極佳ト云ヒ完全ト云ヘル一  
個物ノ二形象タルニ過ギズ、而シテ此ノ性質ヲ有スル所ノ  
物體ニシテ、吾人ヲシテ諸般ノ利益ヲ顧ミズシテ、專ラ之ヲ  
想像愛慕シテ止マザラシムルモノハ、何物トカスル、是レ吾  
人ガ知ラント欲ストモ、決シテ知ルヲ得ザル所ナラズヤ、又  
眼ヲ轉シテ自由ト云フ者ノ性質ヲ熟視スレハ、其指ス所ノ  
目的ハ、我智及ビ我愛ノ目的

眞理トヨリ更ニ近キニ非ザルヲ  
完全

發見スルヲ得ベシ、蓋シ吾人ガ自由ヲ保タンニハ、前ニ説キタル義務ノ法律ニ依ラザルヲ得ザレバナリ、若シ義務ナケレバ、吾人ハ唯蒙昧ニシテ害多キ勢力タル自然及ビ情欲ノ爲メニ指揮セラレテ、輒ク自由ヲ失フベキノミ、利益ノ如キニ至テハ、別ニ之ヲ立テ、行爲ノ一理由ト爲スヲ得ズ、畢竟未來ヲ豫見シタル情欲タルニ過ギザレバナリ、

是ニ由リテ觀レバ、自由ノ性質及ビ其目的ハ、吾人ヲシテ此ノ卑賤ノ地位ヲ脱却シ、我至純ノ智ト我至仁ノ情トヲ行爲ニ現出シ、常ニ眞理ヲ攫取シ、善美ヲ實施セントシテ、止マザラシムルニ在リ、然レモ我生命ハ限リアレバ、此ノ如キ事業

自由ノ性  
質及ビ其  
目的

ヲ盡スニ足ラザルヤ亦明カナリ、而シテ此ノ考察タル唯正理上ヨリ出タル理論ニ過ギザルヲ以テ、吾人ハ之ニ加フルニ經驗上ニ成レル所ノ實事ヲ以テセントス、何チカ實事ト云フ、吾人ハ其有様ヲ擴充セント欲シテ倦マザルコト是レナリ、故ニ吾人ガ期望スル所ハ、其行フ所ヨリ甚ダ多クシテ、其半途ニ死亡スルモノ比々皆然リ、是故ニ我靈魂ハ、之ヲレテ如何ナル地位ニ在ラシムトモ、如何ナル點ヨリ思考ストモ、均シク永存不朽タルノ理ヲ有スルナリ、而シテ其永存不朽ノ權利タルヤ、決シテ消滅ノ期限アルモノニ非ズ、何トナレバ、其一般ノ目的ハ、其各個能力ノ目的ト同シカラザルヲ

得ズ、而シテ其各個能力ノ目的ハ、永久ヲ以テ期スルニ非ザレバ達スルヲ得ザレバナリ、  
夫レ能力ハ不朽タルヲ望ミ、又不朽タルニ非ザレバ満足スルヲ得ズ、且ツ想像スルヲ得ザルコト此ノ如シ、原來此ノ能力ハ何物ニ淵源スルカ、他ナシ、神ヨリ發スルナリ、抑、神ハ自然ノ事物ヲ創造シテ、之ヲ指揮整頓スルノミナラズ、并ニ吾人ヲシテ目己ヲ知り神ヲ尊バシムル所ノ諸能力ヲモ創造セルモノナリ、神ハ靈魂ヲ生ム者ナリ、之ヲ指揮スル者ナリ、之ヲ裁判スル者ナリ、吾人ガ常ニ希望スルモ達スルヲ得ザル所ノ完全自由、無限智識、不錯公義ハ、皆神ニ存スルナリ、若シ然ラ

ズンバ、初メヨリ此ノ思想ヲ吾人ニ授クルヲ得ザルベキナリ、然リト雖モ、吾人若シ未來ノ生命アルヲ得ザルモノトセバ、至善至正大聖無上ノ神ニシテ、何ノ爲メニ吾人ヲシテ現世ノ生命ノ缺處及ビ不全ヲ受ケシムルヤ、何ノ爲メニ褒賞ナキヲ得ザル所ノ犧牲タルコトヲ吾人ニ望ミタルヤ、何ノ爲メニ使用スルヲ得ザル所ノ勢力ヲ吾人ニ與ヘタルヤ、何ノ爲メニ數十年ノ不幸憂苦ヲ經過シタル後、究ニ漸盡泯滅ニ歸スベキ吾人ノ心裡ヲシテ、無限ヲ愛シ、不朽ヲ望メルノ情ヲ醸生セシメタルヤ、眼ヲ轉シテ試ニ自然ノ事物ヲ看ヨ、卑賤ヲ極メタル動物ト雖ドモ、其運命ヲ賦シテ構成セラレザル



者ナシ、然ルニ此ノ法律タル、道徳干係ノ事物ニ於テハ行ハル  
 ベカヲザルモノト爲シ、吾人ガ固有スル所ノ能力及ビ天性  
 ハ、我成立テ平和ナラシムルニ益ナキノミナラズ、之ニ反對  
 セリト爲サンカ、吾人ハ決シテ之ヲ以テ然リトセズ、又其理  
 ノアル所ヲ了解スルヲ得ザルナリ、要スルニ此ノ如キ假定  
 ヲ認可センニハ、先ヅ正理ヲ抛擲シテ、之ニ繼グニ長嘆大息  
 ナ以テセザルヲ得ザルナリ、

靈魂不朽  
 ノ説タル  
 由來遠ク  
 且フ諸國  
 ニ遍テシ

靈魂不朽タルノ説ハ、神アリテ存スルノ説ト共ニ由來スル  
 所久遠ナルモノトス、故ニ吾人ハ其一ヲ見ル毎ニ、必ズ并ニ  
 其二ヲ見ザルナシ、試ニ看ヨ、神ノ存在ヲ表スル所ノ寺院、及

ビ祭壇ナル國主ニ在テハ、必ズ死者ノ灰骨ヲ此處ニ収ル  
 テ、而ルニ或ル一二ノ異論者アリテ、此ノ二個ノ信憑ヲ分離シ、  
 或ハ兩ナカラ之ヲ非ナリトスト雖モ、萬國古今ノ人民ハ、此ノ  
 二者ノ互ニ相離ルベカラザルヲ信ゼザルナシ、而シテ此ノ二  
 個ノ信用タルヤ、諸宗教法ノ共通ノ本原ナリ、其不變ノ元素  
 タリ、正理固ヨリ之ヲ分ツテ許サズ、唯其一ヲ許シテ其二ヲ  
 許サマルヲ得ス、若シ此ノ如キヲアラバ、正理自ラ正理ニ背  
 クト云フベキナリ、實ニ此ノ世界ハ克ク輕重長短ヲ量リテ  
 萬物ヲ造リ、之ニ付スルニ其能力ニ應ズル目的ヲ以テシタ  
 ル無量智識ノ造物主ガ造レル所ナルヲ、若シ謂テ然ラズト

セバ、吾人ハ一事ノ死後ニ期スベキ者ナク、且ツ生前ニ脱レ  
 ザル矛盾及ビ痛苦ハ、擧テ目的モナク、報償モナキ禍害ニ歸  
 スベキヤ明カナリ、又裏面ヨリ之ヲ説カンニ、若シ吾人が五  
 官壞敗ノ後ニ遺存スルヲ得ル所ノ何ノ原則ヲモ見出サズ、  
 肉體ノ成立ト社會ノ情狀トニ超ユル所ノ何ノ思想、何ノ感  
 情、何ノ須要ヲモ見出サズ、モノトセバ、如何シテ我智ハ無  
 限ヲ覺リ、神ヲ知ルノ地位ニ登ルヲ得ンヤ、且ツ夫レ此ノ信  
 用ノ此ノ如ク聯結シテ分別ズベカラザルコトハ、其兩個ヲ  
 合シテ安全ナラシムル所以ノモノナリ、而シテ憑形説ト無  
 神説トノ如キハ、俱ニ吾人ノ天性及ビ思想ノ罰スル所タル

ヲ免カレザルナリ

## 正編 修身學本部

## 第十章

修身學本  
部ノ區分  
及ヒ四種  
ノ義務

吾人ハ上編ニ於テ已ニ修身法アリテ存スルヲテ證明シ、其獨一ナル點及ビ其一般ナル點ニ就テ之ヲ論辯シタレバ、今ヤ其諸般ノ適用ニ就テ逐一講述シ、而シテ人生諸般ノ景況及ビ人間諸般ノ關係ニ於テ、其吾人ニ課命スル所ノ義務ヲ論究セントス、凡ソ吾人ニ向テ動作シ得ル所ノモノニシテ、吾人モ亦之ニ向テ自由ト智トヲ行ヒ得ル所ノモノハ、吾人皆之ト關係セザルテ得ズ、即チ第一ニハ吾人自己ト關係シ、第二ニハ他人ト關係シ、第三ニハ吾人ヨリ下レルモノト關

係シ、第四ニハ神ト關係セリ、是ニ於テカ義務ニ四種ノ別ヲ立テザルヲ得ザルナリ、曰ク吾人自己ニ對スル義務、是レ各自修身學ノ講論スル所タリ、曰ク他人ニ對スル義務、是レ各種ニ小分スベキモノタリト雖モ、統集シテ社會ノ修身學ヲ構成スルモノトス、曰ク直ニ吾人ヨリ下レルモノニ對スルニ非ザルモ、之ヲ以テ緣由トシテ發生スル所ノ義務、是ハ吾人自己ニ對スル義務、若シクハ社會ニ對スル義務ノ中ニ算入スルヲ得ベシ、曰ク神ニ對スル義務、是レ宗旨上ノ修身學中ニ含蓄スル所ノモノトス

吾人恒ニ良心ノ命ズル所ノ義務、正理ノ合スル所ノ行爲ヲ

修身學古  
昔ノ區分

即十四大  
德

嚴正ニ實行スル。其ハ、我靈魂ヲシテ向來幾分カ利欲ニ眩惑セラレズ、過失ニ陷入セザル所ノ勢力ヲ得セシムルニ至ルベシ、是レ吾人ガ逐漸我天性ニ對シ得タル所ノ捷利ニシテ、即チ德ト名ヅケラレタルモノナリ、古人ハ德ニ注意シタルヲ義務ヨリモ多キヲ以テ、其修身學ヲ區分セシ方法ハ、今一般世ニ取用セラル、所ノ修身學ノ區分ト異ナルガ如シ、古人ハ以ヘラク、德ハ其根原是レ一ナリト雖モ、特別ノ形狀特別ノ名稱アル數個ノ職分ヲ併有スルモノナリト、故ニ四大德即チ他ノ諸德ガ由リテ流出シ、之ニ附屬スル所ヲ區別シテ四個ト爲セリ、四個トハ何チカイフ、即チ謹慎、剛毅、耐忍、

公義是レナリ、

德ノ區分  
ハ義務ノ  
區分ト少  
異アルノ  
ミ

修身學ヲ區分スルノ方法ハ、古今此ノ如ク相異ナルガ如シト雖モ、吾人若シ古人ガ此ノ言語ニ藏セル意味ヲ咬着スル事ハ、古人ノ論モ今世ニ行ハル、所ノ説ト相遠カラザルヲ知ルベシ、夫レ謹慎ノ語タル、古語ニ之チアルゲンシアト云フ、其意味ハ字源ニ就テ解スレバ、善ニ惡ニ愛己ニ德行ニ均シク使用スルヲ得ベキ持重熟思ノ精神ヲ謂フモノニ非ズ、唯最モ高尚ナル真理即チ神ヲ知り及ビ吾人自己ヲ知ルニシテ、必ズ智ノ刻苦ヲ要スベキモノヲ指シテ謂フナリ、因テ謹慎ハ全ク吾人自己及ビ神ニ對スルノ義務ナリト云フチ

得ベシ、剛毅及ビ耐忍ノ如キモ、亦吾人自己ニ對スルノ義務  
 ノ外ニ出ザルベシ、何トナレバ、剛毅ノ語タル、レセロンガ書  
 中ノ注解ニ從ヘバ、善ヲ作サン爲メニハ、其身ノ幸不幸ヲ度  
 外ニ置キ、何ノ損失サモ顧ミザル我意ノ勢力、靈魂ノ自由ヲ  
 指シテ云ヒ、又耐忍ノ語タル、五官ヨリ生ズル所ノ體欲及ビ  
 心欲ヲバ、道德上ノ自由ヲ以テ抑制スルコトナイヘバナリ、次  
 ニ公義ノ意味ヲ按ズレバ、吾人が他人ニ對シテ爲サマルヲ  
 得ザル所ノ諸般ノ義務ヲ含蓄セリトス、是レ古ノ修身大學  
 士ガ人ヲ慈愛スルノ情ヲケレバ、公義ナシト云ヒタル語ニ  
 就キテ見ルベシ、

我義務ヲ  
 講究スル  
 キノ順序

然リト雖モ古人ガ四大徳ノ區別タル、今人が義務ノ區別ニ  
 比スレバ、論理ノ方ヲ失シ、且ツ了解シ易カラザルヤ必セリ  
 吾人が此ノ義務ヲ講究スルノ順序ニ至リテハ、吾人自己ニ  
 對スル義務ヨリ始メザルヲ得ズ、何トナレバ、吾人若シ自己ニ  
 對スル義務、即チ我が身裡ニ存スル所ノ各能力ニ對スル義  
 務ヲ有セザレバ、此ノ能力ハ他人ヨリ尊敬ヲ受ルノ權利ヲ  
 有セザルベク、而シテ人ハ都テ修身規則外ニ出デザルヲ得  
 ザレバナリ、且ツ吾人が他ノ動物ニ對シテ慈愛ノ情ヲ起サ  
 ザルベカラズト信ズルヲ得ルモ、亦人類ヲ尊敬スルノ餘蘊  
 ニ出ルナリ、而シテ吾人ハ方テ極メテ我靈魂ヲ高峻ニシ、我

智ヲ發達シ、吾人ガ社會ノ爲メニ利ヲ棄テ仁ヲ取リ、以テ其恩ニ報ニベキノ故ヲ了解シタル後ニ至リテ、初テ神ニ對スルノ義務ニ思想ヲ注ムルヲ得ベキナリ、

第一目 各自修身學

第十一章

或ル理學者ノ言ニ云ク、人ハ機關ヲ使用スル所ノ智ナリト、若シ智ノ一字ヲ以テ靈魂全體ヲ指スモノトセバ、未ダ此ノ言ノ如ク適切ナルモノアラズ、何トナレバ吾人已ニ靈魂ト肉體トヲ區別スルトキハ、肉體ハ靈魂ニ使用セラル、所ノ器

各自修身  
學中ニ含  
蓄スルノ  
義務

械タラザルヲ得ザレバナリ、然ルニ此ノ器械タル、之ヲ使用スル所ノ無形ノ職工ニ比較スレバ、卑賤ナルモノ、如シト雖モ、若シ隨意ニ之ヲ暴殄衰耗セシムルハ、職工モ亦爲メニ其損害ヲ受ケザルヲ得ズ、故ニ吾人若シ我肉體ヲ保護スルノ法律ヲ破リ、若シクハ之ヲ慢ニスル等ノ事ニ由リ、以テ靈魂肉體ノ一致ニ成ル所ノ生命ヲ危クスルハ、我畢生間ニ行フベキ義務ヲ破ルト云フベキナリ、加之我機關ノ不具ヲ致シ、若シクハ疾病ニ罹ルコトハ、往々我意及ビ我智ノ作用ノ至大障礙タルヤ、既ニ經驗ニ由リテ明カナリ、古人亦言ヘルコトアリ、百病ノ幸福ハ、健全ナル肉體ノ中ニ健全ナル靈魂ヲ安ズ

肉體ニ關  
スル所ノ  
義務及ビ  
其一般ノ  
性質

ルヨリ大ナルハ莫シト、  
肉體ノ健全ト靈魂ノ健全トハ實ニ相襯貼シタルノ幸福ナ  
リト雖モ、同等ノ地位ニ置クベキモノニ非ズ、蓋シ吾人が肉  
體ノ勢力ヲ保存スルニ注意シ、又其勢力ヲシテ發達増大ナ  
ラシムルコトニ注意セザルヲ得ザルハ、俱ニ靈魂ノ故ヲ以テ  
ナリ、其注意スルハ何ゾ、肉體ニシテ勢力ヲ有スレバ、必ズ我  
能力ヲ發達シ、我義務ヲ實行スルニ協同スルノ効驗アレバ  
ナリ、而シテ肉體ノ勢力ヲ保存スルニハ、吾人ハ道德ノ感情  
及ビ利益ガ吾人ニ命ズル所ノ徳ト、自然及ビ經驗ガ吾人ニ  
知ラシムル所ノ學問トニ由ラザルヲ得ズ、此ノ徳トハ何ゾヤ、

## 節制

節制即チ是レナリ、此ノ學問トハ何ゾヤ、衛生學即チ是レナリ、  
節制トハ唯肉體ニ有益或ハ必要ナルモノ、ミテ與フルノ  
謂ナリ、而ルニ此ノ分界ヲ踰越スルニ非ザルヨリハ止ラザル  
ノミナラズ、時トシテハ踰越スルモ尙ホ止ラザルモノアリ、  
之ヲ稱シテ過度ト云フ過度ハ吾人自然ノ須要如何ヲ顧ル  
モノニ非ズ、唯快樂ヲ受スル念ト、此ノ念ヨリ生ズル所ノ人  
爲ノ欲トニ任憑スルノミ而シテ吾人自然ノ須要ヲ越エ、此  
ノ如キ過度ニ至ルホハ、必ズ其身ヲ毀ルヤ疑ナシ、故ニ過度  
ハ即チ其人ノ仇敵ナリ、五官ニ使役セララル、奴隷タルヲ甘  
ンズルナリト云フベキノミナラズ、其身ヲ殺ス所ノ屠手タ

リト云ハシモ、決シテ不可ナルナシ、此ノ人ノ如キハ、其五官  
 シ喜バシムルト自信シ、實ハ却テ之ヲ衰弱毀傷セシムルモ  
 ノナリ、要スルニ此ノ人ノ如キハ、曾テ正理ヲ顧ミズ、又自然  
 ノ法律ヲ知ラザルヲ以テ、天性無意ノ保護ヲモ有セザレバ、  
 禽獸ニモ如カザルモノナリ、今人類ニ屬セザルノ人ヲ知ラ  
 ント欲セバ、過度ノ爲ニ己レヲ陷ル、所ノ人ヲ見テ足ラ  
 シノミ、

## 衛生學

衛生學トハ健康ノ學問ナリ、詳ニ之ヲ云ヘバ、身ノ健康ニ於  
 テ利若シクハ害アル所ノ作用、現象、及ビ其健康ヲ保存セシ  
 ガ爲メニ守ルベキ法則ヲ知ラシムル所ノ學問ナリ、此ノ學問

タル多年ノ刻苦勉勵ニ由ラザレバ、了解スルヲ得ザルモノ  
 ナリト雖モ、又各人毎日ノ經驗ニ由リ、沿襲シテ實行スル所  
 ノ自然ノ衛生ト云フモノアリ、吾人ノ殊ニ務メテ實行スベ  
 キモノニシテ、修身學中ノ自己ニ對スル義務ニ屬スベキハ、即  
 チ此ノ自然ノ衛生ニ在リトス、而シテ其他ノ衛生學ノ如キ  
 モ、吾人ノ力能ク探究スルヲ得レバ、亦之ヲ實行セザルベカ  
 ラザルナリ、且ツ社會各般ノ人民ガ、小學教育ノ方ニヨリ、衛  
 生學ヲ知曉スルノ日ハ、決シテ遠キニ非ザルベシ、若シ此ノ  
 時ニ至レバ、衛生ノ學タル、必ズ各自修身學ノ有益ナル補闕  
 トシテ視ルコトヲ得ベキナリ、



節制ヲ爲スヲ、及ビ衛生學ノ規則ヲ遵奉スルヲハ、我肉體ノ  
 勢力ヲ保存スルノ手段ナリトセバ、我肉體ヲ運動スルヲハ、  
 其勢力ヲ增長スルノ手段ナリト云フベシ、此ノ運動ノ爲メニ  
 或ル規則ヲ立テ、是ヲ術藝ノ一ト爲シタルモノハ、即チ吾  
 人ガ所謂體操是レナリ、而シテ吾人ハ自然ノ良知ニ由リテ  
 指揮シ、日常ノ經驗ニ由リテ制限シタル所ノ體操ヲ爲スヲ  
 以テ足レリトスベキニ、古人即チ希臘人及ビ羅馬人ノ如キ  
 ハ、之ヲ以テ未ダ盡サズト爲シ、總テ體操ヲ以テ一箇人ヲ成  
 レ、國民ヲ成シ、兵卒ヲ成スニ必要ナリト思考シタリキ、故ニ  
 當時此ノ術ノ如キハ、非常ニ進歩シタリ、然レドモ原ヨリ僻

自殺ヲ以  
 テ期トス

見ニ出レバ、今世ノ人ハ此ノ誤謬ヲ受クベカラズ、但人ヲ教  
 育スルニ、專ラ精神ノミヲ勞セシメズシテ、兼テ肉體ノ勞動  
 ヲ遺レザルヲ以テ、既ニ足レリトスベシ、

吾人巳ニ我健全及ビ我勢力ヲ保存スルノ義務ヲ有ス、爭テ  
 カ我生命ヲ保存スルノ義務ヲ少クテ得シヤ故ニ此ノ義  
 務タル更ニ嚴峻ヲ加ヘテ恪守セザルベカラズ、夫レ自殺ハ、  
 修身法ニ違犯スル所ノ一大惡業ニシテ、苟モ之ヲ犯スルハ、唯  
 自己ニ對シテ罪アルノミナラズ、又社會ニ對シテ罪アルモ  
 ノトセリ、

自殺ヲ以

自殺ハ人ヲ殺スト其理毫モ異ナラザレバ、其罪ノ輕重モ亦

均シヤナリ、今其理ヲ説カンニ、吾人若シ自己ト他人トニ利益  
益アルガ爲メニ人ヲ殺スモ、尙ホ此ノ事ヲ以テ罪業トスルハ  
何ノ故ゾヤ、吾人若シ人ヲ殺スニ方リ、固ヨリ危難ニ遭遇ス  
ルノ患ナク、或ハ預メ危難アラシク知レドモ、甘シク之  
ヲ冒サンコトヲ決心シ、且ツ淵慮ノ情已ニ我心ヲ去リタルモ、  
尙ホ我利益ノ爲メニ人ノ生命ヲ隨意ニスルコト、恰モ動物ノ  
生命ヲ隨意ニシ、死物ヲ隨意ニスルガ如クスルヲ得ザルハ、  
何ノ故ゾヤ、是レ他ナシ、人ノ生命ハ原ヨリ道德上ノ標的ニ  
シテ、我諸能力ヲ集メテ、此ノ標的ニ向ハシメ、我利益及ビ我  
情欲ヲ專テ、之ガ隸屬メラシメザルヲ得ザレバナリ、更ニ語ヲ

改メテ之ヲ言ヘバ、人ハ都テ自己ニ對スル義務ヲ有スルモ  
ノニ、此ノ義務ノ範圍内ニ在ルノ間ハ、其生命ハ神聖ニシ  
テ、吾人自ラ犯スベカラザルモノナレバナリ、試ニ生命ニ道  
徳上ノ目的ヲ具セリトノ此ノ最上思想ヲ、外部ノ狀況如何  
ニ拘ハラズ、吾人ニ課セラレタル義務ノ中ヨリ除キ去レ、若シ  
果シテ之ヲ除キ去ラバ、即チ亦權利ノ思想ヲモ併セテ除キ  
去リ、隨テ我同類ニ對シテ義務アリトノ思想ヲモ除キ去ル  
ナリ、是ニ由リテ觀ンバ、自己ノ生命ノ我ニ於ケルハ、他人ノ  
生命ノ我ニ於ケルト同シク、俱ニ神聖犯スベカラザルモノト  
ス、故ニ自己ノ生命ヲ害スルモ、他人ノ生命ヲ絶ツモ、均シク

罪アリトスルナリ、或人ガ自殺ヲ戒ルノ玉條ハ、汝ハ殺スヲ勿レトノ普通格言ノ中ニ含蓄スト云ヒシモ、決シテ理ナキニ非ザルナリ、

人ハ其生命ヲ管理スル所ノ諸般ノ義務ヲ破ルニ非ザレバ、自殺スルヲ得ズトハ、尤モ眞理ニ中レリ、故ニ幾多ノ論者ガ自殺ヲ保庇センガ爲メニ、種々ノ妄説ヲ唱ヘタルモ、皆此ノ眞理ヲ排斥スルヲ得ズ、今試ニ、其妄説中ノ最モ理ニ似タルモノヲ左方ニ擧テ之ヲ畧論セントス、

自殺セントスル者之ガ辭ヲ爲シテ云ハン、余ハ生來誠ニ窘苦セリ、而シテ未ダ余ガ窘苦ノ極如何ヲ豫見スルヲ得ズ、故

自殺ナリ  
トスル妄  
説ヲ駁ス

ニ余ハ生命ヲ把テ一個ノ重擔ニ比シ之ヲ弛ベント欲スルノミ、余ニ何ゾ生命ヲ棄ルヲ得ザルノ理アラシヤト、此ノ言ヤ少シク理アルニ似タリ、然レモ人ノ此ノ世ニ在ルヤ、其情欲ニ隨テ幸福ヲ得ンガ爲メナラズ、之ニ反シテ情欲ニ制セラレズ、窘苦ニ屈セザルベキモノナレバ、如何ゾ此ノ如キノ言ヲ發スベキヤ、

又或ハ云ハン、余ハ他人ノ爲メニ有益ナルベキノ望ナシ、而シテ余ノ生命ハ他人ニ益ナキノミナラズ、却テ之ガ障礙ヲ爲スベシ、故ニ余ハ自殺スルヲ得ベシト、而ルニ其人モ此ノ世ニ在テ、總テ何人ニモ愛セラレズ、又一人ノ我が愛スベキモ

ノ、我が慰ムベキモノ、我が教フベキモノ、協議スベキモノナ  
 キノ理アラシヤ、然レモ一步ヲ却ケテ、此ノ如キ孤立ノ人ア  
 リト假定セシカ、設レモ此ノ如ク假定スルモ、原來義務ノ法ダ  
 ル、唯他人ニ有益ナルコトヲ要スルニ非ズ、又自己ノ靈魂  
 ヲモ、或ハ純正ニシ、或ハ發達シ、或ハ増大セザルヲ得ズ、且ツ  
 其人ノ他人ヨリ受ケザルヲ得ザル所ノ恩惠モ、亦其人ノ他  
 人ニ施ス所ノ恩惠ト同様ニ、靈魂ニ益アルヤ疑ヲ容レザル  
 ナリ、故ニ人ハ此等ノ理由ニ藉口シテ自殺スルヲ得ザルベ  
 シ、

又或ハ云ハン、余ハ本國ノ其自由ヲ失フヲ見テ、生ヲ偷ムニ

恐ビザル、猶ホカトシ、若シクハブリテ、

哲羅馬ノノ如シト、假  
愛國ノ士

令セ此ノ如キ場合ニ遭遇スルモ決シテ自殺スベキモノニ非  
 ズ、何トナレバ、國民タルノ道ハ斯ニ盡キタリト云フベキモ、  
 尙ホ人タルノ道アリテ存スレバナリ、已ニ本國ノ爲メニ望  
 テ屬スル所ナシト雖モ、良心ハ尙ホ吾人ニ在テ、依然トシテ  
 其權利ヲ有スレバナリ、

又或ハ云ハン、余ハ耻辱ヲ受ルニ堪ヘザルコト、恰モリ、クレ

ス、羅馬ノ烈女、他人ニ辱メ  
レザルヲ自裁セリノ如シト、此ノ口實モ亦以テ自殺ヲ可

トスルニ足ラズ、蓋シ耻辱ニ眞假ノ二者アリ、若シ眞ニ耻ゾ  
 ベキモノナラバ、將來ノ炯戒ニ供スベキ禍害トシテ之ニ耐ヘ、

悔悟ノ効ニ由リテ、其靈魂ヲシテ至善ニ復セシメザルベカラズ、若シ眞ノ耻辱ニ非ズンバ、其良心ヲ衆評ノ外ニ置キ、曾テ以テ意ト爲サマルベシ、一旦他人ノ不正ノ爲メニ冤ヲ蒙リタルノ故ヲ以テ、亦自ラ好ンデ不正ノ所行ヲ爲スノ愚ニ陥ルベカラズ、豈自殺スベキノ理アラシヤ、

## 第十二章

吾人ガ我肉體ニ對シテ行ハザルヲ得ザル所ノ義務ハ、即チ我靈魂ニ對シテ行ハザルヲ得ザル所ノ義務ヨリ生ズルモノトス、而シテ我靈魂ニ對シテ行ハザルヲ得ザル所ノ義務

體魂ニ對  
スル所ノ  
義務  
其範圍

ハ、原ト何ニ由リテ生ズルヤ、今之ヲ尋究スレバ、修身法ガ吾人ヲシテ頃刻ノ間斷ナク、常ニ歸向セシムル所ノ一般ノ目的ヨリ生ズルナリ、吾人ガ必ズ我生路ニ進入セザルヲ得ザル所ノ順序ヨリ生ズルナリ、吾人ガ漸チ以テ達セザルヲ得ザル所ノ完全ヨリ生ズルナリ、

上件ニ掲グル所ノ一般ノ目的ト、順序ト、完全トハ、我意即チ自由ヲ伸ズルヲ得ルニ非ザレバ、實行スルヲ得ザルノミナラズ、并セテ其アルヲ了解スルヲ得ズ、故ニ我意ヲ保存シ、及ビ之ヲ發達スルハ、吾人ガ靈魂ニ對シテ行ハザルヲ得ザル所ノ義務ノ第一ニ在ルモノトス、

意ヲ保存  
シ及ビ發  
達スルヲ

是非ノ力  
ヲ保存シ  
及ビ發達  
スルヲ

若シ是非ノ力ナカリセバ、吾人ハ我體欲或ハ情欲ノ勢威ノ  
下ニ壓セラレテ、終ニ其意ヲ伸ブルヲ得ズ、是非ノ力ニ由  
ラザレバ、我生命ヲ規定スベキ法律ヲ知り、善惡ヲ區別スル  
ヲ得ズ、故ニ是非ノ力ヲ保存シ發達スルハ、我意ヲ保存シ  
發達スルト同シク、我靈魂ニ對シテ必ズ行ハザルベカラザ  
ルノ義務ナリトス、

吾人巳ニ是非ノ力ト意トヲ合併スルモ、尙ホ道德ノ順序ヲ  
實行スルニ十分ナラズ、何トナレバ、吾人ハ唯良知アリテ自  
由ナル靈物ナルノミナラズ、又有情ノ靈物ニシテ、情ニ由ラ  
ザルヲ得ザレバナリ、夫レ善ハ我生路ノ最上目的ニシテ、吾

道德上ノ  
情ヲ保存  
シ及ビ發  
達スルヲ

人ハ之ガ爲メニ利益及ビ快樂ハ勿論、又至大ノ愛情ヲモ棄  
テザルヲ得ザル時アリ、而シテ善ノ爲メニ此ノ諸般ノ犠牲  
タルモ、爲メニ痛苦ヲ覺エザラシメントスルニハ、人ヲシテ  
唯善ノ嚴格ナルヲ了解セシムベキノミナラズ、又其盛大ト  
美麗トヲモ了解シ、爲メニ愛慕ノ念ヲ起サシメザルヲ得ズ、  
然ルニ此ノ盛大美麗ノ二性質ハ、智ニ由リテ了覺スルヨリ  
モ、情ニ由リテ感觸スルヲ更ニ多クレバ、吾人ノ此ノ二性質  
ヲ愛スルノ念ヲ起スニハ、必ズ情ニ由ラザルヲ得ズ、是ニ由  
リテ觀レバ、情ハ吾人ヲシテ完全ノ地位ニ達セシムルノ事  
ニ於テ、大ニ是非ノ力ト意トヲ補助スルモノト云フベキナ

り、故ニ情ヲ動シテ害ナキノ事物ニ遭遇スル毎ニ、慨テ情ヲ用キテ以テ情ヲ發達スルハ、吾人ニ在テ一箇ノ義務ナリトス、

如何シテ  
吾人ハ我  
意ヲ發達  
スルカ  
氣勇

而シテ吾人ハ唯我諸能力ニ對シテ吾人ニ命ゼラル、所ノ義務ヲ知ルノミヲ以テ、未ダ足レリトセズ、又如何ナル方法ニ由リ、如何ナル手段ヲ用キテ、此ノ義務ヲ行ヒ得ルヤヲ知ラザルベカラズ、抑モ意ノ發達ハ、意ノ自ラ爲ス所ニテ、利益ノ羈絆ヲ受ケズ、情欲ノ箝制ヲ蒙ラズ、其他畏懼貪吝ヨリモ更ニ危難ヲ加フル愛己心ニモ束縛セラレズシテ、唯正理ノ法律、良心ノ命令ニ恪遵スルニアリトス、而シテ吾人ハ此ノ

如ク意ヲ以テ心情及ビ五官ノ妄動ヲ制シ、愛己ノ計較ヲ却クルノ性格ヲ名ゾケテ氣勇ト稱ス、人ニシテ氣勇アルハ、天賦ノ才智アルヨリ、復カニ勝レリトナス、何トナレバ、才智ハ自然ノ惠賜ニ歸スベキモノナルモ、氣勇ハ吾人自己ニ屬スルモノニシテ、且ツ吾人ノ精神トモ云フベキモノナレバナリ、而シテ吾人ガ此ノ如キ高度ニ在ル所ノ自由及ビ安心ヲ得ルハ、固ヨリ一朝一夕ノ勤ニ由ルニ非ズ、區々タル行爲、續々タル思考ト雖モ、常ニ能ク之ヲ觀察シ、若シ些モ過失アレバ、自ラ督シ自ラ責メテ、毫モ假借スル所ナク、功ヲ積ミ、勞ヲ累テテ、初メテ此ニ達スルヲ得ルナリ、然レモ吾人誠ニ此ノ度

如何シテ  
カ我是非  
ノ力ヲ發  
達スル

ニ違セント欲スレバ、必ズ達スルヲ得ベシ、而ルニ半途ニシテ止ルガ如キハ、畢竟怯懦ノ人ト云フベキノミ、  
智ノ發達ハ、意ノ發達ニ比スレバ、吾人自己ノ力ニ關係スルコト少シ、何トナレバ、智ハ學問、熟思、觀察、酌奪、談話、讀書等ニ由テ發達セララル、モノニシテ、都テ此等ノ手段ハ、全ク我威權ノ下ニ伏スルモノナレバナリ、而シテ吾人ハ資性ノ賢愚ニヨリ多少ノ差アルモ、皆常ニ此等ノ手段ヲ行フヲ得ルノミナラズ、若シ此ノ手段ヲ行ハザルキハ、爲メニ善良無比ナル能力ヲ損毀シ、若シクハ失喪スルノ患アルコト、恰モ四肢ヲ使用セザルヲ以テ、竟ニ之ヲ失フガ如シ故ニ無識ナリザラント欲

スレバ、唯一個ノ決意ノミニ是レ資ルヲ、尙ホ無識ニ甘ンズルノ人ハ、自ラ其智ヲ撲殺スルノミナラズ、又道德ヲモ撲殺スルニ至ルベシ、何トナレバ、道德ハ即チ善ナリ善ヲ實行セントスルニハ、先ツ善ノ善タル所以ヲ知ラザルベカラザルニ、智ニシテ已ニ撲殺ニ遇ヘバ、復タ之ヲ知ルニ由ナケレバナリ、且ツ吾人ハ他人ノ教育ヲ受ルヲ以テ既ニ足レリトスベカラズ、必ズヤ自ラ其身ヲ教育スルヲ以テ緊要ナリトス、原來吾人ガ他人ヨリ受ル所ノ教育ハ、猶ホ自然ヨリ受ケタル天賦ノ才智ノ如ク、感謝スベキノ恩賜ナルニ過ギザレバ、吾人ハ之ヲ以テ義務ヲ果シタリト云フヲ得ベカラズ、我義



務ハ唯我ノミ行ヒ得ベキモノナレバ、必ズヤ他人ノ恩惠ニ由リテ端ヲ啓カレタル教育ノ事業ヲ、大成若シクハ修習セザルベカラザルナリ、

如何シテ  
カ吾人ハ  
我情ヲ發  
達スル

情モ亦吾人ガ廣大ナル威權ヲ以テ駕御スル所タリ、抑モ吾人ハ我見聞スル所ノ事物ノ品質ニ隨ヒ、我來往スル所ノ人物ノ性格ニ應ジ、鄙陋若シクハ仁恕、善若シクハ惡ノ感情ヲ發達スベシ、然リト雖モ之ヲ生ジ、之ヲ鼓動シ、之ヲ維持シ、以テ我生路ヲ支配セシムルニ至ルモ、若シクハ其僅ニ萌芽ヲ出シ、良心微シク覺ルノ時ニ方リテ、陡チ之ヲ壓滅スルモ、唯吾人ノ隨意ナルノミ、故ニ鄙陋、貪淫、愛己、猜忌ノ如キ情欲ハ

速ニ之ヲ抑制シ、若シクハ翦滅スルヲ以テ緊要ナリトシ、又之ニ反シテ、貴重高尚ナル感情、吾人ヲ善良幸福ナラシムル感情、無私ノ愛情、善美ヲ嘆賞スルノ情、眞理學問ヲ愛スルノ情、藝術ヲ貴ブノ情、信神ノ情ノ如キニ至テハ、務メテ之ヲシテ我靈魂中ニ發起セシメザルベカラズ、其情ヲ激發スベキノ事物ニ就テ、之ヲ培養セザルベカラズ、交際教育、及ビ他人ノ前蹤ハ、此ノ點ニ向テ安全ナル影響ヲ、吾人ニ與フルヲ得ベキナリ、

## 第十三章

靈魂及ヒ  
肉體ニ共  
通セル義  
務トナス  
ベキ勞動

勞動ハ肉  
體ヲ保存  
シテニ靈  
魂ヲ發達  
スルニ必  
要ナリ

吾人ガ自己ニ對シテ行ハザルヲ得ザル所ノ義務ハ、必ズシ  
モ部テ吾人ガ前ニ開陳シタル二種ノ義務ノ一ニ專屬スベ  
キモノニ非ズ、即チ唯靈魂ニ關スルノ義務、又ハ唯肉體ニ關  
スルノ義務ニ屬スベキモノ、ミニ非ザルナリ、吾人自己ニ  
對スル義務ノ中ニハ、此ノ二種ニ兩屬シ、同時ニ同度ニ靈魂  
ト肉體トニ關係スルモノアリ、何ゾヤ、曰ク勞動是レナリ、  
吾人ガ肉體ヲ保存スルニ、勞動ヲ必要トスルヤ、明々トシテ  
疑チ容レザルナリ、何トナレバ、勞動ノ事タル、我勢力ノ保存  
及ビ發達ニ必要ナル體操タルベキハ、姑ク措テ言ハザル  
モ、吾人ガ食料、衣服、家屋、武器等ノ如キ、我ヲ攝養シ、我ヲ保護

17th day of Nov

シ、我ヲ防衛シ、以テ我身ヲ安全トラシムル所ノ諸物ヲ得ル  
ハ、此ノ勞動ニ由レバナリ、而シテ勞動ハ、唯肉體ヲ保存スル  
ニ必要ナルノミナラズ、又靈魂ヲ發達スルニモ必要ナリト  
ス、何トナレバ、勞動セズンバ、學問ヲ爲スヲ得ザレバナリ、勞  
動ニ由ラズンバ、我心ト我智トヲ改良スルニ必要ナル餘暇  
ト、精神ノ安息トヲ得ザレバナリ、實ニ飢渴シテ飲食ヲ得ン  
ト欲シ、凍寒シテ衣服ヲ得ント欲シ、晨ニ夕ヲ憂ヘ、夕ニ旦ヲ  
慮ルガ如キハ、吾人ナシテ唯我道德上ノ品位ヲ失ハシムル  
ノミナラズ、又我須要ノ感情ヲモ失ハシムルニ至ルベキナ  
リ、故ニ勞動ハ、我諸義務ノ根本タル至大義務ヲ盡スニ必要

ナルヲ以テ、勞動自己ニ在テモ、亦是レ獨立普通ノ一義務ナ  
 リトス、而シテ人ノ誰タルヲ問ハズ、皆之ヲ科セラル、ナリ、是  
 ニ由リテ觀レバ、勞動ノ法タル、人間第一ナル法律ト稱スベ  
 キモノ、如シ、故ニ「シヨツプ」經典中ノ一ニシテ、聖人ヅニ、人ノ働  
 クガ爲メニ生レタルコトハ、恰モ鳥ノ飛フガ爲メニ生レタル  
 如シトアルハ、決シテ適當ノ言ニ非ザルベシ

勞動ハ諸人ノ均シク行フベキ所タル此ノ如シト雖モ、亦諸  
 人同様ノ方法ニ由リ、同様ノ事業ニ從ハザルヲ得ズト爲ス  
 ベキモノニ非ズ、各人其自己ノ營業ヲ以テ直接ニ其諸般ノ  
 須要ニ給シ、自ラ其家屋ヲ建築シ、自ラ其飲食ヲ調理シ、自ラ

分勞ノ法  
 由リテ  
 學術ヲ完  
 全ニス

其衣服ヲ裁縫シ、尙ホ工夫ノ餘力ヲ得ルキハ、自ラ人身及ヒ  
 自然ニ就テ、粗鹵ノ思想ヲ構起シタル如キハ、唯蒙昧未開ノ  
 時ニ在テ然リトスルノミ、然リ而シテ今ヤ分勞ノ法盛ニ此  
 ノ世ニ現出シ、唯器械ニ屬セルノ術藝愈増加シテ愈進歩ス  
 ルノミナラズ、文學、實學、政治、美術等ノ事業モ、亦典起セザル  
 ハナシ、是ニ於テカ社會ハ恰モ各人自ラ其意ト其能トヲ度  
 リテ、職業ヲ擇取スベキ一大製造所ノ如シ、而シテ如何ナル  
 職業タリト雖モ、苟モ必要ニシテ正道ニ合スルモノハ、吾人  
 甘シテ之ヲ執ラザルヲ得ズ、何トナレバ、吾人一般ニ勞動ヲ  
 行ハザルヲ得ズトスル所ノ道理ハ、同一ニ各職業、各身分、各

營業ニ適用スベケレバナリ、且ツ若シ一般勞動ノ事ナケレバ、隨テ他ノ何ノ義務ヲモ行フヲ得ザルハ、吾人ノ己ニ確認シタル所ナリ、故テ以テ此ノ勞動ヲシテ必ズ行ハレシメントセバ、各人其智ト其力トニ應ニタル勞動ヲ分擔セザルヲ得ザルナリ、

分勞ノ法ヨリ生ズル所ノ諸般ノ職業ハ、各、大ニ相同シカラザルヤ明カナリ、其職業タル固ヨリ精神ノ同一能力ヲ要シ、肉體ノ同一機巧ヲ要シ、心意ノ同一勢力ヲ要スルモノニ非ザルヲ以テ、其之ヲ營ム者、必ズシモ同一ノ結果ニ至ルヲ得ズ、故ニ或ハ名譽安富ヲ得ルモノアリ、或ハ之ニ反シテ卑賤

如何ナル  
職業タリ  
トモ必要  
ニシテ貴  
重ナリ

貧苦ニ陥リ、常ニ困頓シテ、以テ生ヲ送ルモノアリテ、嘗ニ千態萬狀ナルノミナラズ、是ニ於テカ至大ノ不平等ハ、吾人ノ間ニ生ズルナリ、此ノ不平等ハ、公衆ノ智識道德及ビ注意ノ進歩ニ由リテ、漸次減少スベシト雖モ、吾人ハ決シテ其全ク消滅ニ歸スルヲ望ムヲ得ズ、何トナレバ、此ノ事タル固ヨリ事物ノ性質ニ存スルモノナレバナリ、而シテ如何ニ卑賤ノ身分タリトモ、如何ニ朴野ノ職業タリトモ、之ニ附スルニ高尚ナル感情ヲ以テスレバ、貴重ナラザルモノナク、又如何ニ榮譽ノ身分タリトモ、如何ニ眩耀スベキ職業タリトモ、卑野ナル感情ヲ附スレバ、往々下賤タルヲ免レズ、是レ人ノ價格ハ、原

ト誠心其義務ヲ果スニ由リテ生ズルモノニシテ、外部ノ景狀ハ、其所得ヲ奪却スルヲ得ズ、其所失ヲ回復スルヲ得ズ、其有スル所ノ價格高ケレバ、其社會ニ占ムル所ノ地位モ、亦隨テ高ク、其身ニ附隨セル尊敬ハ、必ズ其地位ニ現ル、モノナレバナリ、且ツ何ノ職業タリトモ、有益ニシテ正道ニ合スルモノナラバ、品位及ビ名譽ヲ有セザルナシ、其品位及ビ名譽ハ、畢竟何ニカ在ル、即チ其職業ガ社會ノ功用ヲナスコト、及ビ要求スル所ノ公衆ニ對シテ、謹テ其約ヲ踐ムコトニ存スルナリ、何トナレバ、吾人ガ前ニ述べタル如ク、社會ハ諸般ノ勞動相集合シ、諸種ノ職人相助成スル所ノ一大製造所ニ比方ス

ルヲ得ベキモノナレバ、此ノ職人ノ一個、此ノ勞動ノ一箇ニシテ、若シ定ムル所ノ目的ニ少違シ、或ハ全ク其目的ニ背クノ事アレバ、之ガ爲メ大ニ他ノ職人及ビ他ノ勞動ヲ擾亂スベキヲ以テナリ、吾人若シ其擾亂ノ形況ヲ知ラントセバ、職人ガ往々黨ヲ結デ、業ヲ執ルヲ拒ム時ニ就キテ之ヲ視レバ、容易ニ見ルコトヲ得ベキナリ、

勞動ハ唯我至大ノ一義務ナルノミナラズ、又吾人ヲシテ他ノ諸義務ヲ必行セシムル所ノ一手段ナリト看做スヲ得ベシ、抑モ勞動ハ人ニ付スルニ、事物ヲ整頓シ若シクハ勉勵スルノ慣習ヲ以テシ、隨テ心理ヲ平和ナラシムルニ由リ、道徳

ノ最も堅牢ナル一基礎ナリ、今之ヲ詳言セシニ、道德トハ即チ順序ヲ謹守スルコト、法律ヲ尊敬スルコトヲ、至高ノ地ニ達セシムルモノニ外ナラズ、之ニ反シテ、不徳ハ心裏ノ苦惱ヨリ生ズル所ノ擾亂是レナリ、而シテ此ノ苦惱ハ、多クハ懶惰ヨリ生ズルニ、懶惰ハ或人ガ云ヘル如ク、匪徳ノ母トモ稱スベキモノナレバ、吾人若シ我思想ヲ何物ニモ注シズ、更ニ我能力ヲ使用セザルキハ、滿眼ノ諸物、一トシテ迷眩誘惑ノ具タラザルハナク、到底其思想ヤ其能力ハ、諸般ノ妄想及ヒ五官ノ昏迷ニ抹殺セラルベシ、勞動ハ則チ然ラズ、僅ニ有形ノ事業ヲ營ム所ノ勞動ト雖モ、其必要ナル所ノ決意以テ之

ヲ維持スルニ由リ、之ヲ肉體體操ノ能ク氣血ヲ周運セシムルニ比シ、思想及ヒ感情ヲ整頓スル所ノ靈魂體操ト云ハシモ、不可ナルナキガ如シ、是レ吾人ガ勞動ヲ以テ、道德ノ一基礎ト稱スル所以ナリ、

勞動ハ吾人道德ノ金城湯池タルノミナラズ、其資財ヲ生ズルノ勉勵ニ加フルニ、之ヲ貯蓄スルノ注意ヲ以テスルキハ、又吾人ノ獨立及ヒ品位ヲ保スル所ノ鐵壁ナリトス、抑モ明日ノ用ニ供スル餘裕アルニ方リ、其得ル所ノモノヲ擧テ、徒ニ費用シ了ル者ハ、豫メ其勢力衰弱シ、費用欠乏スルニ方リ、奴顏婢膝シテ、哀ヲ他人ニ乞ハザルヲ得ザルノ時アラント

勞動ハ資  
本ヲ造ル  
ニ由リ獨  
立ノ鐵壁  
ナリ

ヲ料リテ、之ニ備ヘサルモノト云フベシ、之ニ反シテ、現今ニ於テハ、如何ナル嗜欲モ、之ヲ犠牲ニ付シテ、偏ニ未來ヲ豫防スルノ勇氣ヲ勵シ、且ツ日ニ月ニ年ニ積習シテ、此ノ未來ノ部分ヲ増加セバ、此ノ部分ハ經濟學ニ於テ、資本ト名ヅクル所ノモノトナルベシ、而シテ資本即チ貯蓄トハ何ゾヤ、吾人ガ自然ヨリ得タル勢力ニ加フル所ノ勢力ナリ、自然ノ勢力萎靡シ、或ハ衰弱スルキニ方リ、之ニ代フル所ノ勢力ナリ、多少精巧ナル器械ヲ生シ、以テ自然ノ勢力ヲ助クル所ノ勢力ナリ、自然ノ勢力衰弱シ、資用欠乏スルキニ方リ、吾人ヲシテ虚心平氣ニ此ノ時ヲ經過スルヲ得セシムル所ノ勢力ナリ、

故ニ此ノ勢力ヲ構造スルノ勞動ハ、吾人ニ在テ、獨立及ヒ品位ノ鐵壁ナリト稱スルヲ得ベシ、

## 第二目 社會修身學

### 第一類 家族

#### 第十四章

吾人ハ前キニ已ニ自己ノ行爲ヲ規定スベキ所ノ法律、即チ一個人ノ義務ヲ論述シタリ、然レモ一個人ト孤立人トヲ混視スベカラス、孤立人即チ千七百年代ノ理學士ガ所謂自然ノ人ト云フ者ハ、世間決シテ無キ所ニシテ、吾人ガ世ニ生レ

テ過活シ得ル所ノ景狀ハ、獨リ社會ヲ團結スルニ在ルノミ、故ニ吾人ハ社會ニ對スル義務ヲ少クテ得ズ、而シテ其義務ノ嚴峻ナルヤ、吾人自己ニ對シテ命セラレタル義務ト異ナラズ、何トナレハ、若シ社會ニ對スル義務ナカリセバ、自己ニ對スル義務モ亦有ルベカラザルヲ以テナリ、

社會ニ對スル義務ノ區分  
 家族ニ對スル義務  
 一般社會ニ對スル義務  
 義務國ニ對スル義務

吾人ガ社會ニ對スル所ノ義務ハ、社會區分ノ多少ニ隨テ分別スベシ、抑モ社會ニ四種ノ區分アリ、此ノ四種ノ社會タル互ニ相貫キ、互ニ相觸レ、互ニ相定メ、互ニ相助クル所ノモノニシテ、其中ノ一種タリトモ、他ノ三種ヲ棄テ、成立ツテ得ルモノナシ、今之ヲ臚列センニ、其第一種ヲ家族トシ、其第二種

對スル義務、并ニ各國相互ノ義務

ヲ一般ノ社會トス、即チ其親屬タルト親屬タラザルトニ拘ハラズ、唯其能力ト須要トチ同一ニスルヲ以テ、吾人自他ノ間ニ存スル所ノ社會是レナリ、此ノ社會ハ唯自然ノ法律ニ由リテ支配セラル、ノミ、別ニ又第三種ナル人爲ノ法律ニ由リテ支配セラル、所ノ社會アリ、名ヅケテ國民社會ト云フ、即チ吾人ガ民ト呼ビ國ト唱フル所ノ團結是レナリ、而シテ此ノ國ヤ此ノ民ヤ決シテ孤立スルヲ得ズ、各個人ノ如ク互ニ相交際スルヲ必要トシ、共通ノ法律及ビ共通ノ義務ヲ受ケザルヲ得ズ、而シテ此等ノ法律義務ナケレバ、一瞬時間モ平和ヲ保ツテ得ザルベシ、故ニ各國ハ此ノ關係及ビ此ノ關係ヲ支



配スル所ノ法律ヲ保存スル爲メノ故ニ、第四種ノ社會ヲ成  
 ス、此ノ種ノ社會タル、他ノ三社會ヨリモ更ニ廣キノミナラ  
 ズ、且ツ日ニ月ニ増加スルノ勢アレバ、之ヲ名ヅケテ人類普通  
 ノ社會トモ云フヲ得ベシ、夫レ社會ニ四種ノ區分アル此ノ  
 如シ、是ヲ以テ吾人ガ他人ニ對スル所ノ義務モ、亦四種ノ區  
 分ナキヲ得ザルナリ、即チ之ヲ列擧センニ、曰ク人ハ都テ吾  
 人ト共ニ人間ノ能力義務權利ヲ有セリト云フ義ニ由リテ、  
 其誰タルヲ問ハズ、之ニ對シテ行ハザルヲ得ザル所ノ義務、  
 曰ク特別ニ家族ニ對スル所ノ義務、即チ吾人ガ唯人タルノ  
 性質ヲ以テ行フベキノミニ非ズ、父子、夫婦、兄弟タルノ性質

ヲ以テ行ハザルヲ得ザル所ノモノ、曰ク國民社會ニ存スル  
 所ノ義務、即チ國民ヲシテ國ノ爲メニシ、國ヲシテ國民ノ爲  
 メニセシムル所ノモノ、曰ク各國或ハ之ヲ代理スル所ノ各  
 政府ガ互ニ相守ラザルヲ得ザル所ノ義務、即チ吾人ガ併セ  
 テ萬國公法ト名ヅクル所ノモノ是レナリ、

吾人若シ論理ノ術ニ適當スベキ緩急ニ隨テ、社會修身學ヲ  
 論述センニハ、先ツ一般ノ人類ニ對スル所ノ義務ヨリ始メ  
 ザルヲ得ズ、何トナレバ、此ノ種類ニ屬スル所ノ義務ハ、他ノ  
 三義務ノ基礎ダレバナリ、實ニ吾人ノ人タルヲ得ルヤ、家ニ  
 在テハ、父タリ子タリ夫タリ婦タリ兄タリ弟タルニ先テ、國

此ノ義務  
 ヲ説示ス  
 ベキ順序

ニ在テハ、人民タリ官吏タルニ先テ、世界ニ在テハ、隣國ニ向テ一國ノ代理ヲ爲スニ先テルヤ、一毫ノ疑フヘキナク、而シテ此ノ人ト云ヘル名稱ハ、吾人自己ニ於テ保存セザルヲ得ザル、固ヨリ論ヲ俟タザル所ニシテ、又他人ニ對シテモ、其誰タルヲ問ハズ、此ノ名稱ヲ尊敬セザルヲ得ザルヤ明カナリ、而シテ吾人ハ人ノ性ヨリ直ニ生スル所ノ此ノ義務ヲ説キ了リシ後ニ、他ノ諸種ノ社會ニ對スルノ義務ヲ論ゼザルベカラズ、即チ家族ハ最モ各人ノ身ニ近キヲ以テ之ヲ論出シ、次ニ國ヲ論シ、最後ニ各國普通ノ社會ニ及ボサズルヲ得ザルナリ、然リト雖モ論理上ノ序ハ實際上ノ順序ト相同シカ

家族ニ社  
會ノ第一  
基礎ニシ  
テ公衆ノ  
風儀ヲ改  
眞スルニ  
必要ナリ

ラズ、實際ニ於テハ第一ノ地位ヲ有スルモノハ家族ナリ、何トナレバ、家族ハ道德教育ノ根柢ナルヲ以テ、又社會ノ關係人間ノ交際、其他、人々相互ノ公義ノ淵源タレバナリ、故ニ今ヤ吾人ハ先ヅ家族ノ道德ヨリ論述セントス、夫レ家族ハ、前ニ論述シタルガ如ク、社會ノ第一ノ基礎タリ、第一ノ形體タリ、道德ノ門ニ入ルノ第一歩タリ、而シテ吾人ハ此ノ一步ヲ進メザレバ、他ノ半歩ヲモ進ムルヲ得ザルナリ、試ニ蒙昧野蠻ノ往時ヲ看ヨ、絶テ家族ノ結構ナク、或ハ偶之アルモ、完全ナルヲ得ズ、其動靜ノ粗暴ナル、恰モ禽獸ニ異ナラズ、唯兇殘醜陋ヲ事トスルノミ、婦人ヲ遇スルガ如キ

ハ、視テ賣買物ト爲シ、之ヲ市場ニ鬻ギ、又ハ驅役シテ以テ殘酷ヲ肆ニスルコトハ、牛馬モ嘗ナラザルナリ、然ルニ男子ハ遊獵又ハ鬪争ヲ爲ス時ニ非ザルヨリハ、常ニ懶惰ヲ以テ日ヲ過グセリ、又其小兒ヲ遇スル如キハ、婦人ヨリモ更ニ甚シク、或ハ之ヲ放棄シ、或ハ之ヲ奴隸ト爲シ、人ノ購求ニ應ジテ輒チ之ニ賣與スルノ類、其暴戾ナル實ニ言フベカラザルモノアリシニ非ズヤ、然ルニ吾人一タビ真正ノ家族ヲ結構シタルノ時ヨリ、家族ハ家政ノ品位ヲ定メ、幸福ヲ生ズル所ノ感情、風儀、仁恕、尊敬ヲ起スノミナラズ、又一國ノ勢力、及ビ威權ヲ立ル所ノ政事上及ビ宗旨上ノ德ヲモ生ズルニ至レリ、故

家族ヲケ  
レハ國ナ  
シ又宗旨  
ナシ

ニ吾人ハ家族ヲ以テ社會ノ第一基礎ト看做スナリ、家族ハ恰モ溫度ト光氣トヲ漸次ニ一室ニ充滿セシムル所ノ火爐ノ如シ、其レ然リ、吾人ハ本國ヲ視ルコト、廣大ナル家族ノ如ク、吾人ト權利義務ヲ同クシ、希望畏懼ヲ同クシ、古來ノ史傳ヲ同クスル所ノ同國人ヲ視ルコト、兄弟ノ如ク、吾人ヲ保養シ、及ビ祖先ノ骸骨ヲ藏ムル所ノ國土ヲ視ルコト、父母ノ如ク、又神ヲ視ルコト、人類共同ノ父ノ如ク、地球ヲ視ルコト、人類ノ共有物ノ如ク、卒ニ此ノ思想ヲ擴メテ、人類皆兄弟タリト信ズルニ至ル、然リト雖モ此ノ比較ノ本ニ居ルモノニシテ、若シ除却ニ遇フ時ハ、吾人ハ如何ニシテ此ノ如キ比較ヲ立ツ

ルヲ得ンヤ、父母兄弟ノ名稱ニシテ、若シ其固有ノ真意ヲ藏  
 セズ、吾人ヲシテ我幼時ノ恩育ヲ想起シ、親愛自然ノ情ヲ感  
 起セシムルモノナカリセバ、決シテ此ノ比較ヲ立ツルヲ得  
 ザルベシ、實ニ本國ヲ愛スル、母ノ如クセントセバ、我幼時ノ  
 後見人ニシテ司令者タリシ眞ノ慈母ヲ知ラザルベカラス、衆  
 人ヲ愛スル兄弟ノ如クセントセバ、眞ノ兄弟ヲ知ラザルベ  
 カラス、神ヲ敬スル、父ノ如クセントセバ、眞ノ嚴父ヲ知ラサ  
 ルベカラス、是ニ由リテ視レバ、家族ナケレバ、則チ國ナク宗  
 旨ナキナリ、

家族ハ社  
 會ニ授ク

家族ハ唯社會無形ノ道德ニ必要ナルノミナラズ、又其有形

ルニ有形  
 ノ幸福ヲ  
 以テス

ノ幸福ニ必要ナリトス、何トナレバ、人ノ幸福ハ勞動ヨリ生  
 ズルモノニシテ、我が勞動ヲ鼓舞スルハ、吾人ガ眷愛保護ス  
 ル所ノ家族ノ幸福ヲ固クセントスルノ希望ニ如クモノナ  
 ケレバナリ、嗚ヘバ非凡ノ靈魂ヲ具スル人ハ、名譽ヲ愛スル  
 ノ情、自國ヲ愛スルノ情、其他高尚ナル感情ニ鼓舞セラレテ、  
 文武ノ大事業ヲ立ルニ至ルコトハ、吾人ノ固ヨリ疑ハザル所  
 ナリ、然リト雖モ尋常一般ノ職業ニ從事シ、碌々人間ニ視息  
 スル所ノ人ハ、更ニ着實ナル愛情ニ由リテ、以テ鼓舞スル所  
 ナクシテアラズ、故ニ此等ノ人ハ、其子其妻及ビ其親族等ノ  
 爲メニ、其血液ヨリ生ズル有形ノ結果ヲ遺傳スルノ希望ヲ

家族ヲ構  
造スル所  
ノ元素

ルヲ要スベク、而シテ其欲情ヲ自己ノ須要ニノミ止メズシ  
テ、更ニ第二ノ自己タル兒子ノ幸福ヲ圖ルヲ要スベシ、  
家族ノ完全ナルモノハ三種ノ社會ヨリ成ル、此ノ社會タル、互  
ニ相聯屬スルモノナリト雖モ、之ヲ區別スルニ至テハ、容易  
ナリトス、一ニ曰ク婚姻ヨリ成ル所ノ社會、則チ夫婦ノ間、二  
ニ曰ク、父母ト子トヲ結合スル所ノ社會、三ニ曰ク子ト子ト  
ヲ結合スル所ノ社會、即チ兄弟姊妹ノ間是レナリ、而シテ此  
ノ三社會ハ、各特別ナル義務ヲ有シ、特別ナル規則ニ由リテ、  
支配セララル、モノトス、

婚姻

婚姻ハ唯父母ヲシテ其子ヲ知ラシメ、子ヲシテ其父母ヲ認

メシムルノ手段タルニ過ギズトスルモ、吾人ハ尙ホ之ヲ尊  
ブベキモノアリトス、何トナレバ、駝鳥ハ其所生ノ卵ヲ沙漠  
ニ棄ツレモ、人ハ其子ヲ棄ツルノ權利ナケレバナリ、而シテ  
婚姻ハ管此ノ理由ヲ以テ尊ブベキノミニ非ズ、別ニ之ヲシ  
テ社會ノ最モ神聖ナル制度トシ、及ビ家族ノ基礎トスルヲ、  
恰モ家族ヲ以テ社會ノ基礎トスルガ如クナラシムル所ノ  
理由アリ、今之ヲ左方ニ録ス、

人ハ如何ニ貧窶ナルモ、如何ニ孱弱ナルモ、自ラ其固有ノ品  
位ヲ放棄シ、其道德ノ目的ヲ遺忘シ、下リテ萬物ノ等級ニ伍  
シ、以テ他人ノ快樂、若シクハ情欲ノ役使トナルヲ得ズ、而シテ

婚姻ノ基  
礎及ビ義  
務

己レ他人ニ下ルヲ得ザレバ、亦他人ヲモ己レニ下ラシムルヲ得ズ、是レ法律ノ必須後果タルガ故ニ、吾人ハ決シテ詐僞或ハ威力ヲ用テ他人ヲシテ此ノ如キ奴隸ノ状態ニ陥ラシム、又他人ノ既ニ此ノ状態ニ陥レルモノヲシテ、永久沈淪セシムル等ノ所行アルベカラズ、而シテ此ノ法律ヲ犯サマラシムントスル無二ノ手段ハ婚姻是レナリ、何トナレバ、婚姻ノ事タル、男女終身ノ間、相互ニ其靈魂及ヒ肉體ヲ共ニスル所ノ契約タレバナリ、其共通ノ間タル、同一ノ權利、同一ノ義務ヲ以テ緊結セラレ、モノニシテ、互ニ其身ヲ委ヌト雖モ、何レノ一方モ、他ノ一方ノ犠牲トナルニ非ザルナリ、抑モ婚姻

ハ、愛ト義務トノ混合シテ區別スベカウザルモノトス、之ヲ詳言スレバ、婚姻ハ義務ニ由リテ神聖ニセラレ、純粹ニセラレタル愛是レナリ、婚姻ハ愛ニ由リテ絆纏セラレ、修飾セラレタル義務是レナリ、要スルニ此ノ婚姻ヨリ生ズル諸般ノ義務ハ、約シテ一個ノ事項ト爲ヌヲ得ベシ、即チ夫婦相互ノ親誼ナリ、即チ平等ノ誠實ナリ、然リト雖モ此ノ親誼ハ男女能力ノ差異アルニ由リ、同一ノ方法ヲ以テ行フヲ得ルモノニ非ズ、夫ニ在テハ保護、勉勵、勇氣、決心ニ現レ、婦ニ在テハ優緩、謙遜、堅忍、柔順ニ現ル、而シテ此ノ差異アルハ、却テ更ニ兩意兩智ノ一致ヲ固クスベキノミ

## 第十五章

父母ノ子  
ニ對シテ  
有スル所  
ノ義務  
其通則

自然ノ順序ニヨリ、直ニ夫婦ノ義務ニ次グベキモノハ、父母ノ義務、即チ父母ノ子ニ對シテ有スル所ノ義務是レナリ、而シテ此ノ義務ハ、子生ル、ノ後ニ至テ始テ起ルモノニ非ズ、其未ダ生レザル始ヨリ、已ニ存セルモノトス、夫レ人ノ生命ハ、神聖ナルト言フベカラザルモノニシテ、頗ル高尚ナル目的ト、頗ル重大ナル職務ト有セリ、故ニ子ヲ生ミテ、之ニ生命ヲ授クルモ、其子ヲシテ、能ク之ヲ保存シ、其目的ヲ達セシムルノ手段ナク、之ヲシテ常ニ痛苦艱難ニ罹リ、耻辱貧困ニ陥ラシムルハ、不正非理ヲ以テ、已ニ生レタル人ヲ殺シ、生

十一

命ヲ強奪スルト、其罪毫モ異ナルナカルベシ、又眼ヲ轉ジテ人定ノ法律ヲ看ルニ、凡テ子ヲ棄ツルノ父母ニ向テ、其不慈ヲ責罰スルニアラズヤ、而シテ吾人ノ見ニ據レバ、須要及ビ食料ヲ子ニ供給スルヲ得ザル者ニシテ子ヲ生メルハ、生ム所ノ子ヲ棄ル者ト、其罪相均シカルベシ、其レ然リ、故ニ一個ノ人ヲ産生スルノ事タルヤ、即チ之ニ保護ヲ加ヘ、其發達成立ニ必要ナル物ヲ供給シ、其能力ヲ研磨シ、以テ之ヲ人人生諸般ノ痛苦ニ堪ヘ、諸般ノ義務ヲ盡スヲ得ベキ人タラシメ、父母ニ對シテ、唯尊敬謝恩ノ關係ノミチ有スベキノ日ニ至リテ、父母ハ始テ其事ヲ卸サントノ契約ヲ爲スナリ、更ニ之

ヲ約言スレバ、其子ヲ養成シ、相當ノ事ヲ以テ教育シ、一個ノ職業ヲ授ケ、之ヲシテ社會ノ必要方正ナル人タラシムルヲ得テ、ル者ハ、修身法ニ於テ婚姻ヲ許ササル所トス、

父母ノ義務ハ如何ナル身分ニ在テモ行フテ得ヘシ

吾人ガ子ニ對スルノ義務ハ、之ヲ生ムニ先ナテ豫知セザルヲ得ズ、然リト雖モ之ヲ豫知スルノ極、妄リニ此ノ義務及ビ此ノ義務ノ根原タル婚姻ヲ拒ムニ至ルベカラズ、實ニ吾人ハ我意ニ自ラ満足スル所ノ地位ヨリ更ニ優リタル身分ヲ以テ子ニ授クベキノ義務ヲ有セズ、例ヘバ正直ニシテ勉勵スル所ノ職人ニ在テハ、其子ニ必要ナル物品ヲ供給シ、以テ養成シタルノ後、唯之ニ自ラ生活シ、及ビ其家族ヲ維持スル

ニ是ル所ノ職業ヲ教フルヲ以テ、既ニ義務ヲ盡セリトス、モシテスキ、一云、ヘルコアリ、父ハ子ヲ養成セザルヲ得ズ、然レニ遺物ヲ必ズ譲ルベキノ義務ナシト、此ノ語ヤ善ク真理ニ適セリ、今吾人ハ此ノ語ヲ擴充シテ云ク、此ノ職人ノ能ク義務ヲ盡セルコトハ、夫ノ死後ニ遺ス所ノ相續人ヲ教フルコトヨリ、寧ロ相續物ヲ増殖センコトニ注意シタル富人ノ右ニアリトスト、

教育及ビ養育ノ例ハ父母ノ義務ナリ

父母タル者、其子ガ獨立スルヲ得ベキノ齡ニ至ルマデ之ヲ養育シ、之ニ職業ヲ教フルハ、尙ホ有形ノ生活ヲ助クルニ過ギズ、即チ肉體ノ養育タルニ過ギザルナリ、而シテ父母ハ此



ノ義務ヲ行フニ止ルベキモノニ非ズ、肉體ノ養育ニ加フルニ、靈魂及ビ智識ノ養育ヲ以テシ、身體上及ビ營業上ノ教育ニ加フルニ、道德上及ビ學術上ノ教育ヲ以テセザルヲ得ズ、而シテ學術上ノ教育タルヤ、父母ノ必ズシモ自ラ之ヲ與フルヲ得ルモノニ非ズ、故ニ能ク整成セル社會ノ如キハ、必ズ學校ヲ公立シ、貧者ノ子ハ公費ニ由リ、富者ノ子ハ自費ニ由リ、以テ各自ノ能力及ビ地位ニ適當シタル教育ヲ受クルヲ以テ常トス、然リト雖モ道德上ノ教育ニ至テハ、父母ノ必ズ自ラ行ハザルヲ得ザル所ノ義務ニシテ、人間ニ在ル何ノ勢力モ、之ヲシテ此ノ義務ヲ免レシムルヲ得ズ、實ニ此ノ教育

ニ在テハ、書籍モ教師モ尙ホ十分ナル功ヲ奏セズ、何ノ書籍モ何ノ教師モ、父母ニ代テ日常善行ノ例ヲ子ニ示スヲ得ザルナリ、且ツ夫レ此ノ教育タル、父ハ嚴ニ由リ、母ハ慈ニ由リ、以テ同時ニ之ヲ行フニ非ザレバ、十分ナルヲ得ベカラズ、蓋シ此ノ事業ノ困難ナルヤ、命令スル所ノ威權ト(父)撫慰スル所ノ説諭ト(母)ヲ併セ要求スル所ノ快心ト(父)寛緩ナル所ノ堅忍ト(母)ヲ併セ茅塞ヲ開ク所ノ智識ト(父)茶苦ヲ慰ムル所ノ愛情ト(母)ヲ合セ、以テ之ヲ其子ニ施スモ、決シテ過多ナルヲ覺エザルベシ、且ツヤ父母ガ俱ニ其子ヲ視テ、直ニ自己ノ身トシ、又其子ノ故ヲ以テ、互ニ益愛情ヲ固クスルハ、此ノ

協力事業ニ由ラザルヲ得ズ、又婦ガ婚姻ヲ神聖トスル所ノ  
道徳上ノ平等ヲ保ツモ、亦之ニ由ラザルヲ得ザルナリ、

父母ノ權  
利

父權ノ基  
礎及ビ制  
限

父母ノ權利、即チ吾人ガ偏ニ名ゾケテ父權ト稱スルモ、實ハ  
父ト母トニ共通スベキ權利ハ、父母ノ必ズ其子ヲ養成セザ  
ルヲ得ザルノ義務ヨリ生ズルナリ、然ルニ往時羅馬ノ如キ、  
妄リニ此ノ權利ヲ皇張シ、無限ニシテ恐ルベキモノトナシ  
タルノミナラズ、或ハ此ノ權利ニ基キテ、奴隸ノ制ヲ至當ナ  
リト論シタルモ、ノアルニ至レリ、然リト雖モ人定ノ約束ヲ  
脱シタル修身法、即チ正理ニ是レ據ル所ノ自然法ニ問ヘバ、  
前述ノ義務ヲ除クノ外、別ニ此ノ權利ノ基礎アルヲ見ズ、實

ニ父母タル者、唯無意ノ天性ニ順テ子ヲ生ノリト云フ一事  
ヲ執テ、無限ノ權力ヲ具セルモノトシ、之ニ因リテ義務ナキ  
者ニ權利アルヲ聽サマル所ノ道徳ノ規則ヲ撲滅スルヲ得  
ンヤ、是レ吾人ノ決シテ了解セザル所ナリ、吾人ノ見ニ據レ  
バ、子タル者ガ、其父母ニ對シテ有スル所ノ義務ヲ張大ニシ、  
之ヲソ人間ノ性質ヲ失ヒ其自由及ビ智ヲ使用スルヲ得ズ  
シテ、以テ輕賤ノ所有物タラシムルニ至ルベキモノニ非ズ、  
若シ之ヲ以テ亦是レ子ノ父母ニ對スル義務トセバ、公義及  
ビ正理ノ思想ハ、果シテ何クニカ存スルヲ得ベキ、故ニ父權  
ハ全ク父ガ子ニ對スルノ義務ニ隸屬スルモノニシテ、又其

子ヲ教育スルニ必要ナル手段ナリト云フヲ得ベシ、是ヲ以テ此ノ權利ハ教育事業ノ已ニ終ルニ方リ、亦之ト與ニ終ラザルヲ得ザルナリ、且ツ夫レ子タル者、已ニ人ト成リタル後モ、尙ホ諸般ノ義務ニ由リ、恒ニ其父母ト連結スベキノ關係ヲ免レズト雖モ、舊ニ仍リテ之ニ從屬スルヲ要セザルナリ、是ニ於テカ佛國民法ノ如キ、父權ヲ解クノ年齡ヲ二十一歳ト認定シ、唯婚姻ノ一事ニ向テ、此ノ年齡ヲ二十五歳ト爲シタルノミ。

父權ハ社會ノ法律及ビ利益

父權ノ制限ハ、吾人ガ前ニ述ベタル所ノモノニ止ラズ、此ノ制限内ニ於テモ、亦無限ナルヲ得ズ、而シテ社會ノ法律及ビ

ト一致セザルヲ得

利益ト一致セザルヲ得ザルナリ、今之ヲ説明センニ、抑モ社會ハ強者ト弱者トノ間、即チ童子ト成人トノ間ニ在テ、常ニ公義及ビ順序ヲ保護セザルヲ得ザルノ義務アリ、故ニ又父ト子トノ間ニ在テ、其關係ノ幾分ヲ規定スベキノ權利ヲ有スルモノトス、且ツ社會ガ此ノ權利ヲ有スルハ、唯父子ノ公義ニ益アルノミナラズ、又其各自ノ安寧ヲ保護スルニモ必要ナリトス、何トナレバ、家族ノ組織此ノ如クナレハ、社會ノ組織亦此ノ如クナラザルヲ得ズ、幼時ニ方テ與フル所ノ教育此ノ如クナレバ、成人後ニ至テ生ズル所ノ公衆ノ精神、制度、風俗、亦此ノ如クナラザルヲ得ザル、是レ理ノ當ニ然ルニキ

所ナレバナリ、例ヘハ家族ニ於テ長子ノ權盛シナラシカ、必ズヤ其國ニ於テ貴族ノ權盛シナラザルヲ得ズ、又之ニ反シテ、諸子ノ權各平等ナラシカ、其化ノ風俗ヲ成スヤ、必ズ民權上及ビ政事上ノ平等ヲ生ズベキナリ、今佛國ノ民法、遺言ノ權ニ制限ヲ定メタルモ、畢竟是ニ由ルナリ、而シテ考察ヲ轉シテ教育ノ事ニ及ボスモ亦之ト同シキモノアリ、例ヘハ人民ヲ支配スルニ必須ナル法律ヲ賤ミ、社會ヲ整頓スルニ緊要ナル制度ヲ蔑ミシテ、以テ教育セル所ノモノハ、向來其法律制度ノ變更ヲ意トシ、其極ヤ革命ヲ行ハシマテ望ムニ至ルヲ必セリ、

父權ニ沿革アルヲハ、猶ホ吾人及ビ社會ニ沿革アルニ異ナラズ、今往古ニ溯リテ之ヲ論ズレバ、實ニ子ハ唯父ノ所有物タルニ過キズ、即チ其奴隸タルニ過キザルナリ、且ツ「ファミーイユ」家族ノ義ト云フ西語ノ字源ヲ討メレバ、是レ奴隸ノ義ヲ表スル「ファミリユス」ト云フ古語ヨリ出タルモノニシテ、此ノ語ヲ以テ視ルモ、往古羅馬ニ於テ家族ノ組織果シテ此ノ如クナリシヲ知ルベキナリ、當時父ガ其子ニ向テ生殺與尊ノ權ヲ有セシコトハ、恰モ夫ノ妻ニ於ケルガ如シ、此ノ權タル壓制無限ニシテ均シク其子及ビ其子ニ從ヘル妻子及ビ其子ノ所有物ニ對シテ行フヲ得タリ、又印度ノ如キ百西亞ノ如

キ、東方諸國ニ於テモ、猶典ノ牧主時代ニ於テモ、父權ハ此ノ如キノ勢力ヲ有スルノミナラズ、殆ド宗旨上ノ性質ヲ有スルニ由リ、其權内ノ諸行爲ハ、神聖ニシテ犯スヲ得ザリキ、其他スバルト邦希臘ノ邦名ノ如キハ、政府父ニ代テ父權ヲ使用シタルノ差異アリト雖モ、小兒ノ情況ニ至テハ、全然同一ナリトス、此ノ邦ニ於テ小兒ヲ保存シ、養成シ、教育セシハ、小兒ノ身ノ爲メニ非ズシテ、唯國ノ爲メニシ、又人ト成スノ爲メニ非ズシテ、唯兵士國民ト成スノ爲メナリキ、故ニ其生兒ノ勢力此ノ希望ニ稱ハザルモノアレバ、斷然之ヲ殺シテ以テ非理トセズ、其殘酷ナル亦甚シキカナ、其後封建ノ世ニ及ビ、人間

一般ノ利益及ビ家内ノ公義ト名ヅクニキ、諸子ノ平等ハ、遂ニ廢絶ニ歸シテ、種族ノ利益唯其威權ヲ逞クスルニ至リタリ、故ニ嫡子ハ獨リ父ノ稱號、官位、及ビ身代ヲ襲領スルモ、他ノ諸子ハ其力自ラ取ルヲ得ベキモノ、外ハ、一毫モ之ヲ侵スヲ得ズ、實ニ父ハ君前ニ於テ形ヲ亡ヒ、諸子ハ嫡子ノ前ニ於テ跡ヲ屏メタリト言フモ、誣言ニハ非ザルベシ、特リ近時ノ法律ニ在テハ、正理ニ依テ家族ノ關係ヲ規定シ、父權ヲ其相當ノ目的部内ニ取締シ、又兒子ノ爲メニ平等ノ原則ヲ確立セリ、而シテ佛國法律ヲ以テ最モ精嚴ナリトス、蓋シ此ノ平等ノ原則タル、此ノ國ノ法律ニモ許サレタル一二ノ特例

ノ外ハ、總テ父母ノ自然ノ義務及ビ自然ノ感情トニ存スベキモノナリ、

### 第十六章

父母ハ已ニ其子ニ對シテ行フベキ義務ヲ有スレバ、子モ亦父母ニ對シテ行フベキ義務ヲ有セザルヲ得ンヤ、其未ダ父權ヲ免レザルモノニ在テハ、順從ハ則チ此ノ義務ノ第一ニ居ルナリ、何トナレバ、如何ナル父母ト雖モ、若シ其命令ニシテ聽カレズ、其助言ニシテ用キラレズ、其威權ニシテ行ハレザル所ハ、社會ト自然トガ父母ニ命ズル所ノ職務ヲ行ヒ、其

子ノ未ダ成年ニ至ラザル前  
父母ニ對シテ有スル所ノ義務

子ヲ教育シテ、人生ノ目的ニ向ハシムルヲ得ザルベクナリ、然リト雖モ定メテ義務トシタル所ノ順從ハ、唯己ムヲ得ザルノ心ヨリ出ダ、父母ノ命ズル所ヲ實行スルノ謂ニ非ズ、其真心眞意ヲ以テ之ヲ遵奉スルノ謂ナリ、而シテ其心意ノ基ク所ヲ問ヘバ、父母ノ命令ハ、必ズ吾人ノ幸福ヲ助ケ、必ズ吾人ノ利益ヲ圖ルヲ目的トスト信ズルニ在リ、語テ更ヘテ之ヲ云ヘバ、子トシテ父母ニ順從セントスルニ、其命ズル所ハ、全ク正理ニ適ヒ、其令スル所ハ、盡ク慈愛ニ出ダ、其言フ所ハ、能ク前知ニ應ジ、此ノ外決シテ切誠確實ナル案内者ナカルベキヲ心裏ニ信認セザルヲ得ズ、且ツ父母ニシテ

尊親愛  
及ヒ薄恩

若シ錯誤アルモ、之ニ抗言スルハ、子ノ職務ニ非ザルナリ、子ハ唯父母ガ經驗ト及ビ我ヲ愛スルノ心トニ由テ漸次ニ其心ヲシテ明悟セシムルノ期アルヲ待ツベキノミ  
子ガ父母ニ對シテ行フベキ順從ハ、前ニ述べタル如シト了解スルハ、即チ此ノ順從ヲ以テ尊崇及ヒ親愛ノ二事ト相離レザルモノト爲シタルナリ、抑モ父母ハ唯其德尊ク、其智廣ク、其齡高キノミナラズ、吾人ニ對シテ義務ヲ盡シ、義務ヲ盡スニ由リテ權利ヲ得、權利ヲ得ルニ由リテ、吾人ノ上ニ高尚ノ地位ヲ占ムルモノナリ、吾人如何ニシテ之ヲ尊崇セザルヲ得ンヤ、又父母ハ吾人ノ肉體ヲ養育スルノミナラズ、又靈魂智

十二

識ヲ教育シテ、人生ニ於ケル一箇ノ地位ヲ與フルノミナラズ、又社會ニ於ケル一箇ノ等級ヲ與ヘ、且ツ吾人ヲシテ此等諸般ノ幸福ヲ得セシメ、若シクハ之ヲ保守セシメシガ爲メニハ、如何ナル犧牲ニ當ルモ厭ハズ、如何ナル辛苦ニ遭フモ恨ミズ、堅忍不拔ノ心ヲ以テ、人生免レカタキ諸般ノ艱苦ニ堪ヘタルモノナリ、吾人如何ニシテ之ヲ親愛シ、且ツ其恩ヲ謝セザルヲ得ンヤ、

夫レ順從、親愛、尊崇ノ蘊集シテ一個ノ感情ヲ爲スモノ、之ヲ名ツケテ孝敬ト云フ、而シテ此ノ感情タル殆シト宗旨上ノ性質ヲ有スルモノニシテ、吾人ガ萬物ノ父

神ヲニ對シテ行フ

孝敬

所ノ尊敬ニ似タルモノアリ、何トナレバ父權ハ殆ンド神權ニ均シキ威力ヲ有スルモノナレバナリ、故ニ西國ノ人ガ子ノ父母ニ對シテ有スル所ノ義務ハ、總テ「ビエテ」、フガリヤル子ノ父ヲ以テ神トシテ之ニ事フルヲ云フト云ヘル語中ニ含蓄スベシト云ヒシモ、亦理ナキニ非ザルベシ、

孝敬ノ語中ニ囊括シタル三元素順從親愛尊崇ヲ云フハ、一トシテ欠ク

ベキモノニアラザルヲハ、前ニ述べタル如シト雖モ、其中ニ

亦遵守シテ終身スルヲ要セザル一元素アリ、即チ順從是レ

ナリ、抑モ順從ハ吾人ガ已ニ論述シタル如ク、唯教育ニノミ

必要ナルモノナレバ、教育ノ事業已ニ終リシ後ニ至リテハ、

子ノ已ニ成年ニ至リタル後父母ニ對シテ有スル所ノ義務

仍ホ存スルヲ得ズ、故ニ子ヲ教育スルノ事業ニシテ已ニ終

リ、子ヲ順從セシムルノ目的ニシテ已ニ達シ、子已ニ人ト成

テ諸般ノ能力ヲ享有スルヲ得ルモ、順從ノ義務隨テ了ル

ベキナリ、其レ然リ、父ノ子ニ對シテ行フヲ得ベキ威權ハ、原

ト天ノ命ズル所ニ出タル如シト雖モ、其命ズル所ハ、一時ニ

止マレルモノニシテ、其期限ハ人法、及ビ神法即チ神ガ我ガ

真心ニ記銘シタル法律ノ確定スル所トス、然レモ父已ニ命

令ノ權利ヲ失ヒ、子已ニ順從ノ義務ヲ脱スルモ、子ハ父ニ對

シテ尚ホ終身之ヲ尊崇シ、之ヲ親愛シ、及ビ其恩ヲ謝セザル

ヲ得ズ、就中謝恩ノ如キハ、孝敬中ノ最も歴久變易セザルモ



婚姻ノ時  
ニ方テ子  
ノ父母ニ  
對スル義  
務

ノニシテ、最モ神聖ナルモノトモリ、且ツ其事タル、過去ノ恩惠ヲ記スルニ出デ、未來ノ恩惠ヲ望ムニ由ラザルヲ以テ、亦親誼中ノ最モ愛己私心ヲ離シタルモノト云フヲ得ベシ。此ノ感情ハ、吾人ガ已ニ述ベタル如ク、我生命ト其終ヲ同クシ、我良心ヲ停止スル所ノ事項ニ遭ハザルヨリハ、決メ停止セラル、フナシ、而シテ我一生中此ノ感情ノ殊ニ發現セザルベカラザル所ノ嚴切ナル機會ヲ婚姻ノ時トス、故ニ佛國ノ法律、婚姻ノ事ニ限り、于ノ成年ヲ二十五歳ト定メタルモ、理ナキニ非ザルナリ、抑モ家族中ノ年少男女ガ、其妻又ハ其夫ヲ擇定スルハ、其人一身ニ止ル所ノ行爲ニ非ズ、家族全體

ニ向テ變化ヲ生ズルノ大ナルモノナリ、而シテ此ノ變化ヲ生ズルニ方リ、若シ父母ノ承諾ヲ經ズシテ、自己ノ意ヲ以テ專斷スルトキハ、決シテ不正ノ責ヲ免レザルベシ、況ンヤ家族ニ列スベキ價ナキモノ、家族ニ汚辱ヲ蒙ラシムベキモノ、或ハ家族ノ平和ヲ擾亂スベキモノニ、最モ神聖ナル名稱權利ヲ附シテ、引テ之ヲ家中ニ入ル、ヲヤ、故ニ此ノ重大ナル機會ニ際シテ、ハ、勉メテ父母ノ威權ニ屈シ、尊敬ト謙讓トヲ主トシテ、其助言ヲ聽カザルベカラズ、父母ニシテ若シ非理ヲ固執スルハ、從容開諭スルヲ務メ、而シテ或ハ之ニ抗論スルハ、吾人ガ已ニ諸般ノ說諭手段ヲ盡シタル後ニ非ズレ

バ、正當ナラザルナリ、吾人ノ之ニ抗スルハ、我名譽ニ益ナク  
シテ我幸福ヲ撲滅スベキ頑固驕慢壓制ノ僻、說ニ對スル時  
ニ非ザレバ、正當ナラザルナリ、

## 第十七章

今家族修身學ノ局ヲ結バンニハ、尙ホ最後ノ一問題アリテ  
存スルナリ、是ヲ諸子ガ幾何ノ年齢ニ至ルモ、互ニ相行ハザ  
ルヲ得ザル所ノ義務トス、今其論ヲ左ニ掲グ、

兄弟ト呼ビ姊妹ト唱フル所ノ人ハ、相互ニ如何ナル關係ヲ  
有スルヤ、即チ血脈中ニ同一ノ血液ヲ藏メ、腦漿中ニ同一ノ

諸子ハ相  
互ノ義務  
ヲ有ス

此ノ義務  
ノ基礎

兄弟ノ感  
情

教育ヲ蓄ヘ、同一ノ手ニ創造セラレ、同一ノ規則ニ裁制セラ  
レ、同一ノ家ニ生長シ、同一ノ苦樂ヲ受ケ、同一ノ物質ヲ以テ  
作ラレタル靈魂ト肉體トチ有スルモノニ非ズヤ、故ニ兄弟  
姊妹ノ間ニハ、他人ヨリ更ニ親密ナル義務ノ在ルアリテ之  
ヲ連結スルハ、固ヨリ論ヲ待タザルナリ、吾人之ヲ以テ然ラ  
ズトセントスルモ、我ガ最モ自然ニシテ最モ勢力アル感情  
ノ、心裡ニ興起シテ肯ゼザルヲ如何ンセン、夫レ兄弟姊妹  
ト云フ者ハ、生育及ビ教誨ヲ與ニスルノ事ニヨリ、自然ニ相  
互ノ恩愛ヲ固クシ、相互ノ誠實ヲ輸シ、無限ノ信用ヲ起シ、其  
相視ルヲ恰モ我ノ吾ニ於ケルガ如ク、互ニ異體ノ觀ヲ爲サ

ス、彼レノ此レニ依頼スルコト深ク、此レノ彼レニ依頼スルコトモ亦深シ、故ニ吾人が眞實ナル友人ヲ指シテ兄弟ト呼ブモ、兄弟ハ天ノ與フル所ノ友人ナレバナリ、又吾人が人類間ニ存スルヲ得ベキ和合仁慈ノ極ヲ推シテ、四海同胞ト稱スルモ、畢竟兄弟ノ情厚キニ取テナリ、

兄弟ノ情トハ、仁慈ノ異名タルニ過ギズ、此ノ情ヲシテ漸次人間全體ニ擴充セシメントセバ、先ヅ家族中ニ行ハル、事ヨリ始メザルヲ得ズ、實ニ家族ト雖モ、此ノ情ヲケレバ一日モ成立ツベキニ非ザルナリ、何トナレバ、此ノ情タル家族構結ヨリ生ゼザルヲ得ザル所ノ結果ナレバナリ、其親睦永續チ

家族中ニ  
存スル兄  
弟ノ情ハ  
四海同胞  
ノ源泉ナ  
リ

助クル所ノ最強勢力ノ一ナレバナリ、兄弟ノ情ハ其重シズベキコト此ノ如シ、故ニ此ノ情ハ唯家族ノミナラズ、人間社會一般ノ基礎タル所ノ徳ナリトス、然ラバ則チ此ノ如キ徳ニシテ、豈感情タルニ止マルノ理アラシヤ、吾人ノ見ニ據レバ、相互ノ云爲ニ發シ、相互ノ犠牲ニ現ル、モノニ非ザレバ、眞ノ兄弟ノ情ニ非ズ、如何ナル場合ニ際會スルモ、共ニ苦樂ヲ同クシ、我レ彼レヲ信ズル如ク、彼レ亦我レヲ信シ、或ハ遮ニ助言ヲ與へ、或ハ互ニ信用ヲ借シ、家産モ之ヲ割キ、腕力モ之ヲ分ナ、常ニ相往來シテ以テ相扶持センコトヲ欲セザル者ハ、眞ニ兄弟ヲ愛スル者ニ非ザルナリ、實ニ兄弟ノ情ハ、信神ノ

情ト同シク、之ヲ活用セザレバ、死灰モ甞ナラズ、且ツ此ノ如キ至樂ノ德ヲ實行スルヲ欲セザルモノナカルベシ、何トナレバ、人心ハ必ズ愛情ヲ起サンコトヲ要スルモノナリト爲シ、又其中ニ就テ、最モ永續スベク、最モ勢力アル愛情ハ、吾人ト俱ニ生シ、吾人ト俱ニ長シタルモノナリト爲サバ、凡百ノ德ヲ舉テ、其必然褒賞ヲ得ベキモノ、未ダ此ノ德ヲ行フガ如ク確實ナルモノアラザレバナリ、而シテ此ノ情ノ中ニ在テ、其勢力ノ最モ強ク、其恩愛ノ最モ深キモノヲ問ヘバ、兄弟ト兄弟トノ間ヲ以テ答ヘンヨリハ、寧ロ兄弟ト姉妹トノ間ヲ以テ答フベシ、實ニ此ノ外ニ此ノ如ク温和ニノ私欲ノ愛情ヲ

家族中ノ  
年長者ガ  
年少者ニ  
對スルノ  
義務

離レタル神聖ナル交際ヲ求メンニハ、天堂ニ在ルニ非ザルヨリハ、得テ見ルベカラザルナリ  
而シテ兄弟ノ情ハ、右ノ如キ相互ノ扶助親愛ニ止ルモノニ非ズ、時トシテハ自己ノ利益ヲ棄テ、姉妹ニ在テハ母ノ如キ職務ヲ執リ、兄弟ニ於テハ父ノ如キ職務ヲ執ラザルヲ得ズ、此ノ場合ハ家族ノ父母死亡シテ、其親族中之ニ代ルベキ能力、又ハ意思ヲ有セザル時ニ在リトス、此ノ如キ悲慘ノ場合ニ方テハ、其年長者タルモノ、年少者ニ對シテ、父母ノ職務ニ代ラザルヲ得ズ、已ニ父母ノ保護ノ結果ヲ領取シ、已ニ教育ノ利益ヲ享有シタル者ハ、運命ニヨリ之ヲ享有セザル者

アル時ハ、移シテ之ニ與ヘザルヲ得ズ、抑モ遺物ノ家族ニ於ケルハ、唯其分配スルヲ得ベキ有形ノ財産ノミヲ指スニ非ズ、家中教育ノ結果ヲモ含蓄スルモノトス、而シテ遺物ハ衆家族ノ爲メニ貯ヘタルモノニシテ、一個人ノ之ヲ占奪スベキニ非ザルガ故ニ、前ニ生レタルモノハ、宜シク後ニ生レタル者ニ、此ノ教育ノ結果ヲ分配セザルベカラズ、若シ之ヲ分配セザレバ、占奪ノ罪ヲ免ル、ヲ得ザルナリ、是ニ由リテ視レバ、夫ノ有名ナル一經濟學士ガ後レテ至ルモノハ、生活ノ食卓ニ向テ七匙ヲ執ルコトヲ得ザルモ、止ムコトヲ得ザルナリト云ヒシ語ハ、此ニ適用スベカラズ、若シ之ヲ適用セバ、父母ノ

愛ノ最モ神聖ナル義務ニ背クベレ、

家族連帶ノ義務ハ、假ヒ家族ノ者ヲシテ互ニ愛情ナカラシムルモ、亦名譽ノ感情ニヨリテ之ヲ爲スヲ得ベシ、其故何ゾヤ、凡ソ人ハ其名譽ノ汚穢ヲ蒙ルニ堪フルヲ得ザルニ、其家族ノ者、不學貧困、無頼ニ陥ルヲ見テ、恬然トシテ救ハザレバ、必ズ其家名ヲ汚スベケレバナリ、夫レ此ノ連帶ノ事タル、往々其家族ヲ累ハスベシト雖モ、亦以テ其家族ヲ保ツヲ得ベク、且ツ之ヲシテ勢力ヲ増シ、永續ニ勝ヘシムルコト多キノミナラズ、國モ之ガ爲ニ隨テ勢力ヲ得ベキナリ、嗚呼吾人此ノ連帶ヲ免レント欲ストモ得ンヤ、何トナレバ、輿論ハ吾人ノ

意如何ニ關セズ、之ヲ以テ吾人ニ命ズレバナリ、此ノ點ニ於テハ、輿論ニ亦天ノ代辯官ナリト謂ハンモ不可ナルナキガ如シ、

第二類 一般社會 即チ家族ノ外ニテ他人ニ對スル所ノ義務

第十八章

夫レ人ノ社會ヲ結ブヤ、吾人ガ己ニ論述シタル如ク、家族ヲ立ルヨリ始ルト雖モ、豈唯是ノミニシテ足レリトスルヲ得ンヤ、人若シ我ガ牆外ニ在テ何人トモ交接セス、毫モ之ト利益、須要、感情、思想ヲ共通スル無ク、隨テ之ニ對シテ何ノ酌恕

社會ナク  
レハ家族  
ハ存在ス  
ルヲ得ス

チモ爲スヲ要セス、何ノ義務ヲモ行フヲ要セサルキハ、家族モ亦存在スルヲ得サルベシ、實ニ實益ノ點ニ就テ論スルモ、道德ノ序ニ就テ考ルモ、其與ニ交ル所ハ諸般ノ須要ヲ給スルヲ得ザル所ノ家族ノミニシテ、若シ我ガ牆外ニハ唯其仇敵ノミチ有スルモノナラバ、其身ハ破滅ニ陥ルヨリ他ナカルベシ、今假リニ家族ハ此ノ如キ時ニ始マルヲ得タリト想像スルモ、必スマ貧苦ノ中ニ亡ビザルヲ得ザルベシ、

家族ト社會トノ干係タル、唯此ノ如キニ止マラズ、原來人ニシテ社會ヲ結ブノ天性ナク、又人性ヲ重シ、ズルノ念慮ナク、人ハ相互ノ義務アリテ、互ニ相使用セラル、爲メニ、創造セ

社會ナク  
レハ家族  
ハ興起ス  
ルヲ得ス

ヲレタリトノ確信ナカリセバ、家族ハ決シテ興起スルヲ得ザルベシ、若シ此ノ確信ヲシテ吾人ノ心理ニ存セズ、社會ヲ結ブノ事ヲシテ、我須要ノ第一ニ居ラザラシムバ、如何シテ一タビ男女接近スルノ自然法ヲ遵守シタル後、終身其初ヲ變ゼズ、既ニ老羸ニ至リ、壯年愛戀ノ情既ニ殄滅シタル後モ、尙ホ相愛シ相慕フノ理アルヲ了解スルヲ得ンヤ、且ツ社會ハ自己ヲ保存センガ爲メ、又其保護スル所ノ人間ノ品位ヲ重ンズルニ由リ、婚姻ヲ神聖ナルモノトシ、父母ニ其子ヲ養育スルノ義務ヲ科シタルニ非ズヤ、而シテ人若シ教育ノ目的ハ何ニ在ルヤト問ヘハ名譽ヲ以テ其地位ヲ保テ、人間必

要ノ職業ヲ爲スヲ得ルノ人ヲ造ラント欲スルノ外ニ出ザルナリ、且ツヤ正理ヨリ了解スル所ノ家族ノ義務ハ、社會ガ其法律ヲ以テ要求スル所ト全ク相同シ、是故ニ社會ノ基礎ヲ立ル所ノ原理ハ、家族ニ在テモ、亦眞ノ基礎ニシテ、此ノ原理ナケレバ成立ツヲ得ベカラザルモノトス、且ツ家族ニシテ若シ社會ノ爲メニ人ヲ作ラザルモノトセバ、毫モ其世ニ存スルノ理由ナキナリ、

然リ而シテ社會モ亦人性ヲ根據トスルニ非ザレバ存セザルベシ、即チ人ヲシテ固ヨリ社會ノ外ニ在テ生活スルヲ得ズ、生來社會ヲ結ブヲ好ムモノナラザラシメバ、吾人ハ其成

立ツ所以ヲ了解スルヲ得ザルベシ、人ノ性タル社會ヲ結ブ  
 ナ好メルコトハ、鑿々明白ニシテ、之ヲ證明スルモ徒勞ニ屬ス  
 ルガ如シ、其事タル原ト我道德上及ビ肉體上ノ能力ノ足ラ  
 ザル所アルニ出デ、我諸般ノ須要及ヒ情智ニ由リテ證明セ  
 ラル、モノトス、第一肉體上ヨリ之ヲ視レハ、人ニソ社會ノ  
 助ナカラシカ、如何シテ生活シ、保身シ、寒暑ノ酷烈ニ勝ヘ、猛  
 獸ノ攻撃ヲ防グヲ得ンヤ、又道德上ヨリ之ヲ視レバ、人ノ孤  
 立チ惡ムコトハ、恰モ其死チ惡ムト異ナラズ、蓋シ人ハ都テ他  
 人ノ音聲ヲ聞キ、容貌ヲ見ルヲ以テ尤モ必要トス、而シテ他  
 人ト與ニセザレバ、但満足スルヲ得ザル所ノ感情、及ビ愛情

ガ我心中ニ充滿スルヲ覺ルナリ、人若シ此ノ情ヲ自己ノ心  
 裡ニ包藏セザルヲ得ザルキハ、此ノ情ハ忽チ變ジテ苦惱若  
 シクハ狂癡ト爲ルベシ、夫ノ牢獄ニ禁錮セラレタル罪人ガ、  
 唯人聲ヲ聞カザルノ一事ニ由リテ、是非ノ心ヲ失ヒ、口舌ノ  
 使用ヲ忘レタルコトハ、人ノ往々見ル所ナラズヤ、且ツ人ハ思  
 慮シ、言語スル所ノ動物ナリ、彼レ其思考ヲ發達シ、又之ヲ發  
 達シタル後ニ保存セントセバ、必ズ言語ノ助ヲ假ラザルヲ  
 得ズ、而ルニ言語ハ、社會ノ關係ノ存スルコトヲ假定スルモノ  
 ナリ、サレバコソジャンヂヤツク、ルーソーハ、原來社會ハ自然ニ  
 背ケル景狀ナリトノ僻說ヲ作スモノナレバ、此ノ說ヲ圓フ



セシガ爲メニ思フ所ノ人ハ朽腐セル動物ナリト云フニ至  
レリ、

社會ハ人  
ト其始テ  
同クス

人ハ原來社會ヲ結ブテ好ムル靈物ナリトノ説ヲシテ、果シ  
テ信ズベカラレヌバ、社會ハ人ト其始チ同クセリト云ハザ  
ルヲ得ズ、即チ人ハ其始ヨリ社會ヲ結テ生活シ、此ノ後モ亦  
社會ヲ結テ生活スベキコト、恰モ魚ノ水ニ於ケルガ如シト  
定論スルモ、決シテ誤謬ニアラザルベシ、實ニ吾人ハ經驗ニ  
據リ、未ダ曾テ人ノ社會ヲ結バザルモノアラザルコトヲ證  
明ス、彼ノ未開野蠻ノ人種ノ如キモ、尚ホ社會ノ形情ヲ爲セ  
リ、何トナレバ彼等ハ、各自ニ種族ヲ結テ生活シ、種族ゴトニ

人ノ自然  
ノ景狀ハ  
社會ノ景  
狀ニ非ズ  
シテ何ゾ  
ヤ

會長アリ、又法律ニ代フベキノ慣習及ビ古來ノ口碑アレバ  
ナリ、其中或ハ山林中ニ孤居シテ、全ク言語ヲ絶シ、人ノ品位  
ヲ失ヒタル徒ナキニアラザルモ、此等ハ皆不慈ノ父母ニ棄  
ラレタル兒輩ニ過ギザルノミ、  
是ニ由リテ觀レハ、社會ハ人造ノ事業ニ非ズ、即チホツベス  
及ビルソー等ノ理學者ガ主張シタル如キ、純然タル契約  
ノ結果ニ非ズシテ、神ノ制度ニ出タリト云フテ得ベシ、何ト  
ナレバ人ヲ造ルノ事ニ由リテ社會ヲ創立セシハ、神ノ所爲  
ナレバナリ、吾人ハ社會ヲ除テ其餘ニ人ノ自然ノ景狀アル  
ヲ見ズ、前ニ擧ゲタル理學者等ハ、社會ノ景狀ノ未ダ現セザ

ル前ニ、既ニ自然ノ景狀アリトシ、此ノ自然ノ景狀ト社會ノ順序トヲ區別シタリト雖モ、此ノ如キ自然ノ景狀ハ、人間至遠ノ遺聞ニモ曾テ其跡ヲ存スルナシ、實ニ人ハ果シテ社會ヲ結ブカ爲メニ生レタルモノナリセハ、如何シテ其數百年間社會ニアラザル景狀ニ於テ、生活シタルヲ了解スルヲ得ンヤ、又之ニ反シテ、人ハ社會ニアラザル景狀ニテ生活スベキモノナリセバ、如何シテ其社會ヲ立ルノ思想ヲ起シ、又之ヲ立ルヲ得タルコトヲ了解スルヲ得ンヤ、若シ此ノ第二ノ臆說ヲ可ナリト假定シ、即チ社會ハ自然ノ景狀ナラズト假定セバ、社會ハ契約ノ結果ナリト定論スルモ理ナキニ非ザルベシ、然リト雖モ人ヲレテ原來地上ニ散居シタル動物ニシテ、言語及ヒ其他ノ通意手段ナク、且ツ其孤立ヲ好メル天性ト、殘忍ニ果セル疑心トニ由リ、互ニ相惡マザルヲ得ザル所ノモノナラシメバ、此ノ如キ契約ヲ成シ得タリトハ、誰カ之ヲ了解スルモノアラシヤ、故ニ人間凡百ノ契約ハ、社會已ニ立タルノ後ニ在ルヲチ假定スルモノトス、是レ吾人ガ社會ハ、契約ニ先ナテ存スト云フ所以ナリ、

## 第十九章

社會ハ正理ノ法ニ從ハザルヲ得ザル所ノ自由ニシテ、良知

アル靈物ヲ以テ構成セルガ故ニ、社會モ亦此ノ法律ヲ基礎  
トシ、之ヲ守ルニ由リテ生存スルヲ得ルナリ、言フ改メテ云  
ヘバ、社會全體ハ社會ヲ構成スル所ノ各個人ノ如ク、修身法  
ノ無限ノ命令ニ從ヒ、義務ノ不變ノ規則ニ從フベキモノト  
ス、故ニ吾人ハ、吾人自己ニ對スル如ク、他人ニ對シテモ亦義  
務ヲ有セザルヲ得ズ、然リ而シテ他人ニ對スル義務ハ、自己  
ニ對スル義務ノ中ニ含蓄セラル、モノニシテ、同様ノ原理  
ニ生ジ、同様ノ目的ニ向フモノナリ、  
何故ニ吾人ハ諸人ヲ我同類ト名ヅクルヤ、是レ他ナシ吾人  
ハ、各人種ニ分ルベキ外部ノ差異ヲ有スルモ、性質ト能力トニ

至テハ皆同一ナレバナリ、而シテ其能力タル勤惰若シクハ  
生質ニ隨テ、頗ル一準ナラザルガ如シト雖モ、大概相同シキ  
ヲ以テ、全然相同ジト云フニ妨ゲナキナリ、夫レ人既ニ同一  
ナル能力ヲ有セリ、故ニ其義務モ亦隨テ同一ナラザルヲ得  
ズ、請フ試ニ之ヲ思ヘ、彼等ガ眼孔ヲ開テ正理ヲ見ルヤ否、之  
ヲ明カニスル所ノ正理ハ、同一ナラサルカ、耳竅ヲ穿テテ良  
心ニ聞クヤ否、之ニ惡ヲ禁シ善ヲ命スル所ノ良心ハ、同一ナ  
ラサルカ、又其行爲ノ責ニ任ゼシメ、正理ノ指揮ト利益ノ助  
言ト、義務ノ科命ト情欲ノ誘惑トノ間ニ擇取スルノ權ヲ與  
フル所ノ自由ハ、同一ナラザルカ、吾人果シテ此等ノ事項ヲ

吾人ノ他  
人ニ對シ  
テ有スル  
所ノ義務  
ハ一個ノ  
事項ニ歸  
着ス

同一ニシ、同シク人類ノ名稱ヲ有スルヲ思フセハ、其互ニ相尊敬シ、互ニ相愛憐スベキハ、理ノ最モ疑ヲ容レザル者トスベシ、然リト雖モ其理由タル、唯此ノ一事ニ止ラザルナリ、吾人ガ自己ニ對スル所ノ義務ハ、前ニ述べタル如ク其最モ周備セル意義ヲ示シ、其最モ高尚ナル目的ヲ現シタル一個ノ事項ニ約言スルヲ得ベシ、即チ吾人諸般ノ能力ヲ、其達スルヲ得ベキ完全ノ最上點ニ向ハシメ、之ヲシテ益、不朽ノ善美ニ趨カシムルコト是レナリ、然リ而シテ吾人若シ他人ノ援助ヲ假ルコトナク、單ニ我一個ノ勢力、我一個ノ智識ニ任放セバ、如何シテ此ノ如キ事業ヲ成スヲ得ベシト假定スルヲ得

ンヤ、實ニ人類一般ニ指望スル所ノ、此ノ普通ノ目的ニ違ヘンニハ、吾人ガ各自ニ其勢力ヲ盡シテ相互ニ倚頼シ、相互ニ扶助スルニ非ザレバ、決シテ能ハザルナリ、故ニ此ノ如キ事業ヲ遂ンニハ、衆人互ニ間斷ナク力ヲ協セテ相助クルモ、以テ足レリトスルヲ得ザルナリ、

故ニ吾人ガ地球上ニ在テ、其同類ニ對スルコトハ、恰モ兄弟ガ牆内ニ在テ、互ニ相對スル如キ地位ニアルベキモノトス、抑モ吾人ハ天ニ於テ、唯一個ノ父ヲ有スルモノナレバ、同一ノ根原ヨリ生ズト云フヲ得ベク、吾人ハ同様ノ能力ヲ賦セラレタルモノナレバ、感情、愛情、思想、須要、義務ノ共通ヲ以テ、結

四海同胞  
ナルコト  
人類ハ一  
家族ナリ

合スト云フヲ得ベク、且ツ一個同一ノ目的ヲ達センガ爲メニ協カシ、又其共通ノ事業ニ於テ、同様ノ希望ニ由リテ勵獎セラル、モノナレバ、如何ニシテ吾人ハ同籍共居ノ家族タラザルヲ得ンヤ、少クモ兄弟ノ如キ人民タラザルヲ得ザルナリ、實ニ人類ノ互ニ親兄弟ニ異ナラザル事ハ、己ニ宗旨ノ傳説ニ由リテ、證明セラル、所ナルノミナラズ、又良心ニ具セル所ノ明白ナル真理ナリト思考スルヲ得ベシ、故ニ此ノ事タル新舊約書ノ中ニ教ル所ニシテ、羅馬希臘ノゼノンノ理學者ニシテ一派ヲ立ツルモノノ派ノ理學者、及ビ此ノ理學者ノ説ケル修身學ノ至大原則ヲ採用シタルシロシモ、亦公言セシ所ナリ、

關希

四海同胞ノ事ハ如何ナル行爲ニ由リテ發現スルヤ

然リ而シテ四海同胞ノ事タル、唯一個ノ原理トシテ我良心ニ知ラレ、一個ノ感情トシテ我 conscienceニ存スルソミテ以テ止ムベキモノニ非ズ、必ズ我カ行爲ニ、現レ、公私ノ間ヲ問ハズ、吾人ト他人トノ關係ヲ規定スル所ノ最上規則トナルヲ要スベシ、故ニ人ハ其彼此ヲ連結シ、之レニ同様ノ職務ヲ科スル所ノ義務ヲ果スニ方テ、其家門、地位、人種、宗旨ノ如何ヲ問ハズ、其意ノ勢力ヲ極メ、其智ノ光輝ヲ竭シテ、相助ケザルベカラズ、而シテ其任タル唯此ニ止ルモノニ非ズ、實ニ家族ニ於テ兄ト弟トノ間ニ在ルガ如キノ不平等ハ、吾人社會ニ於テモ亦現出スルモノニシテ、各個人ニ付テ視ルモ、人種ノ差

ニ付テ視ルモ、各國ノ間ニ付テ視ルモ、或ハ多智、多識、最強、最  
 福ノモノアリ、或ハ無學、貧困及ビ其性質ノ孱弱ニ苦メルモ  
 ノアリ、故ニ學術ニ達シ、開化ニ進ミ、勢力ヲ有シ、幸福ヲ得タ  
 ル社會ノ長兄ハ、自己ヨリ劣レル社會ノ少弟ニ、吾人ガ家族  
 ニ在テ、年長者ニ請求スル如キノ保護ヲ加ヘザルベカラズ、  
 是レ皆正理ノ命スル所ニ合スルノミナラズ、又必ズ然セザル  
 ナ得ザルノ事項ナリトス、實ニ吾人若シ我レニ劣レル同類  
 ニ分ツニ、徳、智、及ビ幸福ヲ以テセザレバ、彼等ノ不徳、蒙昧、及  
 ビ艱難ハ、必ズ轉シテ吾人ノ上ニ及ブベシ、抑モ吾人ハ互ニ  
 相連帶シタル責任ヲ有スルモノナレバ、其爲シタル惡ニ付

テモ、又勸メザル所ノ善ニ付テモ、均シク其應報ヲ蒙ラザル  
 ヲ得ズ、

第二十章

吾人ノ他  
 人ニ對シ  
 テ有スル  
 所ノ義務  
 ハ公義ト  
 仁慈トニ  
 約言スベ  
 シ

吾人ガ他人ニ對シテ有スル所ノ義務ハ、公義、仁慈ノ二語ニ  
 約言スルヲ得、公義トハ決シテ惡ヲ他人ニ加ヘザルヲ云ヒ、  
 仁慈トハ務メテ善ヲ他人ニ施スヲ云フ、而シテ吾人ガ社會  
 ニ對シテ有スル所ノ義務ハ、都テ此ノ二徳ノ一ニ居ラザル  
 モノナシ、蓋シ義務ニ必要ナラザルモノナケレバ、此ノ二徳モ  
 亦必要ナリトス、且ツ修身法ハ固ヨリ分ツベカラズ、此ノ二

徳モ高尚ナル語ヲ以テ、修身法ヲ示シタルモノナルヲ以テ、分ツヲ得ベカラザルナリ、其レ然リ、而レモ吾人ハ、先ツ惡ヲ禁ズルヨリ始メザレハ、善ヲ施スコヲ得ズ、故ニ論理術上仁慈ノ在ルヲ識認スルハ、既ニ公義ノ存スルヲ假定スルナリ、

公義ノ義  
務一都テ  
人ノ已レ  
ニ加フル  
ヲ欲セザ  
ル所云々  
ノ一格言  
ニ統括ス

公義ガ吾人ニ科スル所ノ諸義務ハ、人ノ已レニ加フルヲ欲セザル所已レ亦人ニ施ス勿レ、トノ一格言ニ約スルヲ得、夫レ公義ハ相互ノ關係ヲ有スルモノニシテ、吾人が自カラ保護ヲ求メントスル所ノ法律ヲ以テ、亦他人ヲ保護センコト要スルヲ以テ、古人ハ此ノ格言ヨリ更ニ適切ニシテ、更ニ

此ノ言ハ  
添テ完全  
ナラズ

明瞭ナル他ノ名狀ヲ以テ、公義ヲ教フルコトヲ得ザリシモノナラン、其レ然リ、故ニ此ノ格言ハ、舊約全書ニモ孔子ノ著書ニモ載ダリ、以テ宗旨ト理學トノ均シク認可スル所ナルヲ見ルベク、而シテ今日遂ニ論争スベカラザルノ定則トナレバナリ、

然リト雖モ、此ノ格言モ猶ホ未ダ吾人ノ非難ヲ脱レザルモノ、如シ、何トナレハ、吾人カ自ラ信シテ惡ムベシトスル事ハ必ズ他人モ盡ク之ヲ以テ惡ムベキ事トナサント思考スルコト得ズ、或ハ我ハ惡ムベシトシテ彼ハ喜ブベシトシ、或ハ我ハ喜ブベシトシテ彼ハ惡ムベシトスルノ事モ、亦之ヲ

キヲ保セザレハナリ、今試ニ世間ノ人ヲ看ヨ、或ハ名譽、品位、若シクハ自由ヲ害セリレタルヲ憂ヘズシテ、却テ實體上ノ損害ヲ患トスルモノアルニ非ズヤ、果シテ然ラバ此等ノ人ガ公義トスル所ハ、唯他人ノ生命、財産及ヒ幸福ヲ害セザルニ止リテ、其名譽ヲ辱シメ、其自由ヲ妨グルガ如キハ、道德ノ尤ムルヲ得ザル所トナルベシ、何トナレバ其人自己ハ、縱ヒ卑屈奴隸ノ景狀ニ陥ルモ、決シテ意トセザレバナリ、吾人若シ此ノ論ヲ以テ理ニ合セズトシ、正ト不正トハ我自己ノ嗜欲感情ニ由リテ變ズベキモノニ非ズトセバ、人ノ己ニ加フルヲ欲セザル所ト云フ語ハ、己ガ人ニ施スヲ得ザル所ノ事ヲ

言ヒ盡シタルモノニ非ズ、故ニ吾人ハ公義ノ義務ニ付スルニ、此ノ格言ヨリ更ニ確實ニシテ、更ニ縝密ナル他ノ基礎ヲ以テセザルヲ得ズ、此ノ基礎トハ何ゾヤ、吾人ハ權利ノ思想ニ在リト信ズルナリ、

吾人已ニ人ノ義務ヲ有スルヲ認定スル以上ハ、同時ニ其權利ヲ有スルヲ認定セザルヲ得ズ、實ニ權利ト義務トハ互ニ相知ラシメ、互ニ相呼應スル所ノ思想ニシテ、其一ヲ信受スレバ、必ズ其二ヲ信受セザルヲ得ズ、其一ヲ排斥スレバ、必ズ其二ヲ排斥セザルヲ得ズ、此ノ二個ノ思想ハ、同一ノ原理同一ノ法律、即チ修身法ヲ、二種ノ外狀ヲ以テ吾人ニ示ス

義務ノ思想  
權利ノ思想  
ハ常ニ相  
干係セリ



モノナリ、請フ詳カニ之ヲ論ゼン、抑モ修身法ガ義務ナリトシテ我ニ科命シタル行爲ハ、他人如何ナル手段ヲ用ザルモ之ヲ妨グルヲ得ズ、我修身法ニ從テ能力ヲ使用スル所ハ、他人ノ我ヲ侵ス可カラザルコトハ、此ノ法ノ公言セル所ナリ、而シテ我義務ヨリ生シ、又我義務ニ由リテ限ラレタル、此ノ不可侵ノ原理ハ、即チ是レ我權利ナリ、今試ニ權利ノ思想ヲ除キ去ランカ、我義務ハ忽チ堅牢ナラズ、又必要ナラザルモトナルベシ、何トナレバ我ヨリ強キ者アリテ、我ガ義務ヲ行フヲ妨グルモ、亦不正ト云フヲ得ザレバナリ、又試ニ義務ノ思想ヲ除キ去ランカ、權利ノ思想ハ全ク了解シガタキモノトナ

ルベシ、何トナレバ我ニ此ノ如ク神聖ナル權力ヲ授クルモノハ、我能力ヲ使用シテ果サズルヲ得ザル所ノ、一般無限ノ法律ノ外ニハ、更ニ之アルヲ見ザレバナリ、我能力、生命、身體ニシテ、若シ諸般ノ利益、諸般ノ情欲ヲ制抑センガ爲メ、何人ニモ科命シタル此ノ最上法律ニ由リテ豫定セラレタル目的ヲ有セザレバ、他人ナシテ我能力、生命、身體ヲ重ゼシムルヲ得ザルベケレバナリ、

是ニ於テカ吾人ガ吾人自己ニ對シテ、行ハザルヲ得ザル所ノ義務ハ、各之ニ關係シタル同種ノ權利ヲ有ス、此ノ權利タル消滅スベカラズ、又授受スベカラズ、詳ニ言ヘハ、吾人若シ

其原理ニ反シテ之ヲ使用セザル間ハ、何モノモ吾人ナシテ之ヲ失ハシムルヲ得ズ、吾人モ亦決シテ自ラ之ヲ棄ルヲ得ズ、之ヲ棄ルハ吾人ノ義務ヲ棄ルニ歸着スルヲ以テナリ、茲ニ諸義務ヨリ生スル所ノ諸權利ヲ列擧スルヲ左ノ如シ

吾人ナシテ我身ノ保存ニ注意シ、我生命ト我勢力トヲ使用シテ、人間ノ目的ヲ果サシムル所ノ義務ヨリ、殺傷ニ臨ミテ吾人ヲ保護スル所ノ權利、即チ人生侵スベカラザルノ理生ズ、

我意ヲ保存發達セザルヲ得ザルノ義務ヨリ、如何ナル場合ニ於テモ、良心ニ從テ善惡ヲ辨ジ、其責ニ任ズル所ノ人トシ

テ活動スルヲ得ルノ權利生ズ

我是非ノ心及ビ其他都テ智ニ屬シタル諸能力ヲ練磨發達セザルヲ得ザルノ義務ヨリ、學問ニ從事シ眞理ヲ知道センガ爲メニ、我力ヲ盡スヲ得ルノ權利、即チ所謂思想ノ自由生ズ、然リ而シテ智識ヲ發達センニハ、言論ヲ必要手段トナスガ故ニ、若シ言論ノ自由ナケレバ、思想ノ自由ハ、決シテ了解スルヲ得ザルモノトス、

右ニ述ヘタル如キハ人ノ最大權利ナリ、然レドモ人ノ權利ハ、唯此ニ盡ルモノニ非ズ、例ヘバ良心ノ自由、即チ我道德上ノ身體所有權ノ中ニハ、必ズ身體ノ自由、即チ我運動及ビ我

勢力ノ所有權ニシテ、英國律ニヘビマス、コーパス（肉體所有ト稱ノ義）名ツクルモ、（）ヲ含蓄スベシ、何トナレバ吾人ハ唯良心ノ禁ズル所ヲ爲サザルノミヲ以テ足レリトスルヲ得ズ、又良心ノ命スル所ヲ行フノ力ヲ有スルヲ必要トスレバナリ、即チ吾人ノ身ヲ以テ全ク吾人ノ所有ニ屬スルコトヲ必要トスレバナリ、

又人身ノ自由ハ、必ズ財產所有權ヲ含蓄セザルヲ得ズ、何トナレバ奴隸ニ非ザル者ハ、自ラ財產ヲ所有スルヲ得レバナリ、實ニ己ノ勞動ニ由リ、己ノ意思ニ由リテ創造シタル物ハ、恰モ己ノ身ヲ擴張シタルガ如キモノナルニ、之ヲ自在ニス

他人ニ對  
スルノ義  
務ハ我權  
利ヨリ生  
ズ

ルヲ得ザル人ハ、決シテ自由ノ人ニ非ザルナリ、己ノ生命ヲ保存シ、己ノ能力ヲ發達スルニ必要ナル、何ノ手段ヲモ自在ニスルヲ得ザル人ハ、自由ノ人ニ非ザルナリ、

此等ノ諸權利ハ、其由リテ來ル所ノ義務ト同ジク一般ナルモノニシテ、其人ノ誰タルサ問ハズ、皆此ノ權利ヲ有スルナリ、故ニ吾人ハ相互ニ此ノ權利ヲ貴重セザルヲ得ズ、是レ吾人ガ自己ニ對スル義務ノ中ニ含蓄セル權利ヲ有スルニ從ヒ、亦他人ニ對スルノ義務ヲ有スル所以ナリ、此ノ義務ハ我權利ノ自然ナル區域ニシテ、其他人ノ權利ニ侵入スルヲ妨グルモノトス、故ニ吾人ノ良心ニ由リテ認めタル、何ノ自由

モ何ノ權利モ、其限ヲ踰テ伸張スルヲ得ズ、何トナレバ他人モ亦吾人ト均シク同一ノ權利ヲ有スルモノナレバ、吾人ハ我權利ヲ重ズルガ爲メ、却テ他人ノ權利ニ侵入スルヲ得ザレバナリ、是レ即チ吾人ガ逐次ニ論述セントスル所ノ公義ノ義務ヲシテ、不行的ノ性質ヲ有セシムル所以ナリ、

## 第二十一章

抑モ我生命ノ神聖侵スベカラザル所以ハ、我行ハザルヲ得ザル所ノ義務、即チ爲メニ我生命ヲ用非ザルヲ得ザル所ノ修身法アレバナリ、而ルニ他人モ亦同様ノ義務ヲ有シ、同様

他人ノ生  
命ヲ重ズ  
ルヲ

ノ法律ニ從フヲ以テ、其生命モ亦我生命ト同シク、神聖侵スベカラザルヤ明カナリ、故ニ吾人ハ他人ニ向テ、我生命ヲ重ゼンコトヲ要ムルヲ得ルガ如ク、亦他人ニ對シテ其生命ヲ重ゼザルベカラザルナリ、是故ニ故殺即チ故意ニ人ヲ殺スノ事ハ、唯一個ノ罪惡タルノミナラズ、又諸罪惡中ノ最モ大ナルモノトス、何トナレバ此ノ罪惡タル、一舉ニ人生ノ諸權利、及ビ諸義務ヲ破リ、且ツ人生ヲ支配シ、社會ヲ構成スル所ノ順序ニ反對スルモノナレバナリ、是ニ於テカ此ノ罪ハ、各國人民ノ共ニ罰シ、各國立法官ノ共ニ非難シ、神ノ名ヲ以テ語ル者モ、社會ノ利益ヲ論ズル者モ、均シク擯斥シテ容レザル

所トス、是レ汝ハ殺スコ勿レトノ神勅ヲ以テ人類ノ一般法律ト看做スヲ得ル所以ナリ、

正當自衛  
ノ權

吾人ニ故殺ヲ禁ズル所ノ原則ハ、又吾人ニ自己ヲ防禦スルコトヲ聽スノミナラズ、己ニテ得ザル時ハ、不正ニ吾人ヲ攻撃スル者ノ生命ヲ殘毀スルモ可ナリトス、之ヲ稱シテ正當自衛ノ權利ト云フ、此ノ權利タル故殺ヲ罰スル所ノ法律ニ反セザルノミナラズ、却テ其相當ナル後果ト云フヲ得ベシ、何トナレバ人命侵スベカラザルノ原則ハ、元ト正理道德ニ由リテ生ズルモノナレバ、正理ニ戻リ道德ニ背キタル人ニ遭テハ、直ニ消滅スレバナリ、故ニ不意ニ吾人ヲ攻撃スル所

決闘

ノ刺客又ハ我腕力ヲ用ザルニ非ザレバ、脱スルコトヲ得ザル所ノ攻撃者ハ、彼原則ノ保護ヲ被ラズ、而シテ唯自衛ヲ主トシ專ラ自己ヲ保存スル至大義務ノ一ヲ行ハシコトヲノミ、是レ思慮スル所ノ吾人ハ其保護ヲ受ルナリ、吾人已ニ正當自衛ノ權ヲ論ジタリ、之レニ次テ決闘ノ利害ヲ審メザルヲ得ズ、何トナレバ決闘ヲ可トシタル論者ハ、之ヲ評シテ義勇ノ人が、其生命ヨリモ貴重ナル名譽ヲ護衛スルノ手段トナスヲ以テナリ、而シテ世人ガ野蠻時代ヨリ沿襲シタル、此ノ風習ノ爲メニ提出スルヲ得ル所ノ論據ハ、唯此ノ一事ニ止マレリ、然レモ此ノ論據ハ、反テ自ラ此ノ風習

ノ非ヲ譽ル所ノモトス、其故何ゾヤ、殺害ヲ加フルニ非ザルヨリハ、脱スルヲ得ザル所ノ不正ノ攻撃者ニ遇タル時ニ方リ、之ヲシテ死ニ至ラシムルハ、吾人ノ得テ爲スベキノ事タル論ヲ待タズト雖モ、唯我名譽ニ關スル時ノ如キハ、決シテ之ト同一ノ看ヲ做スヲ得ザルナリ、抑モ耻辱ノ大ナルモノ、如キハ、之ヲ受ケタル人、若シクハ之ニ加ヘタル人ノ血ヲ以テスルニ非ズレバ、洗フヲ得ズトノ僻說世ニ流布セリト雖モ、我名譽ヲ失ヒタル者ハ、我讐敵ヲ殺スモ之ヲ回復スルヲ得ズ、又甘シテ我讐敵ノ手ニ死スルモ、之ヲ回復スルヲ得ザルヘシ、且ツ吾人ハ我名譽ヲ失ハシムルノ人ニ遇フト

モ、決シテ其人ノ生命ヲ自在ニスルノ權利ヲ得タリト了解スルヲ得ズ、是レヲ之レ顧ミズシテ、他人ノ生命ヲ自在ニスルハ即チ復讐ヲ爲スナリ、自カラ賞罰ヲ行フナリ、又自己ノ生命ヲ自在ニスルハ、自ラ我義務ニ背クナリ、故ニ吾人ハ斷シテ決闘ハ正理及ヒ修身法ニ反スルモノナリト云ハザルヲ得ズ、

決闘ノ緣起  
 往古決闘  
 ヲ可トシ  
 カルノ理  
 由

然リト雖モ決闘ノ事タル、數百年間法律上ニ定メザルモ、風習ノ馴致スル所タリシノミナラズ、今日ノ輿論モ亦之ニ與ミスルモノナレバ、此ノ事ノ在ルベキ理由ハ、絶テナキニハアラズ、縱ヒ非難スベキモノナルモ、一個ノ風習ニシテ多年

存在シタルノ故アレバ、徒ニ之ヲ掛撃スルヲ以テ足レリト  
スルヲ得ズ、宜ク之ガ注辭ヲ下シテ論盡セズンバアルベカ  
ラザルナリ、

抑モ決闘ハ、社會ノ中央ニ現シタル戰闘ニ異ナラズ、即チ社  
會ニシテ各人ヲ保護スルノ勢力ナク、或ハ漫然トシテ之ニ  
意ヲ加ヘズ、或ハ其法律アルモ之ガ用ヲ爲サズル時ニ方リ、  
各人自ラ其仇ヲ報ンガ爲メニ行フ所ノ私戰ニシテ、公罰ニ  
代用スルモノ是レナリ、其レ然リ、人ノ戰闘ニ在テ希望スル  
所ハ何ゾヤ、勝利ヲ得サレバ、名譽アル死亡ヲ得ント欲スル  
ノミ、而シテ其戰者ハ、萬國公法ノ公戰ニ於ケルガ如キ名譽

現今決闘  
ヲ不可ト  
スルノ理  
由

ノ規則ニ從ヘリ、此ノ戰闘タル中古政府ニ社會ヲ保護スル  
ノ力ナカリシ時ニ在テハ、頗ル必要ナリシガ、後卒ニ廢絶シ  
テ僅ニ耶蘇教ヲ奉スル諸國ノ公法中ニ存セリ、而シテ唯特  
權アル種族ハ、國王ノ許可ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得タルノミ  
決闘ハ此ノ私戰ノ當今ニ跡ヲ留メシモノナリ、道德上及ヒ  
正理上ヨリ論ブレハ、時ノ古今ニ拘ラズ、其不可ナルコトハ前  
ニ述ベタルガ如シト雖モ、今ハ社會ノ景狀ヨリ論スルモ、之  
ヲ可トスルヲ得ザルニ至レリ、實ニ近時ノ社會タル、其社會  
ニ列スルモノハ、何人タリトモ、何族タリトモ、其保護ヲ受ケ  
ザルナク、現ニ刑法ノ如キハ、諸種ノ傷害ニ向テ、爲ニ隨罰ヲ

加へ、以テ我身體及ビ財産ヲ防護スルノミナラズ、又我名譽  
 ナモ防護スルニ十分ナリト云フヲ得ベシ、其レ果シテ此ノ  
 如クナレバ、何人モ社會ノ行爲、即チ裁判合規ノ責罰ニ代ル  
 ニ、戦闘ト名ヅクル如キ僥倖ヲ腕力ニ望ム行爲ヲ以テスル  
 ヲ得ズ、此ノ如キ紛亂ハ、淺分カ社會保存ノ事ヲ害スルガ故  
 ニ、社會ノ決シテ許サマル所トス、

社會ハ自衛ノ權利ヲ有スルガ故ニ、唯各人ヲ保護防衛スル  
 ノミ、而シテ社會ヲケレバ、各人ハ生存スルヲ得ズ、又其義務  
 ナ果ステ得ザルガ故ニ、社會ノ此ノ權利ヲ有スルコトハ、毫  
 モ疑ヲ容レザル所トス、此ノ權利ハ社會ノ保存ニ關シタル

社會ガ行  
 フ所ノ正  
 當自衛ノ  
 權

道徳上ノ順序ニ外ナラザルナリ、其レ然リ、而シテ社會カ其  
 自己又ハ社會ニ列スル各人ノ爲メニ行フ所ノ權利ハ、各個  
 人ガ自ラ其身ヲ護衛スルノ權利ト同シカワズ、抑モ各人自  
 衛ノ權利ハ、理學者及ビ法學者ガ、正理ニ由リテ主張シタル  
 如ク、敵手ノ我ヲ攻撃スル事已ニ止マレバ、即時ニ正當ノ區  
 域ヲ離ル、モノトス、然ルヲ尙ホ此ノ區域外ニ跋扈セント  
 スルハ、權利ヲ變シテ復讐トシ、權利ニ代ルニ利益或ハ情欲  
 ナ以テスルナリ、然ルニ社會ハ之ニ反シテ、常ニ權利ヲ有ス  
 ルモノトセリ、今逐一之ヲ論辨センニ、社會ノ法律、吾人ハ真  
 ニ其保存ニ必要ナル法律ヲ指スニ、昔ク者ハ、設ヒ唯一個人



ニ害ヲ加フル時ナリトモ、即チ亦社會全體ニ對シテ罪惡ヲ  
 ナシタルナリ、實ニ此ノ人ハ衆人ノ權利ヲ損害ス、否チ此ノ  
 人ハ法律ヲ攻撃スルナリ、法律ヲ攻撃スルノミナラズ、尙ホ  
 兵器ヲ擧テ法律ヲ脅カスモノタリ、其故何ソヤ、此ノ人ハ己  
 ニ法律ヲ攻撃シタレバ、之ヲ輕侮スルナリ、之ヲ輕侮シタレ  
 バ、又更ニ之ヲ攻撃セントスルノ狀アルモノナレバナリ、其  
 レ然リ、此ノ人ハ、自ラ社會ノ順序ヲ保護スル法律ノ敵ナリ  
 ト公言スルナリ、此ノ人ハ此ノ公言ノ一事ニ由リ、業ニ己ニ  
 此ノ法律ノ保護外ニ置カルベク、原ト此ノ人ノ爲メニ自由  
 安全、及ビ財産ヲ保護シタル法律ハ、今ハ變ジテ譴罰ヲ加フ

ル具トナルベク、而シテ此ノ人ハ、其罪惡ノ大小ニ應ジテ、此  
 ノ諸般ノ利益ヲ失フベシ、例ヘバ他人ノ生命ヲ害シタル者  
 ハ、其言語ヨリ更ニ明カナル行爲ニ因リテ、無罪人ノ生命ハ、  
 余ニ在テハ侵スベカラザルモノニ非ズト公言シタルニ同  
 シ、果シテ然ヨバ他日又此ノ如キ所業ヲ爲サント欲スルモ  
 ノナリ、故ニ此ノ人ハ此ノ如ク他人ノ生命ヲ危クスベキ、自  
 己ノ生命ヲ重センコトヲ法律及モ社會ニ望ムヲ得ベカラ  
 ズ、是ニ由リテ觀レバ、死刑ハ頗ル嚴酷ナルニモセヨ、更ニ代  
 ルニ寛大ナル刑ヲ以テシテ、未ダ其効ヲ見ザル間ハ、之ヲ正  
 當ナリト云ハザルヲ得ズ、而シテ他人ノ自由或ハ財産ヲ害

シタルモノモ、亦自ラ前述ノ犯人ト同様ノ地位ニ立テルモノトス、何トナレバ其人ノ自由ハ、各個人ノ自由ニ危難ヲ加ルモノナレバナリ、此ノ場合ニ於テ社會ハ唯其人ノ自由ヲ重ズベキ理由ヲ有セザルノミナラズ、此ノ人ノ自由ヲ束縛シ、以テ公衆ノ安全ニ必要ナリト認ムル所ノ處置ヲ爲サズルベカラズ、此ノ時ニ方リテ社會ハ、此ノ人ニ對シテ自己ノ權利ヲ重クセンガ爲メ、他人ノ權利ヲ重クスル所ノ自由黨物ノ看ヲ爲サズシテ、唯制御ノ法ヲ以テ、其害ヲ除カザルヲ得ザル所ノ犖鳥猛獸ノ看ヲ爲スノミ、是レ禁錮其他施體ノ刑ト、之ニ附隨セル加辱ノ刑トヲ、正當ナリト云フヲ得ル所

以ナリ、

社會ガ行  
フ自衛ノ  
權利ハ刑  
法ノ基礎  
ナリ

是故ニ社會ガ行フ所ノ自衛ノ權利ハ、刑法普通ノ基礎ナリ、唯一ノ公平根原ナリ、故ニ社會ハ、唯罪ヲ罰センガ爲メニ罰スベキモノニ非ズ、即チ其罪ト關係シタル責罰ヲ科セントスベキモノニ非ズ、此ノ職務ハ特リ神ノ裁判ニ屬スレバナリ、蓋シ吾人ノ靈魂底裡ヲ察知シ、教典ニ云ヘル如ク、諸人ノ心理體內ヲ洞見シ、犯人ノ惡意ノ度、及ビ之ニ適シタル痛苦ノ度ト、責罰ノ種類トヲ知ルモノハ、神ヲ除キテ外ニアルコトナケレバ、實ニ此ノ事ヲ爲スベキモノバ、獨リ神アルノミ、而シテ社會ノ如キハ、唯自己ヲ防衛スルノ權利、及ビ勢力ヲ有

スルノミ、其科スル所ノ刑ハ、此ノ權利ヲ實行スルニ必要ナル點ヲ超過スルヲ得ザルナリ、  
 是ニ由リテ觀レバ、刑法ハ一定シテ永ク變ズベカラザルモノニ非ズ、開化ノ進歩ニ隨ヒ、必ズ改張スベキモノトス、其レ然リ、故ニ社會暇々乎トメ人情仁慈ノ域ニ趨ク由ハ、刑法モ亦之ニ隨テ益寬大ナラザルヲ得ズ、見ヨ昔時惡ムベキ酷刑已ニ跡ヲ絶テタル後、又枷示、烙印、準死等ノ諸刑、漸次ニ其痕ヲ減スルコトモ蓋シ是ニ由ルコトヲ、又見ヨ今日諸國ノ立法官ガ、犯罪人ヲ獄ニ幽シテ苦役ニ服スルノ刑ヲ減シ、漸次之ヲ流刑場ニ送りテ、勞動ノ爲メニ改心セシムルノ刑ニ代ヘタ

ルモ、亦是ニ由ルコトヲ、果シテ然ルカ、社會ガ死刑ヲ廢スルモ、危難ヲ招カザルノ日ハ、蓋シ遠キニ非ザルベシ、

第二十二章

吾人ヲシテ他人ノ生命ヲ重ゼシムル所ノ原則ハ、亦吾人ヲシテ他人ノ自由ヲ重ゼシム、其故何ゾヤ、試ニ先ツ吾人ガ生命ヲ受ケタル所以ノ目的如何ヲ思ヘ、則チ我義務及ビ我權利ヲ行ヒ、我運命ヲ果スニ外ナラザルベシ、然ルニ若シ生命ヲ用キル所ノ能力ナカリセバ、生命ハ果シテ何ノ用チカ爲スベキ、生命ニシテ吾人ニ屬セズ、他人ノ利益若シクハ情欲

他人ノ自由ヲ重ズルコト

ノ使用ニ供スル器械トナルアラバ、生命ハ果シテ何ノ用ヲ  
カ爲スベキ、此ノ如ク自由ヲ失ヒタル生命ハ、其眞價即チ其  
道徳上ノ價直ヲ失ヒタルモノト云ハザルヲ得ズ、是レ則チ  
自由ノ吾人ニ於ル、神聖侵スベカラザルヲ、生命ト同キ所以  
ナリ、

良心ノ自  
由

然リ而シテ人ハ如何ナル故ヲ以テカ、自由ノ靈物トスル、曰  
ク一個ノ人、即チ善惡ヲ知り、責任ヲ負フ所ノ靈物タルヲ以  
テナリ、故ニ人若シ其良心ニ從テ働キ、良心ニ從テ語ラザレ  
ハ、人ニシテ人タルヲ得ズ、何ヲカ良心ニ從テ働クト云フ、即  
チ其素具ノ智力ニ由ルトモ、宗旨ノ教訓ニ由ルトモ、善惡ヲ

他人ノ宗  
旨ヲ重ズ  
ルコト  
禮拜ノ自  
由

指示スル所ノ原則、及セ法律ニ從テ働クコト是レナリ、是故  
ニ良心ノ自由ハ諸般自由ノ第一ニシテ、最モ必要ナルモノ  
ナリ、諸般權利ノ第一ニシテ、最モ侵ス可カラザルモノナリ、  
而シテ吾人ノ此ノ權利ヲ重ズベキコトハ、他人ニ對スル我第  
一義務ノ一、公義ノ第一命令ノ一ナリトス、  
直チニ良心ノ自由ヨリ生ズル所ノ義務ニシテ、最モ普通ナ  
ルモノヲ他人ノ宗旨ヲ重ズベキノ義務トス、但シ其外部ノ  
實行及ビ之ニ附隨セル所ノ行例ニシテ、一般ノ道徳及ビ社  
會ノ順序ニ必要ナル原則ニ反スルモノハ、其迷謬ナル信用  
ヨリ生ズルニモセヨ、社會ノ之ヲ寛大ニ處分スルヲ得ザル

コト、夫ノ暴行又ハ情欲ニ由リテ生シタル惡業ト同ジキナ  
 リ、而シテ此ノ如キ非難ヲ加フルヲ得ザル宗旨ハ、其何タル  
 ナ間ハズ、自由ニ之ヲ奉行セシメザルヲ得ズ、是レ今日文明  
 諸國ノ法律ガ、禮拜ノ自由ト稱シテ許可シタル所ノ權利ナ  
 リ、其禮拜ノ自由ト名ヅケタル所以ハ禮拜ノ信用ニ於ルハ、  
 言語ノ思想ニ於ルガ如ク、信用ヲ外部ニ呈露セルモノナレ  
 バナリ、一個人ノ腕力ニヨリ、或ハ公權ノ行爲ニヨリ、良心ノ  
 自由或ハ禮拜ノ自由ヲ破ルハ、是レ唯人ノ對シテ不正ノ行  
 爲タルノミナラズ、又神ヲ冒瀆スルノ所業タリ、何トナレバ、  
 此ノ事タル眞理ノ誤謬ニ勝ツ事ヲ信セズ、及ビ天ノ常ニ人

身體ノ自  
 由

奴隸ノ制  
 ハ修身學  
 ノ規則ニ  
 反セルモ  
 ノトス

ヲ改良進歩セシメントスル事ヲ信セザルヲ表スルモノナ  
 レバナリ、按ズルニ編者ハ偏ニ舊教ノ徒ニ於テ新教ノ徒ヲ  
 寬視セザルベカラサルコトヲ示セルナルベシ

吾人已ニ他人ノ良心ヲ重ズルノ義務アレバ、隨テ其身體ノ  
 自由即チ其動作、及ヒ行爲ノ自由ヲ重ズルノ義務ナキヲ得  
 ズ、更ニ之ヲ言フ、吾人ハ、他人ガ人ノ權利ヲ破ラズシテ、其能  
 力及ビ勢力ヲ使用スルノ權利ヲ重ゼズンバアラザルナリ、  
 實ニ動作及行爲ニシテ自由ナラザレハ、良心ハ如何シテ自  
 由ナルヲ得ベキヤ、人アリ我ニ向テ我良心ノ我ニ禁ズル所  
 ノ事ヲ爲サシメ、我良心ノ、我ニ命ズル事ヲ爲サマラシメ、  
 我良心ハ如何シテ自由ナルヲ得ベキヤ、故ニ身體ノ自由ヲ

制奪セラレタル者ヲ指シテ、稱シテ奴隸ト云フ、奴隸ノ制タル修身學ノ至大規則ニ反セル罪惡ナレバ、暴戾ナル風俗、無學ナル蠻夷ニ在テハ、之ヲ行フコトアルモ、已ニ開化シテ人類ノ品位ヲシテ益高カラシメント欲スルノ國ニ於テハ、一モ之ヲ擯斥セザルナシ、

奴隸ノ制ハ戰捷ノ權利ヲ以テ之ガ辭柄トスルヲ得ズ

世人往々戰捷ノ權利ヲ辭柄トシテ、奴隸ノ制行フベシト爲ス者アリ、其言ニ云ク、戰捷ニ由リテ敵人ノ身體ヲ獲タル者之ヲシテ其自由ヲ棄テシメ、之ニ代ルニ其死ヲ釋スノ契約ヲ以テセンニ、豈不可ナルノ理アラシヤト、嗚呼是レ何ノ言ゾ、設ヒ契約此ノ如キコトアリトスルモ、決シテ効驗ナカル

又奴隸ノ制ハ人種ノ不平等

ベシ、其故何ゾヤ、一ニ吾人ハ我敵ノ敗虜シテ兵器ヲ棄タル時、即チ其生命ヲ自在ニスルノ權利ヲ有セズ、又一ニ自由ハ賣買スヘキ財產ニ非ズ、自己ノ自由ヲ保存スルコトハ、即チ亦他ノ諸義務ヲ果スニ必要ナル一義務ニシテ、義務ハ讓與交換スルヲ得ベキモノニ非ザレバナリ、且ツ夫レ奴隸ハ生レテガラニシテ奴隸タルモノ多シ、果シテ然ラバ、人ハ其自己ノ自由ヲ讓與スルヲ得ルト假定スルモ、如何ソ亦其子孫ヲシテ、永ク自由ヲ失ハシムルヲ得ンヤ、又或ハ奴隸ノ制ヲ牢執シテ、人種ノ平等ナラザル事ヲ引起セリ、實ニ黑人種ハ智識下劣ナルヲ以テ、生レテガラ白人種

ニ由リテ  
之ガ詳述  
トスルヲ  
得ズ

ノ奴隸トナレルガ故ニ、事實ニ就テ視ンバ、論者ノ言モ或ハ  
理ヲキニアラザルガ如シト雖モ、之ヲ以テ正理ト論定スル  
ニ至リテハ、吾人ノ決シテ取ワザル所ナリ、今之ヲ駁論セン  
カ黑人種モ亦是レ人ナリ、均シク良心ヲ具シ、能ク善惡ヲ區  
別スレバ、彼亦義務ヲ有セリ、彼己ニ義務ヲ有スレバ、隨テ亦  
權利ヲ有セリ、吾人ニシテ果シテ彼ニ優レル所アラバ、宜ク  
其優レル所ヲ用井、彼ノ無學野蠻ノ陋風ヲ脱セシムベシ、如  
何ゾ亦ク奴隸トシテ之ヲ屈辱スベケンヤ、且夫レ黑人種モ  
開導ノ方ニ因リテ、亦完全ノ域ニ達スルヲ得ベシ、何トナレ  
バ、彼己ニ幾分カ野蠻ノ景狀ヲ脱シテ、開化ノ域度ニ進歩シ

土着奴隸  
ハ奴隸ノ  
寛ナルモ  
ノナリ

タルノ實例アルノミナラズ、又其野蠻最極レル日ニ在テス  
リ、克ク經典ノ教ヲ理會スルヲ得タレバナリ、是ニ由リテ觀  
レバ、奴隸ノ制ヲ可トスルノ論者ガ執ル所ノ論理ハ、學テ正  
理ノ論鋒ニ敵スルヲ得ザルナリ

奴隸ノ制タル之ヲ歴史ニ徵スルニ、今古一轍ナルモノニ非  
ズ、人ノ一身ヲ自在ニシ、之ヲ家畜視シ、之ヲ他獸視スル所ノ  
制度ハ、既ニ封建ノ世ニ廢シテ土着奴隸ノ制繼テ興レリ、土  
着ノ奴隸トハ、其主人ノ身體ニ屬セズシテ、其土地ニ附着セ  
ル者ニシテ、居ル所ノ土地ト俱ニ賣買讓與セラル、者トセ  
リ、而シテ其土地ハ自ヲ耕耘セザラント欲ストモ得ザル所

ニシテ、且ツ自ヲ離去スルヲ得ザルナリ、吁此ノ奴隸ノ状態  
 タル、眞ノ奴隸ニ比スレバ少シク寛大ナリト雖モ、亦未ダ全  
 ク奴隸タルヲ脱レズ、即チ至重ノ權利ヲ奪ハレテ、物品ト同  
 一般ニ看低セラレタル所ノ人タルヲ脱レザルナリ、故ニ土  
 着奴隸ノ制ヲ以テ奴隸上ノ一進歩、罪惡上ノ一却歩ト思考  
 スルハ、猶ホ可ナリト雖モ、正理ヨリ之ヲ觀レバ、仍ホ非難セ  
 ザルヲ得ズ、

## 第二十三章

吾人ハ行爲及ビ信用ニ於テ、自由ナルベキガ如ク、思想ニ於

他人ノ智  
 ナ重ズル

テモ、亦自由ナラザルベカラズ、若シ然ラザレバ、良心ノ自由  
 ト身體ノ自由トヲ擧テ失フベシ、何トナレバ、自由ニ働クモ  
 ノトハ、自己ノ思想ニ隨テ働クモノヲ云フ、他人ノ説諭ニ由  
 リ、其思想ヲ取りテ全ク自己ノ思想トナシタル場合ノ外、他  
 人ノ思想ニ隨テ働クモノヲ云フニ非ズ、而シテ信用モ、亦思  
 想ト分ツテ得ザルモノナレバナリ、故ニ吾人が他人ノ思想、  
 即チ智ヲ重ゼザルベカラザルノ義務ハ、吾人が他人ノ自由  
 ナ重ゼザルベカラザル義務ヨリ、必ズ生ズルヘキノ結果ナリ  
 トス、

他人ノ智ヲ害スルニ二個ノ方法アリ、一ハ其學問セントス

他人ノ智  
 ナ害スル



ル意ヲ妨グルモノニシテ、二ハ之ヲ欺クモノ是レナリ、而シテ其甲ハ他人ヲシテ、真理ニ遠ザカラシムベキヲ目的トシ、其乙ハ之ヲシテ誤謬ニ陷ラシムベキヲ目的トス、此ノ二個ノ行爲ハ共ニ惡業タルヲ脱レズ、

人若シ他人ノ智ヲ發達スルヲ妨グ、其未ダ知ラザル所ノ學問ヲ明ラメントスルヲ禁ズルコト、恰モ米國ノ植民ガ黑人種ニ對シタル如キアラバ、是レ他人ヲシテ真理ニ遠ザカラシムルナリ、即チ之ヲ強迫シテ無學ノ區域ヲ出デザラシムルナリ、世間許多ノ惡業モ、未ダ此ノ行爲ノ如ク罪スベキ者アらず、何トナレバ此ノ行爲ノ成果タル、必ズ奴隸ノ制ヲ立

ツルニ至ラザルヲ得ズ、且ツ此ノ行爲タル、設ヒ人ノ肉體ヲ存在セシムルモ、人力ノ及バン限り、其靈魂ヲ滅死セシムルノ効驗アレバナリ、然リ而シテ言語ニ由リテ思想ヲ交通スルヲ禁スルコトモ、亦是レ智ノ發達ヲ遏絶スルノ一方便ナリト云フヲ得ベシ、何トナレバ言語ハ吾人が己ニ述ベタル如ク、唯思想ヲ吐露スルモノナルノミナラズ、又之ヲ構出スルノ好手段ナレバナリ、實ニ真理及ヒ學問ノ道路ニ進マントセバ、他人ト交通セザルヲ得ズ、假令ヒ自ラ一真理ヲ發見シタリト思量スルモ、之ヲ討論ニ附シテ其眞否ヲ證明セザル間ハ、未ダ以テ之ヲ確信スルヲ得ザルベシ、

詐欺トハ何ゾヤ、人故ラニ他人ヲ欺キ、之ヲシテ謬謬ニ陷ラシムルモノ是レナリ、而シテ詐欺ハ、法律之ヲ罪セザルノ時ト雖モ、宗旨道德及ヒ輿論ノ常ニ責罰スル所ナリ、此レ其唯恐事ナルノミナラズ、鄙劣醜陋ノ行爲ナルヲ以テナリ、而シテ詐欺スル所ノ人ハ、必ズヤ他人ノ信用ヲ謬ラシメ自己ノ尊敬ヲ失フ、何トナレバ、其人自ラ自己ノ言語ヲ信ズルヲ得ザルガ故ニ、必ズ自己ヲ尊敬スルヲ得ザルベケレバナリ、然リ而シテ詐欺ニモ亦罪ナキ者アリ、何ゾヤ、即チ智ヲ眩惑スルヲ正鵠トセズシテ、唯想像ヲ起スヲ目的トスル所ノ小説家、若シクハ詩人ノ詐欺ノ如キ是レナリ、又吾人ノ爲スタ得

ルノミナラズ、或ハ爲サバルヲ得ザル所ノ詐欺アリ、例ヘバ差強キ感情ニ由リテ、或ハ死ニ至ルベキ病者ニ對シテ、其子又ハ其母ノ死シタルヲ秘スルモ不可ナキガ如シ、加之詐欺ニシテ義勇ノ者アリ、無法律ノ世ニ在テ其子ヲ救ハシガ爲メニ、自ラ罪ニ服スル所ノ父、其父ヲ脱センガ爲メニ自ラ罰ニ就ク所ノ子ノ詐欺是レナリ、然レドモ此ノ如ク容易ニ察知スベキ特例ノ外、人ハ決シテ眞理ニ反シ、或ハ其良心ニ反シテ言語スルヲ得ズ、故ニ世人ガ其交際上ニ於テ屢々使用スル所ノ溢美ノ賞揚、若シクハ無實ノ稱譽ノ如キモ、亦一種ノ詐欺ニシテ、眞正ノ修身學ニ在テハ、不可ナルヲ免レズ、正直

ノ人ハ必ズシモ、其思考スル所ノ事ヲ言フヲ要セザルモ、其言フ所ノ事ハ一トシテ思考ノ餘ニ出ザル者ナシ、詐欺ニシテ他人ノ智ヲ害スルヤ都テ惡事タリ、其他人ノ名譽ヲ損スルニ至テハ、即チ之ヲ謂テ罪業ナリト爲サザルヲ得ズ、抑他人ノ名譽ヲ汚辱シ、若シクハ毀損セント欲シテ詐欺スルモノ、之ヲ名ヅケテ誹謗ト云フ、誹謗者ノ賤惡擯斥スベキコトハ、盜賊ヨリモ更ニ甚シ、何トナレバ、盜賊ハ唯我財産ヲ奪フニ止ルモ、誹謗者ハ吾人ヲシテ他人ノ尊敬ヲ失ハシメ、人生ノ幸福モ生命モ爲メニ價直ナカラシムレバナリ、抑吾人ガ他人ヨリ受ル所ノ尊敬、即チ吾人ノ名譽ハ、社會ノ爲

ノニ確認セラレタル我品位ノ外ニ出デス、而シテ吾人ハ社會ヲ離ル、コトヲ得ザルガ故ニ、必ズ其尊敬ヲ保タザルヲ得ザルナリ、社會ノ見ル所ニ於テ、吾人ガ品位ヲ失フハ、吾人ノ最大不幸ニシテ、唯吾人ガ實ニ罪アリテ墮落セルノ禍災ニ比スレバ、僅ニ其次ニ在ルノミ、名譽ハ我成立ノ一部分ニシテ、吾人ガ社會ニ立ツニ於テ必要ナリトスルコトハ、人ノ短處ヲ擧ゲ、之ヲシテ其名譽ヲ失ハシムルハ、假令モ詐僞ニ出デズシテ、眞ニ事實ヲ言フニ止レルモ、修身學ノ許サザル所ナルヲ以テ見ルベシ、是レ佛國ノ法律ガ誹謗ヲ罰スルノ條ノ外ニ、誹謗ヲ罰スルノ條ヲモ揭

ガテ以テ認可シタルノ原理ナリ、何トナレバ讒誣ハ常ニ無  
 實ナルモ、誹謗ハ實有ノ事ヲ非毀スルノ罪ナレバナリ、吾人  
 ハ一般公益ノ爲メニ、裁判所ノ未タ知ラザル罪惡ヲ告發ス  
 ルヲ得ルノミナラズ、并ニ之ヲ告發セザルヲ得ズ、又公衆ノ  
 危難トナル職權ノ濫用ヲ告示スルヲ得ルノミナラズ、又之  
 ヲ告示セザルヲ得ザルハ、吾人ノ了解スル所ナリ、然レモ吾  
 人ハ社會利益ノ事ニ關セザルニ、他人ノ陰事ヲ訐キテ之ニ  
 名譽ヲ失ハシムルノ權アルナシ、且ツ夫レ名譽ハ無形ノ所  
 有物ニシテ、之ニ害ヲ加フルハ、有形ノ財産ニ害ヲ加フルト  
 其罪惡相異ナラズ、而シテ此ノ所有物ヲ得タル方法ノ正ト

不正トヲ照査スルニ至テハ、吾人ノ得テ與カルベキ所ニ非  
 ズ、人ヲ辱メシガ爲メニ公布シタル行事ハ、縱ヒ公判ニ由リ  
 テ證據顯然タルアルモ、此ノ人が既ニ前非ヲ悔悟シテ社會  
 ノ正路ニ復シタル所ノ勉勵ノ實果ヲ失ハシムルハ、吾人ノ  
 關スベキ所ニ非ズ、他人ノ斯クマテ勉強シテ創造シタル事  
 業ヲ一日ニ破毀スルハ、吾人ノ決シテ爲スベキ所ニ非ザル  
 ナリ、

以上吾人カ誹謗ニ就テ論シタル所ハ、大抵内証ノ事ニモ亦  
 適用スルヲ得ベシ、内証トハ何ゾヤ、室内ノ誹謗ニ外ナラザ  
 ルナリ、

## 第二十四章

他人ノ所  
有權ヲ重  
ズルヲ

吾人ガ他人ノ自由ト智トヲ重ズベキノ義務ハ、必ズヤ他人ノ財産、即チ其勉勵及ビ思考ヨリ出テ、勞動或ハ工夫ヨリ生シタル結果ニ及ボサマシムルヲ得ズ、何トナレバ、他人ノ自力ヲ以テ得タル物ニシテ、若シ其人ニ屬セザルトキハ、其身體モ亦之ニ屬セザルベキヲ以テナリ、若シ然ランニハ、其人ハ他人ノ器械タルニ過キズ、即チ古人ノ云ハレシ如ク、他人ニ使用セラル、所ノ活動器械タルニ過ギズ、而シテ其品位ハ下テ奴隸ト均シカルベシ、何トナレバ、奴隸ノ固有性質タル、己レ何物ヲモ所有スルヲ得ズシテ、畢生唯主人ノ爲メニ働カ

チルヲ得テシルモノナレバナリ、故ニ所有權ハ身體ノ自由、及ビ生命不可侵ノ理ヨリ必ズ出ツヘキノ權利タリ、實ニ自ラ何物ヲモ所有スルヲ得テシルモノハ、其レ唯奴隸ニシテ、奴隸ハ吾人ガ前ニ述ベタル如ク、其善ク吾人ニ使用セラレザルカ、又ハ絶ヘテ使用ヲ受ケザルトキハ、頓ニ破壊スルヲ得ベキ所ノ一器械ナルガ故ニ、所有權ニシテ若シ廢セラル、アラバ、隨テ人ノ生命ハ一日モ安全ヲ保チガタカルベシ、是ニ於テ乎「汝ハ盜ムヲ勿レ」トノ格言ハ、萬國ノ教典中ニ載スルノミナラズ、殊ニ神勅十誡ノ如キハ、此ヲ以テ「汝ハ殺スヲ勿レ」トノ格言ノ次ニ記載セリ、

然リ所有權ハ、此ノ如ク他事ニ由リテ證明スルヲ得ベキニ止ラズ、其理ハ確乎トシテ自ラ存在セリ、而シテ直接ニ之ヲ證明スベキ原則ノアルアリテ、其原則タル、人ノ紛争スベカラザルモノナルノミナラズ、曾テ争テ受タルコト無シ、何ノ原則ゾヤ、曰ク先有ノ權、曰ク勞動ノ權、是レナリ、茲ニ人アリ、未ダ何人ニモ屬セズ、又何人モ曾テ使用セルコトナクシテ、必ズ世間ニ有益ナリト信ズル所ノ物件ヲ見出サバ、其動植物タルト死生物タルトヲ論ゼズ、我が所有ト爲スヲ得ベシ、要スルニ其之ヲ所有スルヤ、他人ヨリ奪テ得ルニ非ザレバ、決シテ非理ト言フヲ得ザルナリ、而シテ其物件

ハ其人ノ所有セント思フノ間ハ、固ヨリ其人ニ屬スベシ、之ヲ稱シテ先有ノ權ト云フ、抑モ先有ノ權タル唯所有權ノ一原理、即チ一基礎ナルノミナラズ、又其起因ト云フベキモノニシテ、所有權ノ人間ニ始リタル如何、其此ニ設立セラレタル如何ヲ吾人ニ示セリ、實ニ所有者ノ嚆矢ハ、第一ニ曠漠ナル土地ニ一定ノ住處ヲ作り、森林ニ散居セル動物ヲ聚メテ其肉ヲ食料トシ、其皮ヲ衣服トセント思考シタルモノナレバナリ、或者ハ此ノ人ヲ以テ、其以前存在シタル自然ノ共有状態ヲ害シタルモノナリト妄言セリト雖モ、此ノ如キ觀ヲ作ス者ハ、實ニ夢想ノ見ニ過ギザルノミ、夫レ諾般ノ物ノ郊

野ニ棄テラレテ、人ノ使用スルコトナキ時ニ方テヤ、人ハ何物ヲモ共有スルニ非ズ、而シテ吾人ガ天地間ニ在ル財産ヲ使用スルコトハ、一日モ共有ニ非デリキ、何トナレバ之ヲ使用スルコトハ、之ヲ所有スルコト共ニ始マリタルモノナレバナリ、

## 勞動ノ權

先有ノ權ニ次デ勞動ノ權アリ、何ゾヤ、吾人ガ我所有ト爲シタル土地ヲ、我汗ヲ滴下シテ開拓シ、耕作シ、下種シ、培養シ、而シテ其初メヨリ未ダ有セザリシ所ノ價格ヲ以テ之ニ附スルトキ、此ノ土地ハ、殆ント我創造物ノ如キモノナルガ故ニ、吾人ハ之ヲ己ニ屬スルヲ得ベク、又土地ノ裏面、若シクハ表

面ニ放擲シテ、無用ニ屬スル所ノ銅鉄木材等ヲ以テ、漁獵若シクハ農業ノ器具ヲ作り、又ハ我勢力ヲ増加シ、我生計ヲ安全ニスベキ貴重ノ器械ヲ造リタル時、之ヲ己ニ屬スルヲ得ベク、又木石ヲ以テ家ヲ造リ、大理石ヲ以テ器具、若シクハ細工物ヲ造リタル時、之ヲ己ニ屬スルヲ得ベキ等ノ權利是レナリ、故ニ勞動ノ權ハ、先有ノ權ヨリ更ニ確實ナルモノニ非ザルモ、更ニ高尚ナルモノトセリ、實ニ先有ノ權ハ、唯無心ノ自然ヨリ攫取シタルニ過ギザルモ、勞動殊ニ智識ノ勞動ノ如キハ、眞ニ物ニ創造シタルナリ、且ツ先有ノ權ハ、唯我自由ノ一行爲タルニ過ギズ、他人ノ權利ヲ侵サズルガ故ニ、

正當ノ行爲ト云フニ過ギザルモ、勞動ニ由リテ得タルノ成  
果ハ、恰モ我身體ヨリ發出シタルモノ、如ク、我智我意ヲ外  
物ニ現シテ永々之ニ附着セシメタルモノ、如シ、蓋シ何人  
タリトモ各自ノ身體及ビ各自ノ能力ヲ所有スルノ權ヲ爭  
フベカラザレバ、誰カ又勞動ノ權利ヲ爭フテ得ンヤ然リト  
雖モ茲ニ僅ニ一言セザルヲ得ザルモノアリ、何ゾヤ、曰ク人  
ノ勞動ハ己ニ其自由ニスルヲ得ベキ物體ニ非ザレバ、之ニ  
加フルコトヲ得サルモノナレバ、勞動ノ權アリトスルハ、即  
チ先有ノ權アルヲ假定スルコト是レナリ、

## 相續ノ權

所有權ハ其起因即チ此ノ權ヲ起シ、或ハ作りタル人ノ掌中

## 讓與ノ權

ニ在テ、正當ナルコト前ニ述ベタルガ如シ、今ヤ如何ナル約  
款ヲ以テ、此ノ權ヲ移轉スルガ、如何ナル理由ヲ以テ、之ヲ世  
襲トスルガ、相續權ノ基ク所ハ何ノ原則ニアルカヲ講窮セ  
ズンハアラザルナリ、

相續權ハ第一ニ讓與權即チ遺言、若シクハ讓與證書ニ由リ  
テ、其財産ヲ自由ニスルノ權利ニ基ケリ、而シテ讓與權ノ正  
理ニ合セルコトハ、決シテ疑ヲ容ルベキモノニ非ズ、何トチ  
レバ此ノ權タル我所有權ノ實行、即チ之ヲ享有使用スルノ  
一方法タルニ過ラザレバナリ、前ニ述ベタル如ク、我勞動ニ  
因リテ創造シタルモノ、或ハ先有權ノ名義ヲ以テ得タルモ



ノハ、實ニ吾人ニ屬スルモノトセバ、吾人ハ唯他人ニ對シテ我約束ヲ破リ、我義務ヲ害セザル以上ハ、我生時ニ於テ之ヲ我愛スル所ノ人ニ與フルヲ得ベシ、己ニ我生時ニ於テ之ヲ我愛スル所ノ人ニ與フルヲ得ルトセバ、我死後ニ於テ、此ヲ以テ之ニ讓ルノ權アルハ、理ノ當ニ然ルベキ所ナリ、且ツ我死後ニ存留セル者ニ讓與スルノ權ハ、通例所有權ノ道德上ノ根原即チ此ノ權ヲ作りタルノ目的ト看做スヲ得ベキヲ以テ、尙ホ更ニ正當ナルヲ覺ユルナリ、實ニ若シ我死後ニ我男兒、我女兒、我兄弟、我姊妹、我老母、我老父ニ我體苦心勞ノ結果ヲ貽スヲ得ザレバ、吾人ハ我須要ニ供スベキヲ以テ足レ

リトシ、決シテ寸陰モ之ヲ惜ミ、快樂モ之ヲ捨テ、此ノ如ク痛苦疲勞ヲ爲サザリシナルベシ、是ニ由リテ觀レハ、吾人ガ我親屬ノ爲メニ貯蓄シタルモノハ、決シテ他人ノ奪フヲ得ベキモノニ非ズ、實ニ之ヲ奪フハ我愛スル人ノ損害タルノミナラズ、我自己ノ損害ナリト云ハンモ不可ナキガ如シ、是レ所有權ノ變シテ相續權ト爲リ、所有物ノ變シテ遺物ト爲ル所以ニシテ、吾人ノ財産ハ我死後ニ轉シテ我子ノ所有トナリ、子ナケレバ我親屬ノ所有トナル所以ナリ、

財産ヲ讓與スルニハ、必ズシモ所有者ガ生前ニ讓與セントスルノ意ヲ明言シタルヲ要セズ、社會ハ人心普通ノ感情ト、

吾人ガ子孫親屬ニ對シテ行フベキ義務トニ依テ、其意ヲ推測セリ、是レ佛國民法ガ遺言外ノ相續ノ順序、即チ遺言ナキ時ニ正當ナルベキ相續ノ順序ヲ定メ、家族ノ親疎、及ビ義務ノ輕重ヲ量リテ、第一ニ兒子、次ニ父母、次ニ支親ヲ以テ、其正當相續人トナシタル所以ナリ

世襲ノ權

父ノ所有物ノ其子ニ轉ズル事ハ、唯正當ノ行爲ナルノミナラズ、子ニ對シテ行フベキ義務ノ一ナリトス、實ニ其財產タル、其子ガ幼時ヨリ貯蓄ニ安シ且ツ其子ノ在ルガ爲メニ、父母ヲシテ無數ノ價直アルコトヲ想像セシメ、又或ハ其子ノ勞動、協力、親愛ニ由リテ、増加シタルモノナレバ、此チ之ニ與

ヘザレバ、不正ナリト云ハザルヲ得ズ、且ツ此ノ財產ハ子ノ共有スル所ナルガ故ニ、父ハ決シテ之ヲ子ヨリ奪フヲ得ズ、又其一子ニノミ與ヘテ餘子ヲ害スルヲ得ザルナリ、是ニ於テカ遺言ヲ以テ財產ヲ自由ニスルノ權ハ、無限ナルベカラザルモノトス、現ニ佛國立法者ノ如キ、其民法ノ中ニ此ノ眞理ヲ認可、確定シタルハ、明斷ト謂フベシ

所有權ヲ重ズル後果

所有權ハ、嗣承ニ係ルト、讓受ニ成ルト、勞動ニ生ズルトヲ問ハズ、又如何ナル形體ト如何ナル名義トチ有スルヲ論ゼズ、果シテ正當ナル理由ニ出ルモノハ、均シク皆侵スベカラズ、故ニ吾人ハ他人ノ吾人ニ對シテ、此ノ權利ヲ重ゼンコトヲ

希望スルガ如ク、吾人モ亦他人ニ對シテ之ヲ重ンセザルヲ得ズ、然リ而シテ吾人ハ、唯直接ニ之ヲ害セザルヲ以テ未ダ足レリトスルヲ得ズ、正理ノ非トスル所ノ間接手段ニ由リテ、他人ノ所有物ヲ掌握シタルトキハ、宜ク嚴ニ之ヲ拒却シ、或ハ急ニ之ヲ返還センコトヲ要ス、加之吾人が他人ノ所有權ヲ重ズルノ義務ハ、尙ホ此ニ止ラス、何ノ利益ヲモ擷取セズ、且ツ毫モ惡意ナク、唯我過失若シクハ懈怠ニ由リテ、他人ノ財産ニ損害ヲ蒙ラシメタルキト雖モ、眞ニ正直ナラントセバ、速ニ其損害ヲ償ハザルヲ得ザルナリ

第二十五章

各個人ノ  
契約ノ來  
由

吾人相互ニ其生命、自由、財産ヲ重ズルトキハ、互ニ相害スルコト無クシテ、共ニ地上ニ生活スルコトヲ得ルヤ疑ヒナシ、然リト雖モ、吾人若シ常ニ此ノ狹窄ナル區域内ニ固居セント欲セバ、社會ハ成立ツコトヲ得ザルベシ、何トナレバ社會ハ、唯各自ノ微力ノミニ頼ラザルヲ得ザル孤立人ノ集合ト同一一般トナルベク、而シテ道德上ノ順序ニ於ケルモ、實物上ノ干係ニ於ケルモ、人々互ニ功勞ヲ避換スルニ非ザレバ、社會ハ成立ツコトヲ得ザレバナリ、然リ而シテ吾人が互ニ行ハザルヲ得ズシテ、又吾人が大ニ必要ナリトスル所ノ功勞

ニ二種アリ、一ハ專ラ恩惠ヨリ生シ、一ハ單ニ利益ヨリ出ヅ、其甲ハ我意ノ自由ニシテ、爲スト爲サマルトハ、我ニ在ルモノニシテ、其乙ハ契約、條約、約定等、各個人ヲ連結セシムル所ノ約束ヲ構成スルモノナリ、是レ人民經濟上ノ生脈タル關係ニシテ、例ヘバ賣者ト買者トノ關係、工師ト工人トノ關係、雇主ト雇人トノ關係、家主ト借家人トノ關係、地主ト借地人トノ關係、債主ト負債人トノ關係ノ如キハ、俱ニ其乙ニ屬スルモノナリ、貿易製造又ハ未來ノ豫防ヲ目的トスル所ノ諸會社ノ如キモ、亦其乙ニ屬スルモノナリ、

契約ヲ重  
ズベキノ

契約者ニ於テ此等ノ契約ヲ履行スルノ必要ナルコトハ、吾人

義務

ノ容易ニ了解スル所ナリ、何トナレバ、若シ輒ク此ノ契約ヲ破ルヲ得バ、此ノ契約ニ由リテ保固セラレタル取引又ハ事業ハ、直チニ停止セララルベク、而シテ人民經濟上ノ生脈ハ、之ガ爲メニ妨礙セラル、隨テ社會ノ成立モ、亦自カラ滯滞セララルベケレバナリ、故ニ開化シタル諸國ハ論テ俟タズ、野蠻ノ國ト雖モ、契約ヲ保護シ之ガ履行ヲ要求スル所ノ法律アリ、而シテ兩舌ニ其契約ヨリ生ズル所ノ利益ヲ擷取シテ、其義務ノ負擔ヲ爲サマル者ヲ待ツニ、多少嚴格ナル責罰、又ハ多少勢力アル抑制ノ方法ヲ用非ザルモノナシ、

然リ而シテ、此ノ法律ハ發セラレザルト、發セラレタル後、既

此ノ義務  
ノ道德上

ニ廢レタルトニ關セズ、依然トシテ常ニ吾人ノ良心中ニ存  
 在スベシ、實ニ此ノ法律タル公義ノ最大規則ノ一部ニ居レ  
 リ、何トナレバ、公義ハ詐欺セザルコトヲ含蓄スレバナリ、而  
 シテ此ノ法律ハ吾人が他人ニ對スル最モ嚴格ナル義務ノ  
 中ニ在リ、其故何ゾヤ、契約ノ文書若シクハ言語ノ上ニ成ル  
 ト唯不言ノ中ニ生ズルトナ間ハス、契約ニ背クコトハ詐言  
 ナ以テ他人ヲ欺キ、其智ヲ輕シタルナリ、實物上及ビ道德上  
 ノ損害ヲ他人ニ蒙ラシメタルナリ、實ニ其人一タビ我ト契  
 約ヲ結ビタル上ハ、復タ他ノ方法ヲ設テ其勞力若シクハ財  
 産ヲ自由ニスルヲ得ザルヘク、而シテ其利益ハ我ヨリ得ベ

クト思フニヨリ、他ニ向テ之ヲ求ルコトナカルベシ、然ルニ  
 吾人若シ其契約ニ背ケバ、其人ヲシテ徒ラニ自由ヲ失ヒ、財  
 産ヲ費サシメタルナリ、今我身ノ上ニ就テ言ハシモ、我財產、  
 我時日、我智識、我信用、及ビ我名譽ノ幾分ヲモ于繫セシムル  
 所ノ契約アリ、此ノ如ク吾人ヲ干繫セシムル所ノ契約ニシ  
 テ若シ履行セラレズンバ、其吾人ニ與フル所ノ損害ハ、果シ  
 テ幾何ゾヤ、且ツ此ノ損害タル時トシテハ要償スルヲ得ザ  
 ルモノアリトセバ、其破約者ガ吾人ニ施シタル所行ノ不正  
 ナルハ、亦果シテ幾何ナルヲ知ラザルナリ、

## 第二十六章

公義ノ義  
務及ビ抑  
制ノ權利

他人ノ生命、自由、財産、名譽及ビ良心ヲ貴重シ、若シクハ吾人  
ガ結ビタル契約ヲ履行スル、如キ此等諸般ノ義務ト、之ニ相  
對スル所ノ權利トハ、均シク公義ノ思想中ニ含蓄セリ、而シ  
テ此ノ事タル、汝ノ欲セザル所人ニ施ス勿レトノ一格言ヲ  
以テ括盡スルヲ得ベシ、抑モ公義ノ法タル、我道德上ノ成立  
ニ必要ナルモノニシテ、此ノ法ナカリセバ、吾人が自己ニ對  
スルノ義務ヲモ守ルヲ得ベカラザルヲ以テ、吾人ハ他人ヲ  
シテ我ニ對シテ之ヲ守ラシメンガ爲メニ、抑制ノ方法ヲモ  
用弗ルヲ得、且ツ他人モ、亦吾人ニ向テ同一ノ要求ヲ爲スヲ

得ベシ、實ニ此ノ法タル、吾人ガ己ニ掲ゲタル原則、即チ修身  
法ガ吾人ニ命スル所ノ事ハ、此ノ法又他人ノ之ヲ妨グルヲ  
禁ズトノ格言ニ基ケリ、第二十章  
ヲ見吾人ガ他人ノ爲メニ、我權利  
ヲ侵サル、ヲ許シ、我方以テ避クルヲ得ベキ不正ヲ忍ブハ、  
即チ自ラ我義務ノ一部ヲ棄ルニ異ナラズ、而シテ吾人ハ修  
身法ヲ犯セルモノト同罪ナリト云フヲ得ベシ、故ニ吾人若  
シ我生命、或ハ自由ヲ凌突セントスル者ニ遭ヘバ、正當自衛  
ノ權ヲ行フコトヲ得、又人ノ我財産ヲ奪ヒ去ラントシテ、社  
會ガ吾人ヲ保護スルヲ得ザル場合ニ方テハ、腕力ヲ用弗テ  
之ヲ拒ムコトヲ得ベシ、

法律ヲ以  
テ抑制ノ  
權利ヲ確  
定ス

此ノ原則ハ良心ヨリ法律ニ轉シ、卒ニ公義ガ吾人ヲシテ互ニ相守ラシムル所ノ諸義務ニ及ベリ、故ニ負債ヲ償フコトヲ拒ム者、附託セラレタル物品ヲ還スコトヲ拒ム者、己ニ結ビタル契約ヲ履行スルコトヲ拒ム者ノ如キモ、皆責罰或ハ抑制ノ方法ヲ受クベキモノトス、而シテ其輕重ハ唯其過失ノ大小、若シクハ其他人ニ蒙ラシメタル損害ノ多少ニ由ルノミ、佛國法律ノ抑制方法タル往時ハ、其人ノ身體ヲ抑留スル事ヲモ許シタリシガ、今ハ唯其財産ヲ差抑フルニ止レリ而シテ人ノ財産ニ損害ヲ加フル者ハ更ナリ、其名譽ニ瑕瑾ヲ蒙ラシムル者ハ、其法典ニ於テ要償ヲ命シ、責罰ヲ科スル

公義ハ社  
會必要ノ  
モノトス

所トス、而シテ人ノ生命ハ論ヲ俟タズ、行爲ノ自由若シクハ良心ノ自由ニ至ルマデ、一モ其法ノ保護ニ由ラザルモノ無シ、故ニ公義ガ吾人ニ命スル所ノ義務ハ、全ク我良心ニ一任セラル、モノニ非ズ、而シテ社會ヲ結ビテ生活スル所ノ人ニ在テハ、必ス之ヲ守ラザルベカラズ、何トナレバ之ヲ破ル人ノ無罪ニ歸スルコトハ、社會ノ許サマル所ナレバナリ、是ヲ以テ觀レバ、此ノ義務ハ人間道德ノ最上點ヲ示スモノニ非ズ、又社會ノ德行ハ此ニ止ルモノニ非ザルナリ、茲ニ人アリ、他人ニ害ヲ加ヘザルヲ以テ、直ニ之ヲ指シテ善人ト云フ

ヲ得ズ、又有德者ト云フヲ得ベカラズ、唯正直者ト稱シテ足  
 フシノミ、然レドモ此ノ名稱スラモ唯法律ニノミ背カザル  
 所ノ人ニ與フルニ至リテハ、吾人ノ首肯セザル所ナリ、

公義ハ完  
 全ノ徳ニ  
 非ズ

公義ハ必ズ守ラザルヲ得ザル義務タルコト多キノミナラ  
 ズ、吾人ガ全ク良心ノ法ニ從テ、此ノ義務ヲ果シタル時ト雖  
 モ、尙ホ不完全ノ徳タルヲ脱レザルベシ、何トナレバ公義ノ  
 徳タル不行的ノ徳ナレバナリ、抑モ公義ハ惡ヲ爲サレト  
 戒メテ善ヲ爲スコトヲ命ゼズ、各人テシテ其義務ノ全部、及  
 ビ其能力ノ性質ヨリ出ル所ノ目的ヲ行ハシムルモ、唯之ヲ  
 妨害セザルニ止マルノミ、然リ而シテ此ノ目的ハ、人ノ常ニ

務メテ向ハザルヲ得ザル所ニシテ、他人ノ目的ト干係ナキ  
 テ得ズ、例ヘバ一般無學ノ中ニ在テハ、多ク我智ヲ發達スル  
 テ得ズ、天下唯卑屈鄙陋ノ人ノミヲ見ル時ニ方テハ、速ニ完  
 全ノ威ニ進ムヲ得ザルベシ、願テ我保存及ビ肉體上ノ幸福  
 ニ就テ看ルルモ、其理ヲ同クセリ、試ニ思ヘ他人都テ貧窶ニ苦  
 ムル時ニ方テ、吾人ハ如何ゾ獨リ富裕ニ安ンズルヲ得シヤ、  
 他人ノ生命ヲ劫ス所ノ危難ハ如何ゾ又我生命ニ及ハザル  
 テ得シヤ、故ニ吾人ノ行爲ハ、他人ノ爲メニスルコト、自己ノ  
 爲メニスルト同カラザルヲ得ズ、而シテ吾人ガ自己ニ對シ  
 テ爲サバザルヲ得ザルノ事ハ、都テ亦他人ニ對シテ之ヲ爲サ



ムルヲ得ズ、故ニ吾人若シ他人ニ對シテ、悉ク我義務ヲ果サ  
 ントセバ、唯公義ヲ盡スヲ以テ足レリトスベカワザルナリ、  
 是ニ於テカ仁慈ノ義務モ、亦一般ノ順序ニ於テ、公義ト同ク  
 必要ナルモノトシ、公義ノ如ク必ズ行ハザルヲ得ザルモノ  
 トス、而シテ吾人ハ他人ガ我爲メニ爲スヲ欲スル所ノ事ヲ、  
 他人ノ爲メニ爲サムルヲ得ズ、而シテ吾人ガ己ヲ愛スル如  
 ク、他人ヲ愛スルコトハ、唯感情ノ發動ニ止ムベキモノニ非  
 ズシテ、必ズ之ヲ行爲ニ現出セシメザルヲ得ザルナリ、

仁慈ナク  
 レバ公義  
 ハ行ハル

公義ノ徳タル若シ仁慈ナカリセバ行ハル、ヲ得ズ、何トナ  
 レバ、人ノ能力及ビ權利ヲ知ラザレバ、眞實ニ之ヲ重ズルヲ

、ヲ得ズ

得ズ、而シテ之ヲ知ラントセバ、之ヲ愛セザルヲ得ザレバナ  
 リ、故ニ仁慈ト公義トハ、均シク同時ニ發達シタルモノニシ  
 テ、即チ良心ニ求メテモ、歴史ニ徴シテモ、並行セリト云フヲ  
 得ベシ、往古ノ理學者ニシテ、兼テ政治ニ精シク法律ニ明ナ  
 リシ人ヲ指スノ嘗テ言ヒシユトアリ、曰ク公義ハ愛人ノ事  
 ニ過ギズシテ、即チ人ニ施サムルヲ得ザルモノナリト、此ノ言  
 恩惠ト公平トヲ以テ人ヲ相結バシムルモノナリト、此ノ言  
 ヤ說中得テ盡セリ、

仁慈ハ公  
 義ノ如ク  
 一個ノ義

故ニ仁慈モ亦公義ノ如ク一個ノ義務ナリトス、何トナレバ、  
 社會ニ在テモ、各人ニ在テモ、仁慈ナクレバ道德ハ得テ實行

スベカラザレバナリ、然リト雖モ仁慈ハ公義ト異ナル義務ニシテ特別ノ性質ヲ有セリ、即チ公義ハ各人平等ニシテ同様ナル權利、確乎ニシテ不拔ナル權利ヲ定ムルモノナルニ、仁慈ハ然ラズ、唯集成セル不定ノ一權利ヲ許スノミ、此ノ權利タル人間普通ノ性質、及ビ普通ノ目的ノ故ヲ以テ、人間全體ニ屬セルモノニシテ、各人ノ身分ニ應ジテ各人ノ間ニ分配スルヲ得ベキモノトス、例ヘバ吾人ハ我愛ヲ求ムル者ニ向ヒ、愛ヲ求ル權利ノ等差ニ隨ヒ、之ヲ愛スルコト平等ナラズ、且ツ此ノ不平等ヲ我感情ヨリ轉ジテ我行爲ニ現ゼシムルハ、吾人ノ爲スヲ得ル所ナリ、是ヲ仁慈ノ性質トス、公義ノ

如キハ之ニ反シテ、人ノ彼此ヲ擇ブコトヲ得ズ、何トナレバ、公義ノ見ル所ニ在テハ、衆人皆同一ノ義務ヲ有スルノ故ヲ以テ、又同一ノ權利ヲ有スレバナリ、例ヘバ其人我友人タルニモセヨ、我仇敵タルニモセヨ、我同國人タルニモセヨ、外國人タルニモセヨ、善人タルニモセヨ、惡人タルニモセヨ、之ニ對シテ自衛權ヲ行ハザルヲ得ザル時ノ外、吾人ハ都テ其身體、財産、名譽ヲ侵スヲ得ズ、且ツ公義ノ義務タル唯我ニ命ズルニ止ラズ、又我ニ強求ス、故ニ我レ我命ヲ擲ツモ、之ニ從ハザルヲ得ザルコトアリ、何トナレバ、之ニ從ハザルノ人ハ、都テ有罪者トナセバナリ、仁慈ハ之ニ反シテ強求スルコトナク、唯

命令スルノミ、唯我ヲシテ我自由ニ任セテ善路ニ進マシムルノミ、公義ノ規則ニ反對セル事ヲ都テ爲サズルハ、是レ負債ヲ償フナリ、仁慈ノ原則ニ従フハ、是レ己ヲ捨テ、人ヲ益スルナリ、

## 第二十七章

益人行爲  
ハ仁慈  
ヲ出ルモ  
ノナリ  
共行爲ノ  
美ナルコ

吾人ハ益人行爲ノ性質ヲ見テ、其盛大美麗ナルコトヲ了解セザルヲ得ズ、看ヨ其行爲ノ性質タル、他人ノ幸福ヲ視ルコト、恰モ我幸福ノ如クシ、他人ヲシテ實體上ノ幸福ヲ得セシメ、或ハ他人ヲシテ道德上ノ完全ニ達セシメンガ爲メニ、我

勢力ヲモ我智識ヲモ我時間ヲモ惜マズ、甚シキハ我生命ヲスラ抛擲スルニ至ル、要スルニ其身ハ一般順序ノ爲メニ働ク所ノ自由ニシテ、責任アル器械ナリト考ヘザルヲ得ザルノ情ニアラズヤ、又斯ノ如クナランコトヲ命令スル所ノ法律ニアラズヤ、果シテ然ラバ何物カ、吾人自己ニ就テ之ヨリ更ニ高尚ナル思想ヲ懷カシムルアラン、實ニ此ノ事タル、吾人が微弱ナル才質ヲ以テ、神ト共ニ宇宙ノ順序、及ビ萬物ヲ愛スルノ情ヲ起スニアラズシテ何ゾヤ、吾人已ニ孝敬ヤ父慈ヤ懇切ヤ、愛慕ヨリ出ル所ノ捨己ノ行爲ヲ列示シテ、人性ノ貴重ナル證左トスルヲ以テ正シトスルヲ得バ、吾人が嚴格

ナル公義ノ區域ニ在テハ、何ノ義務ヲモ有セザル者、何ノ私情ヲモ有セザル者、己ノ全ク知ラザル者ノ爲メニ、行フ所ノ捨己ノ行爲ハ、如何ニシテ之ヲ嘆賞セザルヲ得ンヤ、實ニ吾人カ此ノ行爲ヲナスハ、何ノ故ニ由ルゾト云ハンニ、唯其人ノ世ニ在ル吾人ガ同シク、好愛、思考、痛苦ノ能力ヲ有シ、亦吾人ノ如ク、卑屈、無學、貧困、野蠻ノ状態ニ陥ラシムベカラザル不朽ノ靈魂ヲ有スルヲ知ルニ由ルノミ、

益人ノ法タル此ノ如ク高尚ナリト爲ルノミナラズ、實ニ最も高尚ニシテ、人ノ自由ト云フモノニ至大至重ノ職務ヲ附スルナリ、要スルニ此ノ法タル、社會モ各個人モ共ニ之ヲ缺

益人ノ事  
タル社會  
一般ノ法  
律ナリ

クヲ得ザルベキ必要ノ法律ナリトス、吾人前ニ云ハズヤ、社會ハ諸般ノ職業ヲ設ケ、各種ノ職人ガ互ニ相助ル所ノ一大製造所ニ比スルヲ得ベシト、第十三章  
ヲ見ヨ其レ然リ、然リト雖モ、此ノ和合モ亦一個ノ約款ニ依ラザレバ、成立ツコトヲ得ザルベシ、約款トハ抑何ソヤ、即チ社會ニ列スル所ノ各人ガ他ノ衆人ト連結シ、而シテ其負擔レタル事業ヲ行フニ方テ、唯自己一身ノ利益ヲ圖ラズ、專ラ社會公衆ノ幸福ヲ目的トスベキコト是レナリ、然リ而シテ此ノ幸福ノ性質タルヤ、固ヨリ分割スルヲ得ベカラズ、故ニ此ノ幸福ハ衆心同シク之ヲ希望シ、衆意均シク之ヲ企圖スルニ非ザレバ、決シテ得ベカラズ、

是レ仁慈ノ感情、即チ捨己益人ノ思想ガ、社會ニ列スル各人ノ心意ニ浸潤シテ、其萬般ノ動作ヲ指揮スルヲ必要トスル所以ナリ、

如何ナル身分ノ者モ益人ノ義務ヲ行ハザルヲ得ス

人民ノ囑託ニ依リテ、其國ヲ統治スルノ重職ニ當レル者ヤ、法律ヲ制定セシガ爲メニ、選舉セラレタル者ヤ、法律ヲ適用スルノ任アル者ヤ、法律ノ實行ヲ保スルノ職アル者ハ、固ヨリ公益ノ爲メニ私利ヲ遺レザルベカラザルノミナラズ、且ツ時宜ニ由リテハ、全ク私利ヲ抛擲セザルヲ得ズ、抑モ此等ノ人ガ其國人ノ信用ニ由リテ、此ノ貴重ナル地位ニ擧ゲラレタルハ、其傲心ヲ長ゼシムル爲メニモアラズ、其身代ヲ富マ

シムル爲メニモアラズ、唯其國ノ爲メニ、外ハ名譽ト獨立トヲ護リ、内ハ自由ト繁榮トヲ保テ、及ビ社會ノ存在ニ必要ナルベキ順序ヲ守ラシムルガ爲メナルノミ、此等ノ人ハ必ズ此ノ理ヲ知ラザルベカラズ、故ニ其生途ハ羨ムベキモノニ似タリト雖モ、其義務ヲ遵奉スル者ニ在テハ、是レ多苦寡樂捨己益人ノ生命ナリト云ハザルヲ得ズ、

公務ニ居ル者ガ益人ノ法律ヲ守ルベキハ、前段ニ述べタル如シ、然ラバ則チ此等ノ人ヨリ鄙賤ノ地位ニ在ル者ハ此ノ法律ヲ守ラザルヲ得ルカ、而シテ社會全體ニ對シテ義務アルモノハ、此等ノ人ノ外ニ又之アルナキカ、曰ク否、何ノ職業

ヲ營ム者モ、何ノ地位ニ在ル者モ、益人ノ法ニ遵ハザルナシ、  
 而シテ單ニ其義務ヲ盡サントスルモ、必ズ捨己ノ行爲ニ出  
 ルヲ必要トセザルナシ、實ニ捨己益人ノ事タル、命令ヲ下ス  
 者ニ存スルノミナラズ、命令ニ從フ者モ、亦之ヲ有ス、其レ然  
 リ、命令ヲ下ス者ニ向テ、此ノ法ヲ履行セシメントセバ、命令  
 ニ從フ者モ、亦如何ニシテ之ヲ履行セザルヲ得シヤ、衆人若  
 シ外面唯々トシテ、官憲ノ命令ニ從フノミナラズ、心裡善ク  
 國君議員、若シテハ法官ノ爲ス所ニ權服スルニアラザレバ、  
 如何ナル官憲ナリトモ、如何ナル官吏ナリトモ、衆人ノ利益  
 ヲ達セシムルヲ得ザルベシ、又此ノ捨己ノ事タル等級身分

ノ如何ヲ問ハズ、各人ノ家族ニ存シテ之ガ精神ヲナセリ、又  
 其事タル學問ノ研窮、及ビ技術ノ發明ニモ存セリ、何トナレ  
 バ、研窮發明ハ、唯莫ト美トヲ得シコトヲ正鵠トシ、智識ノ勞  
 カト靈魂ノ快樂トヲ增加スルコトヲ目的トスルノミナレ  
 バナリ、又其事タル矢石鋒刃ヲ冒スノ戰爭中ニモ存セリ、何  
 トナレバ、莫ニ開化シタル人民ニ在テハ、戰爭固ヨリ職業ニ  
 非ズ、又土地ヲ掠取スルノ手段ニ出ルニ非ズ、唯他ノ腕力ニ  
 對シテ、公義正理ヲ防衛セントスルニ止レバナリ、其他農ナ  
 リ工ナリ商ナリ、最モ卑賤ナル職業者ニ至ルマデ、若シ其社  
 會ニ必要ナル務ニ屬セルコトヲ覺リ、此ノ職業ヲ以テ唯己

ノミナラズ、他人ヲ益スルコトヲ務ムルキハ、一トシテ捨己  
益人ノ事業ニアラザルモノナシ、

益人行爲  
ハ各個人  
ノ關係ニ  
必要ナリ

然リ而シテ捨己益人ノ法ガ一般普通ナルコトハ、唯社會全  
體ニ關シテ然ルノミニ非ズ、又一個人ノ間ニ關シテモ然ラ  
ザルヲ得ズ、吾人ニシテ或ハ貧シカラシカ、或ハ富マンカ、或  
ハ貴カラシカ、或ハ賤シカヨシカ、或ハ博識ナラシカ、或ハ無  
學ナラシカ、吾人ハ之ニ拘ハラズ、互ニ相助クルヲ必要トス  
ルモノナリ、實ニ我金匱モ我官位モ我智囊モ、未ダ吾人ヲシ  
テ人生ノ憂苦疾病ヲ免レシムルニ足ラザルヲ以テ、何人タ  
リトモ、他人ノ助力ヲ借ラザルヲ得ザルナリ、仁慈ノ事タル

十

固ヨリ唯施與ヲノミ謂フニ非ズ、人生ノ痛苦須要ハ千差萬  
別ナルヲ以テ、仁慈ノ手段モ亦一様ナラズ、而シテ仁慈ハ各  
人ノ皆行フヲ得ベキモノトス、果シテ然ルカ、吾人ハ務メテ  
其爲スヲ得ル所ノ善ヲ爲サ、ムルヲ得ザルモノナレバ、必ズ  
仁慈ヲ行ハザルヲ得ザルベシ、是ニ於テカ仁慈即チ捨己益  
人ハ、公義ト同シク一般ノ法律ナリ、其原理タル固ヨリ不易  
無限ノモノニシテ、唯其適用ノ各殊ナルヲ以テ異トスルノ

三

第二十八章

仁慈ニ屬  
スル所ノ  
行フベカ  
ラザルノ  
事即チ毒  
惡ナル情  
欲ヲ制御  
スルコト

仁慈ト雖モ公義ト雖モ我感情ニ出ルニ非ザレバ、我行爲ヲ  
規定スルヲ得ザルベシ、嘗此ノ如キノミナラズ、先ヅ我感情  
ヲシテ、此ノ二徳ニ隸屬セシムルヲ必要トス、何トナレバ、意  
ハ多クハ心ノ勸ムル所ニ從フモノナレバナリ、例ヘバ吾人  
若シ他人ニ對シテ憎惡欲羨若シクハ復讐ノ情アラシカ、吾  
人ハ其人ノ不幸ニ陷ルヲ欲セザラントスルモ得ベカラズ、  
其人ノ蒙ル所ノ禍害ヲ喜ビ、其人ノ享クル所ノ幸福ヲ悲マ  
ザラントスルモ得ベカラザルナリ、而シテ此ノ感情ヨリ行  
爲ニ轉ズルハ、轉瞬ノ間ニ在リトス、吾人ガ此ノ感情ヲ懷ク  
時ハ、他人ニ益スルノ行ヲ爲サントスルノ意ヲ起スコトヲ得

ザルノミナラズ、其人ヲ害セザラントスルノ思ヲ萌サマル  
コトモ、殆ト難カルベシ、故ニ吾人若シ善人タラントセバ、第  
一ノ義務ハ、我内部ノ感動ヲ規定シ、我靈魂ノ中ニハ唯仁慈  
ノ思想及ビ愛憐ノ情ヲ蓄ルニ在リ、唯世人ノ見ル所ニ於テ、  
純粹無缺ナラシムルコト行爲ノ正キナ言フヲ務ムルノミナラズ、我腦裏  
ヲ測ル所ノ主宰ノ眼ニ於テモ、亦此ノ如ク看シコト感情ノ正キキ言フ  
ヲ務メズンバアラザルナリ、

然リト雖モ、我意ハ良心ノ吾人ニ命ズル所ノ事ヲ實行シ得  
ルカ、吾人ハ増惡ノ情ヲ制御シ、我見聞スル所ノ事物ニ就テ、  
喜悲スル所ノ情ヲ支配シ得ルカ、曰ク然リ、吾人ハ如何ナル

意ヲ以テ  
情欲ヲ制  
御スルコト



情欲ヲモ制御スルヲ得ベシ、何トナレバ情欲ハ、皆吾人ノ自  
ラ作ル所ナレバナリ、實ニ其始メニ方テ頓ニ之ヲ制御セバ、  
甚ダ難キニ非ズル所ノ思想若シクハ希望ナルヲ、之ヲ庇護  
シ若シクハ之ヲ激昂シ、以テ情欲ヲ作りタルハ、豈ニ吾人ニ  
アラズヤ、故ニ之ヲ破壊スルハ、固ヨリ吾人勢力ノ能クスル  
所ナルベシ、況ンヤ其未ダ發生セザルノ時ニ、之ヲ制止スル  
ニ於テチヤ、抑モ吾人ハ都テ、其好嗜ノ癖ヲ激昂弄壞シテ、我  
性質ナシテ我生時ニ受ケタルモノト異ナラシムルノ勢力  
アリト雖モ、亦此ノ勢力ヲ用非ザルコトヲ得ルノミナラズ、  
若シ既ニ其効驗ヲ感覺スル時ニハ、早ク正理ニ復リテ、之ヲ

制止スルヲ得ベキナリ、

吾人若シ初メヨリ毒惡ノ情ヲ生ゼザラシメントセバ、此ノ  
情ノ吾人ヲ賤クシ、吾人ヲ苦ムルコト幾何ゾヤ、其原由ノ至  
陋ニシテ、其後果ノ鉅害タルコト幾何ゾヤ、又社會ヲ窘ムル  
所ノ痛苦混亂ノ中ニ於テ、其占ムル所ノ地位如何ト考一考  
スレバ足ランノミ、

吾人ハ數個ノ情欲ヲ區別スルモ、皆唯人ヲ惡ム方法ノ種類  
ナルニ外ナラズ、即チ憎惡、復讐、欲羨、傲慢、不忍是レナリ、憎惡  
トハ何ゾヤ、即チ熟思ニ出タル忿怒ノ永續セルモノニシテ、  
際限モナク程度モナキノミナラズ、時トシテハ、其目的ノ既

毒惡ナル  
情慾ノ性

實

憎惡

ニ消滅シタル後モ尙ホ存スルモノナリ、然リ而シテ忿怒ノ情タル、必然吾人ナシテ一時正理ノ使用ヲ忘却セシメテ、禽獸ト同様ノ地位ニ墜落セシムル所ノ感動ナリトセバ、吾人ニシテ若シ毫モ此ノ状態ヲ寛慢ニセズシテ、唯之ヲ永久ナラシムル時ハ、其罪惡果シテ幾何ゾヤ、實ニ憎惡ニ混シタル熟思ハ、之ヲ鎮壓セズシテ却テ之ヲ永續セシメ、其目的ヲ満足セシムルヲ是レ務ムルノミ、

復讐ハ責罰ヲ行フニ似テ反テ非ナル所ノ憎惡ナリ、惡ヲ以テ惡ニ酬イテ直チニ止ム所ノ憎惡ナリ、故ニ世人ハ往々其言語及ビ思慮ノ中ニ責罰ノ思想ト、復讐ノ思想トヲ混雜セ

リ、然リト雖モ人ハ自カラ責罰ヲ行フヲ得ズ、惡ニ報ニルニ惡ヲ以テスルヲ以テ、正理ナリト思考スルヲ得ズ、復讐ハ古人ノ云ヘル如ク、一個ノ害惡ニシテ通常害惡ニ比スルニ、唯他ノ害惡ニ繼グモトナルヲ以テ異トスルノミ、而シテ修身法即チ我行爲ヲ規定スル正理ノ吾人ニ命ズル所ハ、人ノ己ニ加ヘタル惡ヲ思ハズシテ、唯我力ノ能クスル所ニ隨テ善ヲ爲サンコトヲ、是レ務ムルニ在リ、

欲羨ハ無氣無力ノ愛己心ヲ以テ、己ヨリ幸福ナル者ヲ憎ムノ情ニシテ、此ノ情ハ己ヲ害シタル行爲、或ハ己ヲ妨クル所ノ人ノ爲メニ發スルモノニ非ズ、己ガ不幸若シクハ過失ニ

由リテ、利益ヲ失ヒタルガ爲メニ生ジ、又己ニ害ナキノミナ  
 ワズ、己ニ慈愛ナル人ニ向ケテモ、其己ヨリ幸福ナルヲ見テ生  
 ズルモノトス、而シテ人ヲ羨ム者ノ心中ニハ、其自己ノ幸福  
 ナ増スノ念慮少ク、他人ノ幸福ヨリ生ズル所ノ痛苦多シ、故  
 ニ情欲ノ種類中、欲羨ハ最モ愧ヅベク、最モ憫ムベク、最モ道  
 理ニ合ハザルモノトセリ、實ニ憎惡、復讐、忿怒ノ如キハ、其目  
 的ヲ固有セルガ故ニ、必ズ之ニ向テ勇進シ、其意ノ満足ヲ希  
 望スルヲ得ベシ、是レ亦或人ガ多神教ノ諸神ヲ以テ、人間ノ  
 情欲ニ象リタルモノト看做シ、復讐ハ神ノ快樂ナリト云ヒ  
 タル所以ナリ、然ルニ欲羨ノ如キハ之ニ反シテ、唯自己ノ無

力ヲ示スノミ、唯自己ノ怒氣ヲ逞クスルニ在ルノミ、決シテ  
 自己ノ目的アルニ非ズ、  
 然リ而シテ欲羨ト憎惡トハ、通例傲慢ヨリ出ルナリ、先ヅ其  
 憎惡ニ變ズル所以ヲ説カシニ、凡ソ傲慢ナル人ハ、世界ノ中  
 ニ、唯己アルヲ知り、凡百ノ事物ヲ以テ專ラ己ニ益セシメシ  
 トスルガ故ニ、却テ屢々己ヲ辱カシメ、己ヲ憤ラシムル所ノ  
 抵抗ニ遭遇スベシ、而シテ其極ヤ遂ニ己ニ抵抗スル者ヲ憎  
 ムニ至ルナリ、又其欲羨ニ變ズル所以ヲ云ハシニ、人ニシテ  
 若シ己レ諸般ノ能ト、諸般ノ徳トヲ併有スト思惟スル時ハ、  
 己レ何物ヲモ盡ク有スルノ權アリト信ズルガ故ニ、其己ニ

屬セザルハ、皆曰ヨリ奪ヒタルナリ、他人ノ得タル利益ハ一  
 トシテ、巳ノ損害タラザルモノ無シト思惟スルニ至ルベシ、  
 傲慢ハ其結果必ズ二欲ニ流ル、テ以テ、其罪スベキコト此  
 ノ如シ、又其固有ノ性質ニ就テ考フルモ、全ク人ヲ愛スルノ  
 情、及ビ權利ヲ重ズルノ心ニ反對セリ、何トナレバ權利ハ、平  
 等ヲ假定スルモノナルニ傲慢ハ平等ヲ嫌惡シ、而シテ人ヲ  
 愛スルノ情ハ、愛己心ヲ拒絶スルモノナルニ傲慢ハ愛己心  
 ノ最モ熾ナルモノト云フヲ得ベケンバナリ、  
 又傲慢ニ附着セル所ノ欲ニ不忍ト云フモノアリ、例ヘバ宗  
 教ノ爲メニ人ヲ強迫スルノ不忍者ハ、他人ノ言語思想ノ已

不忍

ト異ナルヲ許サズ、而シテ其辭ヲ託スルヤ神ヲ保護セント  
 スルヲ以テセリ、要スルニ此ノ輩ノ舉動タル傲慢心ニ出ル  
 ヤ明ラケシ、何トナレバ、此ノ輩ヲシテ、若シ眞ニ神ヲ信ズル  
 無私ノ情ヲ有セシメバ、必ズ宗教ノ真理ヲ知ラザル者ヲ憐  
 ミ、強迫ノ術ヲ假ラズシテ、説諭ノ手段ニ出ヅベキヲ以テナ  
 リ、

毒惡ナル  
 情欲ヨリ  
 家族中ニ  
 生ズル結  
 果

不忍、傲慢、憎惡、欲羨、及ビ復讐ノ念ハ、吾人ヲシテ不幸、及ビ罪  
 惡ニ陷ラシムル所ノ最強至大ノ根原ニアラザルカ、曰ク然  
 リ、試ニ此等ノ情欲ヲシテ家族中ニ發出セシメヨ、又ハ己ニ  
 發出シタルヲ制セズシテ、益增長セシメヨ、則チ夫婦、兄弟、父

子ノ連脈ハ、直ニ斷絶スベキナリ、往古男子ガ婦人ヲ視ルニ、己ノ快樂ヲ滿テシガ爲メニ、創造セラレタルモノヲ以テシ、一婦ヲ娶ラズシテ衆妻ヲ畜ヘ、或人民ノ如キハ、今尙ホ此ノ陋俗ヲ保存スルハ、是レ男子ノ傲慢ニ出シナリ、又父タル者ガ其保護愛育セザルヲ得ベカラザル、子ヲ視ルニ己ノ所有物ヲ以テシ、其自由ヲモ其生命ヲモ自在ニスルヲ得ベシト信シタルハ、是レ父ノ傲慢ニ出シナリ、又嫡子ノ權ト云フ者ヲ立テ、之ガ爲メ家族ヲシテ欲美ト憎惡トノ念ヲ生ゼシメタルハ、是レ傲慢ノ結果ナリ、又見ズヤ、教典ニ載セタル謀殺者ノ凶矢ガ、其兄弟ヲ殺シタルハ、固ト欲美ノ念ニ出シ

コサ、

薄怒ナル  
情欲ヨリ  
社會中ニ  
生ズル結  
果

然リ而シテ此等ノ情欲ハ、唯家族ノ平和ヲ妨害スルノミナラス、社會全體ノ安寧ヲ擾亂シ、各個人ヲシテ相爭ハシメ、各人民ヲシテ相闘ハシム、實ニ故殺ナリ謀殺ナリ内亂ナリ外寇ナリ多クハ此ノ情欲ヨリ生シ、革命又ハ革命ヲ起シタル邪政惡法ノ如キモ、亦之ヨリ生ズ、到底ハ權利ヲ輕侮スル所ノ政事トシテ、未タ曾テ傲慢欲美若シクハ憎惡ノ情ヲ含蓄セザルモノアラザルナリ、唯吾人ハ人間名譽ノ爲メニ、口ヲ開カザルヲ得ザルノ一言アリ、何ゾヤ、憎惡殊ニ各國ノ間及ビ貴賤人ノ間ニ存スル所ノ憎惡ノ如キハ、大概無學ヨリ起

ルトノ一言是レナリ、

第三類 國即チ國ト國民トガ互ニ相對シテ有スト所ノ義務

第二十九章

凡ソ人ノ湊集スルヤ、必ズ其良心ニ由リ、互ニ同様ノ義務ヲ負ヒ、同様ノ權利ヲ占ム、故ニ吾人ハ前既ニ社會ノ基本タル一般ノ原則ヲ説明シタルナリ、然リト雖モ國或ハ國民社會ト名ヅル所ノ者ノ外ニ、吾人ハ未ダ社會ノ事實ニ現レタルモノヲ見ズ、實ニ國即チ國民社會ナル者ヲ除却スルトキハ、社會ハ僅ニ人ノ腦裏ニ存スルナリ得ベキ一個ノ空想タル

國ハ社會ノ交際ヲ實行スルニ必要ナリ

國ヲ成スニ必要ナル約款法律政府

ニ過ギザルノミ、

夫レ國ト云フ者ハ、唯許多ノ家、若シクハ人ガ偶生ノ事情ニヨリテ、暫時集合シタルモノニ非ズ、又祖先ヲ同クシ、職業及ビ須要ヲ同クスルノ故ヲ以テ、永ク結合シタルモノニ非ズ、是レ同一ノ血脈ヲ有シ、單一ノ意向ニ從テ運動スル所ノ一箇ノ有機體ナリ、是レ同様ナル法律ノ下ニ集リ、且ツ此ノ法律ヲ施行シ、因テ全社會ヲ代理セル政府ノ治下ニ從フ所ノ一社會ナリ、苟モ國ニシテ此ノ二個ノ約款ヲ有セザランカ、則チ之ヲ指シテ國ト云フヲ得ズ、各個ノ國民ヲシテ其身體ヲ保存スルニ必要ナル安堵ヲ得セシメ、其義務ヲ盡スニ必

要ナル自由ヲ得セシムベキ社會ナリト云フヲ得ザルベシ、其故何ゾヤ、法律ヲシテ若シ無カテシムバ、命令ヲ下ス者ハ、假令ヒ寛仁ナルモ、敖然トシテ、主君ノ地ニ居ルベク、命令ニ從フ者ハ、假令ヒ恭謙ナルモ、愴然トシテ、奴隸ノ境ニ陷ルベシ、又法律アルモ、衆人ヲシテ之ヲ遵奉セシムルニ足ルベキノカアル官憲ナカリセバ、法律ハ竟ニ具文ニ属シテ、各人恣ニ我好ム所ノ事ヲ爲シ、社會ハ直ニ崩潰ニ歸スベケレバナリ、

然リ而シテ此ノ二個ノ約款タル、純ラ外ニ屬スル者タリ、故ニ國ハ別ニ其内ヲ堅クスル所ノ第三ノ約款ヲ立テザルベ

國ヲ愛スル心

コヲズ、法律ニモセヨ、官憲ニモセヨ、克ク其治下ニ在ル者ノ風俗思想及ビ感情利益ニ適シ、其治下ニ在ル者モ、亦意向愛情慣習須要ヲ共ニシ、所謂ル本國ノ精神ヲ成セル事情ニ由リテ、互ニ相結合スルニ非ザレバ、法律モ官憲モ永ク存スルヲ得ザルベク、又盛大ナル効驗ヲ奏スルヲ得ザルベシ、而シテ本國ノ精神ヲ成セル感情ノ第一ニ位スル者ハ、其國ヲ愛スルノ心ナリトス、

國ヲ愛スル心ハ、家ヲ愛スル心ノ後果タルガ如ク、又此ノ心ヲ擴張シタルガ如キモノニシテ、其人心中ニ在テ勢力アルコトモ、亦之ト相異ナラズ、抑モ我祖先ヨリノ本國ハ、吾人ガ

國ヲ愛スル心ノ自  
然ナルハ  
爾本家ヲ  
愛スル心

生來我第一ノ愛情ト、我第一ノ記憶トヲ附スルノミナラズ、幼時ニ在テ、常ニ養育扶助ヲ受ケタルノ地ナレバ、吾人ノ之ヲ愛スルヲ、恰モ我生母若シクハ乳母ヲ愛スルト相均キモノトス、且ツヤ吾人ガ之ヲ愛スルハ、唯自己ノ故ヲ以テスルノミニ非ズ、又我兄弟及ビ我祖先ノ故ヲ以テスルナリ、何故ニ之ヲ愛スルヲ兄弟ノ故ヲ以テスト謂フヤ、諸國開闢ノ時ニ方テ、一國ノ人民ヲ成スモノハ、一家ノ子孫ナレバナリ、一株ノ枝幹ナレバナリ、何故ニ我之ヲ愛スルハ祖先ノ故ヲ以テスト謂フヤ、本國ノ名ハ祖先ノ名ト相分ツヲ得ザレバナリ、本國ハ祖先ガ生來棲息シ、吾人ノ如ク痛苦ヲ受ケ、其汗ヲ

以テ之ヲ肥シ、其血ヲ以テ之ヲ護リタル地ニシテ、其骸骨ヲ藏メタル所ナレバナリ、吾人ハ祖先ノ思想、傳説、風習、法律、記憶、希望ヲ譲リ受ケタルノミナラズ、又其勞力ニ由リテ創造セラレタル財産、即チ一朝擲棄スレバ忽チ無上ノ貧困ニ陥ルベキ所ノ實體上ノ勢力ヲ譲リ受ケタリ、吾人若シ我力以テ勝ツヲ得ベカラザル外物ノ爲メニ、本國ノ地ヲ驅逐セラレテ竟ニ還歸ノ期ナキ時ハ、皆ニ道德上ノ生命ヲ失フノミナラズ、實ニ肉體上ノ生命ヲモ失フガ如キ思テ起スハ、蓋シ是ガ爲メナリ、而シテ凡ソ本國ヲ愛スルノ心ヲ咏ズル詩歌中ニ在テ、未ダバピロン河上ノ賦ノ如ク、善ク之ヲ描出シタ



ルモノアルヲ見ズ、其賦ニ曰ク

我がトモガラハ パピロンノ 河ノホトリニ スマヒ

ニキ シナンヲ思ヒテ 泣キタリキ 中略 ア、ゼリ、サレ

ム 汝ヲバ 忘ル、ナラバ 右ノ手ハ タチドヨロニ

ゾ 朽チモセン 汝ヲ思ヒ 出サズバ 舌コソアギト

ニ ツキモセメ

國ヲ愛スルノ心タル、吾人が前ニ述べタル如キ強大連脈ヲ  
構成スルノミナラズ、又自由ノ存スルヲテ假定セリ、實ニ奴  
隸、若シクハ壓制君主ノ臣民ノ如キハ、唯生國ヲ有スルノミ  
ニシテ、本國ヲ有セズ本國ヲ有スルモノハ、獨リ國民アルノ

國ヲ愛ス  
ル心ハ自  
由ヲ愛ス  
ル心ト雖  
ル、トナ  
シ

愛國ノ効  
驗

ミ、故ニ吾人ハ國ニ對シテ同様ノ權利ヲ有シ、同様ノ義務ニ  
隨フモノ、即チ同國民ト謂フヲ得ルモノニ非ザレバ、名ヅケ  
テ本國ヲ同クスル者ト謂フヲ得ザルナリ、

吾人ノ義務ト權利トヲ共通スルヤ、自ラ至貴至重ノ感情ヲ  
動起ス、故ニ愛國心ノ高點ニ達スルモノハ、古今自由ノ人民  
ニ如クモノ無シ、例ヘバ希臘人ノ如キ、僅ニ數千ノ兵ヲ以テ  
百万ノ夷蠻ヲ退ケタリ、羅馬ノ如キモ、原ト唯一個ノ都邑ナ  
リシニ、自由ト名譽ノ情トニ激セラレテ、漸次ニ近傍ノ人民  
ヲ從ヘ、遂ニ世界ヲ一統スルニ至リタリ、佛國ノ如キモ亦然  
リ、今ヲ距ルヲ四百年前、驚嘆スベキ愛國ノ一美例アリ、僅ニ

牧羊ヲ業トセル田婦ガ愛國敬神ノ情ニ激セツテ強敵ヲ攘セ、佛國ヲシテ外國ノ羈絆ヲ脱レシメタルハ、衆人ノ稔知スル所ナリ、又荷蘭小國ノ民ヲシテ、義勇以テ克ク千五百年代ノ大國タル西班牙ノ管輓ヲ免レシメタルハ、其國ト其良心トヲ自由ニスルノ念慮ニ出デタルナリ、又千七百八十九年革命ノ後、歐洲ノ諸國ガ佛國ノ自由トナラント欲シタルヲ以テ罪ト爲シ、同盟シテ兵ヲ加ヘシ時、佛國ハ糧乏ク衣單ナル義勇ノ兵ヲ以テ、克ク其國境ト其始生ノ自由トヲ防護シタリキ、

實ニ此等驚嘆スベキノ事業ハ、自由ヲ受スルノ念ヲ以テ修飾シタル愛國心アルニ非ザレバ、成シ得ル能ハザル所ナリ、此ノ心タルヤ、能ク全國ノ人民ヲシテ、良心意嚮ヲ一ニセシムルヲ、恰モ一人ノ如クナラシメ、又各個人ヲシテ全國人民ノ勇氣義膽ヲ奮起セシム、何トナレバ、各個ノ國民ガ、若シ其國民ト云ヘル名ニ負カザラントスルトキハ、其國ヲ以テ己ガ身ト同一視スルガ故ナリ、

### 第三十章

吾人已ニ國ハ那ノ一般ノ約款ヲ基礎トシテ成立ツト云フコトヲ説示シタリ、今ヤ此ノ約款ヨリ生ズル所ノ行爲ノ規

法律ニ遵  
フコ  
二種ノ法  
律

則如何、國ト國民トノ相互ノ義務如何ヲ講究セントス、  
吾人ハ已ニ國ノ一日モ法律ヲクシテ立ツベカラザル所以  
ヲ示シタリ、第二十九  
章ヲ見而シテ善ク整頓セル國ノ法律ハ、必ズ二  
大種ニ分別スルヲ得ベシ、其一ハ政府ノ體裁及ビ政府ト人  
民トノ關係ヲ規定スルモノニシテ、是ヲ政法ト名ヅク、其二  
ハ國民相互ノ關係ヲ規定スルモノニシテ、是ヲ民法ト名ヅ  
ク、現ニ佛國ノ如キ、選舉被選舉ノ約款ヲ定ル所ノ法、州會郡  
會及ビ邑會ノ權限ヲ定ル所ノ法ハ、是レ政法ナリ、而シテ婚  
姻、相續、讓與、後見、契約等ニ關スル所ノ法ハ、是レ民法ナリ、其  
他諸般ノ規則ハ、裁制又ハ補助トシテ、此ノ二種ノ法律ニ附

民法

加スルモノトス、是ヲ刑法、行政法、訴訟法等ト名ヅク、

民法ハ皆同一ノ權力ヲ有ス、即チ立法者ノ均一ニ制定スル  
所タリ、政法ニ至リテハ然ラズ、吾人ガ上ニ述ベシ如ク、政府  
ノ體裁、政府ヲ構成スル官憲ノ員數、權限、及ビ此ノ官憲ガ相互  
ニ守ラザルテ得ザル關係ヲ規定スル所ノ法ハ、國ノ大法ニシ、吾  
人ガ名ヅケテ憲法ト云フモノ、是レナリ、而シテ社會ノ上ニ此ノ如  
キ至大ノ關係ヲ有セザル政法ハ、時ノ事情、又ハ輿論ノ景況ニ  
隨テ、容易ニ改革スルヲ得ベキ尋常法律ノ規定スル所トス、  
國民ノ第一義務タルモノハ何ゾヤ、即チ憲法ヲ尊敬シ、我權  
利ノ所有ヲ盡シテ、務メテ他人ヲシテ之ヲ尊敬セシムルニ

政法

國ノ憲法

在ルヤ明ナリ、夫レ憲法ハ、其管轄スル所ノ國內ニ在テ、自由ト安寧トヲ護ルノミナラズ、社會モ賴テ以テ成立スル所ノ契約ナリ、故ニ之ヲ遵奉セズ、之ニ抗敵シ、之ヲ紛更シ、若シクハ破毀セント欲スル如キハ、所謂叛逆ナルモノニシテ、即チ社會ヲ殺サントスル所ノ罪惡ナリト云フモ、不可ナルナキガ如シ、憲法ニシテ若シ破毀セラレバ、諸般ノ法律ヲ擧テ、隨テ廢止セラルベシ、何トナレバ、憲法ハ其法律ノ基礎ナレバナリ、憲法ニ由リテ其法律ヲ施行シ、若シクハ解釋スルノ任ヲ受ケタル官憲ハ、憲法ト共ニ亡ブベケレバナリ、憲法ニシテ破毀セラル、トキハ、是レ腕力ノ正理ニ代レルナリ、無

法ノ有法ニ代レルナリ、紊亂ノ順序ニ代レルナリ、此ノ効驗ノ生ト不生トヲ問ハズ、其効驗ヲ生ズベキ行爲ハ、均シク罪惡タリ、而シテ吾人ハ此ノ行爲ヲ目シテ、單ニ國ニ對セル罪惡ナリト云フヲ以テ、尙ホ足レリトスルヲ得ズ、又修身法ニ對セル罪惡ナリト云フヲ得ベシ、何トナレバ、國ナケレバ、社會ノ順序ヲ實行スルヲ得ズ、社會ナケレバ、人々其義務ヲ果スヲ得ザレバナリ、

尋常ノ法律ハ其民法部内ニ屬スルト、政法部内ニ係ルトヲ問ハズ、其國及ヒ社會ノ成立ニ關スル、之ヲ憲法ニ比センニ、稍間接ナルヤ疑ヒ無シ、然リト雖モ此ノ法律タルヤ、或ハ

國ノ品位ヲ護リ、或ハ國ノ公義ヲ同クシ、或ハ國ノ繁榮ヲ助ケ、或ハ各人ノ道德ヲ高クシ、或ハ各人ノ保存ヲ衛リ、或ハ家族ノ平和ヲ維持ス、故ニ知テ之ヲ破ルモノハ、縱令ヒ刑法ノ責罰ヲ免ルトモ修身ノ道ヨリ之ヲ視レバ、亦罪ナシトスルヲ得ズ、凡ソ人ハ其住止スル所ノ社會ノ法律ヲ遵奉スルヲ以テ、其道德上ノ義務ナリトス、何トナレバ、人ハ須要ト義務トニ因リテ、必ズ共ニ其地ノ社會ニ屬セザルヲ得ザルニ、其法律ニシテ若シ遵奉セラレザルコトアラバ、何ノ社會モ立ツヲ得ザレハナリ、且ツヤ一社會ノ下ニ在テ受ル所ノ恩惠ハ、身體財産ヲ保護セラル、ニ止ルモ、其恩惠ヲ受ルハ、即チ此

ノ保護ヲ與フルニ必要ナル條款ヲ守ラシメテ契約セルナリ、果シテ然ルカ、全社會ニ對セル契約ハ、一個人ニ對セル契約ヨリ神聖ナラザルノ理ナカルベシ、

國民ハ憲法及ビ法律ヲ遵奉シ尊敬セザルベカラザルノミナラズ、又國ノ大法ニ因リテ政權ヲ握リ、國家ノ防衛ニ任シ、法律ヲ解釋シ、若シクハ施行スル所ノ官吏官衙ニ向テ從順シ、尊敬セザルヲ得ズ、此ノ義務ヲ守ルベキハ、政體ノ君主政治ナルト、共和政治ナルトヲ擇バザル所ニシテ、且ツ同様ノ權力ヲ以テ、諸人ニ賦課セラル、ナリ、何トナラバ、此ノ義務ハ社會ノ順序ノ精神ヨリ發出スレバナリ、抑モ憲法ニ定メ

タル約款及ビ制限内ニ於テ、國ノ名ヲ以テ言行締約シ、外ハ其獨立名譽及ビ至當ノ權力ヲ防護シ、内ハ其保存、安寧ヲ圖リ、法律ヲ施行シ、擾亂ヲ鎮壓スルヲ以テ職トスル所ノ官憲ナカリセバ、國ハ一瞬時モ成立ツコトヲ得ズ、且ツ夫レ吾人ハ此ノ官憲ニ從順スルノミヲ以テ未ダ足レリトスルヲ得ズ、必ズヤ形貌上ノ從順ニ加フルニ、心意上ノ從順ヲ以テシ、尊敬ノ意ト義務ノ念トヲ以テ、此ノ内外ノ從順ヲ獎勵セザルヲ得ザルナリ、而シテ吾人ガ此ノ如ク官憲ヲ尊敬スルハ、即チ我國及ビ一般ノ社會ヲ尊敬スルナリ、國民ノ品位ハ、國ノ品位ト相離ルヲ得ザルモノナレバ、即チ吾人自己ヲ尊敬ス

ルナリ、而シテ此ノ事タルヤ一個ノ人ニ屈スルニ非ザルナリ、唯法律ノ下ニ屬スルノミ、吾人ガ最上官憲ニ就テ定ムル所ノ原則ハ、法律ヲ以テ設ケタル他ノ諸官憲及ビ各種各等ノ官吏ニ適用スベシ、其之ニ適用スルヤ、固ヨリ官憲官吏ノ性質輕重ニ隨テ異アリトス、吾人ガ良心ヲ以テ職務ヲ盡シ、權限ニ應ジテ法律ヲ施行スル所ノ官吏ニ邂逅スルハ、即チ法律ニ遭遇スルナリ、吾人ガ法律ヲ執ル者ヲ尊敬スルハ、即チ法律ヲ尊敬スルナリ、但シ其人ノ官吏タルト否トニ拘ラズ、唯其自己ノ才德ニ因リテ、吾人ガ殊ニ之ヲ尊敬スルハ、修身學ノ禁ゼザル所ナリ、其レ

然リ、而シテ時ノ如何ヲ問ハズ、形體ノ如何ヲ論ゼズ、吾人ガ法律ノ管輅ヲ甘受スルハ、即チ道德上及ビ政事上ニ於テ、自由ヲ得且ツ之ヲ得ベキ品格ヲ占ムル所ノ唯一手段ナリトス、要スルニ謀反ノ精神ノ如ク、奴隸ノ制ニ近似スルモノ無ク、奴隸ノ制ノ如ク、謀反ノ精神ニ近似スルモノ無カルベキナリ

### 第三十一章

法律ヲ尊敬スルコトハ、前章ニ説ケルガ如ク、國及ビ國民ノ第一ノ要件タリ、故ニ吾人ハ唯自ラ之ヲ遵奉スルノミヲ以テ

國民ハ法律ノ施行ニ助力スベキナリ

足レリトスルヲ得ズ、又時アリテハ、他人ノ之ヲ破ラントスルヲ防止セザルヲ得ズ、此ノ事タルヤ、政府及ビ其諸官吏ノ負擔スル所ナルハ、論ヲ待タズト雖モ、官吏ガ若シ其職務ヲ盡スニ必要ナル力ヲ欠ク時アリテ、常人ニ助力ヲ請求スルアラバ、常人ハ速ニ其請求ニ應ジテ、之ニ助力ヒザルヲ得ズ、此ノ場合ノ如キ、即チ破ラレシトスル法律ガ、官吏ノ口ヲ假テ以テ常人ニ其扶助ヲ求ムルナリ、更ニ巧ニ之ヲ言ヘバ、法律ガ衆人ヲシテ其自己ノ防衛ニ從事セシムルナリ、何トナレバ、法律ハ衆人ノ保障ニシテ、社會ノ干城ナレバナリ、爰ニ法律破ラレテ、唯一個人其損害ヲ蒙ルコトアラシカ、而シテ

之ヲ不問ニ措クハ、是レ全社會ノ苦痛スルナリ、危險ニ迫ルナリ、故ニ世人ガ往々政府ノ下吏ヲ敵視シ、其拘引スル所ノ犯罪人ヲ看テ、無辜ニシテ困阨ヲ被ル者ト做スガ如キハ、極メテ妄誕ニシテ且ツ危險ナル僻見ト云ハザルヲ得ズ、此ノ如キ感情ハ、官憲ト壓制トヲ混一シタル昔時ニ在テ、或ハ存セシコソアランモ、凡百ノ事、法律ニ據リ、公行ニ據ル所ノ今日ニ至テハ、吾人ノ決シテ腔裏ニ萌生スルヲ得ベキ感情ニ非ズ、此ノ感情タルヤ、條理ニ合セズ、自由ニ戾ルノミナラズ、其種ヤ唯人ヲシテ叛亂及ビ罪惡ニ陥ラシムルノミ、吾人ガ官吏ノ請求ニ應ジテ、法律ノ施行ニ助力スルハ、即チ

時アリテ國ノ爲メニ盡カスル所トナルモ、要スルニ間接手段タルニ過ギズ、而シテ國ハ此ヨリ更ニ効驗多ク、且ツ常規アル所ノ方法ヲ以テ、吾人ノ助力ヲ求ムルコトヲ得、何ゾヤ、即チ吾人ヲシテ我財產ヲ以テ國ヲ成立セシメ、我腕力ヲ以テ之ヲ扶助セシムルヲ得ルナリ、更ニ之ヲ管ヘバ、租稅ヲ納メ、兵役ニ從ハシムルヲ得ルナリ、

租稅トハ何ゾヤ、其全體ニ就テ之ヲ視レバ、人民ガ年毎ニ其歳入ノ幾分ヲ割キ、官吏ノ手ヲ經由シテ、國ノ須要ニ供スルモノ是レナリ、實ニ國ハ家族ト同ク、又各個人ノ均シク入額ナキヲ得ズ、財産ナクシテハ立ツヲ得ザルナリ、今其要ヲ舉



シニ、國ハ陸海軍ヲ置テ其不虞ニ備ヘザルヲ得ズ、之ヲ置カ  
 シニハ、武器彈藥兵裝等ヲ買ハザルヲ得ズ、又國ハ諸種ノ官  
 吏ヲ置テ、或ハ司法ノ事ヲ執ラシメ、或ハ國庫ノ事ヲ司ラシ  
 メ、或ハ法律及ビ政府ノ布達ヲ施行セシメザルヲ得ズ、此ノ  
 人々ハ、全ク其身ヲ國事ニ委ヌルヲ以テ、之ニ給料ヲ與ヘ、其  
 等級ニ應ジタル生計ヲ營マシメザルヲ得ズ、又國ハ道路、溝  
 渠、河港、堤防、殿堂、塔碑、其他諸種ノ建物ヲ築造シ保存セザル  
 ナ得ザルナリ、然ルニ國若シ此ノ諸費ニ充ツベキ金額ヲ有  
 セザレバ、如何ニシテカ此等ノ諸業ヲ成シ得ベキ、而シテ此  
 ノ金額ヲ國ニ納ムルモ、ハ、唯其國ノ人民アルノミニシテ、

租税ヲ定  
ムルヲ

租税ヲ納  
ムルヲ

其他ニ其人アルヲ見ザルナリ、  
 立憲政體ノ國ニ在テハ、租税ヲ定ムルヲ得ル者ハ、人民ノ選  
 舉セル代議士ノ外、更ニ之レ無キナリ、而シテ代議士己ニ租  
 税ヲ議定シタル以上、衆民ハ其資力ニ應ジテ之ヲ納メザル  
 ナ得ズ、其故何ゾヤ、人ハ貧富トナク、皆此ノ租税ヲ以テ維持  
 スベキ諸般ノ政務ノ利益ヲ享クレバナリ、故ニ租税ヲ納ム  
 ルハ、唯法律ニ因リテ課セラレタル義務タルノミナラズ、又其  
 心ノ義務タリ、詐欺ヲ假テ其全部又ハ一部ヲ免ル、ヲ得ル  
 時ハ、眞實ト正直トニ辜負スベシ、抑モ法律ニ由リテ租税ヲ  
 課セラレタル取引、利益、又ハ營業ヲ隱匿スルモノハ、二個ノ

點ヨリ視テ罪アリトス、二個トハ何ゾヤ、一ハ彼等ハ國ヲ欺テ其義務ヲ免レ、一ハ我負擔スベキ部分ヲ他人ニ負擔セシムルモノ是レナリ、此ノ行爲ハ善良ナル國民ノ爲スベキ所ニ非ザルヲ明ナルノミナラズ、又正直ナル人ノ爲スベキ所ニ非ザルナリ、

兵役ハ租税ノ如キ一義務ニシテ、或ハ之ヲ血税ト名ヅクルモ、其理ナキニ非ザルナリ、然レドモ今ヤ世運ノ開明ニ薄シ、風俗ノ善良ニ趨キタルガ爲メ、其義務ノ範圍ハ差狭クシテ、租税ノ如クニ徧ク被ラザルニ至レリ、太古ノ共和諸國及ビ中古ノ獨立諸府ニ於テハ、國民ヲ舉テ皆是レ兵ニシテ、其老

兵役及ビ  
其諸種ノ  
方法

衰スルニ至ルマデハ、必ズ兵役ニ從ハザルヲ得ズ、當時戰爭ハ世界ノ常事ニシテ、自由ナル人ハ、唯兵事ノ外ニ爲ス所ナカリシモ、近世ニ至リテハ然ラズ、戰爭ハ別ニ一種ノ事業ト爲レリ、而シテ人皆製造貿易及ビ藝術ヲ以テ自由ト兩立セザルモノト爲サザルノミナラズ、却テ之ヲ自由ノ結果トシ、國ノ繁榮ニ必要ナル事業トセリ、故ニ兵役ハ唯抽籤法ヲ以テ定メラレタル者ノ負擔スル所トナリ、該籤ニ中ラザルモノハ、喜デ兵トナルモノ、外、都テ兵役ニ就カザルコトヲ得況ヤ唯義勇兵ノミチ役スル多福ノ國モ亦之ナキニ非ザルチヤ、此ノ如キ國ニ於テハ、兵役ハ租税ニモアラズ、負債ニモ

アラズ、唯尋常ノ一職業タルニ過ギザルノミ、然レモ抽籤法ニ據テ兵ヲ徵スルノ國ニ在テハ、凡ソ國民タル者、該籤ニ中ラザル者ニ非ザルヨリハ、其身ヲ隨意ニスルコトヲ得ズ、故ニ此等ノ人ハ、天惠ニ由ルニ非ザレバ免ル、ヲ得ザル所ノ義務ヲ負擔セリ、幸ニ此ノ惠ヲ受ケタル者ハ喜悅スベキモ、此ノ惠ヲ受ケザル者ト雖モ、其苦ヲ訴フルヲ得ズ、何トナレバ、戦争ノ跡未ダ地ヲ掃ハズシテ、人民尙ホ兵ヲ備フルテ以テ必要ナリトスルノ間ハ、兵役ハ是レ唯公義ノ嚴ニ命ズル所ノ義務ナレバナリ、抑モ國ハ防衛ノ爲メニ腕力ヲ必要トスルコト、恰モ保存ノ爲メニ金額ヲ必要トスルガ

如シ、而シテ之ヲ防禦スルハ、其國民ノ強壯ナル者、自ラ奮テ從事スルニ非ズンバ、又誰アリテカ之ニ服役センヤ、縱ヒ善ク整頓セル國ト雖モ、其義勇兵ニ倚賴スルト、其徵兵ニ依頼スルトナ間ハズ、平常ノ兵員ヲ以テ國ヲ防衛スルニ足ラザルベキ危険ノ場合ニ遭遇スル時アリ、即チ外國ノ聯合シテ、其國ノ獨立及ビ成立ヲ妨害シ、其地ヲ奪ントスルノ時は、レナリ是時ニ方ラマ、國民ハ法律ノ命令ヲ待タズ、自ラ奮テ國事ニ盡カスベキコトハ、彼抽籤法ニ由リテ徵セツレタルモノト、家ニ留レルモノトナ間ハザルベク、已ニ其負債ヲ償ヒタルモノト、未ダ其期ニ至ラザルモノトナ間ハザルベ

ク、兵役ニ就クベキ年齢ヲ過キタルモノト、未ダ其年齢ニ達セザルモノトヲ間ハザルベシ、疾病等ノ爲メニ兵役ニ従事スルヲ得ザルモノハ、須ク財産ヲ以テ其役ヲ助クベク、而シテ其他ハ皆身命ヲ抛テテ國ニ報ズベシ、婦幼癡疾ノ者ト雖モ戦争ノ苦難ナルニ及デハ、其身ヲ擲テ國ノ爲メニセザルヲ得ズ、夫レ本國ハ恰モ母ノ如シ、凡テ諸子ノ身體及ビ心意ハ其母ニ屬シ、母ハ諸子ノ力ニ憑ラザレバ、存スルコトヲ得ザレバ、其母タル國ノ生命若シ危キトキハ、諸子皆其四面ヲ周匝シテ、之ヲ衛ヲザルヲ得ザルナリ

## 第三十二章

國民ノ權

國民ハ唯義務ヲ有スルノミナラズ、又權利ヲ有セリ、而シテ

利  
二種ノ權

唯其意ニ任ズルヲ得ベキ部内ニ於テ、此ノ權利ヲ行フニ就テ、更ニ又幾多ノ義務ヲ生ゼリ、抑モ國民ノ權利タルヤ、此ノ

權利ヲ與フル所ノ法律ニ、民法政法ノ別アルガ如ク、亦民權ト政權トニ分ツヲ得ベシ、而シテ民權ヲ適用スルハ、即チ吾人ガ家族ノ者若シクハ同國ノ人トノ干係ニ在リ、例ヘバ夫婦相互ノ權、父ガ子ニ對スルノ權、後見人ガ孤子ニ對スルノ權是レナリ、又人身自由ヨリ生ズルノ權、所有ノ權、契約ヲ結ビ、訴訟ヲ起シ、賣與遺言ニ由リテ財産ヲ自由ニスルノ權等モ、

亦此ノ中ニ含蓄セリ、政權ハ即チ治者ト被治者トノ干係ニ  
 属スル權利ニシテ、吾人ノ之ヲ行フヤ、必ズ直接若シクハ間  
 接ノ影響ヲ全社會ニ及ボスベキモノトス、例ヘバ憲法ニ由  
 リテ法律ヲ製リ、租稅ヲ定メ、政府ノ行爲ヲ監督スルノ職ニ  
 任ズベキ代議士ヲ選ブノ權、此ノ重職ニ選舉セララル、ノ權、  
 公ニ公務ヲ討議スルノ權、公務ヲ議スベキ諸集會ノ議員ト  
 爲リ、又ハ其議員ヲ選ブノ權是レナリ、之ヲ名ヅケテ政權ト  
 爲スモノハ、其全國ノ利害ニ干係スルヲ以テナリ、而シテ其  
 權利ハ民權ニ属スルモ、政權ニ属スルモ、俱ニ立法者ニ於テ  
 其區域ヲ確定シヨリト雖モ、尙ホ吾人ノ意ニ一任スベキ餘

民權ヲ施  
 行スルニ  
 方ヲ守ル  
 ベキ規則

地頗ル多シトス、故ニ此ノ權利ハ修身法ヲ以テ規定セザル  
 ラ得ザルヲ、那ノ明文アル法律ヲ以テ規定スベキコトヨリモ  
 更ニ多キナリ、

民權ヲ行フニ方テ修身法ガ吾人ニ課スル所ノ一般規則ハ  
 何ゾヤ、務メテ之ヲ我自然ノ權利ニ歸向セシムルニ在リ、何  
 トナレバ、吾人ハ自然ノ權利ヲ除キテ他ノ權利ヲ有セズ、立  
 法者ガ人定法ヲ以テ保護セントスル所ノモノモ、亦此ノ權  
 利ノ外ニ出デザルヲ以テナリ、我民權ヲシテ我自然ノ權利  
 ト同一ナラシムルハ、即チ之ヲ以テ正直公義ノ思想ニ附屬  
 セシムルナリ、之ヲ以テ良心ガ他人及ビ自己ニ對シテ命ズ

ル所ノ義務ニ附屬セシムルナリ、故ニ設令ヒ吾人ハ遺言ノ  
 權ニ制限ナク、且ツ瑣々タル理由ヲ以テ離婚ヲ爲スヲ得ベ  
 キ國ニ住スルモ、父子親屬ニ對シテ守ルベキ義務ヲ忘ルベ  
 カラズ、又婚姻ヲシテ終身我能力ヲ檢束スル所ノ神聖ナル  
 連脈ニ非ザラシメ、之ヲ以テ姦淫ニ混ズルトキハ、家族ヲ立  
 ツルヲ得ザラント云フヲ忘ルベカラズ、一語ヲ以テ之ヲ  
 約スレバ、吾人ハ不正ノ所行ヲ爲スヲ得ルモ、此ノ權利ヲ使  
 用セザルベシ、例ヘバ此ニ一條ノ法律アリ、凡ソ債フヲ得ザ  
 ル負債者ハ、其全分ノ財産ヲ奪ヒ、自由ヲ剝ギ、隨テ之ヲシテ  
 職業ヲ失シ、家族ニ別レ、併セテ其債主ニ損害ヲ償ハントス

ルノ希望ナキニ至ラシムルヲ許スコアラシカ、吾人ハ公義  
 ニ照シ、人情ニ由リテ、此クマデ嚴酷ナル所爲ニ出ルヲ得ザ  
 ルベシ、假令ヒ法律ハ吾人ヲシテ苛酷ニ契約ノ實踐ヲ責ル  
 ヲ得セシムルモ、公義人情ノ二者ハ、弱キ者不注意ノ者又ハ  
 不幸ナル者ヲ責ムルヲ禁ズベシ、吾人ガ民法ニ由リテ非常  
 ノ權力ヲ賦セラレタル何ノ場合ニ於ケルモ、吾人ハ正理ニ  
 反對セルノ正理ナキヲ、及ビ最モ完全ナル法典モ、尙ホ神ガ  
 我良心ニ深刻セシ法律ニ如カザルヲ思ハザルベカラザ  
 ルナリ、

上ノ如キ正直公平ノ規則及ビ思想ハ、又政權ノ施行ニ適用

スベシ、但其名稱ヲ異ニスベキノミ、抑モ吾人ノ政權ヲ實行スルヤ、必ズ各個人ノ特別ナル利益幸福ヲ目的トスベカラズ、又一種族一黨派ノ特別ナル利益幸福ヲ目的トスベカラズ、唯國ノ一般ナル利益幸福ヲ目的トスベキナリ、是レ吾人ガ政權ニ就テ下シタル注脚則チ其本質ヨリ生ゼザルヲ得ザルノ眞理ナリ、而シテ此ノ規則ヲ遵奉スベキ場合ヲ舉ンカ、是レ甚ダ難キニ非ズ、即チ吾人ガ國會若シクハ州會ノ議員ヲ選舉スルキト雖モ、其投票スル所ノ名ハ、果シテ國、州、又ハ邑ノ事務ヲ行フニ最モ適シタル人ナリヤ否ヲ考フベク、朋友親

屬保護人、又ハ我保護人ニ保護セラル、人ナリヤ否ヲ思フベカラズ、又若シ新聞ノ編輯者ダランニ、吾人ハ稿ヲ起スニ先チテ、政府及ビ其官吏ノ行爲ヲ毀譽スル理由ヲ熟考セザルベカラズ、他人ヲ評スルニ先チテ、自ラ我身ヲ反省シ、我心裡果シテ憎惡、復仇、私怨、貪名ノ意、及ビ私欲ナク、唯善ヲ譽メ惡ヲ毀リ、以テ國ニ盡カスルノ念ノミナリヤ否ヤヲ判斷セザルベカラズ、  
吾人社會ノ利益ヲ基トシテ、真心ニ國民ノ權利ヲ實行センニハ、唯公平無私ナルノミヲ以テ之ヲ能クスベキモノニ非ズ、又勇氣ヲ少クヲ得ズ、是レ晦蒙ナル利欲ニ激セラレテ、毫

モ他人ノ齟齬ヲ容レズ、其情欲ヲ共ニセザレバ、直ニ之ヲ傾倒セントスルノ徒、吾人ヲ圍繞スル時、若シクハ壓制者ガ賄賂又ハ脅迫ニヨリ、吾人ヲシテ我良心ノ命ズル所ニ從ハシメズシテ、義務ト利益トノ間ニ立タシムルノ時ニ在リトス、但幸ニ此ノ如キ場合ハ、今ハ稀有ノ事ニ屬セルノミ、夫レ此ノ如キ場合ニ際シテ、必要ナル所ノ勇氣ハ、兵士ノ勇氣ニ非ズ、即チ國民及ビ善人ノ勇氣ナリ、戰場ノ紛擾ニ由リテ激セラレタル武人ノ勇氣ニ非ズ、騷亂ノ中ニ在ルモ、深沈優游、常度ヲ變ゼズシテ、毎ニ正理法律ニ負カザル國民ノ勇氣ナリ、此ノ二種ノ勇氣タル均シク國ニ必要ナルモノニシテ、且ツ

均シク嘆稱スベシ、蓋シ一國ノ獨立ヲ守リ、及ビ外國ニ對スル名譽ヲ全クセントスルニハ、武人ノ勇氣ヲ假ラザルヲ得ズ、而シテ其内部ノ自由ヲ守ラシニ至リテハ、國民ノ勇氣ヲ假ラザルヲ得ザルナリ、

### 第三十三章

國ニシテ若シ國民ニ對シテ義務ヲ有セズトスルトキハ、國民ガ國ニ對シテ義務ヲ有スト云フモ、吾人ハ之ヲ了解スルヲ得ズ、又之ヲ實行スルヲ得ザルベシ、實ニ此ノ義務タルヤ、互ニ相離ルベカラザルモノトス、何トナレバ、社會ハ各個人

國ハ國民  
ニ對シテ  
義務ヲ有  
ス



ナケレバ存スルヲ得ズ、各個人ハ社會ナケレバ立ツヲ得ザレバナリ、

國ハ國民  
ヲ安堵セ  
シメザル  
ヲ得ス

國ガ國民ニ對シテ有スル所ノ第一ノ義務ハ、國民ヲ安堵セシムルヲ、即チ外國ノ攻撃劫掠及ビ内國ノ暴横詐欺ニ對シテ、其身體及ビ財産ヲ保護スルヲ是レナリ、其政府、法律、捕廳、法衙ニシテ、此ノ第一ノ效驗ヲ現セザレバ、何ノ勢力ヲモ何ノ聲價ヲモ有セザルベシ、若シ此ノ如クシバ、設令ヒ此等ノ設アルモ其設ナキト又何ノ異ナラシヤ、

國ハ國民  
ノ爲メニ  
其至當ノ

然リト雖モ國民ヲシテ安堵セシムルハ、尙ホ國ノ之ニ與フベキ利益中ニ在テ、最小部分トスルノミ、國ハ其國民ノ天ヨ

自由ヲ保  
護セザル  
ヲ得ズ

リ下賦セラレタル諸能力ヲ發達セシメザルヲ得ズ、即チ之ヲシテ諸般ノ義務ヲ盡シ、諸般ノ權利ヲ行フヲ得セシムルノ事ニ注意セザルベカラズ、而シテ吾人ガ法律ノ保護ノ下ニ、諸般ノ權利ヲ享有シ、他人ノ能力ヲ害セズシテ、我能力ヲ使用スルヲ得ルノ權ハ何ゾヤ、即チ吾人ガ名ゾケテ自由ト稱スルモノ是レナリ、故ニ國ハ各人民ヲシテ安堵セシムルノミナラズ、又國民ノ爲メニ、其自由ノ他人ヲ害セズ、社會ヲ脅カサズルモノヲ保護セザルヲ得ズ、國ノ必要ナルハ、蓋シ之ガ爲メナリ、國ノ威權、即チ其法律政府及ビ官吏ノ威權ノ基ク所ハ、專ラ此ニ在ルナリ、國民ガ國ニ對シテ有スル所ノ

諸般ノ義務ハ、此ノ原理ヨリ生ズルナリ、且ツ國ガ公益ノ名  
 ナ以テ、國民ニ請求シテ、受ケシムル損失ニ制限ヲ立ルモノ  
 モ、亦此ノ原則ニ由ルベシ、且ツ夫レ讀者ハ自由ト安堵トハ、  
 互ニ相假定スルモノナルヲ解スベシ、安堵ナレバ若シナ  
 カラシメバ、自由ハ唯虚設ノ言語タルニ過ギザルベシ、何ト  
 ナレバ我身體財産ヲシテ、他人ノ隨意ニ侵害スルヲ得ベキ  
 モノナラシメバ、吾人ハ自由ヲ得ザルヲ明ナレバナリ、又自  
 由ヲシテ若シナカラシメバ、安堵モ亦均シク無實ノ空言ト  
 云フヲ得ベシ、何トナレバ、死刑又ハ沒収ノ罰ヲ科シ、以テ隨  
 意ニ我名譽又ハ良心ノ命ズル所ヲ爲スヲ禁スル無限政府

國ハ國民  
 ノ名譽ヲ  
 保護セザ  
 ルヲ得ス

ノ下ニ立ツモノハ、其生命財産ノ安堵ナルヲ信ズルヲ得  
 ザレハナリ、試ニ歴史ニ就テ視ヨ、耶蘇教ノ信者ハ、チロン、ヂ  
 タグレナヤン二帝ノ時ニ、其宗旨ヲ棄ンヨリ、寧ロ死テ甘シ  
 タリシニ非ズヤ、其他古今宗旨ヲ害迫スル政府ノ下ニ於テ、  
 異教ノ信者ハ、都テ死テ甘シタルニアラズヤ、  
 國ハ又國民ノ名譽ヲ保護セザルベカラズ、何トナレバ、此ノ  
 事タル、必然吾人ガ上ニ述ベタル二個ノ義務ヨリ生ゼザル  
 ナ得ザルノ後果ナレバナリ、抑國民若シ他人ノ爲メニ讒謗  
 セラル、モ、國ニシテ之ヲ問ハザル時ハ、安堵ナラズ、又自由  
 ナラズ、實ニ調弄ハ暴横ト相觀帖シ、壓制ト相呼應セリ、若シ

調弄ヲ防衛スルノ手段ナケレバ、調弄ヲ恐ル、ノ一事ハ、奴隸ノ一形狀ヲ爲スベキナリ、

夫レ暴横壓制及ビ調弄ヲ防ギ、國民ノ生命財産名譽及ビ其正當ナル權利ノ實行ヲ保護スルハ、是レ則テ惡ヲ禁遏スルナリ、然リト雖モ國ハ唯惡ヲ禁遏スルニ止ルベカラズ、國若シ同時ニ善ヲ實行スルヲ助ケ、即チ國民ヲシテ其義務ヲ果シ、其能力ヲ發達シ、人生ノ目的ヲ達スルノ手段ヲ得セシメザレバ、克ク其惡ヲ禁遏スルヲ得ザルベシ、實ニ惡ノ根柢ニシテ、永ク社會ノ中ニ存スルキハ、如何ニ之ヲ防止シ、又及除セントスルモ、到底無功ノ勞ニ過ギザルベシ、此ノ如キ境ハ、

國ハ惡ヲ  
禁遏スル  
ニ止ルベ  
カラズ

蓋シ衆多ノ人民ガ學問ノ手段ナクシテ無知ノ域ニ迷ヒ、道徳上ノ教育及ビ風習ナクシテ、卑劣ノ地ニ陥リ、有形ノ利益ヲ獲取スルノ方ヲ知ラズ、人民ヲ高尚富貴ナラシムル所ノ術藝ヲ懈リ、以テ貧窮ニ寤ムノ時ニ在リトス、

故ニ國ハ設令ヒ唯順序及ビ公義ヲシテ行ハレシメントスルニ止ルモ、壓制ナラザルノ處置ヲ以テ、各個人ノ思想感情及ビ幸福ヲ獎勵シ、其豫見ト恩惠トヲ以テ、各個人ノ及バザル所ヲ補フベシ、

第一、國ハ各種ノ國民ヲシテ、其職業及ビ須要ニ應ジテ智識ヲ得セシメザルベカラズ、之ヲシテ善ヲ愛スル心ト善ヲ行

國ハ國民  
ヲ助ケテ  
其義務ヲ  
盡セシメ  
ザルベカ  
ラズ

フノ慣習トテ得セシメ、法律及ビ官憲ヲ敬ヒ、本國及ビ家族  
 ナ尊バシメ、殊ニ人間ノ名譽、勢力、及ビ愉樂ヲ付スル所ノ天  
 機神意ヲ信ゼシムベキ教育ヲ布カザルベカラザルナリ、世  
 ニ謬説ヲ唱ヘ、之ヲ以テ然ラズトシテ喋々スル者多シト雖  
 モ、皆以テ吾人ノ論ニ勝ツニ足ラズ、一私人モ亦一般ノ順序  
 ニ必要ナル約款ヲ守テ、人ヲ教ルヲ得ト雖モ、國ハ諸般ノ學  
 術ヲ國民ニ教ヘ、公共ノ教育ヲシテ克ク現行ノ法律ト符合  
 セシムルノ權ヲ有スルヤ明ナリ、此ノ事タル、皆其權利タル  
 ノミナラズ、又國ノ成立ニ必要ナル約款ノ一ニシテ、又其最  
 大義務ノ一ナリトス、

國ハ製造  
 及ビ術藝  
 ナ保護セ  
 ザルヲ得  
 ズ

國ノ保護  
 ノ制限

又國ハ盛ニ製造及ビ術藝ヲ奨勵シ、貿易ノ爲メニ市場ヲ開  
 クベキ條約ヲ結ビ、諸種ノ術藝ニ達セルモノヲ厚遇シ、諸種  
 ノ制度ヲ設ケテ、人民ノ不幸ニ陥ルヲ防ギ、又ハ其己ニ不幸  
 ニ陥リタルモノヲ扶起シ、以テ有形ノ至當ナル須要ヲ満足  
 セシメ、諸藝諸術ノ爲メニ之ヲ用ルノ所アラシメ、貧困即チ  
 古人ノ所謂勸懲ノ本ヲ減殺セザルベカラズ、  
 國ガ各個人ニ與フベキ保護ノ廣狹ニ就テハ、二個ノ謬説アリ、俱ニ危險ニ涉ルヲ以テ、吾人ハ之ヲ却ケザルベカラズ、其一ハ  
 官憲ヲ以テ社會ノ最大敵ト看做シ、偏ニ其威權ヲ殺ギ、政府  
 ノ權限ヲ縮メテ、唯警察ノ事ニ止メントスル所ノ謬説ニシ

テ、其二ハ都テ各個人ノ爲スベキ事業ヲモ、取テ國ノ負擔スル所ト爲シ、各個人ヲシテ人生諸般ノ憂苦ヲ受ケザラシメントシテ、却テ之ヲシテ其自由ヲ使用スルヲ得ザラシメ、國ヲ以テ恰モ一個ノ製造所、一個ノ舖店、一個ノ寺院タラシムル所ノ妄想論是レナリ、吾人ノ見ニ據レバ、社會ハ神意ニ倣ヒ、十分ニ各個人ヲ保護スルモ、又各個人ノ責任部内ニ侵入セズ、其品位ト權利トノ根原タル義務ヲ負ハシメザルヲ得ザルナリ、

#### 第四類 各國相互ノ義務即チ萬國公法

#### 第三十四章

萬國公法  
ハ各國ノ  
干係ニ適  
用スル修  
身學ナリ

吾人ハ前段ニ於テ、一個人ト國トガ相對シテ有スル所ノ義務ヲ論述シタリ、今ヤ國ト國トガ相對シテ有スル所ノ義務ハ何モノナリヤ、公義ノ規則、修身ノ法律ニ從ヘバ、各國相互ノ關係ハ如何ナルベキヤヲ講究セシトス、世人ハ皆此ノ問題ヲ以テ一個ノ特別ナル學科ト看做シ、之ニ萬國公法ノ名ヲ付シタリ、然リト雖モ、熟ク萬國公法ノ原理ニ就テ考フレバ、亦社會修身學ノ一類タルニ過ヤズ、何ントナレバ、此ノ法タル上ノ三類ト同シク、權利ト義務トノ思想ニ基クモノナレバナリ、

抑モ國ハ道德ノ順序ニ於テ、一個人ト品格性質ヲ同クスル所ノ靈物、即チ集合シタル一個人ト看做スヲ得ベシ、國ニレテ第一權利ヲ生ズルハ此ヲ以ナリ、何ノ權利ゾヤ、國ノ生命タル獨立及ビ自由ヲ侵サレザルノ權利是レナリ、然リ而シテ己ニ此ノ權利アルハ、又其第一義務ヲクンバアラズ、何ノ義務ゾヤ、他國ノ獨立及ビ自由ヲ重ズベキノ義務是レナリ、國ノ獨立ハ、各個人ノ自由ト同様ナル原則ニ基キ、之ト均一ナル名義ヲ以テ認定セラルベシ、抑モ人ハ義務ヲ有スルニ因リテ、權利ヲ有スルモノナリ、此ノ權利ヲ約言スレバ、自由ノ二字タルニ過ギズ、而シテ自由ノ何物タルヲ言ハゞ自己ヲ

失ハザルノ謂ニシテ、即チ他人ノ自由及ビ全社會ヲシテ各自ニ其自由ヲ享有セシムル所ノ法律ヲ害セザル己上ハ、其是非心ノ示ス所ニ隨ヒ、其良心ノ勸ムル所ニ任セテ其勢力智識及ビ其他ノ諸能力ヲ使用スルヲ得ルノ權ナイフナリ、而シテ國モ亦人ト同ク、他國ノ自由ヲ害セザレバ、其能力ヲ使用スルヲ得ベシ、實ニ國ハ吾人ガ上ニ云ヘリシ如ク、各個人ト同様ノ義務及ビ權利ヲ有スル所ノ靈物ナレバ、不正ヲ以テ我ニ加ヘザルノ國ヲシテ難苦ヲ受ケシメ、之ヲ壓シ之ヲ滅ボズ等ノ如キハ、唯其政事上ノ成立即チ獨立ヲ失ハシムルニ止マルモ、亦不正ノ行爲タルヲ免レズ、一個人ニ在テ、

人間ノ權利ヲ害スルノ行爲ヲ以テ罪惡ナリトセバ、集合シテ一體ヲ成セル數百万人、即チ國ニ在テモ、同ク之ヲ罪惡ナリト云ハザルヲ得ザルハ、理ノ必ズ然ル所ニシテ、之ヲ以テ然ラズトスルヲ得ザルナリ、妄ニ人ノ國ヲ攻服スルヲ可トシタルノ世ハ、已ニ過ギ去レリ、腕力ノ功績ヲ稱ムルガ如キハ、唯無學野蠻ノ人民ニ止レリ、而シテ吾人ハ唯正理ヲ助クルガ爲メニ非ザリ、腕力ヲ使用スルヲ得ザルナリ、所有權ノ侵スベカラザル理ガ自由及ビ生命ノ侵スベカラザル理ヨリ生ズルコトハ、國ニ在テモ、各個人ニ於ケルト異ナルナキノミナラズ、此ノ事タル、万国公法ニ於テハ、人々ノ干

一國ノ所  
有權ヲ重  
ズベキト

係ヨリ更ニ明瞭ナリトス、人若シ他國ノ地ヲ奪ヘバ、其人民ヲシテ唯貢稅ヲ納メシムルニ止リ、依然之ニ居住シ、之ニ耕作シ、之ニ開墾セシムルモ、其國ハ政事上已ニ滅亡シタルナリ、己ニ獨立ヲ失ヒタルナリ、外國ノ臣下ト爲レルナリ、且ツヤ他國ノ人民ヲ攻服スルハ、其所有セル土地ヲ奪フノ外ニ手段ナカルベシ、此ノ如キ行爲ハ、正當自衛權ヲ以テ之ガ理由ト爲シ得ルノ時ニ非ザルヨリハ、聖僧オーグスタンノ言ノ如ク、盜賊ノ最大ナルモト爲スベキナリ、抑モ一國人民ノ地ハ、尋常ノ所有物ト同シカラズ、祖先傳來ノ遺物ナリ、祖先ノ骸骨ヲ藏メタルノ地ナリ、子孫ヲ養育スルノ土壤ナリ、一

大家族ノ棲息スル處ナリ、之ヲシテ外國ノ管轄ヲ受ケレム  
ルハ、唯不正ノ強奪タルノミナラズ、又神ヲ瀆スノ所行タル  
ベシ、其罪ノ大ナル、以テ知ルベキナリ、

國ノ所有  
物ノ中ニ  
含蓄スベ  
キ物件

世界許多ノ國、千態萬狀ニシテ、境界ノ外ニ何物ヲモ有セザ  
ルモノアリ、又鉅額ノ金ヲ費シ、最遠ノ地方ニ、植民地、貿易場、  
停船場、發見ノ用ニ供スベキ船艦、又ハ其貿易及ビ外交ヲ保  
護スベキノ船隊ヲ有スルノ國アリ、此等ノ物件ハ、其神聖ナ  
ルヲ、本國ノ境土ニ同シカラザルモ、亦一級所有權ノ保護ス  
ル所ニ係ルナリ、此ノ物件ニメ、此ノ保護ヲ受ルヲ得ザル  
ハ、唯其他國ヲ攻撃スルノ時ニ方テ、其用ニ供スルノ時ニ在

一國ノ名  
譽ヲ重ズ  
ベキナリ

ルノミ、

國ニ在テモ、一個人ニ於ケルガ如ク、諸財産ノ第一ニシテ、最  
モ必要ナルモノハ、是レ名譽ナリ、名譽ハ唯一國ノ獨立及ビ  
生命ニ必要ナルノミナラズ、他國トノ干係ニ在テハ、即チ之  
ヲ指シテ直ニ其生命ト云フベク、万國ノ公然認可シタル獨  
立ト云フベキナリ、此ニ國アリ、自由ニ其權利ヲ使用スルヲ  
得ズ、他國ノ爲メニ侮辱セララル、モ、之ヲ責ムルヲ得ズ、又共  
同利益ノ討議ニ際シテ、其說ヲ吐クヲ得ズ、設ヒ之ヲ吐ク  
モ、容レラレザル時ハ、其自己部内ニ在テハ存スト假定スル  
モ、他國ノ見ル所ニ在テハ、決シテ存セザルナリ、若シ此ノ如



中國アラバ、他國皆之ニ對シテ何事ヲモ畏懼スル所ナク爲  
 スベキニヨリ、其國ハ卒ニ自ラ滅亡ヲ取ルヤ必セリ、名譽ノ  
 國ニ必要ナルヲ、此ノ如シ、故ニ調弄讒謗ハ國及ビ之ヲ代理  
 スル政府ニ加フルヲ得ザルヲ、恰モ之ヲ各個人ニ加フルヲ  
 得ザルガ如シ、實ニ他國ノ名譽ヲ傷フヤ、其獨立ヲ奪フナリ、  
 而シテ自ラ禦侮スルヲ得ザル弱國ニ對シテ、此ノ調弄ヲ肆  
 ニスルニ至リテハ、罪惡ニ加フルニ鄙劣ヲ以テセルモノニ  
 ノ、自ラ喜テ名譽ヲ損スルナリト云フモ、不可ナカルベシ、抑  
 モ誰カ諸國ヲ互ニ相惡ミ互ニ相賤マシムルヲ得ルヤ、諸  
 國ハ俱ニ兄弟タルニ非ズヤ、諸國ハ俱ニ同様ノ目的ヲ有ス

ルニ非ズヤ、均シク開化ニ進ムベキ無限ノ事業ヲ有スルニ  
 非ズヤ、互ニ相苦メ互ニ相下サンヨリハ、寧ロ其知識勞動ノ  
 結果ヲ交易スルカハ、利益多キニ非ズヤ、況ヤ智識意向ノ他  
 國ニ超出セル強國ニ在テハ、侵暴ニ出ザルモ、自ラ已ヨリ下  
 レル諸國ヲ懷服スルニ於テハ、許多ノ手段アルヲヤ、

### 第三十五章

國際公義  
 ノ義務ハ  
 抑制ノ權  
 利ヲ生ズ

各國ヲシテ互ニ其獨立名譽及ビ財產ヲ重ゼシムルノ義務  
 ハ、必ズヤ抑制ノ權利ヲ生ゼザルヲ得ズ、抑制ノ權利トハ、諸  
 般ノ權利ヲ達スルニ必要ナル正當自衛ノ權ニ外ナラズ、此

ノ義務ニシテ此ノ權利ヲ生ズルコトハ、吾人が已ニ各人ナシ  
 テ他人ノ生命、自由、名譽、財産ヲ重シムルノ義務、即チ人性  
 固有ノ權利ヨリ直接ニ生ズルモノニ就テ論ジタル所ト、毫  
 モ其理ヲ異ニセザルナリ、實ニ此ノ權利ナシテ、假ヒ侵害ヲ  
 受ルモ間フヲ得ズ、腕力ヲ以テ之ヲ防禦スルヲ得ザルモノ  
 ナラシメバ、彼ノ良心ト法律トハ、此ノ權利ヲ神聖侵スベカ  
 ラザルモノナリト定メタルモ、到底無稽ノ妄言タルニ過ギ  
 ザルベシ、

國際ノ干  
 係ニ適用  
 シタル抑

然リト雖モ此ノ點ニ於テハ、各個人ト各國トノ間ニ一大差  
 異アリトス、抑モ各個人ハ不正ノ攻撃ニ遭遇スルモ、公力ノ

制ノ權利  
 ハ即チ戰  
 争ノ權利  
 ナリ

保護ヲ待ツヲ得ザルノ時ノ外ハ、自ラ其抑制ノ權ヲ行フヲ  
 得ズ、平時ハ唯社會ノ手ヲ藉リテ、此ノ權ヲ行フヲ得ルノミ、  
 實ニ其攻撃セラル、毎ニ之ヲ防禦スルヲ得ルモノハ社會  
 ナリ、他人ガ此ノ人ニ施シタル害ヲ罰スルヲ得ルモノハ社  
 會ナリ、加之各個人互ニ親ク責罰ヲ爲サバ、ハ、社會ノ順序  
 ニ必要ナル約款ナリトス、然リト雖モ各國ハ之ニ反シテ、互  
 ニ自然ノ形狀ト名ヅケタル地位ニ立テリ、即チ各國ノ間ニ  
 ハ、普通ノ明文律アルナク、普通ノ審判廳アルナク、又之ヲシ  
 テ其判決ニ從ハシメ、其從ハザルモノハ、腕力ヲ以テ臨ムベ  
 キノ公力アルナシ、若シ此等ノモノアリトセバ、各國ハ已ニ

其主權ヲ失ヒタルモノニシテ、決シテ獨立ナラザルナリ、是故ニ國若シ、其名譽ヲ玷辱セラレ、其財産ヲ侵損セラレ、其自由ヲ強奪セラレ、時ハ、自ラ之ヲ防衛セザルヲ得ズ、又損害ヲ蒙リタルハ、自ラ其賠償ヲ要求シ、自ラ之ニ責罰ヲ加ヘザルヲ得ズ、已ヲ攻撃シ已ヲ傷害シ、或ハ已ヲ侵損スル所ノ腕力ニ對スルニ、亦腕力ヲ以テシテ防禦ヲ爲シ、賠償ヲ求メザルヲ得ザルナリ、此ノ權利即チ腕力ヲ以テ腕力ニ敵スルノ權利ヲ名ヅケテ、戰爭ノ權ト云フ、此ノ權タル各個人ガ社會ノ扶助ヲ待ツヲ得ザル時ニ方テ、行フヲ得ル所ノ正當自衛權、及ビ社會ガ各個人ニ代リテ公益ノ爲メニ行フ所ノ

抑制權ト、其理相同キヲ以テ、何人モ之ヲ斥非スルヲ得ザルベシ、將來此ノ權ノ無用ニ歸スルノ日アラントハ、吾人ノ深ク希フ所ナルモ、其權ヲ正當ナラズト云フニ至リテハ、吾人ノ取ラザル所ナリ、又此ノ權ヲ使用スルニ就テ、文明諸國ガ爲メニ益制限ヲ立ントハ、吾人ノ或ハ期望シテ得ル所ナルニ、其權ノ全ク消滅ニ歸センコトヲ思フハ、恰モ人欲ヲ擧テ、正理ノ抑制ヲ受ルノ日アラント、空想スルニ異ナラザルナリ、有名ナル公法學士グロッシュユースチ指スノ言ニ曰ク、常ニ暴行ヲ喜ビ、他人ヲシテ平和ヲ守ルヲ得ザラシムルノ人、此ノ世ニ在ル間ハ、戰爭モ亦頗ル必要ナリトスト、眞ニ確論トイフベシ、

吾人ハ戰爭權ヲ認可シタルノ理由ニ由リ、亦之ヲ行フベキ  
ノ制限ヲ立ルヲ得ベシ、即チ戰爭ノ正當ナルハ如何ナル場  
合ニ限り、如何ナル約款ニ由ルベキカヲ知ルヲ得ベキナリ、  
實ニ戰爭ノ事タルヤ、其原理ニ就テ論スレバ、唯一個人ヨリ  
國ニ轉シタル正當自衛權、即チ社會ガ公義ノ義務ノ爲メニ  
行フ所ノ抑制權ニ外ナラズ、故ニ防衛ノ爲メ、或ハ賠償ノ爲  
メノ戰爭、即チ不正ノ攻撃ヲ禦ギ、或ハ有形若シクハ無形ノ  
損害ヲ賠償セシムルヲ目的トスルノ戰爭ヲ除キテ、吾人  
ガ爲ステ得ルノ戰爭、即チ臘甸人ノ所謂正戰ナルモノナキ  
ヤ明ナリ、

吾人ハ修身學ノ名ヲ以テ、防禦ノ戰爭ヲ認可スルニ方リ、其  
文字ニ附スルニ、狹隘ニ過グルノ意義ヲ以テスベカラズ、抑  
モ防禦ノ戰爭トハ、已ニ外國ノ攻撃ヲ受タル時、又ハ將ニ之  
ヲ受ケントスル時ニ方リ、敵ヲ掃攘スル所ノ戰爭ヲ謂フニ  
止ラズ、又外國ノ攻撃ヲ豫防シ、之ヲシテ兵ヲ進メテ我ニ向  
ケザラシムル所ノ戰爭ヲモ謂フヲ得ベシ、貿易ヲ營ミ航海  
ヲ事トスル國ノ如キハ、唯外國ニ向テ、其境土及ビ内國ノ獨  
立ヲ重ゼラル、ノ權利ヲ必要トスルノミナラズ、外國ト産  
物ヲ交換シ、及ビ之ヲ其需用ノ所ニ運輸センガ爲メニ、海路  
ヲ取ルノ自由ヲ必要トス、而シテ此ノ國若シ其自由ヲ妨害

セラル、ニ方テハ、宜シク戦争ヲ起スヲ得ベシ、何トナレバ、此ノ戦争ヤ、前ノ場合ニ於ケルガ如ク、亦正當自衛ノ權ヲ行フニ外ナラザレバナリ、是レ所有者ガ其財産ヨリ生ズル所ノ利益ヲ妨ケントスル者ニ對シテ防衛スルニ同キナリ、是レ製造人ガ其手臂ヲ痠痺セシメントスル者ニ對シテ、防衛スルニ同キナリ、是レ旅客ガ公路ニ於テ己ヲ抑留セントスル所ノ暴人ニ抵抗スルニ同キナリ、夫レ大洋ハ、人間全體ノ所有物ナリ、故ニ之ヲ獨有私占セントスル者ハ、即チ盜奪タルヲ免レズ、暴橫タルヲ免レザルナリ、

各國其品位ニ應ジテ世界ノ事務ニ干與センガ爲メニ起ス

所ノ戦争モ、亦防禦ノ戦争ト云フヲ得ルヤ明ナリ、例ヘバ爰ニ國際ノ問題アリ、之ニ干係セル諸國ハ共ニ之ヲ商議規定スベキモノナランニ、其中ノ一國ニシテ、或ハ他國ノ憎惡嫉妬ノ爲メニ、其議ニ參與セシメラレザル時ハ、兵ヲ擡シテ其權ヲ求ムルモ、決シテ非理ニアラザルベシ、何トナレバ、自ラ品位ヲ墮スヲ願ミザルハ、我品位ヲ墮サントスル者ト罪ヲ共犯スルモノニシテ、即チ道德上ノ自殺トモ名ヅクルヲ得ベキ所行ナレバナリ、

賠償ノ戦争ハ、何ヲカ目的ト爲ス、即チ他國ガ我財産ヲ掠ベ、或ハ不正ノ行爲ヲ以テ、我ヲシテ有形若シクハ無形ノ利益

ヲ失ハシメタル時、之ヲ返還セシメ、又ハ我名譽ニ汚辱ヲ加ヘ、万国相互ニ認識スル所ノ品格ヲ侵侮シタル時、之ヲ賠償セシムルニ在リ、而シテ此ノ二個ノ理由ニ因テ起ス所ノ戰爭ハ均シク正當ナリトス、然リト雖モ其損害ヲ賠償セシムルニ止マラズシテ、變ジテ復讐ノ舉タルニ至ラバ、不正タルヲ免ルベカラズ、抑モ國ニシテ復讐ヲ事トスルハ、之ヲ一個

人ノ所行ニ比スルニ、尙更ニ不正ナリトス、何トナレバ、國ヲ代理スル所ノ政府ハ、一私人ノ如ク、蒙昧ニシテ且ツ狹陋ナル情欲ニ制御セラルベキモノニ非ザレバナリ、

仁恕ノ戰

ヤ、全ク自己ノ名利ノ欲ヲ離レ、偏ニ仁恕ノ感情ヨリ出デタル戰爭、即チ諸國ノ獨立ヲ侵スニ非ズシテ、唯強國ト弱國トノ間ニ立チテ、弱者ガ亡滅ヲ取ルベキト、寤辱ヲ受ルトヲ防ギ、強者ヲシテ其威力ヲ逞クスルヲ得ザラシメ、以テ弱者ヲシテ斃ル、ニ至ラザラシムル所ノ戰爭是レナリ、例ヘバ千八百二十七年ニ於テ、歐洲ノ諸大國ガ希臘ヲ援ケテ土耳其ト戰ヒタルガ如キ、千八百六十一年ニ於テ、佛國ガ土耳其政府ノ許諾ヲ受テ、シリーニ兵ヲ出ダシ、東方ノ耶蘇教徒ヲ助ケテ、回々教徒ノ暴虐ヲ懲創セシガ如キ、此ノ類ナリ、今其原理ニ遡テ言ハシニ、吾人路上ニ壯者ノ小兒ヲ苦ムルヲ見、又

健者ノ病人ヲ窘ムルヲ見バ、走テ此ノ被害者ヲ助クルハ、唯我權利ナルノミナラズ、兼テ我義務ナリトス、果シテ然ラバ、國ニ在テモ亦此ノ如クナラザルヲ得ザルベシ、但シ國ハ一個人ノ如ク、他國ノ爲メニ其生命ヲ抛ツテ得ズ、又其自己ノ利益若シクハ品位ノ爲メニスルニ非ザレバ、他國ノ獨立ヲ侵シ、品位ヲ傷フテ得ザルナリ、

戦争ハ唯、正當ナル目的ヲ有スルノミニシテ足ルモノニ非ズ、或ル規則ニ遵テ、其目的ヲ行フテ要スベシ、若シ此ノ規則ヲシテ無ラシメバ、諸國ハ一日モ安堵ト名譽トヲ保ツテ得ザルベシ、此ノ規則ノ至大至重ナルモノハ何ゾヤ、戦争ヲ起

都テ戦争  
ヲ爲スニ  
守ルベキ  
ノ規則

スニ先テ、之ヲ宣告セザルヲ得ザルト是レナリ、而シテ此ノ宣告ト雖モ、猶ホ且ツ商議ノ協ハザルノ後ニ至リテ、始メテ發スルヲ得ベキモノトス、實ニ公義ニ據レバ、凡ソ敵ヲ攻撃スルニハ、先ヅ之ヲ敵視スベキノ理アラントテ要スベシ、故ニ先ヅ彼ニ向テ損害ノ賠償ヲ責メザルベカラザルナリ、且フ我レ公義ト名譽トヲ保タントセバ、宜シク敵ヲシテ防禦ヲ爲スノ暇ヲ得セシムベシ、我全力ヲ以テ、敵ノ備ナキヲ襲撃スルハ、是レ權利ヲ行フニ非ズシテ、卑怯詐僞ノ所爲ニ出ルナリ、各國若シ皆此ノ所爲ニ出ルヲ得ルモノナリトセバ、何ノ國ト雖モ、常ニ隣國トノ平和ヲ保ツトテ信ズルヲ得ザ

ルベク、而シテ社會ハ戰爭ヲ以テ其平常ノ景狀ト爲スニ至ルベシ、凡ソ一國ノ政府タル者ニシテ、外國ニ重ゼラレント欲セバ、平時ト戰時トヲ問ハズ、万国ノ認可セル法律ヲ守ラザルヲ得ザルナリ、且ツ夫レ戰爭ハ、公義ニ使役セラル、ニ非ザレバ、正當ト爲スヲ得ザルガ故ニ、公義ノ如ク、法式及ビ法律ヲ有セザルベカラザルナリ、

人間社會草創ノ戰爭ハ、開化ノ今日ニ比スレバ、其害却テ少ナカリキ、實ニ腕力ヲ以テ最上ノ具トシ、其餘ニ何物ノ費ラベキヲモ認識セザル時世ニ在テヤ、戰爭ハ一個ノ規律原則ニシテ、社會ノ組織ヲ作シ、政憲ノ基礎ヲ立テ、所々ニ散在セ

昔時戰爭  
ノ効驗

ル各種ノ人ヲ集合シテ、團結セル人民ト爲シ、又無識ナル人民ヲ驅リテ、其進歩シタルモノト近接セシメタリ、例ヘバ、亞細亞人ヲシテ希臘人ト近接セシメ、希臘人ヲシテ羅馬人ト近接セシメ、羅馬人ヲシテ世界ノ諸國ト近接セシメタルガ如シ、且ツヤ戰爭ニ敗テ取リタル者ハ、勅シテ奴隸ト爲シテ、至賤ノ職業ニ従事セシメラレタリ、而シテ自由ナル人ハ、之ガ爲メニ術藝、文學、實學、理學、法律等ヲ創造琢磨スルノ餘暇ヲ得タリキ、古來久シク戰爭及ビ武人ヲ尊ブノ風行シ、兵ニ就クノ一事ヲ以テ、職業ノ最上ナルモノトナシタルノミナラズ、此ノ外ニ更ニ貴重ナル職業ナシト爲シ、卒ニ攻服ノ權



近時戰爭  
ノ効驗

利ヲ以テ、威權ノ基ク所權利ノ始マル所ト爲スニ至リシハ、蓋シ之ガ爲メナリ、然リト雖モ社會ノ道德上、及ビ經濟上ノ景狀ハ、今一變セリ、而シテ公義仁慈及ビ四海同胞ノ思想ハ、設令ヒ尙ホ學問部中ニ圍セララル、モ、己ニ諸人ノ心裡ニ浹洽シ、勞動ハ一般ニ視テ必要トセラレ、百工ハ勞動ニ由リテ生出シ、貿易モ亦之ガ爲メニ盛大ニ至レリ、且ツ夫レ百工ハ術藝ト實學トノ援助ニヨリ、古人ノ曾テ思ヒ及バザリシ所ノ品位ヲ得、以テ逐次ニ諸種ノ職工ヲシテ貴重ノ地位ヲ得セシメタリ、是ニ於テ自由ノ感情、及ビ平和ヲ愛スルノ心モ、亦同シク進歩シ、與

論ハ遂ニ戰爭ヲ以テ、夷狄時代ノ遺風、奴隸制度ノ舊俗トシ、勝者ヲモ敗者ヲモ益セザルノ毒物ナリト看做スニ至レリ、是故ニ今ヤ何ノ國モ、攻撃ノ權ヲ以テ腕力ノ妄動ニ外ナラズトシ、之ニ代フルニ自由ノ選舉ヲ以テセント欲スルナリ、

### 第三十六章

自然万国  
公法及ヒ  
人爲万国  
公法

以上吾人ガ論述シタル原則ハ、唯正理ニ據テ規定セル者ニシテ、文明ナル人民ノ尊敬、輕侮、輿論ノ賞譽、誹謗ノ外ニ、別ニ賞罰ナキナリ、是レ則チ自然万国公法ト名ヅクル者ヲ構成セリ、此ノ法タルヤ、人ノ知ラザル者多キニ居ルモ、實ハ人性

固有ノ規則ナリトス、然リ而シテ万国ハ其相互ノ干係ニ於テ此ノ法ノ外ニ、慣習、傳説、又ハ明文アル約束、若シクハ明文ナキ約束ヲ以テ定メラレタル規則ヲ認可セリ、之ヲ集メテ人爲万国公法ト云フ、

必要ハ人爲万国公法ノ第一原因ナリ

人爲万国公法ハ、已ニ太古ニ淵源セルモノニシテ、社會ト其始テ同クスト言フヲ得ベシ、何トナレバ、兩個ノ人民兩個ノ國ノ始テ相遇フヤ、直チニ或ル規則ヲ立テ約束セザルヲ得ズ、此ノ約束ナケレバ、互ニ商議シテ相互ノ意向ヲ知ラシメ、一時モ其平和安堵ヲ保ツヲ得ザレバナリ、是ニ於テカ古昔ニ在テモ、或ル法式ノ宣告ヲ用非ズレテ、敵ノ不意ニ乘ツテ

起シタル兵ヲ不正ナリトシ、軍使及ビ公使ノ身ヲ侵スベカラザルモノトシ、條約及ビ締盟ヲ義務ノ最モ神聖ナルモノトシタリキ、是等ハ皆万国ノ共ニ認識シタル所ナリ、而シテ此ノ一般ノ約束ノ外ニモイゾト時ヲ同クセル特別ノ條約モ亦多カリキ、

正理ハ人爲万国公法ノ第二原因ナリ

國際ノ規則ハ、上ニ述べタル如キ共通ノ必要、利益、及ビ承諾ニ出ルモノニ止ラズ、又理學及ビ宗旨ノ力ニ出ル所ノ仁慈且ツ高尚ナル規則アリ、例ヘバアラトシハ希臘諸邦ガ互ニ俘虜ヲ以テ奴隸ト爲ス事ヲ不可ナリト論シ、ゼノン派ノ理學者ハ、世界ヲ以テ一部會ト假認シ、人間ヲ以テ一家族ト看

做シテ、仁慈公義ノ法律ヲ萬國人民ニ及バシメント論シ、アリストートハ攻服ノ權ヲ檢束スルノ規律ヲ設ケント計リ、中古學術再興時代ノ神學者ハ、戰爭ノ權ヲ以テ防禦ノ戰爭ノ外ニ出ザラシメント圖リ、當時ノ理學者及ビ法學者モ、亦同様ノ主義ヲ唱へ、其羅馬ノ民法ヲ講究スルニ由リテ知り得タル公平ノ原則ヲ、國際ノ干係ニ及ボサンコヲ務メ、而シテ其學者ノ中ニ在ラハ、或ハ殊ニ公使ノ侵スベカラザルヲ論シ、或ハ局外中立國ノ權利ヲ論シ、或ハ自由航海ノ權利ヲ論シタリ、萬國公法ノ學トハ、此等ノ思想ヲ蒐集シ、皇張シ、秩序シ、以テ一個特別ナル學科ト爲シタルモノ是レナリ、而シ

テ其學ノ祖先ト看做スベキハ、グロシユース即チ其人ニシテ、千六百年代及ビ千七百年代ニ當リ、之ヲ解釋シタルハ、プ、フ、シ、ド、ル、フ、レ、イ、ブ、ニ、ツ、ウ、ル、フ、プ、ル、ラ、マ、キ、バ、テ、ル、等、ナ、リ、萬國公法ノ學タルヤ、他ノ諸般ノ學術、及ビ此ノ法ノ本タル修身學ノ如ク、吾人ガ時日ト共ニ情欲及ビ粗暴ナル天性ヲ蟬蛻シ、又公義ノ實行ヨリ外ニ吾人ヲ利スルモノナキヲ、經驗ニ由リテ覺知スルニ隨ヒ、愈完全ノ威ニ達メリ、而シテ此ノ學ノ進歩ハ、自ラ諸國政府ノ行爲ニ現レ、諸國人民ノ干係ヲシテ益善良ニ趨カシメタリ、又時トシテハ事實ノ却テ學問ニ先ツモノアリ、即チ必要、利益、或ハ公ノ良心ニ勵サレテ、

道徳ノ進歩ガ已ニ實行ニ現シタル後ニ、始テ學者ノ論ズル所トナリシモ少カラザルナリ、

時日ノ變遷ニ因リ、幸ニ國際ノ干係上ニ現出シタル改革ニ就キ、二三ノ例ヲ舉ルト左ノ如シ、

近時戰爭

ハ數少ク

且ツ殘忍

キ極メズ

抑モ戰爭ハ古來久シク、諸國平常ノ形狀ト爲リテ、當時諸國ノ人民ハ、外國ヲ以テ一様ニ敵國ト看做シタリキ、實ニ希臘羅馬ノ夷狄ニ於ル、互ニ相憎惡輕侮シタルトハ、人ノ熟知スル所ナリ、其後諸國ノ耶蘇教ヲ奉ズルヤ、世人國際上ノ憎惡ニ易フルニ、宗旨上ノ憎惡ヲ以テシ、異端ノ徒ヲ壓殺シ、他教ノ者ヲ窘ムルヲ義務ナリトスルニ至レリ、此ノ思想タル、

千五百年代ノ中間ニ至ルマデ、法學者ノ徒ニスラ之ヲ贊成スルモノアリキ、然リ而シテ宗旨ノ憎惡ハ、此ノ如ク盛ンナリシモ、國際ノ憎惡ハ、其威ヲ避テ全ク消滅シタルニ非ズ、是レ僅ニ唯英佛間ノ百年戰ヲ引テ以テ之ヲ證明スルモ、灼然トシテ火ヲ觀ルガ若クナラン、又當時戰爭ノ方法ニ就テ看ルモ、其殘暴ナリシハ、實ニ名狀スベカラズ、今之ヲ舉ンニ、當時敵國ノ人民ハ、其婦女老幼ヲ問ハズ、或ハ之ヲ壓殺シ、轉移シ、或ハ之ヲ奴隸トシテ市ニ賣レリ、故ニ敗者ハ竟ニ勝者ノ所有物タル如ク、其本國ヲ防ンガ爲メニ、義務ヲ盡シタルベシ、ルサンゼトリクス其人ノ如キモ、刑場ニ刎首セラレタリ、而

シテ其死ニ先テ細縛牽引セラレテ、敵將凱旋ノ陣ヲ飾リ、以テ勝民ノ輕侮ヲ蒙ルニ至ラザリシモノハ、尙ホ僥倖ナリト云ハザルヲ得ザリキ、

然ルニ今ヤ戰爭ハ非常ノ事トナリ、一國ノ名譽、獨立、及ビ生命ヲ爲ス所ノ權利ヲ防禦セントスルノ戰爭ニ非ザレバ、輿論ヲ以テ正當ナリト認メザル所トナレリ、而シテ近時ノ人ハ、都テ此ノ義務ヲ果スニ必要ナラザル苛酷ノ所行ヲ禁ジ、戰場ニ於テ擄ヘタル俘虜ノ生命ヲモ、侵スベカラザルモノトセリ、況ヤ兵器ヲ持セザル尋常人民ニ於テヲヤ、而シテ各人勇氣アル不幸者ヲ憫ムヲ以テ、自己ノ名譽ナリトシ、兩軍

共ニ敵ノ負傷者ヲ待ツニ仁慈ヲ以テスル<sup>一</sup>、恰モ味方ノ負傷者ヲ待ツニ異ナラザルナリ、

昔時戰爭ハ一般ノ習俗ナリシガ故ニ、二國相戰フノ時ニ方テ、局外ノ諸國ハ中立スルヲ得ザリキ、而シテ何レノ國ノ古語ニモ、吾人が所謂局外中立ノ地位ヲ言ヘルノ文字ナシ、是ノ時ヤ、隣國ニ戰爭アレバ、何レノ國モ、其平和ヲ守ルノ權ナク、若シ同盟セザレバ、則チ敵トナラザルヲ得ザリシナリ、中古及ビ近古ノ始ニ在ラモ、尙ホ然ルノミナラズ、千六百年代ノ中間ニ至リ、即チプロシユスノ和戰論已ニ世上ニ現レ、諸子ノ萬國公法嗣テ出デタル後ニ於テスラ、局外中立國ハ、構

戰國ノ爲メニ傷害セラル、ト多ク、而シテ梅戰國ハ、局外國  
 ニ對シテ必要ノ權利ト號シテ、殆ト際限ナキノ威ヲ肆ニシ、  
 陸地ニ在ラハ其兵ヲ以テ局外國ノ地ヲ通過シ、其城塞ヲ拔  
 キ、或ハ之ヲ毀テ、海上ニ在ラハ、敵國ニ送ルベキ貨物、或ハ己  
 ニ必要ナル貨物ヲ積メル局外國ノ船舶ヲ奪ヒ、又ハ敵國ノ  
 港口ニ入ルコトヲ禁ジテ、局外國ノ貿易ヲ害スルコトヲ得ト信  
 ジタリ、此ノ權利タル、唯學士論者ノ主張シタルノミナラズ、  
 千八百年代ノ始ニ至ルマデ、諸國ノ實際ニ行ヒタル所ナリ、  
 例ヘバ英國ノ如キ、噠國ノ船隊ガ局外中立ヲ守リタルヲ罪  
 トシテ、千八百一年ヲ以テ之ヲ擊破シ、千八百七年ヲ以テ、又

搜船ヲ廢  
 スルコト  
 局外國ノ  
 所有權ヲ  
 重ズルコト

其國都ヲ砲撃シタリキ、

此等ノ野蠻ノ風俗タル、昔者モ公共ノ良心ニ由リテ排斥セ  
 ラレタリシガ、近時ハ萬國公法ノ禁止スル所トナレリ、而シテ  
 今ノ諸國ハ局外國ノ財産自由ヲ妨ゲズシテ、唯此ノ限ニ禁  
 ズルニ敵國ノ用ニ供スルヲ得ベキ武器ヲ密賣スルコトヲ以  
 テスルノミ、現ニ千八百五十六年四月十六日ノ巴理ノ條約  
 ハ、搜船ト名ヅケタル所行ヲ禁ジ、敵ノ貨物タリトモ、局外國  
 ノ船旗ノ下ニ在レバ、武器ノ外ハ奪フベカラザルコト、及ビ  
 實ニ兵ヲ以テ港口ヲ封シタルキノ外ハ、入港ノ禁ヲ守ルヲ  
 要セザルコトヲ公告セリ、局外國ノ權利即チ國際自由中ニ

未ダ此ノ如ク迅速ニ進歩シタルヲ見ザルナリ、  
 諸國ノ媾和ニ必要ナル公使、及ヒ外交使節ノ制タルヤ、又吾  
 人ニ示スニ文明諸國ノ交際ガ、時ノ變遷ニ由リテ進歩シタ  
 ルノ一證ヲ以テセリ、蓋シ太古ノ諸國ハ唯一時ノ使節ヲ送  
 ルコトヲ知リシノミニテ、一個ノ爭端ヲ決シ、又ハ一個ノ條約  
 ヲ結ンガ爲メニ、商議セザルヲ得ザル時ニ方リ、公使、辨使或  
 ハ執政ノ名ヲ附シタル使節ヲ遣リ、而シテ其事務終ルニ及  
 デ直チニ歸國ヲ許シ、其慣習ニ因リテ、其身體ヲ侵サザリシ  
 ト雖モ、之ニ背キタルノ例モ亦少カラズ、是レ太古ヨリ延テ  
 中古ノ末ニ及ブマテノ使節ノ狀態ナリキ、歐洲諸國ニ於テ、

公使ノ權利ヲ確認シ、公使ヲ置クコトヲ永久ノ制度トナシタ  
 ルハ、千六百年代ノ中間ウ、スト、フリーノ條約ノ後ニ在リト  
 ス、原來此ノ改革ハ、貿易ノ事緒頗ル廣キガ爲メニ必要ト爲  
 シタルモ、殊ニ政事ノ點ニ於テハ、最モ必要ナルモノニシテ、  
 諸大國ヲシテ互ニ相監視シ、條約ヲ以テ定メタル諸國ノ權  
 衡ヲ保ツテ得セシメタリ、是レ一般ノ平和及ヒ安堵ヲ守ル  
 ノ保障トイフベキナリ、

黒奴ノ賣  
 買ヲ禁止  
 スル事他  
 國ノ罪人  
 ナ引渡ス

五十年前ヨリ以來、歐洲諸國ノ交際ハ、益廣ク益親密ニシテ、  
 頗ル公義仁慈ノ意ニ適ヘリ、諸國ガ續々條約ヲ結ンデ、黒奴  
 ノ賣買ヲ止メ、海上ノ搜船ヲ禁シ、互ニ犯罪人ヲ引渡シテ以

テ治罪ニ便シ、文學及ビ術藝ニ係ル財産ヲ相侵サズ、航海ノ舊弊ヲ除キ、貿易自由ノ道ヲ開キタルハ、近ク此ノ數十年間ニ在リトス、吾人ノ見ニ據レバ、鐵路、電信アル諸國ヲシテ、將來常ニ相往來セシメ、以テ漸ク其猜疑ヲ減シ、其親愛ヲ増スベケレバ、萬國公法ノ進步ハ、其勢此ニ止ラズシテ、更ニ又夥多ノ緊要ナル改正ヲ加ヘンコト必セリ、

### 第三目 萬物ニ對スルノ義務

#### 第三十七章

吾人ハ前ニ已ニ人間相互ノ義務ヲ論シ、各自ノ干係ヨリ諸

國貿易ノ基礎ヲ立ル所ノ干係ニ及ビタリキ、夫レ人ハ自己及ビ他人ニ對スルノ外ニ、義務ヲ有セザルカ、動物ノ己ニ劣レルモ、尚ホ苦樂、愛憎、記憶、預見ノ能力ヲ具セルアラシニ、之ニ對シテ何ノ義務ヲモ有セザルカ、其情智ノ深淺ハ懸隔セルモ、之ニ對シテ何ノ斟酌ヲモ爲スヲ要セザルカ、隨意ニ動物及ビ死物ヲ濫用スルノ權ヲ有スルカ、其果シテ如何ハ、今之ヲ左ニ述ベントス、

抑モ義務ノ本義ニ就テ考察スレバ、人ハ己ニ劣レル萬物ニ對シテ義務ヲ有セザルベシ、何トナレバ、義務ハ必ズ他ノ權利アルヲ假定シ、權利ハ必ズ他ノ自由ニシテ、情智ヲ具ヘタ

人ハ動物  
ニ對シテ  
義務ヲ有  
セズ



ル靈物ナルヲ假定スレバナリ、然ルニ最上ノ動物ト雖モ、此ノ如キノ靈物ニ非ズ、彼等ハ皆全ク自由ヲ有セズ、縱令ヒ時トシテ事ノ彼此ヲ擇ブガ如キアルモ、偶現在又ハ未來ノ感覺ニ由リテ之ヲ爲スノミ、彼等モ時トシテ愛情ヲ有スルガ如キアリト雖モ、母ノ子ヲ愛シ、犬ノ其主ヲ愛スルガ如ク、其愛情ハ一物ニ限ルモノニシテ、且ツ天性ノ自然ニ出ルニ過キズ、其智モ亦然リ、唯觀察即チ目觀スルヲ得ベキ物體ヲ暗推スルニ止リテ、或ル動物ノ如キハ、宛モ智慧預見或ハ記憶ノ狀ヲ有スルモ、其狀タルヤ、觀察ノ境界ヲ脱セザレバ、一般ノ思想ヲ具スルヲ表スルニ足ラザルナリ、

此ノ如キ  
義務ヨリ  
生ズベキ  
後果

夫レ最上ノ動物ニシテ、已ニ此ノ如シ、況ヤ自然ノ恩惠ヲ受ル加少キ動物ニ於テチヤ、一魚介或ハ一爬蟲ニ對シテ盡スベキ義務一蚌或ハ一無血蟲ニ對シテ演ムベキ權利アルヲハ、吾人ノ思索シテモ得ザル所ナリ、且ツ吾人果シテ此等ノモノニ對シテモ義務アリトセバ、豈亦植物ニ對シテ義務ナキノ理アラシヤ、何トナレバ、植物モ亦生命ヲ有シ、其中或ハ感覺ヲ有スルモノアレバナリ、而シテ植物ト礦物トノ區域ハ、甚ダ分別シ難クレハ、植物ニ對シテモ義務アリトスルトキハ、吾人ハ、更ニ一步ヲ進メテ、天地間ノ萬物ニ付スルニ、權利即チ道德上ノ能力ヲ以テセザルヲ得ザルニ至ルベシ、然

レ此ノ如キノ論ハ、全ク贊成スルヲ得ザルベク、夫ノ靈魂輪廻ノ説ニ據ルニ非ザレバ、之ヲ維持スルヲ得ザルベシ、蓋シ此ノ如ク權利ト義務トヲ瀆スハ、即チ併セテ此ノ兩者ヲ棄ルナリ、人ハ下等ノ萬物ト道德上ノ交際ヲ爲スヲ得ト想像スルハ、即チ人ト萬物トノ差異ノ迹ヲ混ボスナリ、善イカチ、世ノ諺ニ云ク、人ハ天地間ノ王ナリト、實ニ人ニ在テハ、天地間唯臣下アルノミニシテ、曾テ同等ノ物無キナリ、設令ヒ萬物ハ人ノ爲メニ創造セラレタル者ナリト信ズルヲ得ザルモ、人ハ其勢力ニ任セ、萬物ヲ使用スルノ權ヲ有スルヤ疑ナシ、故ニ人ハ唯他人及ビ造物主ニ對シテ義務ヲ有スルノミ、

人ハ動物  
ニ對セル  
行爲ニ付  
テ自己ヲ  
重セザル  
可ラズ

故ニ人ニ劣レル動物ハ、固ヨリ權利ヲ有シ、人ニ義務ヲ課スルニ足ルベキノ性ヲ具フルモノナシ、然リト雖モ、吾人ハ此ノ物ヲシテ我指揮ニ從ハシメ、此ノ物ニ對シテ勢力ヲ肆ニシ、此ノ物ヲ以テ諸般ノ用ニ供スルニ方リ、自己及ビ社會ニ對シテ行フベキノ義務ヲ有ス、吾人ハ何ノ時ニ於テモ、何ノ物品ニ對スルモ、我智及ビ自由ヲ重セザルヲ得ズ、我品位ヲ下シテ此ノ物ト同等ナラシムベキ行ヲ爲スヲ得ズ、故ニ吾人ハ其心ヲ樂マシメンガ爲メ、又ハ其怒ヲ慰メンガ爲メニ、濫リニ動物ヲ殺シ、之ヲ苦ムルヲ得ズ、實ニ是非ヲ知ラズ、我意ヲ了解シ、若シクハ満足セシムルヲ得ザル動物ニ對シテ、

人ハ動物  
ニ對スル  
行爲ニ付  
テ社會ヲ  
敬尊セザ  
ルヲ得ズ

怒ヲ發スルハ、是レ其行タル彼ノ是非ヲ辨ゼザル動物ト均  
クシテ、下リテ之ト伍スルナリ、自衛ヲ爲スヲ得ザル動物ヲ  
苦ムルハ、是レ殘虐ニシテ且ツ卑怯ノ所行ナリ、兩個ノ方法  
ヲ用テ自己ニ負クナリ、二重ノ墮落ヲ甘ズルナリ、  
動物ヲ殘虐スルノ所行ハ、其所行ヲ爲スモノニ害アルノミ  
ナラズ、傍見ノ人及ビ社會ニ在テモ亦害アリトス、而シテ其  
所行タル、憐愍ノ情ヲ閉ジ、或ハ人ヲシテ痛苦ヲ見ルニ慣レ  
シムルニ由リ、痛ク此ノ情ヲ滅殺シ、若シクハ消滅スベシ、其  
ノ何レノ場合ニ於ケルモ、共ニ有害ナルヲ以テ、社會ハ之ヲ  
罰スルノ權ヲ有セリ、社會ガ其目前ニ於テ、徒ニ社會ヲ苦メ

グラモン  
ノ法律ハ  
至當ノモ  
トス

或ハ之ヲ壞ルヲ得ベキ殘虐ノ行爲ヲ禁ズルハ、決シテ非理  
ニアラズ、此ノ行爲タル、動物ヨリ延テ人ニ及ブヲ得ベキモ  
ノナレバナリ、

千八百五十年七月九日ニ布告セル佛國ノ法律(一名グラモ  
ンノ法律)ヲ以テ至當ナリトスルハ、此ノ原則ニ基ヅキテ言  
フナリ、此ノ法律ハ公ニ且ツ濫リニ家畜ヲ虐グルモノノ法律  
ナリ、以テ罰金禁錮ニ處セリ、實ニ社會ハ、此ノ法文ニ掲ゲタ  
ル三個ノ情狀ヲ具フルヲ待テ、始テ此ノ事ニ干與スルノ權  
ヲ得ベシ、第一ニハ濫ナリ、即チ無益ニシテ且ツ過度ナルヲ  
指ス、第二ニハ公ナリ、公ナラザレバ、社會ノ利害ニ痛癢ナク

レバナリ、第三ニハ其ノ人ニ害スルヲ以テ誅除セザルベカ  
ラザル動物ヲ言フニ非ズシテ、人ノ食料ニ充テ、或ハ人ノ事  
業ヲ助クル所ノ動物ヲ指セルナリ、

教典ニ勸  
物ヲ憐ム  
ノ條アリ

法律又ハ宗旨ニ於テ、有益若シクハ無害ノ動物ヲ保護シタ  
ルハ、始テ右ノ法律ニ起ルニアラズ、但シ吾人ハ凡テ生命ア  
ル物ヲ殺ス<sub>ト</sub>テ禁ズル所ノ、印度ノ法律ナイフニ非ズ、其之  
ヲ禁ズル所以ハ、都テ生命アルモノ、靈魂ハ、原ト人ニ屬ス  
ルヲ得トノ倒見ニ出ルナリ、夫レ動物ヲ憐ムノ情此ノ如キ  
ノ甚シキニ至レルハ、人ノ權利及ビ品位ヲ忘ル、モノト云  
ハザルヲ得ズ、耶蘇ノ聖典ノ如キハ、屢此ノ事ヲ論ゼリ、其之

ヲ論ズルノ精密ナルヤ、近時法律ノ遠ク及バザル所トス、該  
典ハ、動物ヲ毀傷シ、及ビ之ヲ苦マシムル事、同日ニ母子ヲ殺  
ス事、麥ヲ磨スル所ノ牛ニ口笠ヲ加フル事、驢ト牛トテ同車  
ニ輓スル事ヲ禁ゼリ、驢ト牛トテ同車ニ輓スルヲ禁ズル所  
以ハ、其強弱相異ナルヲ以テ、弱者ノ特ニ疲レン事ヲ顧テナ  
リ、又該典ニ曰ク、人若シ途ニ於テ、其敵ノ驢、或ハ牛ノ重荷ニ  
勝ヘズシテ倒ル、テ見バ、速ニ扶ケテ起タシメヨト、此ノ教  
タル、敵ニ對シテ舊怨ヲ忘ル、事ト、動物ヲ憐ム事トテ、併セ  
テ一條ニ示シ、モノナリ、

人若シ造化ノ事業ノ巧妙ナルヲ知り、最小昆蟲ノ構造ス<sub>ル</sub>

萬物ニ就  
テ造物主

モ、至巧至妙ナルヲ知ラバ、我用ニ供スル所ノ動物ヲ憐ム  
ニ止ラズ、我妨害ト爲ラザル動物ハ、凡テ之ヲ憐マザルヲ得  
ズ、之ヲ憐ムハ、之ヲ造リタル無二ノ精工ヲ尊敬スルナリ、一  
輪ノ花ト雖モ、我ニ害ナクシテ、且ツ摘ムベキノ理由ナキモ  
ノハ、濫リニ侵スベカラズ、此ノ如ク推論スレバ、吾人が萬物  
ヲ憐ムトハ、即チ造物主ヲ尊敬スルノ一ニ歸着スベキナリ、  
修身學ガ吾人ヲシテ動物ニ對シテ守ラシムル所ノ規則ハ、  
又死物ニ對シテ守ルベキ行爲ヲ示スナリ、此ノ乙ノ場合ニ  
於テモ、甲ノ場合ニ於ケルガ如ク、吾人ハ自己ニ對シテ盡ス  
ベキ所ト、他人ニ對シテ盡スベキ所トヲ斟酌セザルベカラ

ズ、而シテ吾人が條理ニ合セル方法ヲ以テスルニ非ザレバ、  
決シテ物品ヲ使用セザルハ、即チ自己ニ對スルノ義務ナリ  
トス、夫ノ吝嗇ノ人、或ハ奢靡ノ人が、物ヲ使用スルノ方法ノ  
如キハ、條理ニ合セザルナリ、物品ニ對シテ怒ヲ發スルコト、己  
ニ投ゼラレタル石ヲ嚙ム所ノ犬ト一般ナル暴人ノ如キ、亦  
然リトス、此等ノ人ハ、其私欲又ハ忿情ニ制セラレテ、是非ヲ  
辨ズルヲ能ハズシテ、妄リニ物ヲ破碎スルナリ、此ノ所行タ  
ル、設令ヒ一時ノ情ニ發ストモ、尙ホ人間ノ品位ヲ墮スノ事  
タルヲ免レズ、吾人ヲシテ自己ヲ尊敬シ、我肉體ト道德トノ  
保存ニ注意セシムル所ノ法律ニ反クモノト云ハザルヲ得

ナルナリ、

吾人ハ又他人ニ對シテ、其用ニ供スルヲ得ベキ何モノヲモ  
 破碎セズ、高尚ナル目的ヲ有スル天造若シクハ人造ノ物品  
 ナ無益ノ事業ニ消費セズ、人ニ益シ、或ハ人ヲ喜バシムルヲ  
 得ベキ物品ヲ以テ、禽獸ニ投セザルノ義務ヲ有セリ、然リ而  
 シテ吾人ノ最大注意ヲ要スベキ物品ハ、人智ノ妙作ニ係ル  
 モノ、及ビ祖先ノ遺物トシ、我尊敬ヲ喚起スルモノ、即チ簡約  
 ニ之ヲ舉レバ、藝術ノ成果及ビ古傳ノ塔碑等是レナリ、設令  
 モ其發出スル所ノ思想ハ、已ニ吾人ト同カラザルモ、之ガ爲  
 メニ吾人ハ之ヲ破碎スルノ權利ヲ有セズ、此ノ物品ノ如キ

ハ、寔ニ古今ノ人民ヲ連續スル一大鎖ノ環圈ナリトイフヲ  
 得ベキナリ、

佐藤誠實 校

フランソワ著修身原論正誤表

二七	八	來世	前編
二九	六	ナリル	ノ段落脱ス
三三	八	ナリ	課
四三	五	モト	積聚
四九	二	ル	ノ順序ハ
五三	八	エマ	決
五九	七	ザル	輿論ハ即チ
六九	四	制規	課
七五	三	非ス乃	義務ハ自己
八六	六	道區	義務ハ自己
八七	外	不徳	
八九	九	欠タ	
九三	四	宗シ	
九九	四	責ル	
頁數	行數	誤	版
訂	正	頁數	行數
誤	版	訂	正

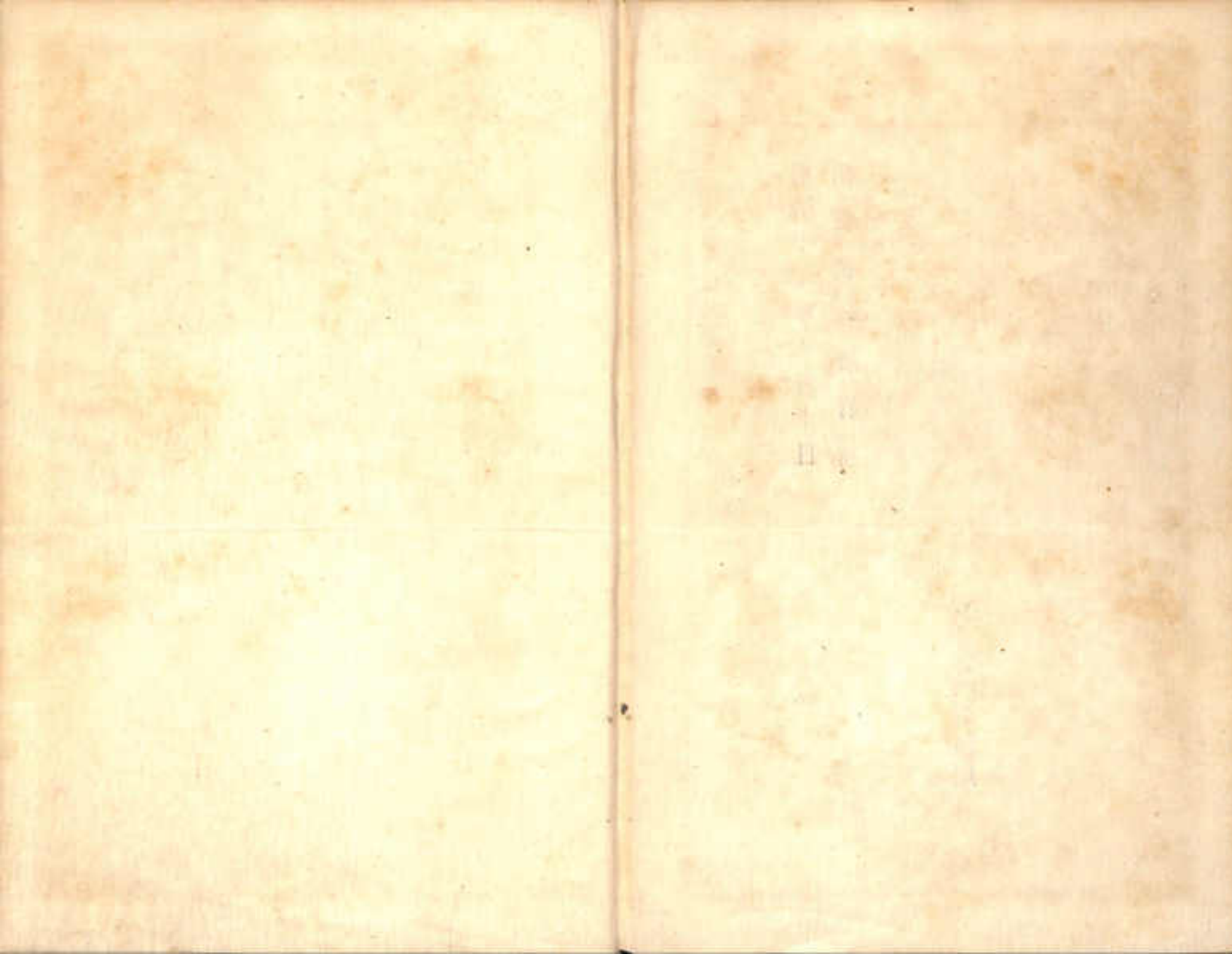
	二七四	一	正當ノ行爲	三五八	九	科	假
	三〇七	九	憎惡	三六五	欄外	科	假
	三一七	六	ハノ字衍	三六六	二	做	假
	三五一	八	セ				假

明治十七年六月十日  
 出版板權所有届

文部省編輯局

定價金六十九





816

1701



